備考　本表ノ要點ハ

一　總工費百二十萬圓トシテ三箇年ニ完了スルモノナリ

二　借入額ハ五十萬圓年八分トシテ三箇年間ノ捐置トス

三　元金ノ償還ヲ十箇年トス（元利均等償還トスルモ可ナリ）

四　繰出ハ借入ニ要スル諸費等ヲ云フ

五　國庫補助ハ三箇年トシ總工費ノ三分ノ一トシタリ

六　州費補助ハ八箇年トシ總工費ノ四分ノ一トシタリ

七　何々繰入金トハ特別會計又ハ基本財産利子等ノ繰入トス

八　繰入ハ借入金ノ預金利子又ハ工事上不用品等ノ賣拂代トス

第五號

基本財産調（大正　年　月　日現在）

種類別	
有價證券	
預金	
貸付金	
保管金	
土地價額	
建物價額	
其他	
計	
目的別	
教育資金	
勸業資金	
土木資金	
其他	
計	

●各種事業其他ニ對スル補助ニ關スル件

大正十一年二月
總財第五三〇號總務長官代理通牒

首題ノ件拓殖局次長ヨリ別紙ノ通照會有之候ニ付提出相成度

追テ本件補助金ハ國庫ニ限ルモノニ付爲念申添候

（別紙）

各種事業其他ニ對スル補助ニ關スル件

大正九、十兩年度ニ於テ貴府ヨリ補助相成候各種事業其他ニ付補助ノ事由、條件、金額、事業成績及收支決算等參考ノ爲承知致度此段及照會候也

追テ右調書ハ此後ニ於テモ毎年度御送付相煩度申添候

●警察官吏派出所模樣替及同宿舍增設等ノ寄附受納許可ニ關シ委任ノ件

大正六年七月
民甲第三二四八號民政長官代理依命通達

大正五年七月民警第一四三一號依命通達ニ基キ巡査增員ノ結果警察官吏派出所ノ模樣替及同宿舍ノ增築等ヲ寄附ニ依リ經營スル場合ニ於テ左記各項ノ範圍內ナルトキハ之カ寄附受納ニ就テハ貴官限リ之ヲ許可シ要項ヲ具シ直ニ報告可相成尙之カ工事施行ニ就テモ別ニ認可ヲ要セス設計書仕樣書及圖面ヲ該報告書ニ添付セラルヘシ

右依命通達ス

記

一　寄附ニ屬スル金錢又ハ物件ノ見積價格千五百圓以內ナルトキ

二　募集寄附ニ係ルトキハ基金額又ハ見積價格カ募集區域內ノ普通家稅額ノ二倍ナルトキ

●警察ノ用ニ供スル寄附受納ニ關スル件

大正十年五月
總甲第七九九號總務長官依命通達

警察ノ用ニ供スル寄附ニ付テハ大正十年度ヨリ國庫經濟ニ受納セラルヘシ

右依命通達ス

記

一　寄附者ノ身分、職業、住所、氏名

二　寄附ノ目的方法

三　寄附ノ金額又ハ物件ノ數量及見積價格

四　土地ニ就テハ其地名、地番、地目、甲數及圖面（地形圖）

五　建物又ハ營造物ニ就テハ其所在地名、地番、坪數、構造、圖面（平面圖、斷面圖、配置圖）及其ノ敷地ノ區分

六　土地、建物又ハ營造物及其敷地ニ關シ他ニ權利ヲ設定シアル場合ニ於テハ其ノ權利ノ種類及權利者ニ對シ採ルヘキ處置

七　建物又ハ營造物ヲ建築若クハ修繕シテ寄附スルモノ又ハ其ノ目的ヲ以テ金錢若クハ勞力物件ヲ寄附スルモノニ就テハ其設計書圖面（平

●寄附受納願書進達ニ關スル件

大正十年九月
花庶第四三七六號庶務課長依命通達
各政務長官

警察ノ用ニ供スル目的ヲ以テ金錢其他物件ヲ寄附セントスルモノアルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シ願書進達相成度

右依命通達ス

記

一　寄附者ノ身分、職業、住所、氏名

二　寄附ノ目的方法

三　寄附ノ金額又ハ物件ノ數量及見積價格

四　土地ニ就テハ其地名、地番、地目、甲數及圖面（地形圖）

五　建物又ハ營造物ニ就テハ其所在地名、地番、坪數、構造、圖面（平面圖、斷面圖、配置圖）及其ノ敷地ノ區分

六　土地、建物又ハ營造物及其敷地ニ關シ他ニ權利ヲ設定シアル場合ニ於テハ其ノ權利ノ種類及權利者ニ對シ採ルヘキ處置

七　建物又ハ營造物ヲ建築若クハ修繕シテ寄附スルモノ又ハ其ノ目的ヲ以テ金錢若クハ勞力物件ヲ寄附スルモノニ就テハ其設計書圖面（平

面圖、斷面圖、配置圖）及工事ノ期間

追テ寄附願書ニハ左記事項ヲ附記セシムルコト

一　寄附物件過剩ヲ生シタル場合又ハ不用ニ歸シタル場合寄附受納者ニ於テ適宜處置スルヤ若ハ寄附者ニ還付ヲ要スルノ區別

●寄附取扱ニ關スル件

大正十一年四月十二日
總財第一一六七號內務局長通牒

國庫及地方稅經濟ニ對スル寄附ノ取扱ニ關スル明治三十八年訓令第二百三十號ハ今回訓令第四十二號ヲ以テ廢止セラレタレトモ其ノ募集シテ寄附スル場合ノ募集行爲ハ今回發布セラレタル府令第四十九號ニ依リ處理セラルヘキ儀ト了知相成度爲念通牒ス

●寄附受納ニ關スル件

大正十一年十一月二十七日
花庶第三一一一號廳長照會

廳地方費支辨ニ屬スル寄附受納ハ大正九年十月一日府令第百五十三號「廳地方費ニ對スル用途指定ノ寄附受納ニ關シテハ廳長ヲシテ之ヲ取扱ハシム」ノ規定ニヨリ廳長限リ受納シ得ルモ警察費支辨ニ屬スル警察官吏派出所用疊表替及建物修繕等ニ對シテハ國庫支辨ニ改正セラレタル結果右委任ノ範圍內ニ付其都度手續ヲ要スルコトニ相成事務簡捷上不便尠カラサルニ依リ右該當ノ事項ハ明治三十六年十二月府令第八十二號「國庫經濟ニ屬スル用途指定ノ土地建物勞力及工事材料受納ニ關スル件」ノ委任命令ニ包含スルモノトシテ處理致度差掛リタル事項モ有之候條至急何分ノ御指示相煩度

右照會ス

大正十一年十二月二十八日
總財第三四〇六號總務長官代理回答

大正十一年十一月二十七日附花庶第三一一一號ヲ以テ伺出ニ係ル首題ノ件警察官吏派出所ノ疊表替及建物修繕等ノ如キハ明治三十六年十二月府令第八十二號ニ包含スルモノトシテ御取扱相成可然

右依命通達ス

●訴願書進達方ニ關スル件

大正十四年二月二十四日
總訴第八號總務長官代理依命通達

處分官廳カ訴願書ヲ受理セル際ハ訴願法第十一條第一項ニ依リ十日以內ニ辯明書及必要文書ヲ添ヘ上級官廳ニ送付スヘキモノナルニ不拘往々處分官廳ニ於テ訴願書ノ違法、不當又ハ不備等ヲ指示シタル上之カ徹回ヲ慫慂スル向有之ヤニ及聞候處訴願書ノ違法、不當又ハ不備等ハ上級官廳ノ裁決スヘキモノニシテ處分官廳カ直接訴願人ニ之ヲ指示シ更ニ其ノ徹回ヲ慫慂スルカ如キハ徒ニ訴願人ニ疑惑ノ念ヲ抱カシムルノミナラス訴願法ノ主旨ニモ反スル次第ニ付御留意相成度

右依命通達ス

●訴願法ニ因ル裁決書書式ノ件

大正十一年十一月
總參第一〇八號總務長官依命通達

本年勅令第五十一號ヲ以テ訴願法ヲ臺灣ニ施行セラレタルニ因リ將來街庄長ノ爲シタル不當違法處分ニ付訴願ノ提起有之ヘク從ツテ裁決書ノ書式ヲ別紙ノ通一定シ置クノ必要ヲ認メ候條之ニ依リ作成相成度候尙訴願ノ提起アリタル場合訴願書ノ方式其ノ輕微ナル點ニ付テノ不備ハ成ルヘク懇切ニ訴願人ニ對シ說示相成樣致度

右依命通達ス

一　裁決書書式

何第　號

住所

訴願人（訴願書ニ何書ノ記載アルモノハ之ヲ記載スルコト）　氏名

右訴願ノ要旨ハ……ト云フニ在リ

右ニ對スル（何郡守、何市尹又ハ何街庄長）ノ辯明ノ要旨ハ……ト云フニ在リ

依テ訴願法（訴願法以外ノ法律、勅令又ハ律令ニ於テ訴願ヲ許シタルモノニ付テハ其ノ法令條項ヲ記載スルコト）ノ規定ニ依リ之ヲ受理シ審査ヲ遂クルニ（以下裁決ノ理由記載ノコト）

以上ノ理由ニ依リ裁決ヲ爲スコト左ノ如シ

（何郡守、何市尹又ハ何街庄長）ノ爲シタル處分（又ハ裁決）ハ取消スヘキ限ニ在ラス

（何郡守、何市尹又ハ何街庄長）ノ爲シタル處分（又ハ裁決）ハ之ヲ取消シ

（何郡守、何市尹又ハ何街庄長）ノ爲シタル處分（又ハ裁決）ハ之ヲ取消シ更ニ……スヘキコトヲ命ス

年　月　日

州知事又ハ廳長名

二　却下書書式

住所

訴願人（肩書ニ付テハ前同樣）　氏名

本訴願ハ（以下訴願法第九條第一項前段又ハ後段ノ事由ヲ記載スルコト）ニシテ法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノトス（同條項後段ノ場合ニ在リテハ「適法ノ手續ニ違背スルモノトス」ト爲ス）

依テ訴願法第九條第一項ニ依リ之ヲ却下ス

年　月　日

州知事又ハ廳長名

三　還付書書式

住所

訴願人（肩書ニ付テハ前同樣）　氏名

本訴願ハ左記ノ通（又ハ本文中ニ方式ヲ缺ク事由ヲ記載ス）方式ヲ缺クモ

ノナルヲ以テ訴願法第九條第二項ニ依リ還付スルニ付本書受領ノ日ヨリ日内ニ提出スヘシ

年　月　日

州知事又ハ廳長名

●官吏割引乘船券ニ關スル件

明治四十四年八月
民運第一三一〇號ノ一民政長官通牒

臺灣總督府職員及其家族ニシテ本島内地間命令航路汽船ニ依リ本島内地間旅行ノ場合及引越荷物託送ノ場合總督府ヨリ割引券ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ大阪商船及日本郵船兩株式會社ニ於テ左記ノ通汽船賃ヲ割引ノ筈ニ付希望ノ者ハ左記ニヨリ割引券ノ交付ヲ受クル樣所屬官衙職員一般ヘ通知相成度候也

記

一　割引ヲ受クヘキ者及割引率ハ左ノ通トス

一　臺灣總督府高等官　一同　待遇者　一同　判任官　一同　月手當五十圓以上ノ囑託　以上及其配偶者、直系尊族親、直系卑族親ノ乘船運賃ハ往復トモ定額ノ二割引トシ赴任ノ場合引越荷物ハ定額ノ五割引

一　臺灣總督府月手當五十圓未滿ノ囑託　一同　判任待遇者　一同　雇員　以上ノ者ノ乘船運賃ハ公用旅行ニ限リ往復共定額ノ二割引但シ往復切符購入ノ者ニ對シテハ本件ノ割引ヲ適用セス

二　割引航路汽船及區域ハ日本郵船及大阪商船兩株式會社本島内地間命令航路（基隆神戸線、打狗横濱線）汽船ニ依リ其本島發着地（打狗、安平、澎湖島、基隆）ノ一港ト内地發着地（長崎、門司、宇品、神戸、横濱）ノ一港トノ間乘船又ハ荷物託送ノ場合ニ限ル

三　乘船賃割引券及引越荷物運賃割引券ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其勤務官廳名、官職氏名、年齡（又ハ荷物個數）乘船地域（又ハ荷物託送區域）等必要ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ其勤務官廳ノ證明書ヲ添ヘ（左記取扱官廳ニ差出スヘシ（勤務官廳ノ證明ハ其ノ奥書トスルモ妨ナシ）但シ家族乘船ノ場合ハ其續柄（妻、父母、何男何女等）ヲ申請書ニ記入スヘシ

一　官房民政部及其附屬官衙ノ奉職者竝其家族ノ乘船賃割引券　通信局

一　其ノ他ノ官衙ノ奉職者及其ノ家族ノ乘船賃割引券　所在地方廳

一　引越荷物運賃割引券（全部）　通信局

四　本島ヨリ内地ニ往復スル者ニシテ往航割引券交付ノ日ヨリ百二十日以内ニ復航乘船スヘキ者ハ往復ノ乘船賃割引券ヲ同時ニ交付ヲ受クルコトヲ得

●官吏及其家族ノ汽船賃割引ニ關スル件

大正元年十一月
民通第六二四號民政長官代理通牒

明治四十四年八月二十三日附民通第一三一〇號ノ一ヲ以テ通牒セル本島内地間汽船賃割引ハ在官者及其家族ニ限ラレ候處在職中死亡シタル者遺族（右通牒ニ揭クル家族）ニシテ其死亡後三十日以内ニ出發内地ヘ歸還スル者ニ對シテハ今後其ノ汽船賃ヲ割引クコトトナリタルニ付該遺族ヨリ割引券交付方取扱可相成尚休職者及其家族ニ對シテハ休職後三十日以内ニ出發内地ヘ歸還スル場合ニ限リ割引券交付スヘキ義ト御承知相成度
右通牒ス

●官吏乘船賃割引券下付ノ件

大正十一年四月一日
總參第六七號總務長官代理依命通達

官吏乘船賃割引券下付ノ件ハ自今郡守、市尹及支廳長ニモ取扱ハシムルヲ適當ト認メ候條貴官ニ於テ可然御委任相成度
右依命通達ス

●官吏乘船賃割引券交付方ノ件

大正十一年五月六日
花庶第七五九號庶務課長依命通牒

官吏乘船賃割引券下付ノ件ハ貴官ニ於テモ取扱フ方機宜ニ適スルモノト認メ該割引券二十五枚綴一冊送付候條左記條項ニ依リ處理可相成
右依命通達ス

追テ割引券領收書送付相成度申添候

記

一　割引ヲ受クヘキ者及割引率

一　臺灣總督府高等官　一同　待遇者　一同　判任官　一同　月手當五十圓以上ノ囑託　以上及其ノ配偶者、直系尊屬親、直系卑屬親ノ乘船賃ハ往復共定價ノ二割引トシ赴任ノ場合引越荷物ハ定價ノ五割引尚以上ノ者在職中死亡シタル者ノ遺族ニシテ死亡後三十日以内ニ出發内地ニ歸還スル者及休職者竝ニ其ノ家族ニシテ三十日以内ニ内地ニ歸還スル者

一　臺灣總督府月手當五十圓未滿ノ囑託　一同　雇員　以上ノ者ノ乘船運賃ハ公用旅行ノ場合ニ限リ往復共定價ノ二割引

二　割引航路汽船及區域ハ日本郵便及大阪商船兩株式會社本島内地間命令航路（基隆神戸線、打狗横濱線）汽船ニ依リ其本島發着地（打狗、

安平、澎湖島、基隆）ト内地發着地（長崎、門司、字品、神戸、横濱）ノ一港トノ間乘船又ハ荷物託送ノ場合ニ限ル

三　割引券ノ交付ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ取扱フモノトス

一　官吏及其ノ家族ノ乘船割引券ハ所在各地方廳

一　引越荷物運賃割引券ハ遞信局

四　割引券ハ所要者（家族ノトキハ其ノ屬スル官吏）ヨリ所屬官廳（勤務官廳ノ證明書ヲ添ヘ下附ノ申請ヲ爲シタルトキ又ハ勤務官廳ノ奥書證明ヲ爲シタル申請書ヲ差出シタルトキニ限リ之ヲ交付スヘキコト

五　割引券ハ一人毎ニ一葉トシ各票相當欄ニ洩レナク記載シ家族ノトキハ官職氏名欄ニ其ノ屬スル官吏ノ官職氏名屬其ノ續柄ヲ肩書トシテ乘船者ノ姓名ヲ書シ尚相當欄ニ其ノ勤務官廳名ヲモ記入スヘシ（有效期間ハ左ノ範圍内ニ於テ適當ノ日數ヲ定ムヘキコト）尚交付番號欄ニハ支廳名ノ頭字ヲ冠シ番號記入ノコト

本島ヨリ内地ニ渡航ノ場合ハ三十日以内

内地ヨリ本島ニ渡航ノ場合内地ニ在ル者ニ交付スルトキハ六十日以内本島ヨリ内地ニ往航ノ割引券交付ノ際内地ヨリ本島ニ復航ノ分ヲ同時ニ交付スル場合ハ百二十日以内トス

六　毎月交付シタル割引券ハ左ノ樣式ニ依リ取調ヘ翌月二日迄ニ報告スヘシ

乘船賃割引券交付報告　何月分

自何號　至何號　何枚

内譯

	基隆門司間 往復	基隆神戸間 往復	基隆長崎間 往復	計 往復	摘要
甲					
同家族					
乙					
總計					

右報告票相添ヘ此段及報告候也

年　月　日

支廳長

廳長宛

記入心得「甲欄」ニハ月手當五十圓以上ノ囑託以上「乙欄」ニハ月手當五十圓未滿ノ囑託、判任待遇者、雇員ノ分ヲ記入スヘシ又往復ノ區別ハ臺灣ヲ起點トスヘシ

七　有效期間經過ノモノ及不用トナリタルモノ返付シ來リタル分ハ每月報告ノ際其ノ旨附記スヘキコト

第三章　教育係

第一節　學事

●教育ニ關スル勅語謄本下附申請方ニ關スル件

大正十五年十二月十五日
總文第二〇五號總務長官代理通牒

從來教育ニ關スル勅語謄本下附申請ノ際當該學校ニ於ケル奉安ノ設備及奉護ノ方法ニ就キ別段ノ記載ナキ向アリ詮議上一々照復ヲ要スル等不便尠カラス候處今般其筋ヨリ申越ノ次第モ有之候條今後ハ必ス左記事項ヲ具シ申請相成度

右通達ス

記

一　當該學校所在地名

二　當該學校々舍建築ノ狀況

例ヘハ「木造平家建、萱葺、假建築」、「木造、二階建、瓦葺、本建築」等ト記載スルカ如シ

三　奉安所ノ位置及設備ノ狀況

略圖ヲ添付スヘシ特ニ授業時間外奉護ト密接關係ヲ有スル事項例ヘハ宿直室、職員宿舍ノ位置、其ノ奉安所トノ距離等ハ必ス之ヲ記載スヘシ

四　奉護ノ方法

●地方行幸啓又ハ御成ノ場合ニ於ケル事項ノ件

大正六年八月
花學第七四八號庶務課長通牒

小公學校長宛

地方行幸啓又ハ御成ノ場合ニ於ケル奉送迎其他ノ事項ニ關シ先般地方長官會同ノ際宮内大臣ヨリ注意事項其筋ヨリ送付越候處學校ニ關スル事項左記ノ通リニ候條參考ノ爲メ通牒ス

記

一　行在所、御泊所等ニ充テラレタル學校ニ對シ行幸啓前工事施行ノ必要アルトキハ成ルヘク工事期間ヲ短縮スルト共ニ別ニ修學スル方法ヲ講シ生徒ヲシテ永ク休業セシメサルコト

二　學校生徒ヲシテ奉送迎ノ爲メ長時間御道筋ニ整列セシメサルコト

三　學校生徒其他奉拜者ニハ降雨雪又ハ炎暑ノ節傘其ノ他ノ防具ヲ使用セシムルコト

●臺灣神社例祭日ニ誨告又ハ參拜ノ件

大正七年九月
民學第二五四一號民政長官依命通達

本島ニ於テハ各學校共兒童生徒ノ教養上國民精神涵養ニ關シ特ニ考慮ヲ致スノ要アルハ勿論ノ義ニ有之貴官ニ於テモ精々之カ涵養ノ機會ヲ逸セサラシムル樣御督勵相成居候義ト存候得共從來臺灣神社例祭日ニ於テハ單ニ休業ヲナスニ止マリ兒童生徒ノ訓練上何等特別ノ施設ヲ爲ササル學校有之哉ニ聞エ甚タ遺憾ノ義ト被存候ニ付爾今右例祭當日ニ於テハ各學校共左記實施ノ上國民精神涵養上遺漏ナキ樣御督勵可相成
右依命通達ス

記

臺灣神社例祭日ニ於テハ學校長ハ職員兒童ヲ集メ臺灣神社ニ關スル誨告ヲ爲シ一同北白川宮能久親王ヲ奉祠セル神社ニ參拜スヘシ但シ參拜ハ土地ノ情況ニ依リ前日之ヲ爲スコトヲ得神社ニ參拜ヲ爲シ能ハサル場合ハ遙拜式ヲ行フヘシ

●天長節儀式ニ使用ノ歌詞ニ關スル件

大正二年十月
學第五〇三號ノ一庶務課長依命通達
小公學校長宛

小、公學校ニ於テ天長節祝日ノ儀式ニ際シ合唱セシムヘキ唱歌用ノ歌詞ハ明治二十六年八月文部省告示第三號ニ定メタル「天長節」ノ歌詞樂譜ヲ其儀使用セシムヘキ旨其筋ヨリ通達有之候條右ニ依リ合唱可相成依命此段及通達候也

●小、公學校兒童敬禮ニ關スル件

大正三年四月
花學第二六九號庶務課長依命通達
小公學校長宛

小、公學校及蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ニ於ケル敬禮ニ關シ別紙ノ通內訓相成候ニ付確實ニ實行シ遺憾ナキヲ期セラルヘク依命此段及通達候也

（別紙）

小、公學校兒童敬禮ニ關スル件

大正三年四月
內訓第六號

本島小學校、公學校及蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ニ於ケル敬禮ニ就テハ兒童ノ訓練上最モ適當切實ナル機會ヲ與フモノナルカ故ニ之カ實施方ニ關シ其ノ宜ヲ得ルニ力メサルヘカラス行幸啓ノ節學生生徒敬禮法ニ就テハ明治四十三年八月文部省訓令第十八號ニ依リ其他神社及軍族ニ對スル敬禮ハ大正二年六月文部省選定小學校作法教授要領ニ準據シ特ニ周到ナル注意ヲ以テ平素練習ヲナサシメ實行上遺憾無キヲ期スヘシ監督官憲其他一定ノ地位ヲ有スル人カ學校觀察ノ際兒童ヲシテ敬禮ヲ行ハシムルコトハ違法ノ精神秩序ノ觀念等ヲ其動作態度ノ上ニ表サシムル好機會ナリト雖モ各地方各學校ニ依リ其ノ機會ノ選擇及樣式等區々ニ亙リ間々繁雜ニ流レテ敬禮ノ本旨ヲ失ヘル嫌無キニアラス今後ハ凡ソ左ノ標準ニ依リ一層其ノ齊整統一ニ留意スルヲ要ス

一　教室外ニ整列シテ受禮者ニ敬禮スル場合ニハ學級擔任教員ハ其ノ學級ノ左翼ニ其ノ他ノ職員ハ全列ノ右翼ニ位置シ適當ノ時機ヲ見計ヒ教員ノ前ニ達シタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シテ一齊ニ容儀ヲ正サシメ受禮者カ學級擔任教員多カラサルトキハ各學級同時ニ敬禮ヲ行ハシムルモ可ナリ
受禮者カ列ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學級擔任教員及其ノ他ノ職員ハ左翼ニ位置ス

二　受禮者教室內ニ入リタルトキハ教師ハ教授ヲ中止シテ教壇ヲ下リ或ハ席ヲ離レ兒童ニ令シテ机側ニ起立敬禮ヲナサシム但シ受禮者ノ官職氏名等ハ豫メ兒童ニ承知セシメ置クヲ可トス豫知セシムルコト能ハサルトキハ學校長又ハ其ノ代理職員ニ於テ之ヲ兒童ニ告ケタル後教師ヲシテ敬禮ヲ行ハシム

作業ニ從事セル場合ハ特ニ起立セシメ又ハ方向ヲ轉セシムルニ及ハス其位置ニテ姿勢ヲ正サシム

教室外ニテ作業ニ從事セル場合モ之ニ準ス

三　受禮者教室以外ノ室內ニ臨ミタルトキハ學校長又ハ其ノ代理職員ハ兒童ニ令シテ敬禮ヲ行ハシム

四　途上廊下其他校內ニ於ケル兒童各自ノ受禮者ニ對スル敬禮ニ就キテハ大正二年六月文部省選定小學校作法教授要項ニ準據シテ行ハシム

五　學校內ニ於ケル受禮者ハ學校長又ハ其ノ代理職員ノ先導スル人トス
右內訓ス

●公立小學校、公立公學校及公立補習學校職員職務規程

大正十一年九月
花蓮港廳訓令第二七號

第一條　學校職員ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ヲ奉體シ法令ニ從ヒ其ノ職務ニ服スヘシ

第二條　左ニ揭クル事項ハ學校長之ヲ專行シ遲滯ナク廳長ニ報告スヘシ

一　職員ノ敎務及事務ノ擔任ヲ定ムルコト

二　諸規則ノ範圍內ニ於テ其ノ細則ヲ設クルコト

三　兒童生徒ノ入學及退學ニ關スルコト但シ廳長ノ認可ヲ要スルモノハ之ヲ除ク

四　例規アル事件ヲ處理スルコト

第三條　學校職員ハ其ノ擔任教科ノ敎案ヲ調製シ學校長ノ檢印ヲ受クヘシ

第四條　學校長事故アルトキハ上席職員其ノ職務ヲ取扱フヘシ

第五條　學校長ニ於テ左ニ揭クル事項ヲ處理シタルトキハ遲滯ナク廳長ニ報告スヘシ

一　每日ノ敎授始終ノ時刻ヲ定メタルトキ

二　敎科目ノ敎授時數ヲ減シ及其ノ配當ヲ定メタルトキ

三　休業日中授業ヲ爲シタルトキ

四　非常變災其他急迫ノ場合ニ際シ認可ヲ受クル遑ナクシテ休業ヲ行ヒタルトキ

五　在學兒童生徒ノ出席ヲ停止シ又ハ之ヲ解除シタルトキ

第六條　學校長ハ每月處理シタル校務ノ要領ヲ翌月五日迄ニ廳長ニ報告スヘシ

第七條　學校長ハ兒童生徒ノ統計ニ關スル事項ハ別ニ定ムル樣式ニ依リ指定ノ期日迄ニ廳長ニ報告スヘシ

第八條　前三條ニ規定スルモノノ外特ニ廳長ノ命シタル事項ハ遲滯ナク報告スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年七月訓令第十七號ハ之ヲ廢止ス

●小學校、公學校及蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ニ備フヘキ諸帳簿

大正二年四月
花蓮港廳訓令第一〇號

小學校、公學校及蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ニハ別ニ規定アルモノノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一　職員出勤簿
二　學校日誌
三　文書件名簿
四　職員名簿
五　職員履歷書綴
六　學校沿革誌
七　公文書綴
八　例規綴
九　教授細目及教案竝教授管理訓練ニ關スル記錄
十　兒童賞罰ニ關スル記錄
十一　兒童修業及卒業證書寫帳
十二　統計報告ニ關スル諸表綴

●學校卒業式々次第ニ關スル件

昭和三年二月二十二日
花教第一七〇號庶務課長依命通牒
各學校長宛

學校卒業式ハ學校ニ於テハ三大節ニ次ク重大ナル儀式ニ付爾今左記順序ニ依リ擧式可相成

右依命通牒ス

記

卒業式々次第

式次第　　注意事項

一　職員兒童着席
二　來賓着席
三　廳長臨場
四　一同敬禮
五　開式ノ辭
六　國歌合唱
七　教育勅語奉讀
八　勅語奉答ノ歌合唱
九　學事報告
十　卒業證書賞狀賞品授與
十一　學校長誨告
十二　廳長賞授與
十三　廳長訓示
十四　來賓祝辭
十五　在校生總代祝辭
十六　卒業生總代答辭
十七　卒業式ノ歌合唱
十八　閉式ノ辭
十九　一同敬禮
二十　廳長退場
二十一　來賓退席
二十二　職員兒童退席

學校長先導職員兒童起立
樂器合圖
教務主任又ハ首席訓導
全員起立
全員起立低頭
全員起立
着席訓導若クハ學校長壇ノ下ニテ一同ニ向ッテ報告
學校長
卒業生起立
職員、卒業生起立
壇ノ下ニテ卒業生ニ向シテ
學校長壇上ニ立チテ受ク職員卒業生起立
職員兒童起立
教務主任又ハ首席訓導
樂器合圖
職員兒童起立校長先導

備考

1. 勅語謄本ハ國歌合唱ノ終ルト共ニ首席訓導捧持シ奉答ノ歌ノ終リテ後首席訓導捧持シ去ル
2. 證書賞狀賞品ノ臺ハ來賓席ト反對ノ側ニ設ク

●儀式報告ニ關スル件

大正十五年十一月二十日
花視第三二八號庶務課長依命通牒
小公學校長宛

臺灣公立小學校規則第五十八條及臺灣公立公學校規則第五十七條ニ規定セラレタル儀式ハ爾今報告スルニ及ハス

右依命通牒ス

●小學校及公學校ニ備フヘキ一覽表ノ件

大正十四年八月二十七日
花視第二一六號庶務課長通牒
小公學校長宛

小學校及公學校ニ於テハ別紙樣式ニ依リ一覽表ヲ備ヘラレ度

右通牒ス

記載例

一　本表ハ四月末日及十月末日ノ現在調査ニ依リ之ヲ揭ケ其ノ調査年月日ハ備考欄ニ記入スヘシ又學齡兒童數ハ總督府報告例ニ依リ其ノ年

三月末日ノ調査ニ係ル實數ヲ掲クヘシ

一　俸給ハ各人ノ辭令ニ依リ記入スヘシ

一　出身別ハ學校出身者ニ在リテハ內地及本島ニ於ケル各最終ノ學校ヲ併記シ其他ノ者ニアリテハ檢定等ノ事項ヲ記入スヘシ

一　出席歩合ハ前年度分ヲ最下欄ニ記入シ既往五年分ヲ順次上欄ニ記入スヘシ

一　備品ハ總督府報告例ニ依リ四月分ノ調査ハ前年度調査ニ依リ十月分ノ調査ハ其ノ年度ノ調査ニ依ルヘシ

一　學校醫ハ職員欄ニ俸給擔任學級出身別ヲ除キ記入スヘシ

一　小學校ハ修業年限ノ欄ニ高等科何年ト高等科ノ修業年限ノミヲ記入スヘシ

一　本表ハ之ヲ保存スヘシ

別紙様式（略ス）

●入學兒童ニ關スル件

昭和二年三月十六日
花敎第三二三號庶務課長依命通達
小公學校長竝

每年四月一日入學セシムヘキ學齡兒童ニシテ現住地ニ於ケル戶口上ノ手續未濟ノ爲メ學齡兒童ノ調査充分ナラス往々ニシテ未タ就學ノ始期ニ達セサル者ヲ入學セシメタリトノ聞アリ此等ハ法規上見逃スヘカラサル次第ニ付爾今必ス學齡兒童單名票ニ照合シ相違ナキヲ確メタル上入學ヲ許可スヘキ樣特ニ留意相成度
右依命通達ス

●臺北市內公學校就學兒童取扱ニ關スル件

大正十二年十二月二十一日
總內第六五八三號總務長官代理通牒

主題ノ件ニ關シ別紙甲號寫ニ對シ乙號寫ノ通リ回答致シ置キ候條御參考迄
右通牒ス
（甲號寫）

大正十二年十一月十九日
內敎學第一四八三號

臺北市內各公學校ニハ別表ノ通學齡ヲ超過シ又ハ學校卒業前ニ學齡超過スヘキ兒童現ニ合計二千八百四十五名就學致居又現在ノ情況ヨリ推ストキハ尙數年間ハ年齡高キ兒童ヲ公學校ニ收容スルコト不得已事情有之斯クテハ學齡ニ達シタル者ヲ直ニ就學セシムル上ノ妨トナリ延テハ將來義務敎育施行ノ場合ニ於テハ支障トモナルヘク而シテ是等兒童ハ年齡ノ關係上大體ニ於テ公學校六箇年課程ヲ四箇年ニ短縮修了セシムルコト左程困難ニアラサルヘシト思料セラレ候ニ付市內公學校兒童ニシテ相當年齡ニ達シタル者ハ當分明治四十三年九月十二日通達民內第六二九七號ニ依ラス適宜促進學級ヲ設ケ各學年ニ亙リ特進ノ途ヲ開キ度候條右至急何分ノ御指揮仰度
右禀議ス
（別表ハ略ス）
（乙號寫）

大正十二年十二月二十一日
總內第六五八三號

大正十二年十一月十九日附內敎學第一四八三號禀議首題ノ件ニ關シ當分ノ內明治四十三年九月十二日通達民內第六二九七號ニ依ラス各學年ニ亙リ特進ノ途ヲ開クコトハ相當年齡ヲ超過シ且ツ學年相當以上ノ學力ヲ有スル者ニ限リ之ヲ認容スルコトニ決定相成候條可然承知相成度
右依命通達ス

●學事會議規程

昭和五年十一月一日
花蓮港廳訓令第三七號

花蓮港廳學事會議規程左ノ通相定ム

學事會議規程

第一條　敎務ノ改善進展ヲ圖リ之カ統一ヲ期スル爲每年度一回以上本廳ニ學事會議ヲ開ク

第二條　會議ニ參與スルモノ左ノ如シ

會長　廳長
　廳長事故アルトキハ庶務課長之ヲ代理ス
理事　庶務課長
主事　視學、敎育係長
會員　小、公學校長
番外　中等學校長（實業補習學校長ヲ含ム）
書記　敎育係員

第三條　會議事項ニシテ他ノ主管事務ト關聯スル議事ニ關シテハ關係課長又ハ主任者ヲ番外員トシテ議事ニ參與セシムルコトアルヘシ

第四條　會議ニ諮問スヘキ事項ハ開會十日前ニ之ヲ配付ス但シ時宜ニ依リ議場ニ於テ配付スルコトアルヘシ

第五條　會議ニ參列スルモノハ議題ヲ提出スルコトヲ得但シ其ノ取捨ハ會長ノ決スル所ニ依ル

第六條　議事ノ方法ハ會長ノ定ムル所ニ依ル

附　則

大正二年花蓮港廳訓令第十一號學務會議規程ハ之ヲ廢止ス

●學事會議ニ關スル件

大正十年十月
總內第九〇一八號總務長官代理通牒

貴廳ニ於テ貴管內學校長又ハ視學ヲ召集シ學事會ヲ開催セラルル場合ハ當府ヨリ關係者派遣ノ都合モ有之候條開催前豫メ左記事項報告相成度尙會議終了ノ上ハ會議ノ概況報告相成度
右依命通達ス

記

一　開催期間
二　諮問事項、協議事項又ハ打合事項
三　會議員ノ種別及員数
四　會場

●學校豫算經理手續ニ關スル件

昭和三年十二月十五日
花教第一〇二七號庶務課長依命通牒
補習學校長、小公學校長殿

從來學校ニ於ケル豫算ハ全部本廳ニ於テ經理致居候處昭和四年度ヨリ別紙豫算經理手續ニ依リ當該學校長ニ委託經理セシムル事ニ決定相成候條該手續ニ據リ處理シ萬遺憾ナキヲ期セラルヘク

右依命通牒ス

（別紙）

補習學校小公學校豫算經理手續

第一條　補習學校小學校公學校豫算中左ニ揭ケル事項ハ當該學校長ニ委託スヘシ

一　實行豫算ノ範圍内ニ於テ一廉三十圓以内ノ物品ヲ購入スルコト
二　實行豫算ノ範圍内ニ於テ一廉三十圓以内ノ修繕ヲ行フコト
三　實行豫算ノ範圍内ニ於テ延人員十人以内ノ人夫ヲ使役スルコト

第二條　學校長前條ノ範圍ニ於テ物品ノ購入修繕ヲ行ハントスル時ハ當業者二名以上ヨリ見積書ヲ徵シ價格最低且ツ相當ト認ムルモノニ下命スヘシ

土地ノ事情ニ依リ二名以上ヨリ見積書ヲ徵シ能ハサル時又ハ一廉五圓以内ノ物品購入修繕ノ場合ハ見積書一通ヲ以テ處理スル事ヲ得但シ見積書二通以上ヲ徵スルコト能ハサル時ハ見積書餘白ニ其ノ理由ヲ附記スヘシ

第三條　學校長ニ於ス委託事項ヲ執行シタル時ハ直ニ左ノ手續ヲナスヘシ

一　物品ヲ檢收シタル時ハ請求書、領收證、見積書（全部）ヲ取纏メ請求書餘白ニ年月日現品受入濟及備品保管簿（消耗品受拂簿）整理濟ノ旨記載捺印ノ上直ニ廳長ニ送付スヘシ
二　修繕ヲ了シタル時ハ請求書、領收證、見積書（全部）及設計書、仕樣書、圖面等ヲ取纏メ請求書餘白ニ年月日修繕濟ノ旨記載捺印ノ上直ニ廳長ニ送付スヘシ
三　人夫ヲ使役シタル時ハ請求書、領收證ニ別記樣式ノ人夫使役明細書ヲ添ヘ請求書餘白ニ年月日使役濟ノ旨記載捺印ノ上直ニ廳長ニ送付スヘシ

（樣式）

人夫使役明細書

種別	使役期間	員數	單價	小計	使役ノ用途	備考
内地人、本島人、番人						
計						

右ノ通相違無之候也

年　月　日

何學校長名

注意事項

一　學校所在地外ニ注文ヲ要スル時ハ必ス學校納メトシ且運送途中ニ於ケル破損品ハ何回ニテモ取替又ハ修繕セシメ得ル樣注文スヘシ
二　委託事項ノ實行ニ際シ分割購入又ハ修繕ヲ爲スコトヲ許サス
三　土地ノ事情ニ依リ學校長ニ於テ執行スルヲ不便且不利ナリト認ムル場合ハ從前通本廳ニ要求スヘシ
四　年度末ニ於テハ三月三十一日迄ニ注文品ノ全部ヲ納入セシメ請求書類ハ四月十日迄ニ遲滯ナク送付スヘシ
尙年度末ニ限リ三月二十日迄ニ請求書類送付ニ先タチ債務額ヲ報告スヘシ
五　請求書、領收證、見積書ハ總テ宛名ヲ廳長名トスルコト
六　請求書ニハ必ス請求及拂出傳票ヲ添付シ提出スヘシ

●小公學校ノ授業ニ關スル件

昭和五年九月十六日
花視第二二八號庶務課長照會
小公學校長殿

首題ノ件ニ關シ今般文教局長ヨリ照會ノ次第モ有之候處右ニ就キテハ昭和二年一月七日花視第四號ヲ以テ通達致置候處ナレハ夫々御留意ノ事ト

ハ被存候モ近時學校職員中ニハ往々右通達ノ精神ヲ沒却シ特殊ノ場合ニ於ケル除外例トシテ認メラレタル一日一時間内ノ特別教授ヲ國語算術ノ二科目ニ限定シ更ニ過重ナル宿題ヲ課スル等兒童心身ノ疲勞ヲ顧慮スルコトナク只管上級學校ノ入學準備ニ專心スルモノ有之ヤニ聞及候
右ハ初等教育ノ本旨ニ悖リ兒童教養上寔ニ遺憾ニ不堪次第ニ有之候ニ付爾今宜シク部下職員ヲシテ曩ニ發セラレタル通達ノ精神ヲ理解セシメ以テ初等教育ノ本旨ニ立歸ラシムル樣一層嚴重ナル監督方勵行相成度

右照會ス

昭和五年九月十日
文學第九九五號文教局長照會

標記ノ件ニ關シ昭和元年十二月二十八日附總文第二三五號ヲ以テ通牒相成候處近時學校教職員中ニハ往々右通牒ノ精神ヲ沒却シ特殊ノ場合ニ於ケル除外例トシテ認メラレタル一日一時間内ノ特別教授ヲ國語算術ノ二科目ニ限定シテ劣等兒童以外ノ兒童ニ迄之ヲ課シ更ニ過重ナル宿題ヲ課スル等兒童心身ノ疲勞ヲ顧慮スルコトナク只管上級學校ノ入學準備ニ專心スルモノ有之ヤニ聞及候
右ハ初等教育ノ本旨ニ悖リ兒童教養上寔ニ遺憾ニ不堪次第ニ付宜シク教職員ヲシテ曩ニ發セラレタル通牒ノ精神ヲ理解セシメ初等教育ノ本旨ニ立歸ラシムル樣一層嚴重ナル監督方勵行相成度

右照會ス

昭和元年十二月二十八日
總文第二三五號總務長官代理依命通牒

成規ノ授業時間外ニ於ケル教授ハ教授進行ノ狀態竝兒童心身ノ如何ニヨリテハ時々有效ナル教育手段ナリト雖モ近來多數小公學校ニ於テハ兒童

ノ上級學校入學準備ノ爲隔日又ハ連日二時間乃至三時間甚シキハ日後又ハ夜間ニ至ルマテ特別教授ヲ行フ狀況ニ有之中ニハ成規ノ授業ニ於テ專ラ試驗科目ノミヲ重視シテ他教科ヲ輕ンシ甚シキハ規定ノ時數ヲ變更シテ或教科ノ如キ殆ト教授セサルカ如キモノモ有之然カモ單ニ知識ノ注入ニ專念シテ兒童心身ノ疲勞ヲ顧慮スルコト尠ク甚タシク兒童教養ノ方途ヲ誤ルモノアルハ教育上寔ニ憂慮ニ不堪次第加之今後著シク其ノ弊ヲ增進セントスル傾向有之候ニ付テハ教職員ヲシテ充分ニ教育ノ趣旨ヲ自覺セシメ成規ノ授業ニ於テハ特ニ各教科ノ要旨ニ基キテ大ニ其ノ徹底ヲ期セシムルハ勿論規定以外ノ授業ニ關シテハ嚴ニ今左記ノ通嚴守セシメラルル樣致度

右依命通牒ス

追テ本件ハ全島一齊ニ勵行セシムルモノニ付嚴重御監督相成度尙一般父兄ニ對シテハ適當ナル方法ヲ講シテ本通牒ノ精神ヲ諒解セシメラレ度

記

一　始業前竝放課後ニ於ケル授業ハ原則トシテ之ヲ禁止ス但シ左ノ場合ハ訓育施設ト認メ之ヲ除外ス

1. 始業前三十分以內ノ豫習
2. 偶發事項ニ關スル訓話
3. 遠足教授竝生作業竝教育的集會等

二　劣等兒童ニ對スル特別教授ハ一日一時間ノ限度ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

三　休日ニ於テ授業ヲ行フ場合ハ一日二時間以內トス

但シ有志兒童ニ對シ臨海教授林間學校等ノ特別教育施設ヲ行フ場合ハ此ノ限リニアラス

昭和元年十二月二十八日
總文第二三五號總務長官代理通達

昭和元年十二月二十八日附ヲ以テ小公學校ノ授業ニ關シ依命通達致候處今後其ノ趣旨ノ徹底ヲ期スル爲特ニ教職員ノ自宅又ハ兒童ノ家庭等ニ於ケル教授ヲモ禁止スルコト致度候條貴管下教職員ニ對シ之カ勵行方御嚴達相成ルト共ニ十分御監督相成度

右通達ス

昭和二年一月十二日
花視第四號ノ一　庶務課長依命通牒

上級學校入學試驗準備ノ爲メ從來學校內ニ於ケル成規ノ時間外ニ亙リ學校ニ於テ又ハ職員ノ宿舍ニ於テ好意的ニ兒童益ニ父兄ノ希望ニ任セ寄リ寄リ相督勵シテ勉勵セシメツツアリトノ聞エ有之候得共右ハ篤キ師弟ノ情義ノ表露トシテ深ク咎ムヘキ筋合ニアラスト思料致サレ從來更ニ角ノ非難アリタルニモ係ラス其ノ儘ニ放任シアリタリシカ今般昭和元年十二月二十八日總文第二三五號總務長官依命通達ノ次第モ有之時間外教授ノ弊害ハ兒童心身ノ疲勞ヲ顧慮スル場合寒心淺カラサル義ニ付此ノ際應下一齊ニ右通牒ノ趣旨ヲ勵行シ時間外教授ヲ廢止シ且ツ嚴重監督ヲ怠ラサル事ニ致サレ候然ルニ現在ノ時間外教授ハ學校內ニ於ケル成規ノ教授以外ニ特ニ必要アリトセラレ教師ト兒童ト專念教養ニ努メラレタルハ畢竟スルニ兒童ノ實力多數入學志望者ノ間ニ介在シ競爭試驗ニ當リ心許ナキ點アルヲ憂慮シ教授ヲ開始シタル義ニ外ナラサルヲ以テ今俄ニ之ヲ廢止ス

ルモ試驗ニ應スル兒童實力ハ依然トシテ心許ナキ點有之ニアラスヤ果シテ然リトセハ教師モ兒童モ父兄モ均シク遺憾トスル處ニ可有之之レ一面成規ノ時間內ノ教授不充分ヲ意味スルモノニシテ默シ難キ恨事ト思料ス故ニ從來時間外ニ亙リ多大ノ努力ヲ拂ヒタル熱誠ヲ飜リテ之ヲ學校內ニ於ケル成規ノ時間內ニ集注シ一段ノ努力ヲ更ニ努力ヲ加ヘ周到懇切ナル教授ノ效果ニヨリ萬一ヲ顧慮スル不安ニ備フル樣精々御勉强可相成義ト思料ス能ク右ノ經緯ヲ明カニシ特ニ此ノ機會ニ部下各職員ヲ督勵シ萬一ノ場合不覺ヲ招カサル程度ニ熟心教授可相成

右依命通牒候也

●小公學校長教授擔任ニ關スル件

昭和二年六月十六日
花視第一六九號庶務課長依命通達

小公學校長

小公學校長ハ訓導トシテ學級ヲ擔任スルハ當然ノ事ニシテ教授ノ實際ニ當ルト共ニ他職員ノ指導上亦肝要ノ事ト被存候然ルニ學校長中事務處理ヲ偏倚シ學級ノ擔任ヲナササル者アルハ甚タ遺憾ニ被存候條爾今機密ニ屬スル事務以外ハ可成各職員ニ分掌セシメ左記ニヨリ適當ニ教授ヲ擔任相成度

右依命通達ス

記

一　學校長ハ一學級ヲ擔任シ其ノ學級ノ經營ニ當ルコト

二　學校長ノ擔任教授時數ハ擔任學級及其ノ他ノ學級時數ヲ通シテ每週十二時以上ノコト

三　事務ハ放課後ニ處理スルコト

●學校體操教授要目實施ニ關スル件

昭和二年六月十五日
總文第一五三號總務長官依命通達

本島學校體操教授要目ニ關シ昭和二年訓令第三十一號ヲ以テ大正十五年文部省訓令第二十二號ヲ準用スルコトニ相成候ニ就テハ別紙事項ニ注意シ各適切ナル教程ヲ定メ以テ生徒兒童身體ノ健全ナル發達ヲ期セシムル樣御留意相成度

右依命通達ス

別紙事項

一　水泳ノ教材ニ關シテハ一定ノ方式ヲ示ササルモ適當ナル方法ヲ定メテ之ヲ授クヘシ

一　體操科教材ノ配當ニ當リテハ小學校及公學校ハ文部省ノ小學校ニ準據シ中學校高等女學校女子ノ實業學校男子ノ實業學校及師範學校ハ夫々文部省ノ中學校高等女學校女子ノ實業學校男子ノ實業學校及師範學校ニ準據スヘシ

一　高等學校尋常科ハ文部省中學校ニ準據シテ適宜定ムヘシ

一　學校教練ヲ課セル學校ニ在リテハ其ノ教授要目トノ聯繫ヲ保ツコトニ留意スヘシ

一　公學校ハ教授時數ニ於テ小學校ト一致セサル所アリ且又現時ノ兒童ハ年齡其ノ他ノ關係ニ於テ同一學年ノ小學校兒童トハ心身ノ發達ヲ著シク異ニセルヲ以テ各學校ニ於テ本通達ニ依リ體操科教授細目ヲ制定スル際細心ノ注意ヲ拂ヒ極メテ適切ナラシメムコトヲ期スヘシ

一　何レノ學校ト雖本通達ニ依リ體操科ノ教授細目ヲ制定スル際ハ機械的形式的ニ準據スルコトナク土地ノ情況學校ノ設備生徒ノ心身ノ發達等其ノ校實際ノ狀況ヲ十分ニ考慮シ極メテ適切ナラシメムコトヲ期スヘシ

●修學旅行稟申ニ關スル件

昭和二年六月十六日
花視第一七〇號庶務課長依命通達
補習學校長、小公學校長宛

修學旅行稟申ニ關シテハ從來區々ニシテ遺憾ノ點有之候條左記事項記載ノ上出發期日三日前到着ノ日取ヲ以テ稟申相成ルヘク
右依命通達ス

記

一　目的
二　期日
三　日程及視察事項
四　學年別人員
五　引率者官職氏名
六　兒童一人宛費用
七　其ノ他

●小公學校兒童內地修學旅行ニ關スル件

昭和五年七月二十一日
總文第三〇二號總務長官通知

今般臺北州知事ヨリ臺北市小公學校兒童ニ內地修學旅行爲致度趣ヲ以テ內議有之候處別紙ノ通通達相成候條御了知相成度
右通知ス

（別紙）

昭和五年七月十八日附內議相成候標記ノ件差支無之候條御了知相成度尙自今本件ニ關シテハ貴官限リ可然御取計相成度
右依命通達ス

●二荒神社殿堂竝寶物館拜觀ニ關スル件

大正十二年五月七日
學教第九八號ノ一學務課長通知

大正十二年三月二十五日附栃木縣日光町山內二荒神社東照宮々司輪王寺門跡通名ニテ同山殿堂竝寶物館拜觀ノ義從來修學旅行ノ學校生徒及其ノ職員ニ對シテハ壹人ニ付金貳拾五錢ヲ收受スル規程ナリシモ本年四月一日ヨリ右拜觀料ヲ廢シ無料ノ取扱トナスコトニ決定シ官公立學校ニ右周知方依賴越候條可然御取計相成度
右通知ス

●基隆築港視察見學ニ關スル件

大正十二年十一月五日
內學第一五七五號內務局長通知

學校職員生徒兒童ノ基隆（築港）見學又ハ視察ニ際シ從來屢々行違ヲ生シ支障少カラス同地港務所長ヨリ左記申出有之候條其ノ向行方貴廳管下各學校御示達相成度爲念
右通知候也

記

一　紅毛城ヲ見物セントスル時ハ電話其ノ他ノ方法ニヨリ豫メ許可ヲ得（キコト）
二　領事館前庭ノ下方ノ門ヨリ出入スルコト
三　日曜日ハ見物ヲ許ササルコト

●夏季休業注意ニ關スル件

昭和二年八月一日
總文第三七八號總務長官通牒

本島諸學校ノ夏期休業ハ五十日ノ長期ニ亙リ之カ取扱ニ就キテハ教育上深甚ナル考慮ヲ要スル義ニ候處從來學校ノ施設中往々休業ノ本旨ニ悖ルカ如キモノアルハ遺憾ニ存候條今學習ノ爲ニスル定時召集又ハ宿題ヲ課スルカ如キコトハ平素ノ學習ノ習慣ヲ維持スルノ程度ニ止メ主トシテ生徒兒童ノ健康增進ニ注意シ適當ノ方法ニヨリ身體ヲ練リ敢爲ナル氣風ノ養成ヲ努メ以テ夏期休業ヲシテ充分意義アラシムル樣御留意相成度此段及通牒候也

●看護當番及運動器具使用ニ關スル件

大正七年二月
花學第二二七號庶務課長依命通牒
小公學校長宛

兒童休憩時間中ハ看護當番ヲ置キ遊技其ノ他特ニ指導監督ヲ施シ居ラル

ルコトト思考候處運動器具中ニハ往々危險ノ伴フモノアリ現ニ最近ニ於テモ遊動圓木ニテ負傷シタル事實アリ畢竟看護當番ノ注意周到ナラサリシニ起因セスヤト思料セラルル點ナキニアラス寔ニ遺憾トスル所ニ候就テハ將來一層部下ヲ督シ危險豫防ニ努メラルヘキハ勿論遊動圓木、鞦韆塔、繩梯ノ如キ危險ヲ醸シ易キ器具ハ職員監督ノ下ニアラサレハ使用セシメサルコトニ取締相成度

右依命通牒ス

●公學校國語科教科用圖書ニ關スル件

大正十五年二月二十四日
總内第一〇〇三號總務長官代理依命通達

蕃人子弟ヲ收容セル修業年限三箇年及ヒ四箇年ノ公學校ニ於テハ國語科教科用圖書トシテ公學校用國語讀本第二種及ヒ公學校用國語書キ方手本第二種ヲ使用セシムル樣義ニ依命通達相成居候處爾今地方ノ事情ニ依リテハ修業年限ニ拘ラス公學校用國語讀本第一種及ヒ公學校用國語書キ方手本第一種ヲ使用セシムルモ差支無之ニ付御了知相成度

右依命通達ス

●官營移民子弟授業料ノ件

大正二年二月
民學第九九號民政長官代理依命通達

官營移民ノ子弟ニシテ之カ爲ニ設置シタル小學校ニ入學シタル場合ノ授業料ハ移住後三箇年間ニ限リ臺灣小學校規則第二十九條ニヨリ其ノ全部ヲ免除スルコトニ府議決定セラル

右依命通達ス

●兒童ノ身體計量器ニ關スル注意ノ件

大正二年八月
學第四一三號庶務課長依命通達

小公學校長殿

小學校、公學校ニ於テ臺灣總督府賣下ノ身長計ヲ設備セス柱ナトニ目盛ヲナシ以テ兒童ノ身體檢査ヲ施行スルモノ往々有之趣キニ候處右ハ度量衡規則上不都合ノ義ニ付今後斯カル處理無之樣御注意相成度若シ身長計ヲ備フル能ハサル場合ハ臺灣度量衡規則ニヨル普通ノ度器ヲ使用シテ身體檢査ヲ施行スヘク尤モ校舍校地ノ部分竝ニ物品、樹木等ニ就キ長短ニ面積、容量、重量等ヲ記入シ度量衡ノ概念ヲ與フルニ資スルハ毫モ差支サル次第ニ付誤解ナキ樣併セテ注意相成度旨學務部長心得ヨリ照會有之候條御注意相成度

依命此段通達候也

●公學校ニ於テ養蠶實習ヲ爲サシムル件

大正三年十二月
民學第二五六四號民政長官代理依命通達
同年同月
花學第九二九號ノ一各公學校宛通達

養蠶ハ本島産業ノ重要ナル一ト認メラレ夫々奬勵致居候際ナレハ公學校兒童ヲシテ之ヲ實習セシメ養蠶ニ關スル智識技能ヲ得セシムルハ公學校教則ノ趣意ニ適スルハ勿論延テ本島産業ニ裨益スル處不尠次第ニ付養蠶ニ適スル地方ノ公學校ニ於テハ可成農業ノ一部トシテ之ヲ實習セシメラルヘク別紙蠶業實習要項及實施上ノ注意書相添

右依命通達ス

（別紙）

公學校ニ於ケル蠶業實習要項

一　公學校ニ於テハ凡面積二分（約二反歩）位ノ桑園ヲ設置スルコト
但シ學校ノ大小ニ由リ伸縮スルヲ要ス

二　蠶室ハ校舍又ハ宿舍其他適當ノ建物ヲ假用スルコト

三　蠶種ハ總督府ヨリ無償配付スルコト

四　必要ナル蠶具ハ學校ニ於テ相當設備ヲナスコト

五　桑樹ノ栽培及蠶兒ノ飼育ハ職員指揮ノ下ニ成ルヘク兒童ヲシテ從事セシムルコト

六　應又ハ應農會蠶業技術者ヲシテ時々巡回指導セシムルコト

七　生産繭ハ總督府ニ於テ買上クルコト

公學校ニ於ケル蠶業實施上ノ注意

一　桑園ニ充當スル土地ハ成ルヘク學校ノ附近ニ於テ地味肥沃ノ地ヲ選定スルコト

二　總督府ニ於テ育成配付スル桑苗ハ目下ノ事情ニ於テハ未タ學校ニ配付スル運ニ至ラサルニ依リ大正三年末日ヨリ順次學校ニ於テ桑苗ヲ育成スルコト

三　桑園二分約（二反歩）設置ニ要スル準備概ネ左ノ如シ

(1)　本島在來種桑苗約二千二百本ヲ要スルコト

(2)　苗圃トシテ適當ノ畑地五厘（約畝歩）ト穗木約五百斤ヲ要スルコト

(3)　穗木ハ成ルヘク附近山間ノ野桑等ヨリ採取スルコト若シ附近ニ野桑ナキ場合ハ應又ハ應農會ニ於テ購入ヲ斡旋スルコト

(4)　約五百斤ノ穗木ニテ調木シタル挿木約一萬本ヲ伏セ込ミ苗木二千五百本乃至三千本ヲ得ヘキコト

(5)　苗木育成ノ順序方法ハ應又ハ應農會蠶業技術員ヲシテ指導セシムルコト

四　桑園ヨリ收葉ヲナスニ至ルマテノ間ハ學校附近ノ山野ニ自然生ノ桑樹アル地方ニテハ野桑ヲ採取シテ蠶兒ノ飼育ヲ開始スルコト

五　一回蟻量二匁蠶兒ヲ飼育スル蠶室ハ四坪位ノ一室ト貯桑及調桑ニ要スル一坪乃至二坪位ノ土間ヲ準備スルコト
尚蠶室ヲ新設スル場合ニハ成ルヘク簡易ナル本島人式建物トスルコト

六　蠶種ノ配付ヲ受ケントスルヲトキハ拂クトモ一箇月前ニ所轄應ヲ經テ配付ノ申請ヲ爲スコト

七　公學校附近ニ廳又ハ廳農會所屬ノ種畜飼育所ノ設ケアル場合ニハ種畜ノ期日飼育ヲナシタル畜兒ノ配付ヲ受タル便宜アルコト

八　畜具ハ箱、蓆及繭網各五十枚其ノ他桑切庖丁、桑板、羽箒等ヲ準備スルコト

但シ蠶箔ハ竹製網代底ノモノヲ使用スルトキハ蓆ヲ要セス

畜具ハ成ルヘク普通備品ヲ利用スヘク新調スル場合ニ於テハ地方ニ於テ得易キ材料ヲ選フコト

九　養蠶飼育季節ハ凡左ノ如シ

第一期　三月下旬乃至四月下旬

第二期　五月下旬乃至六月下旬

第三期　八月上旬乃至八月下旬

第四期　十月上旬乃至十一月上旬

十　繭ヲ收穫シタルトキハ之ヲ乾燥シ廳ヲ經テ之カ買上ヲ申請スルコト

但シ乾燥ノ設備ナキトキハ廳農會ニ委託シテ之ヲ行フコトヲ得ヘシ

十一　前各項廳經由トアルモ廳ノ意見次第ニテ其經由ヲ省略スルモ差支ナキコト

●農業實習地生產物賣却代ニ關スル件

昭和三年一月十三日
花敎第四四號庶務課長通牒

各學校長宛

廳地方費立各學校農業實習地生產物賣却代金ニ關シ昭和二年十二月二十二日附內地第二九四〇號ノ八ヲ以テ別記寫ノ通リ內務局長ヨリ通牒有之候條瀉今右ニ依リ取扱相成度

右通牒ス

追テ賣却竝ニ納入ニ當リテハ左ノ手續ニ依リ處理相成度候

記

實習地生產物賣却手續

一　農業實習地生產物賣却ニ當リテハ別記樣式ニ依リ賣下願書ヲ徵シ廳長宛進達スヘシ

二　廳長ニ於テ賣下許可ノ場合ハ納入告知書ヲ以テ許可書ニ代フルニ付右納入告知書到着ノ際ハ直チニ出願人ニ交付シ遲滯ナク賣下代金ヲ納入セシムヘシ

三　賣下代金ノ納入ヲ了シタルヲ確メタル上現品ヲ引渡スヘシ

樣式

何々賣下願

一　何々　何圓

但シ何小(公)(農業補習)學校實習地生產品

代金何程　單價何程

右ハ何々トシテ御賣下被成下度此段率願候也

年月日

住所

氏名

花蓮港廳長氏名殿

(別紙寫)

昭和二年十二月二十二日

廳長宛　　內務局長

內地第二九四〇號ノ八

農業實習地生產物賣却代ニ關スル件

廳地方費立小公學校農業實習地生產物賣却代金ハ各學校ニ於テ所持シ隨時種苗農具肥料等購入費及整地植付費等ニ充當スル趣ニ候處右ハ臺灣廳地方費會計取扱規程第一條ニ抵觸致候義ニ付將來該代金ハ廳地方費歲入ニ收納シ實習地所要經費ハ小公學校費豫算ヲ以テ支辨相成度

右通牒ス

●實業補習學校ノ名稱ニ關スル件

昭和五年四月十四日
文學第三九五號ノ一文敎局長通牒

標記ノ件ニ關スル臺南州知事ヨリノ別紙照會ニ對シ別紙二ノ通リ回答致置候條右御承知ノ上可然御取扱相成度

右通牒ス

(別紙)

(照會)

實業補習學校名稱ニ關スル件伺

昭和五年四月一日
臺南內敎第五四〇號

昭和五年五月一日ヨリ臺南市ニ安平水產補習學校ヲ新設開校スヘキ豫定ニテ臺南市井ヨリ日下設置認可申請書提出中ニ有之名稱ヲ水產專修學校ト致度希望ヲ有シ居リ候ニ就テハ規定上他ノ名稱ヲ附スルハ穩當ナラサル哉ニ思料致候ヘ共左記理由ニ依リ前記ノ名稱ニテ認可致度ト存シ候條一應御意見相伺度至急何分ノ御回示相煩度

右及照會候也

記

一　本校ハ水產實務者養成ヲ目的トスルヲ以テ之カ內容ヲ表彰スルニ最モ好適ナル名稱タラシメントス

二　專修ノ語ヲ附スルハ同校ノ主義方針ヲ確立シ旗幟ヲ鮮明ナラシムルモノト思料ス

三　從來此ノ種ノ學校ニハ補習名ヲ附スルヲ常トスレトモ其ノ字義語感等ヨリスルトキハ宛モ此種ノ學校カ小公學校ノ延長ニシテ其ノ內容等モ小公學校ニテ履行セシ處ヲ補習スルニ過キサルカ如キ感アリテ之ヲ構成スル敎員生徒等ニモ其ノ第一印象ヲ極メテ微溫的ノモノニシテ學校ノ求メントスル確固タル信念ヲ喚起スルニハ不適當ナリト認メラル

四　生徒ノ入學募集ニ當リテモ實務者ヲ養成シ學校ニ於テ修メタル智識技能ヲ以テ勢働ニ從事シ生活セントスル覺悟ヲ有スル人物ノ養成ニ在ルコトヲ先ツ標題ニ揭ケ從來ノ如ク官吏タリ上級校ニ昇ラントスル豫備的應擧的ノ考ヘヲ以テ應募スルカ如キモノナカラシメントスルニアリ

（問答）

實業補習學校ノ名稱ニ關スル件

昭和五年四月十四日
文學第三九五號

昭和五年四月一日附掌南內教第五四〇號ノ一ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件ハ臺灣公立實業補習學校規則第六條ニ依リ實業ノ種類ヲ現ハスヘキコトヲ規定スルノ外別段ノ規定ナキヲ以テ「補習」ノ二字ハ必スシモ之ヲ用フルノ要ナク又別段弊害ヲ釀ス惧ナシト認メラルルニ付實業補習學校ノ本旨ヲ示シ他ノ實業學校ト紛ハシカラサル程度ニ於テ地方的事情ヲ考慮シ適當ノ名稱ヲ附セラレ可然ト被存貴見ノ通リ認可相成ルモ支障無之候

右經伺ノ上回答ス

●小、公學校校舍校庭ヲ教育、勸業、兵事、救恤、慈善、社會風教其ノ他公共ニ關スル事業ノ爲ニ使用上ノ注意

大正六年六月
廳長內訓第二號

小公學校長宛

小學校及公學校ノ校舍又ハ校庭ヲ校務ノ遂行ヲ妨ケサル範圍ニ於テ教育勸業、兵事、救恤、慈善、社會風教其ノ他公共ニ關スル事業ノ爲メニ使用シ多衆會合或ハ飮食ノ場合アルヲ免レサルハ設備ニ乏シキ地方ニ在リテハ止ムヲ得サルノ措置ナリト雖モ萬一ニモ風俗上取締ヲ要スヘキ職業ニアルモノヲ出入セシムルカ如キコトアリテハ學校ノ風紀ニ影響ヲ及ホシ兒童訓育上障害ヲ來スコト鮮少ナラサルヘシ宜シク周到ナル注意ヲ拂ヒ情ニ流レス嚴正事ヲ處シ學校教育ノ效果ヲ害フコトナキヲ期セラルヘシ

右內訓ス

●入學準備教育禁止ノ件

昭和二年一月十一日
文書第一八七號文教局長通知

昭和元年十二月二十八日附總文第二三五號ヲ以テ教職員ノ自宅又ハ兒童ノ家庭等ニ於ケル教授禁止ニツキ通達相成候處右教職員中ニハ中等學校以上ノ教職員ヲモ含ム義ニ付爲念

右通知ス

追テ前通牒中一二疑義ヲ挿ムモノアルヤニ聞及候條左記說明御參考迄申添候

記

一　休業日ニ於ケル二時間以內ノ授業云々ハ小學校規則第五十四條末項及公學校規則第五十三條末項規程ニ對スル制限ニシテ右ハ元來休業日ノ事故授業ヲ行ハサルヲ本體トスヘキハ當然ナルモ臨時休業其ノ他止ムヲ得サル事故ノ爲メ教材ノ進度遲レタル等ノ事由ニヨリ特別ニ休業日ヲ利用シテ教授スル必要アル場合ヲ考慮シテ定メタルモノナルヲ以テ當然ノ準備教育的教授ヲ避クヘキハ勿論理由ナクシテ休業日ヲ授業日ニ充ツルカ如キハ當ヲ得サルモノナリ

二　劣等兒童ノ限界ニ關シテハ平素ノ授業ハ其學級兒童全體ヲ對照トシテ行ハルルモノナルヲ以テ大體其ノ學級ノ貫通兒童以上ニハ理解セシメ得ヘキモノト認メラルルニヨリ本通牒ノ劣等兒童トハ大凡其ノ學級ノ貫通兒童ニ及ハサル少數者ヲ意味スルモノト解スヘシ

●中等學校入學者選拔ノ件

昭和三年一月十六日
文學第四七號文教局長代理通牒

中等學校入學者選拔ノ件ニ關シ別途總務長官ヨリ依命通牒相成候處右ハ入學志願者多數ニシテ募集人員ヲ超過セル爲單ニ選拔ノ手段トシテ行ハルルモノナルカ故ニ甚シク學力考査ニ偏スルカ如キハ嚴ニ之ヲ避ケ必ス小公學校ニ於ケル課程ニ徹シ左記御參照ノ上試問ハ平易ヲ旨トシ兒童ヲシテ特別ノ準備學習ヲ必要トスルカ如キ感ヲ起サシムルコト無キ樣貴管下中等學校ニ對シ御注意相成度候

記

一　學力考査ニ於ケル學科目ニ就テハ從來各州廳ニ於テ劃一的ニ行ハレタルカ如キモ中學校、女學校、實業學校等種類ノ異ナルニ從テ必スシモ劃一的ニスルヲ要セス

二　學科目別ニ問題ヲ提出セムトスル時ハ國語科ノ如キハ之ヲ缺クコト能ハサル三科目內位適當ナルヘシ

三　多クノ學科目ニ亙リ考査セムトスル時ハ算術、歷史、地理、理科ノ如キハ所謂綜合的ニ一考査ニ於テ行フカ如キ一法ナルヘシ但シ此ノ場合ニハ極メテ重要ナル事項ノミニ限ルコト

四　國語ノ問題ニ於テハ書方ハ之ヲ省キ讀方ニ於ケル漢字ハ小公學校ノ教科書ニ共通ナルモノニ限リ語句ハ普通兒童ノ理解シ得ヘキ程度ニ於テ選ヒ文ハ應用文ヲ主トスルコト

五　算術ノ問題ニ於テハ平易ニシテ多數ナルヘキコト

六　性行考査ニ於テハ口頭試問ヲナスカ或ハ簡單ナル作業ヲナサシムル等モ一法ナルヘシ

七　所謂メンタルテストニ就テハ科學的ニ組織セラレタル方法トシテ之ヲ採用スルハ時期尙早キモノト認ムル但シ其ノ意味及其ノ方式ノ一部ヲ學科試驗中ニ加味シ以テ學科ノ修得智識以外心力ノ運用ヲ檢スル一助トスルハ妨ナカルヘシ

八　願書其ノ他ノ手續ヲ簡便ニシ成ルヘク形式ヲ統一スルコト

●中等學校入學者選拔ノ件

昭和三年一月二十日
總文第一四號總務長官代理依命通牒

大正十五年十二月二十八日附總文第二三五號ヲ以テ小公學校ノ授業ニ關スル件通牒致置候處該通牒ノ精神ヲ徹底セシムル爲ニハ中等學校ニ於ケル初學年入學者選拔ノ方法ニ關シ改善ヲ加フルコトモ其ノ一方法ト被存候就テハ（貴管下中等學校ニ於ケル）昭和三年度生徒選拔ニ關シテハ左記

要項ニ準據セラルル樣致度尙學校ノ種類其ノ他特種ノ事情ヲ考慮シ又同一種類ノ中等學校ニ對シテモ必スシモ劃一的方法ヲ取ラメシサル樣御注意相成度

右依命通牒ス

記

一　中等學校ニ於テ入學志願者員數カ募集人員ヲ超過シタルトキハ學力性行ノ考査竝身體檢査ヲ行ヒ以テ入學ノ拒否ヲ決定スルコト

二　學力ノ考査ハ口頭試問又ハ筆答試問ノ何レニ依ルモ可ナリ

學力ノ考査ハ志願者ノ學力ノ大體ノ差等ヲ考査スルノ程度ニ止メ問題ハ平易ナルモノタルヘシ

學力ノ考査ニ當リテハ必スシモ各學科目別ニ行ハス一問題或ハ一考査ノ中ニ數科目ノ要素ヲ含マシムルコトヲ得

三　身體檢査ハ成ルヘク校醫ヲシテ行ハシムルコト身體檢査ニ於テ不合格トスヘキモノハ甚シク學習ニ堪ヘサル不具者病弱者及ヒ重トラホーム患者トス

四　考査竝檢査ニハ小公學校長ノ報告ヲ參酌スルコト小公學校長ノ報告ハ當該兒童ノ小公學校ニ於ケル凡ソ最終二學年ノ學業成績身體ノ狀況特性其ノ他必要ナル事項（上級學校進學ニ關スル志望ノ確否性能ノ適否小公學校卒業後ニ於ケル狀況等）ニ付詳細調査シタルモノニシテ小公學校長ヨリ直接志願中等學校長ニ提出シタルモノトス

報告ニ付テハ前項ノ外志願中等學校長ヨリ要求アリタルトキハ出身小公學校長ヲシテ必要ナル調査書ヲ提出セシムルモノトス

●小使ノ命免增給及賞與ニ關スル件

大正三年十月
花學第八一九號庶務課長依命通達
小公學校長宛

小使ノ命免增給及賞與ハ事由ヲ具シ稟議ノ上施行相成度依命此段及通達候也

●服務義務終了證明書下附願ニ關スル件

昭和二年四月十一日
文學第七八二號文教局長照會

近時師範學校卒業者ニシテ上級學校入學等ノ爲服務義務終了證明書下附方ヲ願出ツル者益々增加致候處多クハ其ノ願書ニ出身學校及卒業年月等記載ナキ爲之カ調査ニ多大ノ手數ヲ要シ候ニ付爾今必ス願書ニ左記事項記載方御取計相成度候

記

一　使用ノ目的（例ヘハ何學校ヘ入學ノ爲）

一　出身學校（何師範學校）

一　卒業年月日

一　本居地竝勤務學校（現在勤務スル者ニ限ル）及生年月日

●師範學校卒業者ノ服務義務猶豫竝免除ニ關スル件

昭和二年五月十四日
文學第一〇二八號文教局長通牒

師範學校卒業者ノ服務義務猶豫竝免除ニ關シ別途總務長官ヨリ通牒相成候處內地留學希望者ニシテ服務義務猶豫又ハ免除ノ許可不相成爲職務ヲ拋棄シ懲戒處分ヲ受ケタル者一再ニ止ラサル狀況ニ有之候右ノ內中等教員志望ノ者ニ對シテハ幾分同情スヘキ點有之樣被存候ニ付テハ之カ入學準備ノ爲留學希望切ナル者ハ職務ノ傍入學準備ヲ爲ス樣說得シ入學試驗ノ爲內地ニ旅行スル場合ニハ相當便宜ヲ供與スル等適宜ノ方法ヲ講スルニ於テハ多少服務義務無視ノ弊害ヲ匡正シ得ルカトモ思料セラレ候條此等ノ點相當御考慮相煩度

昭和二年五月十四日
文學第九六五號總務長官通牒

師範學校卒業者研究科及講習科終了者ノ服務義務猶豫又ハ免除ニ關シテハ大正十一年府令第九十一號第三條及第五條ニ規定セラルル通リ疾病其ノ他服務義務ヲ盡スコト能ハサル事由ノ生シタル場合又ハ教員養成ヲ目的トスル官公立ノ學校ニ入學スル場合ニ限リ許可セラルルコトト相成居候處近時教員養成ヲ目的トスル官公立ノ學校ニ入學豫備或ハ內地留學等ノ事由ニテ服務義務ヲ猶豫又ハ免除セラルル如ク考ヘ且甚タシキニ至リテハ給與ヲ受ケタル學資ヲ辨償スレハ事由ノ如何ニ不拘義務ハ免除セラルルモノト考ヘ出願スル向有之候モ之等ハ何レモ許可スヘキ筋合ノモノニ無之候條右御了知ノ上規定ニ該當セサル願書ハ一切進達相成ラサル樣致度

●運動會開催ニ關シ報告ノ件

大正五年九月
花學第七五三號庶務課長依命通牒
小公學校長宛

貴校ニ於テ運動會、同窓會、保護者會、品評會、學藝品展覽會等ヲ開催セントスル場合ハ開催三日前ニ其種類方法等ヲ詳記報告シ閉會後三日以內ニ其結果ヲ報告セラルヘク

右依命通達ス

●風水害被害報告ノ件

大正六年八月
花學第七九六號庶務課長通牒
小公學校長宛

風水害ノ爲メ校舍宿舍等ニ被害アリタル場合ハ電話其他ノ方法ヲ以テ卽報シ尙報告例「臨時報第二表又ハ第四表」ニ依リ詳報相成ルヘキ處往々報告遲延ノ向有之處理上差閊ヲカラス候條爾今速カニ報告相成度

右通牒ス

追テ被害ナカリシ場合ハ其旨報告相成ルヘク爲念申添候也

● 行政事務及管内概況材料提出ノ件

大正九年三月
花學第一四六號
庶務課長依命通達
小公學校長宛

行政事務及管内概況材料ヲ調査シ毎年四月十五日マテニ提出相成度
尚調査ノ事項ヲ別記式ニヨリ必要ニ付訓學年中ノ事實ヲ別記様式ニヨリ調査シ毎年四月十五日マテニ提出相成度

大正　年度

行政事務及管内概況材料調

校名	入學	退學	差引增又ハ減
	男 女 計	男 女 計	

入學者及退學者ハ死亡

兒童ノ出席及缺席

校名	日々出席平均			日々缺席平均			日々出席缺席比例平均		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計

授業

校名	授業日數	休業			由
		臨時			
		日數	事		

校名	兒童一日現在數	三月一日現在ノ職員		職員ノ缺生		兒童ノ缺生		延日數		
		マヲリヤ	計	マヲリヤ	計	病氣	缺席	病氣	缺席	計

寄宿舍ノ狀況

校名	學齢現在	前年度末現在	入舍	退舍	本年度末現在	一人平均寄宿月數
	男性					

● 學級及兒童調査ニ關スル件

大正十五年三月一日
花學第七〇一號
庶務課長依命通達
小公學校長宛

大正十三年二月一日花教第三三號依命通達及同年七月一日花教第三三號依命通達ノ左ノ通學事相成候ニ付テハ大正十五年一月末提出ノ左記注意事項ヲ左ノ通實施相成度

記

一、學齢兒童調査ハ大正十五年四月一日現在ニ依リ實施スルコト

二、學齢兒童調査ノ區域ハ別紙ノ通リ定メタルコト

三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月十五日マテニ庶務課長ニ報告スルコト

四、學齢兒童ノ調査ハ別紙樣式ニ依リ調製スルコト

五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

四十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

五十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

六十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

七十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

八十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

九十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百二十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百三十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百四十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百五十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百六十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百七十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百八十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

百九十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百二十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百三十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百四十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百五十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百六十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百七十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百八十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

二百九十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十二、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十三、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十四、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十五、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十六、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十七、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十八、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百二十九、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百三十、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコト

三百三十一、學齢兒童ノ調査ハ大正十五年四月一日ノ現在ニ依リ調査スルコ

三笠小學校	玉里庄三笠村、末廣村、織羅、觀音山	
玉里小學校	玉里庄玉里、下勝濱、長良村、大庄區、玉里支廳第一、二、三、四監視區番地	
打訓小學校	玉里支廳第五、六、七、八監視區	
新城小學校	研海區、研海支廳第一監視區番地、第二、三、四監視區	
撫子小學校	研海支廳第五、六、七監視區	
花蓮港公學校	花蓮港街	
薄々公學校	平野區、吉野區	
壽　公學校	壽區（月眉ヲ除ク）	
月眉公學校	壽區月眉	
水璉公學校	新社區水璉尾	
鳳林公學校	鳳林區（馬太鞍、太巴塱ヲ除ク）	
馬太鞍公學校	鳳林區馬太鞍	
太巴塱公學校	鳳林區太巴塱	
貓公公學校	新社區加路敏、新社、貓公、姑律	
港口公學校	新社區石梯、大港口、納々	
拔子公學校	瑞穗區拔子、大和村	
瑞穗公學校	瑞穗區（拔子、大和村、奇密ヲ除ク）	
奇密公學校	瑞穗區奇密	
玉里第一公學校	玉里庄（織羅、觀音山ヲ除ク）（本島人ノミ）	
玉里第二公學校	玉里庄（織羅、觀音山ヲ除ク）（蕃人ノミ）	
觀音山公學校	玉里庄織羅、觀音山	

大庄公學校	大庄區大庄、頭人埔	
公埔公學校	大庄區公埔、堵港埔	
新城公學校	研海區三棧溪以北	
北埔公學校	研海區三棧溪以南	

備考

小學校ハ內地人、公學校ハ本島人及蕃人ニ就キ調査スヘシ

●書房義塾規則

大正十二年一月
花蓮港廳令第一號

第一條　書房義塾ノ設立ニ付認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一　名稱

書房又ハ義塾ノ文字ヲ附スヘシ

二　位置

廳街庄區大字地番竝附近公學校トノ距離ヲ記入スヘシ

三　授業開始期日

四　修業年限

五　教科目、每週教授時數及教授始終ノ時限

六　教科用圖書及其ノ配當

七　休業日及一年間ノ教授日數

八　敷地及教室ニ關スル事項

敷地ハ地番坪數、建物ハ各室ノ坪數、構造、窓、出入口、其他便所及井戶等ノ配置竝隣接地ノ狀況ヲ知ルニ足ルヘキ圖面ヲ添付スヘシ

九　授業料（束修、月謝、報酬等ヲ含ム）

年額又ハ月額及徵收方法ヲ記スヘシ

十　生徒ノ收容豫定數

男女別及編制別ニ記スヘシ

十一　維持方法

十二　設立者ノ履歷書、戶口調查簿抄本及私立學校規則第十七條第一號乃至第四號ニ關スル證明書

十三　一年間ノ收支概算

前項第一號乃至第十一號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ事由ヲ具シ廳長ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　書房義塾ノ設立者ヲ變更セムトスルトキハ前後ノ設立者連署ノ上廳長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ新設立者ニ關シ前條第一項第十二號ノ書類ヲ添付スヘシ

第三條　書房義塾ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由期日及生徒ノ處分方法ヲ具シ申請スヘシ

第四條　書房義塾ノ設立者死亡シタルトキハ戶主相續人又ハ遺產管理人ヨリ屆出ツヘシ

第五條　書房義塾ニ入學セシムル生徒ハ年齡六年以上ノ者トス

第六條　書房義塾ノ修業年限ハ四年以內トス

第七條　書房義塾ノ教科目ハ修身、國語、算術、漢文、唱歌、體操ノ中ニ就キ定ムヘシ但シ特別ノ事情ニ依リ廳長ノ認可ヲ受ケタル場合ノ外國語又ハ算術ヲ闕クコトヲ得ス

小學校若ハ公學校ニ在學スル者又ハ之ヲ卒業シタル者ニ對シテハ廳長ノ認可ヲ受ケ國語又ハ算術ヲ課セサルコトヲ得

第八條　書房義塾ハ祝日、祭日、始政記念日及臺灣神社例祭日ニハ休業スヘシ

紀元節、天長節祝日、一月一日及始政記念日ニ於テハ儀式ヲ擧行シ臺灣神社例祭日ニハ生徒ヲ集メ臺灣神社ニ關スル諸告ヲ爲シ北白川宮能久親王ヲ率祀セル神社ニ參拜又ハ遙拜ヲ爲スヘシ

第九條　書房義塾ニ於テハ教科用圖書ハ小學校又ハ公學校用トシテ文部省若ハ臺灣總督府ニ於テ著作權ヲ有スルモノ又ハ文部大臣ニ於テ檢定シタルモノヲ使用スヘシ但シ特別ノ必要アルトキハ其ノ他ノモノヲ使用スルコトヲ得

第十條　書房義塾ニハ其ノ名稱、位置及設立者ノ氏名ヲ記セル標札ヲ揭クヘシ

第十一條　書房義塾ニハ學籍簿（第一號樣式）出席簿（第二號樣式）職員履歷書綴、授業料徵收簿、會計帳簿及日誌等ヲ備フヘシ

第十二條　書房義塾ノ設立者ハ每年四月十日限リ前年度（自四月一日至三月三十一日）中ニ於ケル書房義塾狀況（第三號樣式）及生徒出席缺席狀況（第四號樣式）ヲ廳長ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

兒童	
氏名	
生年月日	
現住所	
本居地	
入學年月日	
卒業年月日	
退學年月日	
退學理由	

保護者	
氏名	
現住所	
本居地	
兒童トノ續柄	
職業	

學業				
學年				
修身				
國語				
算術				
漢文				
唱歌				
體操				
操行				
修業年月日				

記事

第二號樣式

何々書房（義塾）生徒出席簿

氏名				授業日數
一日				
二日				
三日				
四日				
五日				
六日				
七日				
八日				
九日				
十日				
十一日				出席總數（男・女）
十二日				
十三日				
十四日				
十五日				
十六日				
十七日				
十八日				
十九日				
二十日				
廿一日				
廿二日				缺席總數（男・女）
廿三日				
廿四日				
廿五日				
廿六日				
廿七日				
廿八日				
廿九日				
三十日				
卅一日				
出席總數				
缺席總數				

出席記號 ／　缺席記號 ○

第三號樣式

大正何年度何々書房（義塾）狀況

名稱	位置	教員 師範學校卒業	教員 秀才	教員 何々	教員 何々	教員 計	生徒 男	生徒 女	生徒 計	本年度中收入	設立者氏名

注意

一 教員及生徒ハ年度末ノ現員ヲ記入スヘシ

二 教員ハ資格別（何學校卒業又ハ地方州、廳開設ノ學事講習會修了者若ハ舊來ノ科名別等）其ノ人員ヲ記入スヘシ

第四號樣式

大正何年度何々書房（義塾）生徒出席缺席狀況

	性體	月末現在生徒數	本月中一日モ出席セサル生徒數	日日出席平均生徒數	日日缺席平均生徒數	日日出席缺席生徒百中出席比例	本月中授業日數
四月	男						
	女						
五月	男						
	女						
六月	男						
	女						
七月	男						
	女						
八月	男						
	女						
九月	男						
	女						
十月	男						
	女						
十一月	男						
	女						
十二月	男						
	女						
一月	男						
	女						
二月	男						
	女						
三月	男						
	女						
備考							

注意

一 日日出席生徒平均數及日日缺席生徒平均數ノ欄ニハ月末ノ在籍者タルト否トヲ問ハス其月中ノ日日出席兒童數又ハ日日缺席生徒數ヲ通算シ各其ノ月中ノ總授業日數ニテ除シタル商ヲ記入スヘシ但シ服忌ニ依リ忌引シタル期間ノ生徒數ハ其月ノ日日出席生徒數及日日缺席生徒數ノ孰レニモ算入スヘカラス

二 日日出席缺席生徒百中出席比例ノ行ニハ左ノ算式ニ依リテ算出シタル數ヲ記入スヘシ

男ニ在リテハ

$$\frac{\text{日日出席生徒平均數男}}{\text{日日出席生徒平均數男} + \text{日日缺席生徒平均數男}} \times 100$$

女ニ在リテハ

$$\frac{日日出席生徒平均數女}{日日出席生徒平均數女 + 日日缺席生徒平均數女} \times 100$$

平均ニ在リテハ

$$\frac{日日出席生徒平均數男 + 日日出席生徒平均數女}{(日日出席生徒平均數男 + 日日出席生徒平均數女) + (日日缺席生徒平均數男 + 日日缺席生徒平均數女)} \times 100$$

三 前二項ノ算法ハ總テ單位以下三位迄ヲ算出シ四捨五入シテ二位ニ止ムヘシ

四 日日缺席者ノ著シク多數ナル場合ハ其ノ事由ヲ備考欄ニ記入スヘシ

●ローマ白話講習會ニ關スル件

昭和四年七月十六日
總文第二八六號總務長官依命通達

近時本島ニ於ケル思想團體ノ一部ノ者ニシテローマ白話講習會ナルモノノ開催方認可ヲ願出スルモノ有之ヤニ及聞候處右ハ國語普及ノ根本方針ヲ紊ル虞アルノミナラス諸種ノ問題ノ釀成セラルル懸念モ有之儀ニ付此ノ種ノ講習會ニ對シテハ之ヲ取締リ認可セサル樣留意相成度

右依命通達ス

●本島人内地留學生ニ關スル件

昭和五年三月七日
文學第二三〇號文教局長照會

本島人内地留學生ニ關シテハ大正八年九月十日附民内第三九三六號ニ依リ報告相成居候處同報告書中第十一項ノ本人ノ性質素行ニ就テハ「溫良」「良」「敏捷」或ハ「思想穩健ナラス」「素行不良」等ト極メテ簡單ナル抽象的記事ニテ本人ノ性質素行ヲ知ル上ニ於テ不便不尠候ニ就テハ今後ノ報告ハ出來得ル限リ具體的ニ記載相成度尚出來得ヘクンハ當人ノ出身學校ニ就キ性行一般ノ批評等御書添相成度

右照會ス

●本島人内地留學生名簿樣式ノ件

大正九年九月二十日
總内第六三五九號ノ一總務長官通牒

本島人内地留學生名簿整理ニ關シテハ本年五月十三日附總内第六三三五九號通牒ニ依リ各廳ニ於テ本年八月末日迄ニ處理濟ノ事ト被存候處從來廳ニ備付シタル名簿樣式中ニハ不備ニシテ整理上不十分ナル點モ有之樣被察候ニ付テハ自今貴廳ニ於テハ別紙樣式ヲ參酌シテ可然之ヲ定メラレ整理上正確且迅速ヲ期セラレ候樣致度

右通牒ス

（別紙）
樣式

索引番號

内地留學生名簿　何々州（廳）

氏名	生年月日	種族別	本居地	戸主氏名及續柄	保護者生業及資產	留學前ノ經歷	將來ノ目的	本島出發年月日	本人ノ性質及素行	留學ノ動機

摘要

異動年月日	留學地及入學學校學科名年級等	文書 年月日	文書 番號

●外國居住者ノ學校特別入學ノ件

大正十一年六月
總内第四八三〇號總務長官依命通達

外國居住者ノ子弟ニシテ外國ニ居住シタルニ因リ所定ノ入學資格ヲ有セサル者官立、公立學校ニ入學ヲ志願スルトキハ便宜官立、公立學校外國人入學ニ關スル規規第三條、第五條第二項及第六條乃至第九條ノ規定ヲ準用相成可然候條

右依命通達ス

●外國人及殖民地入學生ノ取扱ニ關スル件

大正十年七月
總内第四四四八號總務長官代理通牒

首題ノ件ニ付文部省ニ於テ各帝國大學總長、官立大學長、直轄諸學校長、公立大學校長及各地方長官ニ對シ別紙ノ如ク通牒シタル趣ニ付御參考ノ爲

右通牒ス

追テ本島人ノ本島ニ於ケル專門學校令ニ依ル專門學校ノ入學ニ關シテハ共學ノ取扱ニ依リ入學ヲ許可セシメ居候處相當資格ヲ有セサル者ニ對シテハ學力檢定試驗ヲ行ハシムル方針ニ有之候條御了知相成度尚支那人ノ臺灣教育令ニ依ル專門學校ノ入學ニ關シテハ其ノ都度總督ノ指

揮ヲ受ケ學力檢定試驗ヲ行ヒ入學ヲ許可致居候右ノ外國人、朝鮮人ノ各專門學校入學ニ關シテハ其ノ都度總督ノ指揮ヲ受ケ決定セシムル方針ニ有之候條御了知相成度此段申添候

（別紙）

外國人及殖民地入學生取扱ニ關スル件通牒

大正十年五月九日
發專第六六號文部次官通牒

從來外國人ニシテ大學及其豫科高等師範學校、女子高等師範學校、專門學校又ハ高等學校ニ入學シ得ヘキ規定上ノ資格（中學校又ハ高等女學校卒業、中學校第四學年修了若クハ之ト同等ノ學力アリト檢定セラレタル者）等ヲ有セサル者此等ノ學校ニ入學セントスル場合ニ於テハ之ハ別科、選科等所謂特科生トシテ入學セシムル例ナルモ外國人ニ關シテハ多少ノ特例ヲ設クル必要アリト考ヘラルルヲ以テ今後ハ各學校ニ於テ其ノ入學資格ニ相當スル試驗（例ヘハ中學校卒業ヲ入學資格トスル學校ニ於テハ中學校卒業程度ノ試驗ヲ行フカ如キ）ヲ行ヒ其ノ成績優良ナル合格者ハ正科生トシテ入學セシメ差支ナキコトニ省議決定シタルニ依リ御承知相成度從來支那政府ノ委託ニ依リ東京高等師範學校、第一高等學校、東京高工業學校、山口高等商業學校及千葉醫學專門學校ニ於テ收容セル留學生ニ就テハ從前ノ通リ取扱フモノト御承知相成度尙朝鮮人及臺灣人ニ關シテハ當分ノ內本文外國人ト同樣ニ取扱フモノトス

●團體輸送申込ノ件

大正九年五月
內學第二三二九號鐵道部照會內務部長移牒

團體旅客輸送ニ對シテハ多クハ特別ニ機關車又ハ客車ノ準備ヲ要スルモノニ有之候故乘車日取ノ變更又ハ取消ハ機關運用上鐵道ノ甚タ苦痛トスル處タルノミナラス殊ニ近頃ノ狀態ニ於テハ一般旅客貨物ノ輸送上ニモ影響ヲ來スコトト相成候義ニ付一般ニ對シテハ變更又ハ取消ノ都度準備料ヲ申受居候得共學校ハ特ニ準備料ヲ免除ノ事ニ可取計候モ夫カ爲漫然申込ヲ爲ス等ノコト有之候テハ甚タ遺憾ノ次第ニ付團體乘車申込ノ際ハ天候其他ヲ見定メノ上成ルヘク變更取消等無之樣各學校ニ對シ意志ノ徹底ヲ期セラレ候樣致度

右及照會候也

●學校兒童汽車乘降其他ニ關スル法意ノ件

明治四十二年十一月
民內第二七三號民政長官代理依命通達

學校兒童ノ汽車乘用ニ對シテハ乘降ノ際竝運轉途中驛員又ハ乘務員ニ於テ危害ナキ樣常ニ取締居候ニ拘ラス或ハ列車ノ全ク停止シ終ラサル前ニ乘降ヲ試ミ或ハ室外ニ立チ欄鎖ニ寄ル等其ノ危險名狀スヘカラサルモノアリ現ニ客月三十七日水返脚南港間進行中前後ノ客車間ニ墜落手足ヲ轢斷セラレ遂ニ死亡ノ不幸ヲ見翌二十八日新竹驛ニ於テ線路ニ墜落負傷スルノ慘禍ヲ被リタル等實ニ寒心ニ堪ヘサルモノアル趣鐵道部長ヨリ注意ノ次第モ有之候條今後汽車通學兒童ハ勿論修學旅行等ニ際シ學校兒童ニシテ汽車乘用セシムル場合ニ於テハ嚴重ニ規則勵行セシムヘキ樣學校竝家庭ニ於テ訓誡セシメラルヘク又近來學校兒童ヲ校外ニ引率スル場合ニ於テ往々不取締ノ事柄相生候哉ニ聞エ候是亦爾後周到ニ監督保護セシムル樣注意相成度依命此段通達候也

●汽車通學生取締ニ關スル件

昭和三年三月八日
文學第二三二號文教局長通牒

交通局鐵道部長ヨリ別紙寫ノ通汽車通學生取締ニ關シ依賴有之候條汽車通學生ニ對シ嚴重傳達方御配慮相成度

（別紙寫）

交鐵運第二八七號
昭和三年三月三日

臺灣總督府鐵道部長

文教局長殿

汽車通學生取締方ノ件

近來中等學校以上ノ汽車通學生（特ニ本島人）ノ一部ニハ風紀頓ニ紊亂ノ傾向有之各停車場ニ於ケル係員ヲ公務執行上支障不尠爲ニ往々列車遲延等ノ事故ヲ生シ一般旅客ニ迷惑ヲ感セシムルコト有之候最近大正天皇御一年祭當日桃園驛ニ於ケル事態ノ如キハ其ノ一例ニシテ全ク學生ニアルマシキ行爲カト被存候由來當部ニ於テハ島內學事促進ノ目的ヲ以テ就學上ノ便ヲ圖リ通學生ニ對シテハ運賃ニ就キ破格ノ減額ヲナシ尙各種ノ便宜ヲ供與シ一方保護者側ノ懸念ナカシムル爲男女學生ノ車室ヲ指定スル等學生輸送ニ對シテハ特ニ留意致居候次第ナルヲ以テ學生諸君ニ於テモ此點特ニ考慮シ規律ヲ守リ公德ヲ重シ學生ノ人格ニ相應シキ態度ヲ持スルヲ至當ガト被存候然ルニ事實ハ之ニ反シ鐵道ニ關スル諸規則ヲ無視シ故意ニ鐵道係員ノ職務ノ遂行ヲ妨ケ同乘客ニ不快ノ感ヲ與フル等ノ事アルハ甚タ遺憾ニ存候就テハ現下ノ狀態ヲ此儘放任スルトキハ他ノ善良ナル學生ニハ勿論一般乘客ニ對シテモ亦將來惡影響ヲ及ホスモノト被存候ニ付自今鐵道營業法違反ノ所爲アリタル者ニ對シテハ假借ナク之ヲ告訴スルコトニ可致候條特ニ左記各項勵行相成樣關係ノ向ヘ御傳達被下度此段御依賴申上候

記

一　列軍運轉中乘降セサルコト

二　無斷優等車ニ乘車セサルコト
- 學生定期乘車券ハ三等ニ限ル申告シテ優等車ニ乘車シタル場合ハ定期乘車券ナキモノトシテ優等級普通運賃無斷乘車ノ場合ハ普通運賃ノ倍額ヲ收受ス

三　乘降台ニ佇立セサルコト

四　男女學生混乘（男子ハ前部女子ハ後部寄ノ客車ヲ指定シアリ）又ハ車內ニ於テ喧騷一般乘客ニ迷惑ヲ及ホササルコト

五　乘降ノ際ハ必ス乘車券ヲ提示スルコト
六　一二等待合所ニ入リ座席ヲ占有シ一般旅客ニ迷惑ヲ及ホササルコト
尚學生定期乘車券ハ通學用トシテ之ヲ發行スルモノニ付日曜、祭日又ハ休暇中ハ原則トシテ使用出來サル規定ナルモ特ニ登校ノ必要アル場合ハ關係學校ヨリ之ヲ所在地驛長ニ申込ミノ上便宜乘降差支ナキ事ニ相成居候處學校側ニ於テ右申込ヲ洩ス爲メ各驛ニ於テ取扱上支障ヲ生スル場合屢有之候ニ付遲クトモ其前日迄ニ申込相成樣併テ御傳達置被下度申添候

●本島諸學校在學本島人學生見學團體カ職員引率ノ下ニ支那國旅行ノ場合旅券携帶省署方ニ關スル件

大正十五年十二月九日
官文第五三〇號總務長官代理依命通達

本島諸學校ニ在學スル本島人學生ニシテ當該學校職員引率ノ下ニ團體見學旅行ノ目的ヲ以テ支那國ニ赴カントスル場合ニハ自今旅券ヲ要セス單ニ所屬學校長ノ作製ニ係ル見學旅行團員氏名表ヲ引率者ニ携帶セシムルヲ以テ足ルコトニ決定候ニ付自今右ニ依リ御取計相成度從テ本件修學旅行費官ニ於テ認可ノ場合取締上ノ關係モ有之ニ付必ス警務部長ニ合議セシメラレ度

右依命通達ス
追テ右團員中ニ支那國人アル時ハ本島人學生同樣取扱ヒ差支無之候

●花蓮港高等女學校長職務規程

昭和二年五月十七日
花蓮港廳訓令第二號

廳務課

關地方費立花蓮港高等女學校

廳地方費立花蓮港高等女學校長職務規程左ノ通相定ム

第一條　學校長ハ廳地方費立花蓮港高等女學校長職務規定
學校長ノ職務ニ關シテハ別段ノ規定アルモノノ外本令ニ依ル

第二條　學校長事故アルトキハ特ニ命シタル者アル場合ノ外上席教諭其ノ職務ヲ代理ス

第三條　學校長ハ所屬職員ノ進退ニ付廳長ニ意見ヲ具申スル事ヲ得

第四條　左ノ事項ハ學校長之ヲ專行シ事後遲滯ナク廳長ニ報告スヘシ
一　職員ノ敎務及事務ノ擔任ヲ定ムルコト
二　諸規則ノ範圍內ニ於テ細則ヲ設クルコト
三　敎授要目ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルコト
四　生徒募集ニ關スルコト
五　修學旅行ヲ行フコト

第五條　學校長左ノ事項ヲ處理シタルトキハ事由ヲ具シ遲滯ナク廳長ニ報告スヘシ
一　每日ノ授業始終ノ時限ヲ定メタルトキ

二　學科目ノ敎授時數ヲ減シ及其ノ配當ヲ定メタルトキ
三　休業中敎授ヲナシタルトキ
四　生徒ニ退學ヲ命シタルトキ
五　非常變災其ノ他急迫ニ際シ廳長ノ認可ヲ受クルノ暇ナクシテ休業ヲ行ヒタルトキ

第六條　學校長ハ卒業證書授與式、學藝會、運動會等ヲ擧行シ又ハ父兄會、同窓會其ノ他ノ集會ヲ催ストキハ豫メ廳長ニ報告スヘシ

第七條　學校長ハ每月處理シタル校務ノ要領ヲ翌月五日迄ニ廳長ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●學校職員私事旅行ニ關スル件

昭和六年十二月五日
花敎第一二二六號庶務課長通牒
各公私立學校長、各幼稚園長宛

休日ニ於ケル職員ノ管內三日以內ノ私事旅行ニ關シテハ昭和三年四月十七日附花敎第三八六號ヲ以テ廳議決定事項通牒致置候處之カ取扱ノ實際區々ニ渉リ屆候條爾今左記ニ依リ手續可相成
右通牒ス

記

補習學校、小公學校、幼稚園長委任管內私事旅行取扱手續

一　休業日ニ於ケル三日以內ノ管內私事旅行ノ許可ヲ學校長、幼稚園長ニ委任ス
二　各學校、幼稚園ニ於テハ別紙樣式ノ私事旅行簿ヲ備付クルコト
三　私事旅行セントスル者ハ豫メ私事旅行簿ニ依リ學校長又ハ幼稚園長ノ認可ヲ受クルコト
四　學校長、幼稚園長ハ每月職員勤怠表摘要欄ニ私事旅行地名、私事旅行日數ヲ記載提出スルコト

校長認印	旅行地	出發年月日	歸校年月日	旅行日數	官職氏名	印	摘要
		昭和　年　月　日	昭和　年　月　日				
		昭和　年　月　日	昭和　年　月　日				
		昭和　年　月　日	昭和　年　月　日				

私事旅行簿　一學校

●本島人內地留學者調查ニ關スル件

昭和六年九月三日
花敎第八五二號庶務課長依命通達
各學校長宛

貴校卒業又ハ在學シタル本島人（番人ヲ含ム）ニシテ內地ニ留學シタル場合ハ爾今速ニ別紙第二號樣式ヲ以テ報告相成度尙別紙第一號樣式ノ內地留學生名簿ヲ備付之カ異動ハ間斷ナク整理可相成
右依命通達ス

第一號樣式

氏名	生年月日	種族別	本居地	戸主氏名及續柄	保護者生業及資産	留學前ノ經歷	將來ノ目的	本島出發年月日	本人ノ性質及素行	索引番號	摘要
	年月日							年月日			

内地留學生名簿　一　花蓮港廳

異動年月日	留學地及入學學校學科名年級等	文書	異動年月日	留學地及入學學校學科名年級等	文書	異動年月日	留學地及入學學校學科名年級等	文書
	年月日	番號		年月日	番號		年月日	番號

昭和　年　月　日

殿

本島人内地留學報告

當　管内本島人左記ノ通内地（留學致候條

右報告ス

本人氏名		
生年月日	年月日	一　花蓮港廳
種族別		
本居地		
戸主氏名及續柄		
保護者生業及資産		
入學前ノ經歷		
留學地、入學學校、學科名		
將來ノ目的		
本島出發年月日	年月日	
本人ノ性質素行		
留學ノ動機		

昭和　年　月　日

殿

本島人内地留學者異動報告

當　管内本島人内地留學者左記ノ通異動有之候條

右報告ス

本人氏名		
生年月日	年月日	一　花蓮港廳
種族別		
本居地		
戸主氏名及續柄		
保護者生業及資産		
入學前ノ經歷		
留學地、入學學校、學科名		
本島出發年月日	年月日	
本人ノ性質素行		
留學ノ動機		
異動年月日	昭和　年　月　日	
異動事項竝理由		

●臺灣公立特殊教育施設規則

公布ニ關スル件

昭和六年十二月二十九日
總文第四五〇號總務長官依命通牒

昭和六年十二月二十九日府令第七三號ヲ以テ新ニ臺灣ニ於ケル公立ノ特殊教育施設ニ關スル規則公布相成候處從來臺灣教育令第一條竝ニ第二十二條ニ依リ州廳地方費市街庄及市街庄組合若ハ街庄組合ニ於テ特殊ノ教育ヲ爲ス學校其ノ他ノ教育施設ヲ設立セントスル場合ニ於テ臺灣公立幼稚園規則臺灣公立盲啞學校規則公立私立圖書館規則等ノ府令アルモ其ノ他ノ公立特殊教育施設ニ關シテハ臺灣教育令ニ基ク何等ノ規定ナカリシカ近年本島社會教育施設ノ進展ニ伴ヒ之カ助長奬勵上準據スヘキ規則ノ發布ヲ必要トスルニ至リタルヲ以テ玆ニ本規則ヲ公布セラレタル次第ニ有之候條貴廳ニ於テハ今後益々地方ニ適應セル此等施設ノ統制アル普及發達ニ留意シ以テ學校教育ト相俟ッテ本島教育ノ完璧ニ努メラレ度尚之カ取扱ニ付テハ當分ノ内各種教育施設ニ關シ地方ノ事情ニ適應スル標準ヲ定メテ御處理相成度

右依命通牒ス

追テ右標準制定ノ際ノ其ノ都度御報告相成度

第二節　社會教育

●社會教育的施設調ニ關スル件

大正十五年九月九日
花觀第二五五號庶務課長依命通達

標記ノ件今社會教育的施設ニ對シ嚴密ニ調査ノ上別紙樣式ニ依リ毎年三月末日現在調ヲ四月末日迄ニ提出相成度
右依命通達ス

順位第	名稱	所在地	大正十年月末日現在調
	代表者	區廳	街庄 番地

位	組織	沿革	維持ノ方法

資産						
計	其ノ他	建物	土地	有價證券	預金	円

經費				大正　年度決算				大正　年度豫算			
計	其ノ他	基金ヨリ生スル收入	寄附金	補助金	獎勵金助成金	收入	計	事務費	事業費	基金繰入	支出
					円			円			
計	其ノ他	基金ヨリ生スル收入	寄附金	補助金	獎勵金助成金	收入	計	事務費	事業費	基金繰入	支出
					円			円			

事業ノ概要

註(一)名稱ノ左側ニ代表者氏名ヲ記スルコト(二)沿革ハ之ヲ簡明ニ記シ設立及事業開始ノ年月日ハ必ス之ヲ明記スルコト(三)組織欄ニハ區、街、庄營又ハ社團、財團法人若ハ何々會員何名又ハ何々ト記スルコト(四)資産中有價證券ハ券面額又ハ拂込額ヲ、土地、建物ハ見積價額ヲ揭記スルコト(五)政府ノ會計年度ニ據リ難キモノハ其ノ會計年度ヲ明記スルコト(六)獎勵金、助成金及補助金等ハ其ノ出所ヲ沿革欄ノ餘白ニ記述スルコト例ヘハ何圓、年月日御下賜金何圓何會ヨリ助成金何圓何々ヨリ補助等ト記スルカ如シ(七)事業ノ概要ハ可成數字ヲ以テ具體的ニ之ヲ記述シ特ニ前年度ノ實績及現況ハ必ス明記スルコト(八)本表ハ各事業別ニ之ヲ作製スルコト例ヘハ一團體ニシテ名稱ヲ異ニシタル二個ノ公共浴場ヲ經營シ又ハ公共浴場ト救療事業トヲ經營スル場合ハ各事業毎ニ之ヲ作製スルコト

●青年團設置標準ニ關スル件

昭和五年九月十七日
總文第三四八號總務長官依命通牒

今般本島青年團設置ニ關スル訓令發布相成候處右ハ近年青年團體設置ノ趨勢ニ鑑ミ其指導精神ト組織ノ基準トヲ明ニシ益々青年教養ノ充實ヲ期セントスルノ主旨ニ有之必スシモ直ニ全島一齊ニ其ノ設置ヲ慫慂スルノ意ニハ無之候ニ付テハ未タ其ノ設置ヲ見サル地方ニアリテハ徒ニ其設置ヲ急クコトナク寧ロ緊實ナル團體ノ發生ヲ促進スヘキ機運ノ釀成ニ努力セラレ度既設ノ團體ニ在リテハ從來ノ沿革ト地方ノ事情トヲ考慮シ漸次本標準ニ準據セシメ指導ノ實際ニ當リテハ深ク青年ノ心理ト鄉土ノ特色トヲ考察シヨク之ニ適應スル方途ヲ講シテ鄉土ニ於ケル堅實有爲ナル青年ノ育成ニ留意シ以テ本訓令發布ノ精神ヲ體現センコトヲ期セラレ度右依命通牒ス

●青年團設置準則

昭和五年十月三十日
花蓮港廳訓令第三〇號
最終改正　支廳　街庄區役場　小公學校

方今本島內外ノ情勢ヲ察スルニ將來國家社會ヲ雙肩ニ擔ヒテ起ツヘキ青年ヲ指導誘掖シ其ノ標ヲ所ヲ知ラシメ善良健全ナル國民タル教養ヲナスノ緊要切ナルモノアリ

實ニ青年ハ國家活力ノ源泉タリ之カ修養ノ如何ハ國運進展ト地方開發ニ影響スル所甚大ナリ

今ヤ本廳ニ於テモ青年團設置ノ機運漸ク熟シ廳下各地方ニ亘リテ其ノ組織ヲ見タリ此レ青年子女ノ福祉タルノミナラス國家社會ノ爲寔ニ欣幸トスル所ナリ

夫レ青年團ハ青年ノ修養機關ニシテ青年相互共勵ノ力ニ依リテ智德ノ修養ト體育ノ向上ヲ圖ルヲ以テ目的トス然ルニ團體ニシテ一旦其ノ標ヲ所ヲ誤リ施設宜シキヲ失ハンカ其ノ弊ノ及フ所測リ知ルヘカラサルナリ本廳ハ此ニ鑑ミ曩ニ發セラレタル總督府訓令ニ準據シ青年團設置準則ヲ制定シ其ノ標ヲ所ヲ示ス、局ニ當ル者ハ宜シク青年ノ心理ト鄉土ノ特色トヲ考察シ之ニ適應スル方途ヲ講シ時運ニ卽セル發達ヲ遂ケ以テ本訓令發布ノ精神ヲ體現センコトヲ期スヘシ

青年團體設置準則

一　青年團體設置要項

一　本　旨

青年團ハ青年ノ修養團體ナレハ青年ノ相互共勵ニ依リ心身ヲ修練シ生活ノ充實ヲ圖リ忠良健全ナル國民タルノ資質ヲ育成セシムルヲ以テ本旨トス

二　指導要項

一　國民精神ヲ涵養シ品性ノ向上ニ努ムルコト

一　公共心ヲ養ヒ公民タルノ性格ヲ陶冶シ進ンテ公事ニ奉仕スルノ風ヲ緻ナラシムルコト

一　自主自立ノ精神ヲ培養シ個性ノ進展ヲ圖リ創造ノ風ヲ劃致スルコト

一　實際的智能ノ涵養ニ努メ體育ヲ重ンシ健康ヲ增進シ以テ質實剛健ノ風ヲ奬ムルコト

一　醇厚中正ノ思想ヲ涵養シ規律ヲ重ンシ節制ヲ尊フ氣風ヲ培養スルコト

三　設置區域

青年團體ノ設置區域ハ小公學校通學區域ニ依ルコト

四　組　織

(1)　團　員

青年團員ハ其ノ設置區域內ニ於ケル初等教育修了者若ハ之ニ準スヘキ者ヲ以テ組織シ年齡ハ滿二十歲迄トスルモ土地ノ狀況ニ依リ當分之ニ依ラス最高年齡滿二十五歲迄トスルコトヲ得但シ在學中ノ者ハ入團セシメサルヲ本則トス

(2)　特別團員

學校及街庄區役場職員竝年齡滿期ニヨリ退團シタル者ニシテ在團中功勞アリタル者ヲ特別團員ト爲スコトヲ得

(3)　顧　問

學識德望アル者ニシテ青年團ノ健全ナル發達ヲ助成スルニ適當ナルモノヲ顧問トナスコトヲ得

(4)　役　員

役員ハ團員及特別團員中ヨリ之ヲ選定ス

五　指導者

青年團體ノ指導ハ小公學校長主トシテ之ニ當リ街庄區長學校及街庄區役場職員其ノ他適當ト認ムル者ヲシテ協力指導ノ任ニ當ラシム

花蓮港廳何(女子)青年團團則

綱　領

一　我等ハ常ニ忠良ナル日本人タランカタメ人格ノ完成ヲ期ス

二　我等ハ公共的精神ヲ尊ヒ進ンテ公事ニ奉仕センコトヲ期ス

三　我等ハ自ラ伸ヒンコトヲ圖リ自主自立ノ人タルヲ期ス

四　我等ハ實際的智能ヲ磨キ體力ヲ練リ質實剛健ノ人タルヲ期ス

五　我等ハ常ニ穩健ナル思想ト節制アル行動トヲ尊フ

第一章　總　則

第一條　本團員ハ綱領ノ趣旨ヲ體シ和親共勵シテ心身ノ練磨ヲ爲シ賢美有爲ノ青年タルコトヲ期スルヲ以テ目的トス

第二條　本團ハ何(學校名)(女子)青年團ト稱シ事務所ヲ何學校內ニ置ク

第三條　本團ハ第一條ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　講習會、講演會、夜學會

二　圖書、雜誌、新聞ノ共同閱覽又ハ文庫ノ設置

三　見學旅行、共同作業、共同貯金

四　運動競技、登山、野營、行軍

五　青年ニ適切ナル娛樂

六　社會奉仕

七　風紀ノ改善民風ノ作興

八　其ノ他本團ノ目的ヲ達スルニ適當ナル事業

第二章　團員及組織編成

第四條　本團ハ何學校通學區域內ニ居住スル滿何歲未滿ノ初等教育終了

者又ハ之ニ準ズヘキ者ヲ以テ組織ス但シ現ニ上級學校ニ在學中ノ者ハ團員タルコトヲ得ス

第五條　本團員約十名ヨリ成ル一團ヲ班トシ數班ヲ以テ一分團ヲ編制ス

第六條　本團設置區域内ニ在ル學校及街庄區役場職員並ニ年齢滿期ニヨリ退團シタル者ニシテ在團中功勞アリタル者ハ幹事會ノ決議ニ依リ特別團員ニ推薦ス

第七條　團員ニシテ本團ノ目的ニ反シ又ハ青年ノ體面ヲ汚ス行爲アリタルトキハ幹事會ノ決議ヲ經テ團長之ヲ處分ス

第三章　役員

第八條　本團ニ左ノ役員ヲ置ク

團長　一名
副團長　何名（二名以内）
幹事　何名（内常任幹事何名トス）
顧問　若干名
分團ニ左ノ役員ヲ置ク
分團長　何名
班長　何名

第九條　役員ノ選任及任期左ノ如シ

團長ハ小公學校長又ハ青年ノ信望厚ク且青年團ノ實際指導者トシテノ識見ト實行力トヲ有スル者トシ、副團長ハ團員中ヨリ適當ナル者ニツキ幹事會ニ於テ之ヲ推擧ス幹事ハ分團長並特別團員ヲ以テ之ニ充テ常任幹事ハ團長之ヲ委嘱ス

分團長ハ其ノ分團員ノ互選ニ依リ班長ハ其ノ班員ノ互選ニ依ル

各役員ノ任期ハ二箇年トス但シ再任ヲ妨ケス

補缺員ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

顧問ハ學識德望アル者ニシテ本團ノ健全ナル發達ヲ助長スルニ適當ナルモノニ團長之ヲ委嘱ス

第十條　役員ノ職務左ノ如シ

團長ハ團務ヲ總理シ會議ノ議長トナル

副團長ハ團長ヲ補佐シ團長事故アル時ハ其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ團長ノ指揮ヲ受ケ本團事業ノ計畫執行並庶務、會計ニ從事ス

分團長ハ團長ノ指揮ヲ承ケ分團ノ事務ヲ處理ス

班長ハ分團長ノ指揮ヲ承ケ班務ヲ處理ス

顧問ハ團務ニ關シ意見ヲ開陳シ協力指導ノ任ニ當ルモノトス

第四章　會議

第十一條　本團ノ會議ヲ總會、幹事會及分團會ノ三トス

第十二條　總會ハ毎年一回之ヲ開キ左ノ事項ヲ行フ但シ團長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時開催スルコトヲ得

一　會計及團務報告
二　講演、講話及意見ノ發表
三　優良分團、優良班並善行者ノ表彰
四　運動、娯樂
五　團長ヨリ附議シタル事項ノ討議
六　其ノ他團長ニ於テ必要ト認ムル事項

第十三條　幹事會ハ團長、副團長並幹事ヲ以テ組織シ毎年一回以上團長之ヲ召集シ左ノ事項ヲ附議ス

一　各分團ノ編制並統一聯絡ニ關スル事項
二　本團ノ事業計畫執行方法ニ關スル事項
三　豫算編成並決算ノ審査ニ關スル事項
四　財產ノ造成、管理及處分ニ關スル事項
五　分團、班並團員ノ表彰ニ關スル事項
六　其ノ他團長ニ於テ必要ト認ムル事項

第十四條　分團會ハ分團ノ役員ヲ以テ組織シ每月一回之ヲ開催シ研究、修養其ノ他ノ事項ヲ協議ス

第五章　會計及帳簿

第十五條　本團ノ經費ハ團員ノ勤勞收入ヲ主トシ會費、補助金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　本團ノ財產ハ團長之ヲ管理ス

第十七條　本團ノ會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十八條　本團ニ備付クヘキ帳簿左ノ如シ

一　例規綴
二　役員團名簿
三　會議關係綴
四　經費出納簿
五　財產臺帳
六　往復文書綴
七　集會日誌
八　其ノ他必要ナル帳簿

第十九條　本團則實施ノ爲必要ナル細則ハ團長之ヲ定ム

●青年團設置準則ニ關スル件

昭和五年十月三十一日
花教第九八八號庶務課長依命通牒
各支廳長、各街庄區長宛

昭和五年十月二十日花蓮港廳訓令第三十號ヲ以テ青年團設置準則發布相成候處右ハ近年青年團體設置ノ趨勢ニ鑑ミ其指導精神ト組織ノ基準トヲ明カニシ益々廳下青年教養ノ充實ヲ期セントスルノ主旨ニ有之候間ニ當ル者宜シク本訓令ノ精神ヲ體シ以テ地方青年ノ指導ニ任シ未タ設置ヲ見サル地方ニ在リテハ堅實ナル團體ノ發生ヲ促進スヘキ機運ノ醸成ニ努メ既設團體ニ在リテハ本訓練ニ基キ組織編制ノ統一ヲ圖ラレ度尚指導ノ實際ニ當リテハ從來ノ沿革、地方ノ事情、族性等ヲ考察シ之ニ適スル方途ヲ講シ鄕土ニ於ケル賢美有爲ナル青年ノ育成ニ留意シ本訓令發布ノ精神ヲ發揚センコトヲ期セラレ度

右依命通牒ス

●善行篤行者表彰ノ件

大正十年六月
總內第五三八九號總務長官通牒

善行者表彰ニ關シテハ大正十年度州市街庄豫算ニ於テ夫々其ノ經費ヲ計上セラレ居候條管內善行者ヲ取調之ヲ表彰シテ社會風教ヲ振興スヘク豫テ御注意アルヘキハ勿論ナリト雖モ右ハ單ニ地方行政ノ重要務タルノミナラス實ニ皇化ヲ翌敷スル所以ニ外ナラス候條精々調査ヲ遂ケラレ表彰

スヘキモノハ其ノ手續ヲナシ假令表彰ノ手續ニ及サル程度ニ及サル程度ノモノト雖モ苟モ鄉黨ノ模範トシテ推奨スルニ足レリト認ムルノ類ハ相當ノ方法ヲ以テ其ノ行績ヲ一般公衆ニ周知セシムル樣取計ヒ以テ善良ナル感化ヲ普及セシムル樣致度

右通牒ス

●青年記念日ニ關スル件

昭和五年十二月二十六日
總文第四七〇號總務長官代理依命通牒

全國青年代表御親閱竝令旨奉戴十週年記念ノ秋ニ當リ之ヲ好期トシ青年教育ノ進展擴張ヲ期スル目的ヲ以テ文部省ニ於テハ青年ニ對スル令旨下賜記念日タル十一月二十二日ヲ青年記念日ト決定相成候ニ就テハ本島ニ於テモ同日ヲ青年記念日ト相定メ候條御了承當日ハ男女青年團體及實業補習學校等ヲシテ土地ノ情況ニ依リ適宜記念スヘキ施設ヲ行ハシメ尚記念式ヲ行フ場合ニハ右趣旨ニ依リ左記ヲ參酌シテ適當ニ擧行セシメラルル樣致度

右依命通牒ス

記

一　君カ代合唱
一　令旨奉讀
一　令旨奉答ノ歌合唱

一　訓話
備考
遙拜國旗掲揚等ヲ行フ場合ハ適宜右次第中ニ加フルコト

●青年訓練所設立ニ關スル件

昭和五年十二月十七日
花教第一一七八號文教局長宛照會

青年訓練所ノ設立ニ關シテハ嚮ニ御指示有之候通私立學校規則第三條ノ「前條ニ規定セル學校ニ類スル學校」トシテ設立認可ノ手續ヲナスヘキモノナルモ右ノ場合學校ノ種別ハ實業補習學校ニ類スル學校ト解シ之カ設立及廢止ニ關シテハ同則七條ニ依リ廳長限リ認可シ得ヘキモノナリヤ學校ノ種別竝認可官廳ニツキ疑義ヲ生シ之カ處理上支障有之候條何分ノ御回示ニ預リ度

右照會ヲ

昭和六年十二月二十九日
文社第六二〇號文教局長回答

昭和五年十二月十七日附首題ノ件御照會相成候處右ハ當府ノ方針別紙ノ通決定相成候條之ニ基キ御取扱相成度右經伺ノ上回答ス追而認可前當府ニ御內議相成度申添候

（別紙）

記

一　青年訓練所ハ市制施行地及移民村ニ於ケル內地人青年ニ對シ之ヲ實施スルコトヲ得

二　之カ實施ニ關シテハ別段ノ規則ノ制定ヲ爲サスシテ青年訓練所令及青年訓練所規定ニ準シ設立シ兵役法第十一條同施行令第三十一條陸軍文部省告示第一號ニ依リ臺灣總督ニ對シ認定申請ヲナシ臺灣總督ニ於テ適當ナリト思料シタル場合ハ其ノ課程ヲ青年訓練所ノ課程ト同等以上ト認定スルモノトス

三　青年訓練所設立主體ハ市又ハ廳地方費トス但シ特別ノ事情アル場合ハ私設團體ニ於テ之ヲ設立スルコトヲ得

四　私立青年訓練所ヲ設立セムトスルトキハ私立學校規則第七條中實業補習學校ニ準シテ州知事又ハ廳長ニ於テ設立ヲ認可スルコト

五　青年訓練所ノ經費ニ對シテハ可成國庫州市等ヨリ相當ノ補助ヲナスコトトシ國庫補助ハ青年訓練所經費ノ凡ソ二分ノ一相等額ヲ標準トス

●神社内ニ於ケル脱帽ニ關スル件

昭和四年十一月二十日
花教第九一〇號庶務課長依命通達
各關係、各市町村長、各出張所長、各學校長、各神社宛

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通其ノ筋ヨリ通達有之當廳下各神社ニ於ケル脱帽ノ場所左記ノ通決定候條貴　内周知方可然御取扱相成度
右依命通達ス

記

縣社花蓮港神社　一ノ鳥居以内必ス脱帽ノコト
但シ一ノ鳥居トハ拝殿前ノ鳥居ヲ指ス
吉野神社　鳥居以内必ス脱帽ノコト
豐田神社　同
林田神社　同
佐久間神社　同
以上ノ外修祓ノ際ハ脱帽磬折ノコト
（別紙通達略）

●建功神社例祭當日ニ關スル件

昭和四年四月八日
總文第一七五號總務長官代理通牒

建功神社ハ本島改隷當時ノ殉死殉職者ヲ始メ本島ニ在リテ身命ヲ國家公共ニ致シタル者ノ英靈ヲ合祀スルモノナルヲ以テ其ノ祭祀ニ方リテハ全島民ヲ擧ケテ之ヲ敬虔追慕ノ意ヲ表スルコトニ致度候條同神社ノ例祭當日ニ於テハ左記ニ據リ御處置相成度
右依命通牒ス

記

一　例祭當日（四月三十日）ハ祝祭日ニ於ケルト同樣國旗ヲ掲揚スルコト
二　例祭當日ハ同神社所在地ノ官公署學校勤務者ハ事務ニ支障ナキ限リ隨意參拝ヲ爲シ其ノ他ノ地方ニ在リテハ祭典時刻ニ於テ遙拝式ヲ擧行シ適宜敬虔追慕ノ意ヲ表スルコト
三　學生、生徒、兒童ハ例祭當日ニハ參拝若クハ遙拝シ敬虔追慕ノ意ヲ表スルコト

●御用始ニ當リ神社ノ狀況通報ノ件

昭和三年二月三日
文社第五九號文教局長代理通牒

曩ニ電報照會ノ如ク本年ヨリ御用始ニ當リ先ツ神社ノ狀況ヲ總督ニ報告スルコトト相成候ニ就テハ貴管内「縣社以下神社」ノ年内並年頭ニ於ケル諸祭儀執行支障ノ有無等ヲ調査ノ上毎年一月三日元始祭執行後直ニ電報又ハ電話ヲ以テ通報相成樣御取計相成度

●臨時祭申報ノ件

大正十三年十一月二十八日
花教第二〇八七號花蓮港廳照會

貴神社ニ於テ臨時祭ヲ行ハントスルトキハ大正十一年五月十七日臺灣總督府訓令第百四號官幣大社臺灣神社及縣社以下神社神職奉務規則第四條ノ通知ヲ爲スノ外本廳ヘ申報相成度
右照會ス

●神社及社ノ取扱ニ關スル件

大正十三年五月五日
警理第六五四號ノ一警務局長通牒

首題ニ關シ大正十三年四月二十八日附總内第一一三二號總務長官依命通達ノ第八號ノ場合ハ當局ヘモ同樣臺帳副本一部送付スルコトニ取扱相成度
右通牒ス

追テ該通達第十二號ニ就テハ當局ヘモ同樣臺帳副本一部送付相成度候也

●神職會議ニ列席シタル者ノ旅費支給方ノ件

大正十四年一月十二日
内文第九三號内務局長通牒

曩ニ本府主催ノ神職會議ニ列席シタル者ノ旅費支給方ニ關シテハ別段ノ定アル場合ノ外可成大正九年府令第四十四號臺灣總督府職員旅費規則第一號表判任官六級俸以下ノ金額ヲ支給ノコトニ御取計相成度經伺ノ上
右通牒ス

●社殿其ノ他ノ工作物ノ區分ニ關スル件

昭和六年四月二十二日
總文第一四六號總務長官依命通牒

神社ノ社殿及ヒ其ノ他ノ工作物ノ區分ニ關シテハ左記ノ通心得ラルヘク
右依命通達ス

記

一　社殿
本殿、拜殿、中門（祝詞舍）祓殿、神樂殿、渡殿、神饌所、社務所、手水舍等
二　其他ノ工作物
祭器庫、井戸屋形、玉垣、鳥居、橋梁、燈籠、高麗犬、敷石、住宅納屋、廁等

●社寺建立ニ關スル件

明治三十四年三月
民縣第三八八號民政長官依命通達

社寺ノ建立ヲ出願スル向近來少カラス候處往々其ノ規模ノ狹少ナルモノ又ハ維持ノ方法ノ確實ナラサルモノ有之候條自今出願者アルトキハ別紙ノ標準ニ依リ調査ヲ遂ケ進達可相成依命此段及通達候也

社寺建立出願調査標準

一　建造物ハ左ノ坪數以上タルヲ要ス
神社本殿　壹坪半
同　拜殿　拾貳坪
社務所又ハ神職宿舍　拾貳坪
寺院本堂　貳拾貳坪
同　庫裡　拾參坪
二　境内地ハ建物總坪數ノ三倍以上タルヲ要ス
三　土地ハ狀況ニ依リ右二項ノ標準ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シテ進達スルヲ要ス
四　修繕其他雜費ニ充ツル爲毎年相當ノ收入見込アルヲ要ス如何ナル場合ト雖モ一箇年收入四百圓ヲ下ルヲ得ス
五　維持ノ費用ニ充ツル爲メ相當ノ基本財産ヲ備ヘル爲メ又ハ基本財産ノ備ナキトキハ毎年一定ノ積立金ヲ基本ニ充ツルヲ要ス
六　基本財産アルモノハ各其名稱多寡及之ヨリ生スル一箇年ノ收入額ヲ記載シタル略表ヲ願書ニ添付スルヲ要ス
七　願書署名中出願本人タルヘキモノハ願人ト肩書スルヲ要ス
八　願書署名中現住所本籍ト異ナルモノハ其ノ本籍地名モ併記スルヲ要ス

●神佛各教宗派別教師等級名稱

大正十四年三月十四日
内文第一〇二四號内務局長通牒

今般神佛各教宗派別教師等級名稱別表ノ通作製送付候條執務上ノ參考ニ供セラレ度

○淨土宗ニ於テハ一級乃至八級ヲ教師トシ九級以下ヲ教師補ト稱ス
○臨濟宗妙心寺派ニアリテハ九級以上ヲ教師分限トシ十級以下ヲ教師補分限トシ又同向嶽寺派ニ於テハ一級乃至六級ヲ師位分限トシ七級以下ヲ學徒分限トス
○眞宗本願寺派、同佛光寺派、同木邊派、同出雲路派、同誠照寺派、同三門徒派ニ於テハ教師ニ等級ヲ定メス又眞宗大谷派ニ於テハ釋律師以上ヲ僧綱トシ法師位以下ヲ僧位トス
○日蓮宗ニ於テハ准講師以上ヲ教師トシ一級試補以下ヲ教師試補トス
○天台宗ニハ安樂律院部、空也堂極樂院部、修驗道、地神盲僧本寺部、地神盲僧支晴部及ヒ一般盲僧アリ又眞言宗醍醐派ニハ修驗道アリテ各々其ノ教師等級名稱ノ定メアレトモ之ヲ略ス

神道各派教師等級名稱

名稱／等級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級	十六級	十七級
神道		大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	大講義	權大講義	中講義	權中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導		
神道黒住數		代講	代講補	講師	講師補	講正	講正補	講義									
神道修成派	大司徒少司（管長）徒		大教正	中教正	少教正	大宣教	中宣教	少宣教	大講義	中講義	少講義	權少講義	試補				
神道大社教	管長	副管長	大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	大講義	中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導	試補		
神道扶桑教	大教主		大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	大講義	中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導	等外教導職試補		
神道大成教			大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	准教正	大講義	中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導		
神道實行教			大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	准教正	大講義	中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導		
神道神習教			大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	大講義	中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導			
神道御嶽教			大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	准教正	大講義	中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導		
神道禊教			大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	大講義	中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導			
神理教	大教主 新大教主		大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	准教正	大主禮	少主禮	大講義	權大講義	中講義	權中講義	少講義	權少講義
金光教			大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	大講義	中講義	權中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導	教導職試補	
天理教			大教正	權大教正	中教正	權中教正	少教正	權少教正	大講義	中講義	權中講義	少講義	權少講義	訓導	權訓導		

名稱／等級	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	十五級	十六級	十七級	十八級
天台宗	大僧正	權大僧正	僧正	權僧正	大僧都	權大僧都	僧都	少僧都	權少僧都	大律師	中律師	律師	權律師	教師試補				
同　寺門派	大僧正	權大僧正	僧正	權僧正	大僧都	權大僧都	少僧都	權少僧都	大律師	中律師	律師	權律師						
同　眞盛派	大僧正	權大僧正	僧正	權僧正	大僧都	權大僧都	少僧都	權少僧都	律師	權律師								
眞言宗各派（高野派外七派）	大僧正	權大僧正	中僧正	權中僧正	少僧正	權少僧都	律師											
新義眞言宗智山派	大僧正	權大僧正	中僧正	權中僧正	少僧正	權少僧都	律師											
同　豐山派	大僧正	權大僧正	中僧正	權中僧正	少僧正	權少僧都	律師											
眞言律宗（僧階）	大僧正	權大僧正	少僧正	大僧都	中僧都	少僧都	律師											
		權中僧正	權少僧正	權大僧都	權中僧都	權少僧都	權律師											
律宗	大僧正	權大僧正	中僧正	權中僧正	少僧正	權少僧正	大僧都	權大僧都	中僧都	權中僧都	少僧都	權少僧都	擬講	准擬講	講補			
淨土宗	大僧正	正僧正	權僧正	大僧都	權大僧都	中僧都	權少僧都	律師	「權律師讃衆衆徒」									
同　西山禪林寺派	大僧正	權大僧正	中僧正	權中僧正	少僧正	權少僧都	大僧都	權大僧都	中僧都	權中僧都	少僧都	權少僧都	擬講	准擬講	講補			
同　西山光明寺派	大僧正	權大僧正	中僧正	權中僧正	少僧正	權少僧正	大僧都	權大僧都	中僧都	權中僧都	少僧都	權少僧都	擬講	准擬講	講補			
同西山深草派	大僧正	權大僧正	中僧正	權中僧正	少僧正	權少僧正	大僧都	權大僧都	中僧都	權中僧都	少僧都	權少僧都	擬講	准擬講	講補			
臨濟宗天龍寺派	大教師	一等教師	二等教師	三等教師	四等教師	五等教師	六等教師	七等教師	教師補									

同相國寺派	同建仁寺派	同南禪寺派	同妙心寺派(臨時)	同建長寺派	同東福寺派	同大德寺派	同圓覺寺派	同永源寺派	同方廣寺派	同佛通寺派	同國泰寺派	同向嶽寺派(臨宗)	曹洞宗	黃檗宗	宗眞本願寺派	同大谷派
大教師			特住			大教師	正大教		大教師							
一等教師	大教師	大教師	歷住	大教正	大導師	一等教師	一等教師	大教師	一等教師	大導師	大教師	再住	教師	大教正		大僧正
二等教師	一等教師	一等教師	再住	一等教師	一等教師	二等教師	二等教師	一等教師	二等教師	一等教師	一等教師	前住	教師	中教正		權大僧正
三等教師	二等教師	二等教師	前住	二等教師	二等教師	三等教師	三等教師	二等教師	三等教師	二等教師	二等教師	東堂	教師	少教正		僧正
四等教師	三等教師	三等教師	住持	三等教師	三等教師	四等教師	四等教師	三等教師	四等教師	三等教師	三等教師	西堂	教師	大講義		權僧正
五等教師	四等教師	四等教師	準住	四等教師	四等教師	五等教師	五等教師	四等教師	五等教師	四等教師	四等教師	長老	准教師	中講義		大僧都
六等教師	五等教師	五等教師	東堂	五等教師	五等教師	六等教師	六等教師	五等教師	六等教師	五等教師	五等教師	座元	准教師	少講義		權大僧都
七等教師	六等教師	六等教師	西堂	六等教師	六等教師	七等教師	八等教師補	六等教師	七等教師	六等教師	六等教師	「首座	準教師	訓導		僧都
教師補	七等教師	七等教師	塔主	教師補	七等教師	九等教師補		七等教師	教師補	七等教師	七等教師	藏主		准訓導		權僧都
	教師補	教師補	前堂		教師補			教師補		教師補	教師補	侍者			律師	大講師
			「首座									沙彌」			權律師	講師
			藏主												法師位	講師
			知客												滿位	入位
			沙彌」													

同高田派	同興正派(臨時)	同佛光寺派	同不遲派	同出雲路派	同山元派	同誠照寺派	同三門徒派	日蓮宗	顯門法華宗	本門宗	本門法華宗	法華宗	本妙法華宗	日蓮正宗	日蓮宗不受不施派	日蓮宗不受不施派	日蓮宗不受不施派
															上座部		
															一等	二等	三等
大僧正	大僧正							大僧正	大僧正	大僧正	大僧正	大僧正	大僧正	大僧正	大僧正	大僧正	僧正
權大僧正	權大僧正							權大僧正	權大僧正	權大僧正	權大僧正	權大僧正	僧正	權大僧正	權大僧正	權大僧正	權大僧正
中僧正	中僧正							僧正	僧正	僧正	僧正	僧正	權僧正	權僧正	僧正	僧正	僧正
權僧正中	權僧正中							權僧正	權僧正	權僧正	權僧正	權僧正	權僧正	權僧正	大僧都	大僧都	權僧都
少僧正	少僧正							大僧都	大僧都	大僧都	大僧都	大僧都	大僧都	大僧都	僧都	僧都	大僧都
權僧正少	權僧正少							僧都	權僧都	僧都	權僧都	僧都	權僧都	僧都	權僧都	權僧都	僧都
大僧都	大僧都							權僧都	大學統	大學統	大講師	大講師	大講義	大講義	大講義	大講義	大講師
權僧都	權僧都							權僧都	權僧都	權僧都	權僧都	權僧都	講師	講師	准講師	准講師	講師
中僧都	中僧都							講師	講師	中學統	中學統	中學統	中學統	中學統			
權僧都中	權僧都中							准講師	准講師	大學統	大學統	大學統	大學統	大學統	大學統	大學統	大學統
少僧都	少僧都							一等試補	一等試補	少僧都	少僧都	少僧都	少僧都	少僧都	少僧都	少僧都	少僧都
權僧都少	權僧都少							二等試補	二等試補	二等試補	二等試補	二等試補	二等試補	二等試補	二等試補	二等試補	二等試補
大律師	律師							三等試補	三等試補	三等試補	三等試補	三等試補	三等試補	三等試補	三等試補	三等試補	三等試補
權律師								四等試補	四等試補	四等試補	四等試補	四等試補	四等試補	四等試補	四等試補	四等試補	四等試補

融通念佛宗	大僧正	僧正	權僧正	大僧都	權大僧都	中僧都	權中僧都	少僧都	權少僧都	一等準教師	二等準教師	三等準教師						
時宗	大僧正	權大僧正	中僧正	權中僧正	少僧正	權少僧正	大僧都	權大僧都	中僧都	權中僧都	少僧都	權少僧都	訓導	准訓導				
法相宗	大僧正	權大僧正	中僧正	權中僧正	僧正	權僧正	大僧都	權大僧都	中僧都	權中僧都	少僧都	權少僧都	大律師	權大律師	律師	權律師	大法師	法師
華嚴宗	大僧正	僧正	權僧正	大僧都	權大僧都	少僧都	權少僧都	律師	權少律師	大法師								

●宗教臺帳異動報告方ノ件

大正七年九月
民地第三三八四號民政長官依命通達

宗教調査ニ依リ曩ニ調査ノ上當府ヘ提出相成候寺廟竝宗教的團體臺帳寺院教務所等臺帳及神社（許可ヲ受ケサルモノニ限ル）等ノ記載事項ニシテ異動ノ場合ハ其都度訂正報告可相成

右依命通達ス

追テ布教師ノ異動（新任）ノ場合ニハ履歴書ヲ徴シ送付相成度

●神佛耶各教宗派名稱及教義要領

大正六年二月
地方第五七號地方部長送付ノモノ

現時本島ニ行ハルル神佛耶各教ノ宗派名稱及教義要領別紙及送付候也

（別紙）

神佛耶各教派名稱表

（宗派名ノ頭ニ〇印ヲ附スルモノハ現時本島ニ於テ行ハルルモノトス）

イ 神道各教派管長氏名竝事務所所在地

教派名	管長名	事務所所在地
神道	子爵 長谷信成	本局 東京市麻布區笄町一三九
○黑住教	黑住宗子	本廳 岡山縣御津郡今村大字上中野
修成派	新田邦貞	教務局 埼玉縣北足立郡與野町
大社教	千家尊愛	本院 島根縣簸川郡杵築町
扶桑教	宍野健丸	大教廳 東京府下澁谷町元中澁谷大字大和田三八六
大成教	管長 笹田默介 事務取扱 井上信鐵	教務廳 東京市小石川區原町四三
○實行教	柴田禮一	本廳 同 牛込區東五軒町三八
神習教	管長 芳村忠明（代表） 副管長 菅野正照	大教廳 東京市神田區今川小路二ノ五
○御嶽教	神宮嵩壽	大本廳 同 市同 區小川町四九
禊教	柴眞住	本院 東京市下谷區西町二
神理教	佐野伊豆彥	大教廳 福岡縣企救郡企救村大字德力

金光教	金光大陣	本部 岡山縣淺口部三和村大字大谷
天理教	管長 中山正善 職務執行者 山澤爲造	教廳 奈良縣山邊郡丹波市町大字三島

ロ 佛教各宗派管長氏名竝事務所

宗派名	管長名	事務所所在地
○天台宗	座長 不二門智光	宗務廳 滋賀縣滋賀郡坂本村延暦寺內
同 寺門派	長吏 直林敬圓	法務局 同 縣大津市園城寺內
同 直盛派	古泉性信	教務所 同 縣滋賀郡坂本村西教寺內
○眞言宗 高野派	密門宥範	聯合法務所 和歌山縣伊都郡高野村高野山金剛峯寺內
同 御室派	土宜法龍	同上
同 大覺寺派	龍池密雄	同上
同 東寺派	鎌田觀應	同上
同 泉涌寺派	泉智等	同上
同 山階派	長宥匡	同上
同 小野派	箸蔵善龍	同上
同 醍醐派	多田實圓	惠印部宗務廳 京都府宇治郡醍醐村醍醐寺內
同 各派聯合	法務所總裁 密門宥範	
新義眞言宗 智山派	伊藤宗盛	宗務所 東京市芝區愛宕町一丁目四眞福寺內
同 豐山派	早川快亮	同 同 市小石川區大塚坂下町護國寺內
眞言律宗	稲垣眞應	同 奈良縣生駒郡伏見村西大寺內
律宗	北川智海	同 同 縣同 郡都跡村唐招提寺內
○淨土宗	山下現有	同 東京市芝公園地內舊[illegible]生館
同 西山派	加藤觀海	同 京都市下京區新京極迴櫻ノ町誓願寺內
臨濟宗 天龍寺派	高木台岳	同 京都府葛野郡嵯峨村天龍寺內
同 相國寺派	橋本獨山	同 京都市上京區今出川相國寺門前町相國寺內
同 建仁寺派	竹田默雷	同 同 市下京區大和大路通建仁寺內
○同 妙心寺派	圓山元魯	同 京都府葛野郡花園村妙心寺內
同 南禪寺師	河野霧海	同 京都市上京區南禪寺町南禪寺內
同 建長寺派	菅原時保	同 神奈川縣鎌倉郡小坂村建長寺
同 東福寺派	廣田慈教	同 京都市下京區本町東福寺內
同 大德寺派	見性宗般	同 京都府愛宕郡大宮村大德寺內
同 圓覺寺派	釋宗演	同 神奈川縣鎌倉郡小坂村圓覺寺內
同 永源寺派	蘆津實全	同 滋賀縣愛知郡高野村永源寺內
同 方廣寺派	長山虎鑿	同 靜岡縣引佐郡奧山村方廣寺內
同 佛通寺派	圓山雪庭	同 廣島縣豐田郡高坂村佛通寺內

同國泰寺派	佐竹龍水	同	富山縣氷見郡太田村國泰寺內
同向嶽寺派	勝部敬學	同	山梨縣東山梨郡七里村向嶽寺內
○曹洞宗	日置默仙	同	東京市芝區芝公園地第七號ノ二
黃檗宗	高津柏樹	同	京都府宇治郡宇治村萬福寺內
○眞宗本願寺派	管長事務取扱 六雄澤慶	寺務所	京都市下京區堀川通本願寺內
○同 大谷派	大谷光演	同	同市同 區常葉町本願寺內
同 高田派	常磐井堯猷	同	三重縣河藝郡一身田町專修寺內
同 興正派	男爵 華園眞淳	同	京都市下京區華園町興正寺內
同佛光寺派	同 澁谷隆教	同	同市同 區新開町佛光寺內
同 木邊派	同 木邊孝慈	同	滋賀縣野州郡中里村錦織寺內
同出雲路派	藤 善聽	同	福井縣今立郡味眞野村毫攝寺內
同 山元派	藤原善瑩	同	同縣同 郡新橫江村證誠寺內
同誠照寺派	二條秀暁	同	同縣同 郡鯖江町誠照寺內
同三門徒派	平 光圓	同	同 縣福井市專照寺內
○日蓮宗	藤原日迦	宗務院	東京市芝區二本榎一丁目一五
顯本法華宗	本多日生	同	京都市上京區榎町妙滿寺內
本門宗	吉山日明	同	東京府豐多摩郡野方村蓮華寺內
本門法華宗	寺島日諒		東京市本郷區駒込淺嘉町七五
法華宗	田邊日諭		新潟縣南蒲原郡本成村本成寺內
本妙法華宗	嶼村日正		京都市上京區紋屋町四一本隆寺內
日蓮正宗	阿部日正		靜岡縣富士郡上野村大石寺內
日蓮宗不受不施派	釋日解	事務所	岡山縣御津郡金川村妙覺寺內
同不受不施講門派	管長事務取扱 佐藤日柱	宗務局	同縣同 郡同 村大覺寺內
融通念佛宗	梅原靈嚴	同	大阪府東成郡平野郷村大念佛寺內
時宗	河野法善	教務院	神奈川縣鎌倉郡藤澤町清淨光寺內
法相宗	佐伯定胤	宗務所	奈良縣生駒郡法隆寺村法隆寺內
華嚴宗	筒井寛聖	同	同 縣奈良市東大寺內

ハ 耶蘇教各派名稱

1 舊教

○天主公教(ローマン、カゾリック)○ハリストス正教(希臘教)

2 新教

○日本基督教會(プレスビテリアン、又ハ長老教會)○組合教會(コングリゲーション派)○聖公會(監督教會派)○日本メソヂスト教會(美以教會)○浸禮教會(バプテスト派)○基督教會(デサイプルオブクライスト)○クリスチャン教會○同胞教會○友會(クエーカー)○福音路帖教會(ルーテン教會)○福音教會○同仁教會(ユニブアサアリスト)○ヘブチバ教會普及福音教會○同盟教會○東洋宣教會○スカンヂナビアン、ジャパンアライアンス○救世軍(サルヴエーション、アーミー)

前記各派中天主公教、ハリストス正教、日基、長老、組合、聖公會以外ノ各教會ハ未タ本島ニ布教セス

佛耶兩教各派沿革及教義要領

イ 主ナル佛教

天台宗 本宗ハ隋朝ノ天台智者大師ノ立教ニ由來ス延暦年間僧最澄(傳教大師)カ率勅入唐シテ之ヲ傳ヘ叡山ニ法幢ヲ建立セシニ始ル然レトモ其ノ教法ハ法華經ヲ本據トセル天台ノ顯教ノミナラス大日經金剛頂經等ニ據レル眞言ノ密教ヲモ兼併セルカ故ニ支那ニ於ケル天台宗トハ聊カ其内容ヲ異ニセリ教義ハ現象即實在論ナリ即宇宙一切ノ事物ハ差別ニシテ然モ無差別ナリ無差別ニシテ然モ差別ナリ故ニ宇宙ニ於ケル萬象ノ事物ハ彼此互ニ具在シ迭ニ融通スルヲ以テ從テ其任意ノ一事物ヲ提クルニ餘他一切ノ事物ハ此ノ一事物ニ統攝該括セラル即一法ノ當體ニ萬象ヲ圓滿具足シテ毫モ闕減スル所ナシト說キ其實踐方面ニ於テ一念三千即此一念ノ當體即中道實相ニシテ三千ノ諸法ヲ圓具スト觀シテ速ニ菩提ヲ成サシム

本宗ノ所依經典ハ妙法蓮華經ヲ正依トシ華嚴經、金光明經、涅槃經、智度論、菩提心論等ヲ傍依トス

眞言宗 詳クハ眞言陀羅尼宗ト云フ眞言トハ眞實無虛妄ノ如來語ノ義ナリ、此教ハ印度ヨリ支那ニ入リテ甚タ振ハサリシカ延暦年間ニ僧空海(弘法大師)入唐シテ此教ヲ傳ヘ高野山ニ金剛峯寺ヲ創立セシヨリ大ニ宗風ヲ發揚セリ

此宗ニテハ三密加持ニヨリテ吾人ノ三密ト大日如來ノ三密ト相應スルトキ父母所生ノ身ヲ以テ即身成佛スト說ク(註。如來ノ三業(身口意)トハ或ハ神通ヲ現ハシ或ハ法ヲ說キ或ハ思惟スル所唯々佛ト佛ト互ニ知見スルノミニシテ因人ノ思議スル所ニアラス故ニ之ヲ三密ト云フ加持トハ如來ノ大悲ト衆生ノ信心トヲ表ス佛日ノ影衆生ノ心水ニ現スルヲ加ト云ヒ行者ノ心水能ク佛日ヲ感スルヲ持ト名ク)

所依經典ハ大日經、金剛頂經ナリ之ヲ眞言兩部ノ秘藏ト云フ本宗ニ古義、新義ノ別アリ古義ハ高野派及其他七派ニシテ新義ハ覺鑁(興教大師)カ紀伊根來ニ一家ヲ立テタルニ起リ智山派、豐山派ノ二派アリ

淨土宗 本宗ハ承安年間ニ僧源空(法然圓光大師)ノ開立スル所ニ依リ偏ニ念佛ノ一行ヲ修シテ西方彌陀ノ淨土ニ往生スルヲ以テ宗要トス則チ常人ノ解脫ハ自力ノ及フ所ニアラサルカ故ニ彌陀ノ誓願ニ托シテ一心ニ彌陀ノ名號ヲ事念シ行住坐臥念々捨テサルトキハ必ス西方極樂ノ報土ニ往生スヘシト說ク

所依ノ經典ハ無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經、往生淨土論等ナリ

禪宗 ハ印度ノ達摩之ヲ支那(梁)ニ傳ヘ支那ニ於テ南宗、北宗ノ二派ニ分レ南宗禪ハ更ニ臨濟、潙仰、曹洞、雲門、法眼ノ五家ニ分ル臨濟宗ハ達磨ヨリシテ六代ノ祖慧能ヨリ更ニ五代ヲ經テ臨濟禪師ニ至リ家聲大ニ振フ之ヲ臨濟宗ノ開祖トス我國ニテハ建久年間ニ榮西禪師入宋シテ之ヲ傳ヘ源頼家建仁寺ヲ創立シテ禪師ヲ迎ヘ置キシヨリ大ニ宗風ヲ發揚セリ今ハ別レテ十四派トナル

ニシテ加奈多長老教會及蘇國長老教會ノ兩傳道會社ヨリ派遣サレタル宣教師ノ布教ニ係リ前者ハ北部ニ後者ハ南部ニ（大甲溪ヲ界トシテ）傳道シ之ヲ南北二個中會ニ區分シ毎年一回南北合同ノ大會ヲ開キ重要事項ヲ會議ス教會ノ組織、信仰關係ニ於テハ日基派ト同シキモ本島人教會ハ未タ全ク經濟的ニハ獨立セス尚外國宣教師ノ管下ニ屬ス

日本組合基督教會「コングリゲーション」派（會衆派）ニシテ北米合衆國ノ同派傳道會社ヨリ派遣セル宣教師ノ傳道ト京都同志社ノ教育及之ニ入學セル所謂熊本隊（熊本洋學校ノ外國教師ジエーンスノ感化ニヨル）等カ協力ノ結果發達組織セル教會ニシテ思想ノ自由進歩的ナルト教會ノ自給獨立ハ此ノ派ノ標榜スル特色ナリ

儀式ハ日基派ト同樣ニシテ教會ノ政治ハ日基派ノ如ク長老ヲ選ハスシテ執事ヲ置クモ殆ト之ニ何等ノ權限ヲ與ヘス一々信徒ノ總會ヲ以テ之ヲ行フ

教義ハ明治二十五度四月總會決議信仰ノ告白ニヨリテ其ノ標準ヲ示サル之ニ依レハ「聖書ニ於テ父、子、聖靈トシテ示サレタル無限純全ナル獨一ノ神ヲ信シ神ニシテ人トナリ世ノ罪人ヲ救ハン爲ニ苦痛ヲ受ケ死シテ甦リシカ耶蘇基督ト聖靈及聖書ヲ信シ又聖ナル教會水バプテスマ（洗禮）聖晩餐、聖キ主ノ日（日曜日）永遠ノ生命、死者ノ復活及正シキ賞罰ヲ信ス」ト云フニアルモ本教派中ニハ所謂保守論者アリ所謂新神學者アリ所說紛々千差萬別ニシテ前記信仰告白ニ據ラサル教會亦尠カラス蓋シ本教派ハ思想ノ自由ヲ標榜シテ立ツカ故ナリ

日本聖公會　英國ノ國教タル監督教會及米國ノ同派傳道會社カ傳道ノ結果統一組織シタル教會ニシテ教會ノ政治ハ立憲監督政體ヲ取リ信仰ニ於テハ聖書ノ外「ニカヤ」信條、使徒信經ヲ認メ監督、長老、執事ノ三職位ヲ設キ禮拜ニハ一定ノ祈禱書ヲ用ヒ僧侶ニハ制服ヲ着用セシメ其他羅馬、希臘二教ト稍ヤ類似セル儀式ヲ行フ等新教各派中著シク舊教的色彩ヲ有スルモ舊教ノ如ク聖母マリア其他ノ諸聖徒ヲ崇敬シ又ハ偶像或ハ畫像ヲ使用セス其ノ洗禮及聖餐ノ二聖典ヲ行ヒ僧侶モ亦結婚シ得ルコト等ハ新教諸派ト同樣ナリ保守的ナルモ堅實ニシテ輕佻浮薄ナラサルハ此ノ派ノ特色ナリト稱セラル

●宗教家汽車割引改正ノ件

大正十一年五月
總內第四三四六號總務長官依命通達

本島駐在ノ布教師ニ對スル汽車割引ハ從來汽車等級ニ何等制限ヲ設ケス各等共申出ノ儀割引致居候處大正十一年三月二十日鐵道部告示甲第六號臺灣總督府鐵道部旅客及荷物運送規則ニ依リ五月一日ヨリ右割引ハ二等又ハ三等ニ限ルコトニ改正相成尙割引證明書ハ別紙樣形ノ通改正ノ上五月十六日ヨリ實施ノコトニ相成候ニ付御了知相成
右依命通達ス

追テ改正ノ割引券ハ實施ノ期日前ニ當府ヨリ送付可致候

（表）

第　號

宗教家運賃割引證

乘車區間	自　　驛 至　　驛
駐在所宗派名 職名及年齡	當　年
乘車等級 割引率	等三割

大正　年　月　日

臺灣總督府印

（裏）

注意

一　本證ハ乘車券購求ノ際鐵道係員ニ差出スヘシ
二　本證ハ他人ニ貸與又ハ讓渡スルコトヲ得ス
三　本證ヲ以テ割引ヲ受クルハ布教ノ爲定期ニ出張スルトキニ限ルモノトス
四　本證ニ依リ購求シタル割引乘車券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用スルコトヲ得サルモノトス
五　本證ノ文字ヲ改竄シタルモノハ無效トス
六　本證ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ三十日間トス

第四節　社會事業

●社會的施設事業ニ關スル件

大正十年八月
總內第六四四五號總務長官依命通達

世運ノ推移經濟狀態ノ變遷ニ伴ヒ社會政策上講究シ又施設ヲ要スヘキモノ益々多キニ至レリ加之思想界ノ動搖ト經濟界ノ變調トハ將來幾多ノ社會問題ヲ惹起セムトスルノ勢ヲ示セリ從來總督府ニ於テハ此ノ方面ニ力ヲ用ヒ來リシト雖時勢ノ進轉ハ此等ニ關スル各般施設ノ整備ヲ促シテ息マス爲來ノ救濟事業ニ付テモ大ニ改善ヲ加フヘキモノ尠カラサルニ鑑ミ玆ニ別記ノ如キ事項ニ關シ其ノ要綱ヲ記シ以テ參考ニ供シ度各地方ニ於テハ宜シク其ノ期ノ事情ヲ精査シ緩急ヲ計リ適應ノ施設ヲ爲シ以テ本島住民生活ノ安定ヲ圖リ其ノ改善ヲ期セラルル樣致度尙別記各項ニ關シテハ當部ヨリ其ノ全部ノ實行ヲ期スルコト難カルヘク各地ノ事情ト資金其ノ他ノ關係トヲ考慮シ漸次之カ實行ニ着手セラレ度又別記各項以外ニ於テモ適當ナル社會的施設有之ヘキニ付適宜各地ノ事情ニ依リテ拾捨ノ宜シキヲ得ラルル樣勉メラレ度シ尙社會事業ノ施設經營ニ關シテハ其ノ基本トナルヘキ諸般ノ基礎調査最モ必要ナリト認メラルルニ付各地ニ於テハ此際適當ナル調査機關ヲ設ケテ周到綿密ナル調査ヲ行ヒ資料ノ提供ニ當ラシメ以テ萬遺漏ナキヲ期セラレ度

右依命通達ス

記

一　救療施設ヲ一層徹底セシムルコト

（イ）現在施行シツツアル慈惠院ノ施療ヲシテ一層擴張シ且漏レナク貧困病者ニ及ホスコト

（ロ）老衰幼弱（鰥寡孤獨）不具廢疾等ノ者ニシテ醫藥ヲ得ルノ途ナキ者ノ調査ヲ爲シ其ノ名簿ヲ備フルコト

（ハ）醫療機關缺如セル土地ニ對シテハ可成公醫又ハ慈惠院等ノ出張所ヲ設ケ巡回診療ノ途ヲ講スルコト

（ニ）慈惠院基本財產ヨリ生スル收益ニ付テハ銳意之カ增收ヲ圖リ以テ之ヲ利用スルト共ニ州經濟ノ許ス範圍ニ於テ出來得ル限リ其ノ補助額ヲ增加スルコト

二　兒童保護ニ關スルコト

（イ）公共團體又ハ公益財團等ノ費用ヲ以テ孤兒、棄兒、迷兒、窮兒等ノ保護ヲ爲スコト

（ロ）不就學學齡兒童ノ保護竝ニ教育ニ關シテハ可成其ノ地方官公吏、小學校教職員ノ活動ニ依リテ適當ナル施設ヲ爲シ簡易學校式ノモノヲ設ケ之ヲ教育スルコト（例之基隆夜學校、高雄簡易商業學校、新竹夜學會等ノ如シ）

（ハ）不良兒、淨浪兒及犯罪兒ノ保護教養ニ關シテハ（ロ）ノ諸員ニ依リテ適當ナル方法ヲ以テ漸善感化ヲ爲シ尙ホ感化院ニ收容スルノ必要アリト認メラルル者ニ付テハ臺北成德學院ニ入院ノ手續ヲ爲スコト（大正十年度收容定員六十名ニシテ現ニ收容中ノ者ヲ除キ猶三十名ノ收容餘力アリ同院ニ於テ收容スヘキ不良兒ノ標準ハ大體ニ

於テ感化法ニ據ル）

（ニ）精神病、白痴、低能、不具、廢疾兒等ノ保護ニ關シテハ前各項ニ準スルコト

三　市場ノ改善利用ノコト

（イ）食用品其ノ他ノ日用品ニ對シ比較的低廉ニシテ新鮮ナルモノヲ供給セシメ特ニ食料品ノ販賣組織竝取引方法等ニ關シテハ尚一段ノ研究ヲ積ミテ出來得ル限リ手數ヲ省キ生產者ト消費者トノ間ニ介入スル中間ヲ省略スル等賣買取引上ニ於テ生スル費用ヲ節約シ以テ消費價格ト生產價格トノ差異ヲ輕減セシムルコトニ調査研究ヲ進メラルルコト

（ロ）食料品販賣ニ付テ特ニ衞生ニ意ヲ用ヒシメ腐敗シ易キ食料品ニ付テハ取締規則ヲ嚴守シ冷藏其ノ他ノ貯藏設備ヲ奬メ兼テ防蠅ノ裝置ヲ爲サシムル等保健上考慮セラルルコト

四　職業紹介ノ施設ニ關スルコト

（イ）職業ヲ失ヘル者又ハ職業ナキモノニ對シテハ可及的便宜ヲ與フル目的ヲ以テ公共團體又ハ公益財團等ニ於テ職業紹介事業ヲ施設經營シ相當ノ職業ヲ選擇周旋ヲ勞ヲ執ルコト

（ロ）各地ニ於テ其ノ他ノ銀行、會社、商店其ノ他ト絕エス聯絡ヲ取リ勞働者ノ需要供給ニ關シ常ニ的確ナル計數ト知識ヲ有スルコトニ努ムコト

（ハ）職業紹介手數料ハ之ヲ無料トスルヲ原則トシ止ムヲ得サル場合ハ極メテ少額ノ手數料ヲ徵收スルモ可ナルヘシ

（ニ）私人ノ設立スル雇傭紹介事業ニシテ成績良好ナルモノハ可成之ヲ

補助シ若ハ共同動作ヲ執リ以テ相互ノ聯絡統一ヲ期スルコト

（ホ）各地ノ職業紹介所間ニ於ケル聯絡ニ付テモ考慮ヲ要スルコト

（ヘ）職業紹介所ハ日々ノ狀況ヲ記錄ニ各種ノ統計ヲ作製シ事業遂行ノ參考ニ資スルコト

五　小住宅ノ改良及供給ノコト

住宅拂底ノ現況ニ鑑ミ各地ニ於テ其ノ實情ト財政トヲ顧慮シ可成低利資金等ノ融通ヲ得テ衞生上保安上適當ナル住宅ノ供給ヲ爲スコトニ努ムルコト

（イ）官公署等ニ於テハ可成下級者ノ住宅ヲ建築スルコト

（ロ）銀行、會社及工場等ニ對シ社員職工ノ住宅ヲ供給スルコトヲ奬勵スルコト

（ハ）下給勞働者（例之仲仕夫、輦車苦力等）ノ多キ地方ニ於テハ衞生上風紀上考慮ヲ要スルモノアルニ鑑ミ可成合宿所ヲ設ケ低廉ナル料金ニテ宿泊セシムルコト

（ニ）住宅改正及供給ヲ目的トスル公益財團、建築組合等ヲ奬勵シ之ヲ保護スルコト

（ホ）衞生上又ハ保安上有害ナリト認ムル住宅ノ一部又ハ全部ノ改良修築ヲ奬勵スルコト

（ヘ）細民長屋ノ如キ衞生上風紀上考慮ヲ要スヘキ場所ノ改良ヲ爲スコト尙將來ハ小住宅ヲシテ可成密集セシメサルコトニ留意スルコト

六　土地ノ狀況ニ依リ公共團體又ハ公益財團ノ費用ヲ以テ低廉若ハ無料ノ宿泊所ヲ施設スルコト

七　各市街地ニ於ケル會社、商店等ノ下級從業員ノ公休日ヲ善用シ是等ヲシテ寄修ニ流レ淫逸ノ弊風ニ陷ラシメサル手段ヲ講スルコト

（イ）各種銀行會社其ノ他ノ商店ニ於ケル從業員每月ノ公休日ヲ可成一定セシムルコト

（ロ）公休日ニ於テハ可然場所ニ於テ前項各種從業員ヲシテ一日ノ慰安娛樂ヲ爲シ得ル簡易ナル設備ヲ爲スコト例之野球ノチームヲ組織セシメ或ハテニスノ競技ヲ爲サメ又ハ浪花節、義太夫其ノ他簡易ニシテ無害ノ娛樂機關ヲ用意スルコト但シ本島人ニ對シテモ適當ノ設備ヲ爲スコト

（ハ）前項ニ充當スヘキ場所ハ小公學校其ノ他適當ノ建築又ハ庭園ヲ選定スルコト

（ニ）公休日ノ監督指導其ノ他ニ關スル實行委員ハ官公吏、小公學校職員又ハ民間有志者ヲ以テ之ニ充ツルコト

（ホ）費用ハ各種銀行、會社、商店ヨリノ任意ノ寄附等ニ依ルヲ可トス且可成下級從業員ヨリハ會費等ヲ徵集セサルヲ可トス

（ヘ）公休日ノ利用ニ充テラレタル場所ニ於テハ可成簡易食堂式ノモノヲ備フルヲ可トス

八　公設質舖設置ノコト

經濟界ノ變調等ニ省ミ薄利ニテ小額ノ金融ヲ爲スヘキ機關ノ設置益々必要ヲ感スルニ至レルニ鑑ミ公設質舖ヲ設置スルコト

（イ）市街地ニ於テ開設スルコト

（ロ）經營ハ市街庄ニ於テ爲スコト

（ハ）資金其ノ他經營方法ニ關シテハ適當ノ考慮ヲ爲スコト（例臺北公設質舖）

九　共同浴場設置ノコト

（イ）本島ノ衞生狀態ニ鑑ミ其ノ風俗習慣ヲ慮リテ浴場ノ設備ナキ場所ニ共同浴場ヲ置スルコト

（ロ）共同浴場ハ公共團體又ハ公益財團ニ於テ經營スルコト

（ハ）公共浴場ニハ一般ノ慰安娛樂ニ資スル簡易ノ設備ヲ爲スモ可ナリ

（ニ）共同浴場ノ設置ニ付テハ高雄州下ニ二三ノ良キ例アリ

（ホ）市街地ニ於ケル公設市場ノ附近ニ設置スルヲ最モ妙トス

（ヘ）止ムヲ得サル場合ニ限リ極メテ小額ノ入場料ヲ徵收スルコト

●社會事業施設ノ件

大正十五年九月六日
總內第四八〇八號總務長官依命通達

大正十三年二月二十九日附總內第九四五號總務長官依命通達ニ依ル社會事業調ハ每年九月末日現在調ノ處本年分ヨリ三月末日現在調トシ三通調製ノ上六月末日限リ無遲滯提出相成度

右依命通達ス

大正十三年二月二十九日
總內第九四五號總務長官代理依命通達

爾今社會事業ニ對シ嚴密ニ御調査ノ上別表樣式ニ依リ每年十月末日限リ御提出相成度

右依命通達ス

大正十五年九月九日
花教第一四七九號庶務課長依命通達
各側庄區長宛

大正十三年六月十九日附花庶第一〇八四號庶務課長依命通達ニ依ル首題ノ調査ハ毎年九月末日現在調ノ處本年分ヨリ三月末日現在調トシ四月末日迄ニ無遲滯提出相成度
右依命通達ス

大正十三年六月十九日
花庶第一〇八四號庶務課長依命通達
各側庄區長宛

爾今各團體社會事業ニ對シテハ別紙樣式ニ依リ詳細調査ノ上毎年十月十日迄ニ提出相成度
右依命通達ス
（別紙省略）

●社會事業助成ニ關スル件

昭和五年五月十三日
臺社協發第九三號臺灣社會事業協會長照會

本協會ニ於テハ昭和五年五月五日附組織ノ社團法人ニ變更シ之ト共ニ從來恩賜財團明治大正及昭和三救濟會ニ於テ實施シ來レル社會事業ノ助成ヲ本年度ヨリ本協會ニ依託ヲ受ケ之カ實施ニ當ルコトト相成タルニ付今後助成ヲ願出ツルモノアルトキハ本會宛申請セシメラレ度尚申請ノ際ハ左記ニ關シ時ニ御留意相煩度候

記

一　昭和四年六月二十九日附恩賜財團明治大正及昭和三救濟會連名ヲ以テ通牒シタル通リ總花的奬勵ハ之ヲナサス社會事業ノ新設增設改善擴張等ニ要スル費用ノ一時的補助ヲナスヲ以テ原則トス
二　基金造成經費ノ不足補塡等ニ對シテハ一切補助ヲナサス但シ新設當初ニ於ケル經常費ニシテ特ニ緊急不得已ト認ムルモノハ此ノ限リニ非ス
三　簡易水道新設費、醫療費、植木費、水泳場新設費等ハ可成當該方面ノ費目ヨリ補助ヲ仰クコトトセシメ事業內容カ嚴密ニ且ツ直接ニ社會事業ニ該當スルヤ否ヤヲ確メ嚴選ノ上申請セシメラレタシ
四　申請ハ必要ノ都度之ヲナサシメ申請書ニハ最近ノ事業狀況ヲ悉知シ得ヘキ詳細ナル資料ヲ添付セシメラレ度
五　申請ニハ貴官ノ詳細ナル副申ヲ添付セラレ度尚州廳市街庄等ノ助成方法ヲモ添付セラレ度シ

●私設失業者救濟事業ニ關スル件

大正十五年二月十三日
總內第七〇二號總務長官代理依命通達

近來失業者救濟ト稱シ共濟會其ノ他ノ名稱ノ下ニ事業ノ經營ヲ爲スモノ有之哉ニ聞及候處此種ノ事業出來候節ハ遲滯ナク其名稱、目的、組織、事業ノ方法等調査ノ上御報告相成度
右依命通達ス

●罹災救助ニ關スル資料報告方ノ件

昭和五年八月七日
花教第七〇四號庶務課長依命通達
各支廳長宛

貴管內ニ於テ爾後罹災救助基金ノ要求必要アリト認ムル非常災害アリタル場合ハ別紙第一號樣式ニヨリ即報相成尚罹災救助基金ノ配付ヲ受ケタル場合ハ第二號樣式ニ依リ報告可相成
右依命通達ス
（別紙）
第一號樣式

應地方費臺灣罹災救助基金取扱手續參照

大正十年一月二十七日
訓令第一一一號

罹災救助着手報告

一　災害ノ種類、月日、原因及狀況
二　被害ノ場所
三　罹災ノ戶數、人口
四　人畜ノ負傷、死亡
五　救助ノ費目別人員、日數、費額ノ見込
六　其他必要ト認ムル事項

第二輯　庶務課　第三章　教育係　第四節　社會事業

第二號樣式

人畜家屋罹災詳報ノ件參照

大正元年十二月七日
民地第一三五〇號民政長官依命通達

何々災被害詳報

自月日
至月日

管轄	種族	人							現住家屋					記事
		死	重傷	輕傷	流失	全潰	半潰	大破	浸水床上	浸水床下	計			
		（行方不明）				（燒）	（燒）							
	男													上欄ニハ官舍學校等ノ被害又ハ其ノ他特殊ノ事項ヲ記入スヘシ
內地人	女													
	男													
	女													
	男													
	女													
支廳本島人														
支廳外國人														
計														

記事　本欄ニハ災害ノ狀況竝ニ罹災ノ年月日及其ノ狀況ヲ記入スヘシ

右報告ス

年　月　日

支廳長印

廳長宛

備考

一　本表ニヨリ報告スヘキ災害ハ水災、火災、風災、震災トシ災害ノ種類又ハ災害ノ日ノ異ナルモノハ各別ニ調製スヘシ
二　現住家屋欄ニハ現在ノ世帶數ヲ左ノ區別ニヨリ記入スヘシ

1 「流失」ハ家屋ノ全部流失シタルモノ
2 「全潰(燒)」ハ家屋ノ全部倒潰或ハ燒失シ又ハ破壞シテ全ク住居ニ耐ヘサルモノ
3 「半潰(燒)」ハ家屋ノ過半倒潰破潰傾斜又ハ燒失シテ其ノ部分住居ニ耐ヘサルモノ
4 「大破」ハ現住家屋ノ幾部破損シテ修繕ヲ加フルニアラサレハ住居シ得サルモノ
5 「破損」ハ前記以外ノ破損アルモノ
6 「浸水」ハ家屋ノ浸水セシモノ但シ床ナキトキハ疊蓆ヲ標準トシテ床上、床下ヲ區分スヘシ

●罹災救助基金規則施行規則ニ關スル件

昭和六年一月六日
總內第一九四九號總務長官依命通達

今般府令第四十六號(及訓令第九十四號)ヲ以テ臺灣罹災救助基金規則施行規則(及取扱手續)改正相成候處右ハ罹災救助既往ノ實績ニ徵シ現行規定ノ範圍ニ於テハ救助ノ實ヲ擧ケ得サルノ憾不尠サルモノアルト一面基金蓄積ノ現況ニ稽ヘ救助ノ爲支出スヘキ費用ノ範圍竝ニ制限ヲ擴張シ救助ノ實際ニ適應セシメントスル趣旨ニ有之候條適切ナル方法ヲ講シ救助ノ效果達成ヲ期セラレ度

右依命通達ス

●行旅病人救護所職務規程

大正八年五月
花蓮港廳訓令第九號

第一條 行旅病人救護所ニ左ノ職員ヲ置ク
所長
醫員
調劑員
事務員
看護人

第二條 所長ハ廳長ノ命ヲ受ケ內部ノ事務ヲ整理シ職員ヲ監督シ患者治療ノ責ニ任ス

第三條 醫員ハ所長ノ指揮ヲ承ケ患者ノ治療ニ從事ス

第四條 調劑員ハ所長ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス

第五條 事務員ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 看護人ハ上司ノ指揮ヲ承ケ看護ニ從事ス

第七條 所長ハ廳長ノ認可ヲ受ケ庶務規程ヲ定ムルコトヲ得

●行旅病人行旅死亡人及其同伴者取扱手續中疑義ノ件

大正十年九月
內市第七八六號內務局長通知

右ニ關シ高雄州知事ヨリ別紙甲號ノ通照會有之乙號ノ通回答候條爲參考

右通知ス

(甲號)

大正十年六月二日
高地第三一三一號

行旅病人死亡人及同伴者取扱手續中疑義ノ件

州財務規程第六條第二項及市街庄財務取扱規程(大正十年十月訓令第一三六號)第十一條第二項歲出ノ誤拂過渡トナリタル金額、現金前渡前金拂概算渡及繰替拂ノ返納ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシトアリ大正十年一月二十五日內市第九十五號內務局長通牒市街庄豫算編成注意事項第三號ニハ行旅病人及死亡人取扱費徵兵召集旅費繰替金ノ戻入等ニシテ當該年度出納閉鎖期經過後ノ收入ハ「雜收入」中雜入ニ算入シ當該年度中ニ於ケル此等ノ戻入ハ必ス當該支出科目中ニ戻入スヘキモノナレハ豫算編成ニ方リテ彼是混合スヘカラスト有之候然ルニ行旅病人死亡人及其ノ同伴者取扱手續(明治三十七年九月訓令第二四五號)第十二條救護又ハ取扱費用ノ辨償ヲ受ケタルトキハ州費、市費、街庄費又ハ應地方費雜收入トシテ收入スヘシ(大正十年三月訓令第二一號改正)トアリテ過年度ノ場合ニ於テモ當該年度ノ場合ニ於テモ總テ雜收入トシテ收入スヘキモノノ如ク彼是相抵觸セルモ州市街庄ノ財務ニ關シテハ州財務規程及市街庄財務取扱程及內市第九五號ニ據リ處理スヘキモノト思料セラレ候(共一應御意見承知致度

右照會ス

(乙號)

大正十年九月
內市第七八六號

大正十年六月二日附內地庶第三一三一號ヲ以テ行旅病人死亡人及其同伴者取扱手續中疑義ノ件照會相成候處行旅病人、行旅死亡人及其同伴者取扱手續第十二條ハ過年度ノ場合ヲ規定シタル義ト御承知相成可然

右經伺ノ上通牒ス

●行旅死亡人遺留金品處分ニ關スル件

大正十三年八月二十五日
內市第八二一號內務局長通知

首題ノ件別紙甲號ノ通臺北州知事ヨリ照會有之候ニ對シ乙號ノ通回答致置候條爲參考

右通知ス

(甲號)

大正十三年七月十六日
內地庶第一、四九號

行旅死亡人ノ遺留金品若クハ有價證券ヲ賣却シテ取扱費ニ充テ尚殘餘ヲ生シタル遺留品ノ處分ニ關シテハ別段ノ規定無之處理上疑義有之候條何分ノ御指示相成度

右照會ス

(乙號)

大正十三年八月二十五日
內市第八二一號

大正十三年七月十六日附內地庶第一一四九號ヲ以テ行旅死亡人ノ遺留金品處分ノ件御照會相成候處右ハ左記ノ通被思料候

右經伺ノ上回答ス

記

一 內地人ニ對シテハ非訟事件手續法第十六條ニ依リ管轄法院檢察官ニ通知シ民法第千五十二條ノ相續財產管理人ノ選任セラルルヲ俟ツテ之ニ引渡スヘキモノトス

二 本島人ニ對シテハ其ノ殘餘ヲ生シタル遺留金品ハ市街庄ニ於テ保管シ其ノ旨ヲ行旅病人及同死亡人取扱法第九條ノ方法ニ依リ一年間ニ引取ルヘキ樣公告シ該期間經過後仍引取者ナキ場合ハ州費雜收入トシテ收入スルモノトス

三 外國人ニ對シテハ明治三十一年法律第十號法例第二十五條ニ依リ處理スヘキモノトス

●軍事救護法施行細則ニ關スル件

大正六年十二月
民地第三五〇八號民政長官通牒

本件ニ關シ別紙ノ通內務省地方局長ヨリ內地各地方長官ニ對シ通牒致置候趣拓殖局次長ヨリ申越候條爲御參考寫及送付候也

（別紙）

大正六年十一月二十一日

地方局長

地方長官宛

拜啓益々御清穆奉賀候陳者過般開催ノ軍事救護法實施協議會ニ於テ軍事救護法施行細則參考資料配付ノ儀希望有之別紙當局ニ於テ作成セシモノ御參考迄ニ及御送付候條尙地方ノ實況ニ應シ適當ニ相定メラレ候樣致度此段得貴意候早々

軍事救護法施行細則

第一條 軍事救護法ニ依リ救護ヲ受ケムトスル者ハ第一號樣式ノ願書ヲ作製シ其ノ住所地市町村長ヲ經テ知事ニ出願スヘシ

救護ヲ受ケムトスル者一家二人以上アルトキハ戶主其他一家經理ノ任ニ在ルモノ前項ニ依リ出願スヘシ

第二條 市町村長前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ第二號樣式ノ救護調書ヲ作成シ戶籍謄本其他必要書類ヲ添付シ知事ニ通達スヘシ

第三條 救護ヲ受クル者願書記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ第一條ノ願出人又ハ之ニ代ハル者ヨリ直ニ住所地（住所移轉ノ場合ハ舊住所地）市町村長ヲ經テ知事ニ屆出ヘシ

第四條 市町村長ハ救護ノ廢止、停止、程度減少又ハ方法變更ノ必要アリト認メタルトキハ其理由及意見ヲ具シ直ニ知事ニ報告スヘシ郡長ニ於テ其ノ必要ヲ認メタルトキ又同シ

第五條 市町村長ハ常ニ被救護者ノ狀況ニ注意シ每年六月、九月、十二月、三月ノ末日ヲ期トシ其ノ狀況ヲ翌月十日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第六條 軍事救護法施行令第七條ニ依リ內務大臣ニ審查ヲ出願スル場合ニ於テハノ救護不許可又ハ廢止、停止ノ指令ヲ交付シタル市町村長ヲ經由スヘシ

第七條 本則ニ依リ町村長ヨリ知事ニ提出スヘキ書類ハ總テ郡長ヲ經由スヘシ

附則

本則ハ大正七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

軍事救護願

救護ヲ受ケムトスル者	氏名	生年月日	職業	被救護者資格	救護ノ種類ニ關スル希望
本籍					
住所					
	何某				
	何某				
	何某				

法第五條ノ下士兵卒又ハ傷病兵	氏名	所屬部隊又ハ鎭守府	兵種官等級

出願ノ事由
（法第五條列記ノ生活不能ノ原因タル事由詳記）

右之通ニ付救護被成下度候也

年 月 日

出願人戶主（其他一家經理ノ任ニ在ル者） 何 某印

府縣知事宛

備考

一 本樣式ハ救護ヲ受ケムトスル者二人以上アル場合ノ樣式ナリ故ニ救護ヲ受ケムトスル者一人ノミナル場合ハ出願人ハ本人又ハ其法定代理人トス

二 救護ヲ受ケムトスル者住所ヲ異ニスル場合ハ其住所地市町村別ニ願書ヲ作成スルモノトス

三 「被救護者資格」欄ハ傷病兵ニ在リテハ兵役ヲ免セラレタル原因其他ノ者ニ在リテハ下士兵卒又ハ傷病兵トノ續柄ヲ記載スルモノトス

四 「所屬部隊又ハ鎭守府」ノ欄傷病兵ニ在リテハ傷病ニ依リ兵役ヲ免セラレタル當時ノ部隊又ハ鎭守府ヲ記載スルモノトス

第二號樣式

軍事救護調書

全家ニ關スル調書

種別身分	氏名	資產及所得	勞役能力程度	納稅種類金額	法第八條乃至第十二條ノ事項	他家ニ在ル扶養義務者氏名職業資產扶養狀況	其他參考トナルヘキ事項
（戶主）							
（妻）							
（長男）							
何々							

團體又ハ個人ノ救護

被救護者氏名	救護ノ種類程度方法	團體又ハ個人名	備考

一家生活ノ狀況救護ノ種類程度方法等ニ關スル注意

右之通候也

年　月　日

市町村長印

府縣知事宛

●軍事救護法ニ依ル救護費等ニ關スル件

大正六年十二月
民地第三五八二號民政長官依命通達

本件ニ關シテハ別記ニ依リ處理相成度

右依命通達ス

記

一　救護費ハ差向キ實施後一箇月分ノ概算見込ノ上來ル十二月二十五日迄ニ又二日以後ノ分ハ其前月十日迄ニ其月分ノ概算御見込ノ上夫々別紙第一號樣式ニ依リ請求相成度尚毎月ノ配付金額精々經理宜シキヲ制セラレ不足ヲ生スルカ如キコト無之樣御取計相成度若萬一不足ヲ生シタル場合ニ於テハ別紙第二號樣式ニ依リ請求相成度

第一號樣式　軍事救護費請求書　大正七年　月分

種類	傷病者		下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族		下士兵卒又ハ傷病者ノ遺族		計		前配付高	前回ノ殘額	今回ノ請求高
	戸數	人員	金額	戸數	人員	金額	戸數	人口	金額			
生業扶助			円			円			円	円	円	円
醫療												
現金給與												
現品給與												
勅令第三條ノ臨時救護												
合計												

注意

一　傷病兵ニシテ家族ヲ有スル場合ニ於テハ「下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族」ノ欄ニ傷病兵ノ分ヲ加ヘタルモノヲ揭ケ傷病兵ノ分ハ更ニ朱書括弧ヲ付シ「傷病兵」ノ欄ニ揭クルコト第二表以下之ニ倣フ

二　「下士兵卒又ハ傷病兵ノ家族」ノ欄ハ下士兵卒ノ家族ト傷病兵ノ家族ト區分シ二行ニ（右欄ヲ下士兵卒ノ家族左欄ヲ傷病兵ノ家族トス）揭クルコト「下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族」ノ欄亦同シ第二表以下之ニ倣フ

三　同一人ニ對シ二種類以上ノ救護ヲ爲ス場合ハ主タル方ヲ墨書トシ其他ノ分ヲ朱書スルコト第二表以下之ニ倣フ

四　計ノ欄ハ墨書、朱書ノ合計ヲ揭クヘキモノナルモ重複スルモノハ合計ニ加ヘサルコト第二表以下之ニ倣フ

五　金額ハ四捨五入シ圓位ニ止ムルコト第二表以下之ニ倣フ

六　表中「戸數」トアルハ戸籍ニ依ル「戸」ノ數ナリ第二表以下之ニ倣ノ

第二號樣式　軍事救護費請求書　大正　年　月分不足額

種類	傷病兵		下士兵卒又ハ傷病兵ノ遺族		計		前配付高	前回ノ殘額	今回ノ請求高
	戸數	人員	金額	戸數	人員	金額	戸數	人口	金額			
生業扶助			円			円			円	円	円	円
醫療												
現金給與												
現品給與												
勅令第三條ノ臨時救護												
合計												

注意

表中計迄ノ欄ハ新ニ請求スヘキ分ニ限リ揭クルコト從テ計ノ金額ト前回ノ殘高及今回ノ請求高ノ合算額トハ符合スルヲ要ス

●軍事救護法實施ニ關シ通知方ノ件

大正七年一月
民地第六號民政長官代理通牒

右ニ關シ別紙甲號ノ通內務次官ヨリ陸海軍兩次官ヘ照會相成候處別紙乙號ノ通回答有之候樞拓殖局次長ヨリ通牒有之候條御了知相成度

右通牒ス

（甲號）

軍事救護法施行ニ關シ通知方ノ件照會

大正六年十一月十六日
內務次官ヨリ陸海軍兩次官宛

軍事救護法實施ニ關シ左記事項通知方其ノ向ヘ可然御取計相煩度

記

一　救護ヲ出願シタルトキ軍事救護法第二條、第四條、第十一條、第十

二條ノ該當者ナルヤ否ヤノ調査ニ關シ救護地地方長官ヨリ陸軍ニ在リテハ本籍地所管ノ聯隊區司令官海軍ニ在リテハ在籍鎭守府ノ海軍人事部長（照會シタルトキハ調査ノ上直ニ囘答セラレタキコト

二　救護ヲ開始シタル者ニ就テハ直ニ救護地地方長官ヨリ陸軍ニ在リテハ本籍地所管ノ聯隊區司令官海軍ニ在リテハ在籍鎭守府ノ海軍人事部長（通知スヘキニ付後日軍事救護法第十一條、第十二條、第十四條、第十五條ニ該當スルモノアルトキハ直ニ本籍地地方長官ニ通知セラレタキコト

乙號ノ二）

軍事救護法實施ニ關シ通知方ノ件

大正六年十二月十五日
海軍次官ヨリ內務次官宛

內務省發地第二五二號ヲ以テ照會ノ件了知左記ノ通御取計相成度

一　救護地地方長官ヨリ海軍人事部長（照會ノ際ハ別紙第一號ノ要領ニ準據セラレ度

二　現役兵竝ニ應召中ノ下士兵卒ニ對スル救護ノ停止廢止若ハ其ノ程度減少ノ場合モ亦救護ノ開始ト同樣救護地地方長官ヨリ海軍人事部長ニ通知セラレ度

右囘答ス

（別紙第一號）

軍事救護法實施ニ關シ地方長官ヨリ海軍人事部長（照會ノ節ハ左記要領ニ依ラレタシ

一　傷病兵ニシテ增加恩給（帶傷扶助料）又ハ賜恤金ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ傷痍若ハ疾病ノ原因戰鬪又ハ公務ニ基因シタルコト明瞭ナルニ依リ此等ハ特別必要アル場合ノ外別ニ海軍人事部長ニ照會セサルコト

二　第一號以外ノ場合ニ在リテハ左記事項ヲ調査記入シ照會セラレタシ

（甲）傷病兵ノ場合

（イ）元官（職）氏名
（ロ）本籍地及居住地
（ハ）海軍入籍年月日及入籍番號
（ニ）兵役免除年月日

（乙）傷病兵又ハ下士卒遺族ノ場合

（イ）故軍人ノ官（職）氏名
（ロ）故軍人死亡當時ノ本籍地
（ハ）海軍入籍年月日及入籍番號
（ニ）死歿年月日
（ホ）特別賜金ヲ受ケタルコトノ有無

（丙）下士卒家族ノ場合

（イ）軍人ノ官（職）氏名
（ロ）軍人ノ本籍地
（ハ）海軍入籍年月日及入籍番號

三　第二號中軍人ノ氏名ハ改氏名者ニ在リテハ現役ヲ離レタル當時ノモノヲ併記スルモノトス

注意　軍事救護法實施ニ關シ報告通報手續大正六年十二月十九日官報、官應彙報參照

（乙號ノ二）

軍人救護法實施ニ關スル件

大正六年十二月二十二日
陸軍次官囘答

首題ノ件ニ關シ十一月十六日附發地第二五二號ヲ以テ照會ノ趣キ了承右ハ別紙ノ通達相成候條承知相成度

追テ每月地方長官ヨリ貴省ヘ報告相成候軍事救護報告寫一部宛當省ヘ御送付相成候樣致度尙下士兵卒ノ家族ニシテ軍事救護法第九條、第十一條、第十二條ニ依リ其ノ救護ヲ停止若クハ救護ノ程度ヲ減少セラレタル者ニ關シテハ地方長官ヨリ本人本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ通報方取計相成度申添候

（別紙達ハ大正六年十二月二十二日官報達欄參照）

●軍事救護法實施ニ關シ通知方ノ件

大正七年二月
民地第三八〇號民政長官代理通牒

首題ノ件ニ付別紙ノ通內務省地方局長ヨリ地方長官ヘ通牒候趣通牒有之候ニ付御參考迄ニ
右通牒ス

（別紙）

地發第二五二號
大正七年一月二十八日

添田內務省地方局長

各府縣知事殿

軍事救護法實施ニ關シ通知方ノ件

標記ノ件左記ノ通岡山縣知事ノ照會ニ對シ及囘答候條右ニ依リ御取扱相成度爲念及通牒候

記

岡山縣知事　笠井信一

內務省地方局長殿

軍事救護法實施ニ關シ通知方ノ件

大正六年十二月二十二日附內務省發地第二五二號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ通牒有之候處右ハ救護ヲ開始シタル者ニ付テハ現ニ軍籍ニ在ルト否トニ拘ラス悉ク陸軍ニ在リテハ本籍地所管ノ聯隊區司令官海軍ニ在リテハ在籍鎭守府ノ海軍人事部長ヘ通知スヘキ筋ニ候哉右御囘報相煩度

追テ通知ノ要項モ併セテ御囘報相煩度

添田內務省地方局長

笠井岡山縣知事殿

軍事救護法實施ニ關シ通報方ノ件囘答

標記ノ件本月十七日附發乙第五五號ヲ以テ御照會相成候處右ハ御見込ノ通リ現ニ軍籍ニ在ルモノナルト否トニ拘ラス卽チ傷病兵又ハ軍人遺族ニ在リテモ其ノ救護ノ開始、停止、廢止竝ニ程度減少ニ付テハ陸軍ニ在リ

テハ本籍地所管ノ鎮隊區司令官海軍ニ在リテハ在橫須賀鎮守府ノ海軍人事部長ヘ通知スヘキ筋ニ有之候

追テ通知要項ハ軍事救護法第五條ノ下士兵卒又ハ傷病兵ノ下士卒タリシ當時ノ官職氏名、救護ヲ受クル家族、遺族數竝ニ救護ノ開始、停止、廢止又ハ程度減少ノ年月日等ヲ摘示候樣致度

●軍事救護法ニ依ル救護費等ニ關スル件

大正七年四月
民地第六八八號民政長官代理依命通牒

大正六年十二月二十一日民地第三五八二號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ依命及通達置候處大正七年度以降ニ於ケル救護費ハ毎三箇月分ノ概算御見込ノ上各其初月ノ前月五日迄ニ請求相成度

右依命通達ス

●軍事救護法ニ依ル救護ノ始期ニ關スル件

大正七年四月
民地第七〇七號民政長官代理依命通達

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通內務省地方局長ヨリ內地地方長官ニ通牒候趣通知有之候ニ就テハ本島ニ於テモ右ニ依リ御取扱相成度

右依命通達ス

【寫】
內務省發地第三五號
大正七年二月二十二日
添田內務省地方局長
地方長官宛

軍事救護ニ關スル件通牒

軍事救護法ニ依ル救護許可指令書ニ救護ノ始期ヲ指定スルニ當リ願書ノ日附以前ニ溯ルコト能ハサルハ勿論ニ有之候モ願書受理ノ後許可ノ指令ヲ交付スル迄ニハ諸般ノ調査ノ爲メ相當時日ヲ要スヘク從テ救護ノ始期ハ願書ノ日附以後ナル限リ指令書日附ノ以前ニ溯ルコト別ニ妨ナキ儀ニ有之候條右ニ御了知相成度

●軍事救護法ニ依リ義手義足ノ修理費又ハ新調費給與ノ件

大正七年四月
民地第八八七號民政長官代理依命通達

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通內務次官ヨリ內地地方長官ニ通牒候趣ニ付通知有之候ニ就テハ本島ニ於テモ右ニ依リ御取扱相成度

右依命通達ス

【寫】
內務省發地第四二號
大正七年三月九日
水野內務次官
地方長官宛

義手義足修理費又ハ新調費給與ノ件

軍事救護法ニ依リ救護ヲ受クヘキ者ニシテ義手義足ノ修理又ハ新調ヲ要スルモ其ノ費用ヲ自辨シ得サル者ニ對シテハ醫療救護トシテ之ヲ給與シ別ニ妨ナキコトニ決定相成候間此段及通牒候也

追テ本文ノ場合ニ於テモ一般ノ醫療救護ト同シク必要ノ範圍ヲ超ユルヲ得サル儀ニ付單ニ裝飾ノ爲メニ保存スル者ノ如キニ對シテハ之ヲ給與シ得サル儀ト御承知相成度爲念申添候

●軍事救護法實施ニ關シ通知ノ件

大正七年五月
民地第一〇一三號民政長官通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通リ內務省地方局長ヨリ內地地方長官ニ通牒候趣通知有之候條御了知相成度

右通牒ス

【寫】
地發第一二二號
大正七年三月十九日
添田內務省地方局長
縣知事宛

軍事救護法實施ニ關シ通知ノ件

軍事救護法實施ニ關シ救護地タル本人住所地ト本籍地ト異ナル場合其連絡方ニ付テハ兎ニ角々通牒ノ次第モ有之夫々相當方法ヲ講セラレ居候事ト存候處被救護資格ヲ喪失スヘキ身分上ノ異動ヲ生シタル場合又ハ軍事救護法第八條乃至第十條ニ該當スル刑ニ處セラレタル者アル場合ニ於テハ時機ヲ失セス本籍地ヨリ救地ニ通報候事ニ御取計相成度爲念此段及通牒候

●軍事救護ニ關スル件

昭和三年六月十六日
總文第三〇二號總務長官依命通達

今般動員令ニ依ル應召下士兵卒又ハ出征現役兵ノ家族ニ對スル軍事救護ニ關シテハ別紙社會局長通牒ノ趣旨ニ依リ取扱ヒ萬遺憾ナキヲ期セラルヘク

右依命通達ス

（別紙）

昭和三年六月四日
社會局長官

臺灣總督府總務長官殿

軍事救護ニ關スル件

今般動員令ニ依ル貴管下居住ノ應召下士兵卒又ハ出征現役兵ノ家族ニ對スル軍事救護及慰藉ニ就テハ既ニ應急適切ナル方途ヲ講セラレツツア

リト被存候得共左記事項ニ付一般ノ御留意相成萬遺憾ナキヲ期セラレ度

記

一　市町村當局ヲ督勵シ軍事救護法該當ノ要救護者ヲ實地調査ノ上救護出願ノ手續及救護ニ支障ヲ來サル樣努ムルコト

一　軍事救護法ニ該當セサルモ救護ノ必要アル者ニ就テハ市町村又ハ私設團體ヲシテ救護セシムル等適當ナル方途ヲ講スルコト

一　前項ノ救護及其ノ他ノ慰藉ハ出征兵ノ歸還ニ至ル迄繼續セシムル樣特ニ留意スルコト

一　公吏ニ就テハ昭和三年五月十七日丙第四七二號ヲ以テ內務大臣秘書官ヨリ各地方長官ニ對シ文官又ハ特選職員ニシテ此際召集セラレタル者ノ取扱ニ關スル通牒ニ準シ市町村長ヲシテ適當ナル措置ヲ講スルコト

一　應召下士卒ニシテ會社銀行其ノ他ニ於テ從業セシ者ニ就テハ歸還後ノ就職等ニツキ事業主ニ特ニ考慮ヲ求ムルコト

一　新規救護ノ爲配付豫算ニ不足ヲ生スルコト明トナリタルトキハ殘額ナキニ至ル凡一箇月前所定ノ樣式ニ依リ請求書提出スルコト

右通牒ス

●陸軍恤兵品無賃輸送ニ關スル件

昭和三年六月十二日
總內第八九六號總務長官通牒

今囘ノ派兵ニ關スル陸軍恤兵品ノ輸送ハ當府所管ノ鐵道ハ大貨物扱ニ限リ無賃輸送ノ取扱ヲ爲ス旨交通局總長ヨリ報告有之候ニ付

追テ恤兵金品ノ取扱ニ就テハ明治三十七年二月十二日陸軍省告示第四號恤兵金品取扱規程（該規程中廳長トアルハ州知事、廳長、支廳長トアルハ郡守、市尹、支廳長ト解シ取扱フコト）ニ依リ御取扱又今囘ノ恤兵事務ハ昭和三年五月十七日陸軍省告示第十三號ヲ以テ陸軍大臣官房ニ於テ取扱フ旨告示セラレ居候條爲念申添候

●職業紹介所設置ニ關スル件

大正十年九月
總內第七〇八一號總務長官依命通達
大正十年九月
庶第四三三〇號庶務課長依命通達

職業紹介所ノ施設ヲ爲サントスルトキハ大略別記各項ヲ參酌シ施行上遺漏ナキヲ期セラレ度

右依命通達ス

記

一　職業紹介所設置ニ付テ

（イ）職業紹介所ハ成ヘク專用ノ場屋ニ之ヲ設ケシメ若他ノ場屋ノ一部ヲ以テ之ニ充ツル時ハ劃然タル障壁等ノ區劃ヲ施シ專用ノ出入口ヲ設ケシムルコト

（ロ）職業紹介所ニハ受付室、待合室（必要ニ應シ男子部女子部等ニ區分スルコト）應援室（求職係ト求職者トノ交渉ヲ絶スル室ナルヲ以テ少クトモ三室位ニ區分スルコト）ヲ設ケ又ハ其ノ他適當ナル區劃ヲ施スコト

（ハ）土地狀況ニ依リ授產場、宿泊室、食堂、浴場、理髮室等ヲ附設スルコト

二　職業紹介所ニハ處務規程ヲ設ケシムルコト

三　職業紹介所ニハ左ノ票簿及ヒ設備ヲ爲サシムルコト

イ　求人票

ロ　求職票

ハ　紹介日計簿

以上三票簿ハ別紙樣式ニ準シ調製セシムルコト

ニ　廻轉式カード函（求人票、求職票、紹介票ヲ區別シ收容スル設備ヲ爲スヘキモノトス）（成ルヘク設備ノコト）

ホ　求人申込票

ヘ　求職申込票

ト　紹介狀

チ　求人者返信端書

以上別紙樣式アリ

四　職業紹介所ヲ設置シタルトキハ直ニ左記事項ヲ具シ報告スルコト其ノ之ヲ變更シタル時亦同シ

イ　名稱

ロ　位置

ハ　設備

ニ　職員定數

ホ　事業經營ニ關スル諸規定

ヘ　開所年月日

ト　職員氏名

五　職業紹介所ニハ所長ヲ置キ所務ヲ處理セシムルコト

前項ノ外職業紹介所ハ成ヘク專務ノ職員ヲ置キ事務ノ分掌ヲ定ムヘキコト

六　職業紹介所ニハ委員會ヲ設置シ職業紹介所ノ事務經營諮問機關タラシムルコト

七　求人又ハ求職ノ申込ヲ受ケタルトキハ住所氏名其ノ他必要ナル事項ヲ求人票、求職票ニ登錄スヘキコト

但シ日傭勞働ニ關スル申込ニ付テハ此ノ限ニ在サルコト

求人番號		求人票				職業別
求人者	氏名		職業			
	住所					
	途筋					
	電話		屋號			
雇入ノ條件	職務					
	人員		期間			
	年齡		保證			
	教育		經驗			
	時間		夜業			
	給料 住込	日月 給給	歩増			
	給料 通勤	日月 給給	食事			
備考						
登錄日時	大正 年 月 日		取扱者			

大正 年 月 日紹介日計表

職業		求人數 男	求人數 女	求人數 計	求職者數 男	求職者數 女	求職者數 計	紹介件數 男	紹介件數 女	紹介件數 計	就職者數 男	就職者數 女	就職者數 計	備考
一、工業及鑛業	1製糸													
	2紡織													
	3染色													
	4裝身具													
	5機械器具													
	6船舶車輛													
	7電氣瓦斯													
	8金屬工業													
	9製藥													
	10燒寸													
	11肥料													
	12製紙													
	13製版印刷													
	14食料品													
	15嗜好品													
	16採鑛冶金													
	17其他													
	小計													
二、土木建築	18大工													
	19左官													
	20石工													
	21土方日雇													
	22其他													
	小計													
三、商業	23店員													
	24小店員													
	25商店雜役													
	26飲食雇人													
	27行商													
	28其他													
	小計													

裏

職業分類	求職表	登錄番號
氏名	年齡	
現住所		
原籍地及戶主トノ關係		
保證人住所氏名職業		
保證人トノ關係	當地在住日數	
前雇主ノ住所氏名職業		
前職務	前職務期間	
前給料	教育	
資格經驗	家族	
失業日時	失業原因	
希望條件 職務	給料	
希望條件 其他		
備考		
登錄日時	大正 年 月 日	登錄者印

裏

紹介日時	求職者氏名	紹介番號	順末	紹介者印
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				

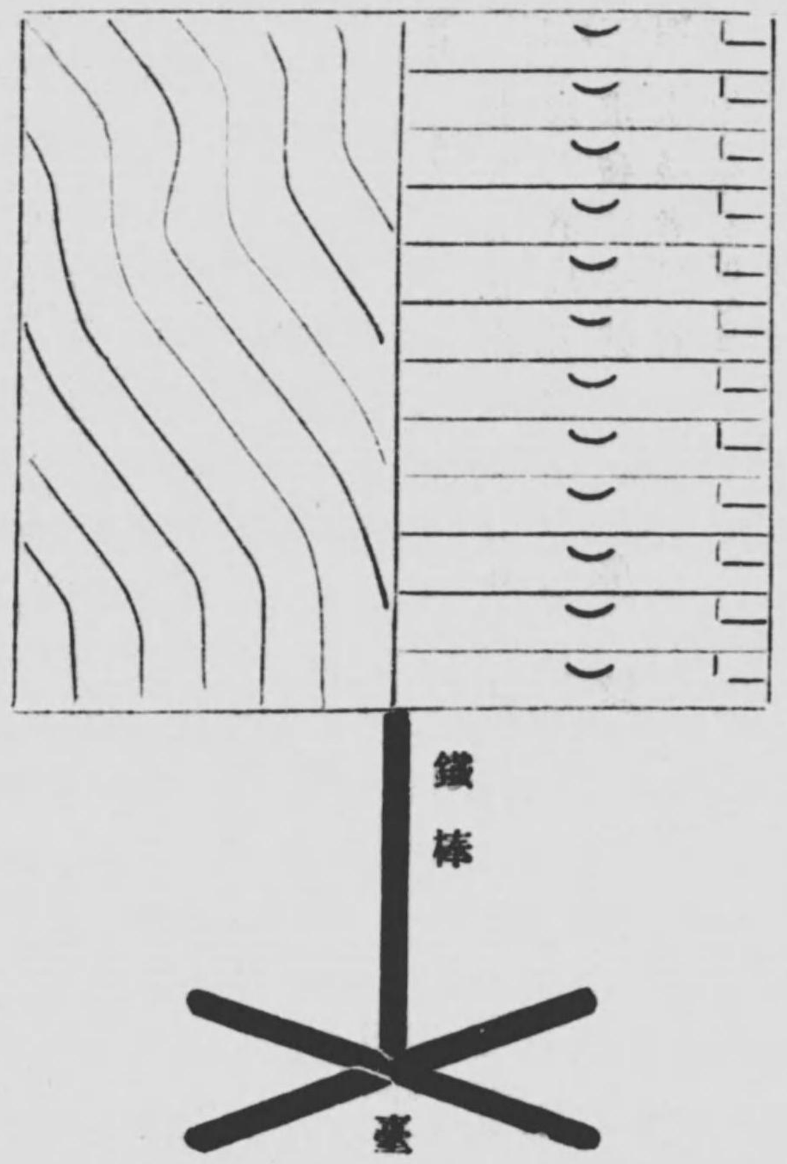
裏

紹介番號	紹介月日	求人番號	紹介職務	紹介氏名	先名	順末	取扱者印

就職順末						
	雇主住所					
	職務					
	給料	通勤	日給 月給	歩増		
		住込	日給 月給	食事		
	特殊條件					
	決定日時	大正 年 月 日				

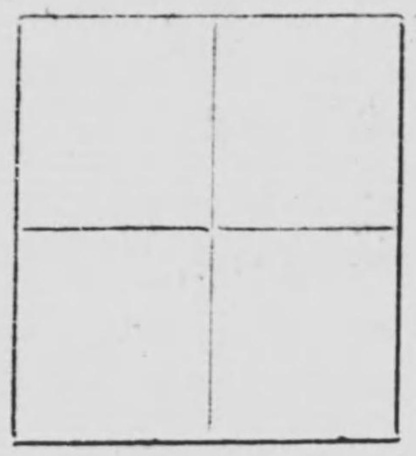
四、農林業	29農作園業													
	30養蠶													
	31林業													
	32其他													
	小計													
五、水產業	33漁撈養殖													
	34製鹽													
	35其他													
	小計													
六、通信運輸	36船員													
	37鐵道從業員													
	38電鐵從業員													
	39自動車從業員													
	40通信從業員													
	41運送業													
	42車夫馬丁													
	43其他													
	小計													
七、戶內使用人	44僕婢													
	45乳母兒守													
	46書生給仕													
	47													
	48													
	小計													
八、雜	49官公吏													
	50教員													
	51事務員													
	52看護人													
	53醫師													
	54藥局生													
	55集金人													
	56配達人													
	57理髮													
	58娛樂場雇人													
	59其他													
	小計													
無希望														
合計														

廻轉式カード函（正面）



備考
一　求人票ハ職業別
二　求職票ハいろは順

同上（頂面）



求人申込書

(一)登錄番號
(二)登錄年月日
(三)氏名
(四)現住所
(五)職業
(六)申込員數　男　人　女　人
(七)希望年齡
(八)雇入方法及給料　（通勤）月額　日額　（住込）月額　日額
(九)雇入後職務

求職申込書

(一)登錄番號
(二)登錄年月日
(三)希望職業
(四)氏名
(五)年齡
(六)原籍
(七)現住所
(八)保護人氏名
(九)同上現住所

注意
(1)携帶品ハ御注意下サイ
(2)申込番號順位ニ依リ受付マスカラ待合ニテ御待下サイ
(3)煙草吹殼ハ待合所備付ノ煙草盆ニ御入レ下サイ

第　號

紹　介　狀

(一)氏　名
(二)年　齡
(三)現住所
(四)本籍及續柄
(五)保證人　住所
(六)(七)保證人トノ關係

使用人需用の御申込に依り右御紹介申上候條御面談の上萬事御取極め相成度候若し御決定に候はゞ別紙端書記載の各項に相當御記入の上直に御返送相成度尚ほ御雇入御見合せの場合には(七)の項へ「不調」と御記入直に御返送被下度候也

大正　年　月　日

住所
何々職業紹介所

殿

第　號

(一)求人票番號　第　號
(二)求人者氏名
(三)求職票番號　第　號
(四)(五)求職者氏名

紹介狀交付時日

裏

郵便はがき

何々州何々街何番地
何々職業紹介所　御中

切手貼用

求職票整理番號　第　號

(一)被雇入氏名
(二)雇入時日（雇入年月日ヲ記入スルコト）
(三)雇入方法（通勤又ハ住込ト記入スルコト）
(四)雇入後職務（使役ノ目的即チ書記、小使、園丁、保姆、炊夫ナトヲ記入）
(五)賃　銀（月給何程又ハ日給何程ト記入ノコト）
(六)食　事（賃銀以外ニ食事ヲ給與スルヤ否ヤ記入ノコト）

備考　御相談相調ハサル場合ハ(七)ノ項（其ノ旨御記入相成度
御紹介被下候入物右之通決定候條及通知候也
大正　年　月　日

●公設質舖ノ利率ニ關スル件

大正十年九月
總財第二九八九號總務長官通知

首題ノ件ニ付テハ地方ノ事情ニ依リ一率ヲ期シ難キ理由ナキニアラス候得共曩ニ大正九年六月十二日附總財第三五二〇號ヲ以テ臺北廳長ヘ別紙寫ノ通リ通牒致候間利率詮議上ノ參考ニ資セラレ度

右通知ス

（別紙）

大正九年六月
總財第三五二〇號總務長官發臺北廳長宛

公設質舖業務規則第十三條ニ依リ利率ノ認可ヲ受ケラルル場合ハ別表ノ利率ニ依リ禀議相成候樣致度

右通牒ス

別紙利率ハ大正九年六月十六日臺北廳報第九百五十五號臺北廳告示第八十五號參照ノ事

●公設質舖事務監査ニ關スル件

大正十四年四月七日
總內第一九八二號總務長官代理依命通達

大正十四年四月調令第三十八號公設質舖事務監査ニ關スル件發布相成候處尚監査ノ細目ニ付テハ別册監査心得相定メラレ候條

右依命通達ス

第二輯　庶務課　第三章　教育係　第四節　社會事業

公設質舖事務監査心得

第一條　監査官吏ハ監査ニ着手前臨監ノ章ヲ主事ニ示スヘシ

第二條　監査官吏ハ監査ニ際シ主事又ハ其ノ代理人ヲ立會セシムヘシ

第三條　監査官吏ハ主事ノ署名シタル監査前日ニ於ケル質舖ノ諸勘定ヲ記載シタル計表ヲ徴スヘシ

第四條　監査官吏ハ主トシテ左ノ事項ヲ監査スヘシ

一　質舖業務規則、同施行細則其ノ他ノ關係法規、內規又ハ取引ニ關スル契約等ニ違反スル事項ノ有無

二　業務經營ノ良否

第五條　監査ハ主トシテ帳簿、證憑書其ノ他ノ書類及現物ニ付之ヲ行ヒ特別ノ事情アルモノノ外左ノ順序ニ依リ之ヲ行フヘシ

一　現　金

二　質物及流質物

1　有價證券、貴金屬
2　衣類其ノ他

三　其ノ他ノ事項

第六條　監査スヘキ帳簿左ノ如シ

一　現金出納簿、資本金臺帳、質物臺帳、流質物臺帳、辨濟金仕拂整理簿、缺損補塡金整理簿、通知簿

二　各種ノ補助帳簿

第七條　監査スヘキ現物左ノ如シ

一　現金及預ケ金通帳

二　質物
三　流質物
四　業務用什器其ノ他

第八條　監査スヘキ證憑書其ノ他ノ書類
一　質舖ニ於テ發行シタル質札其ノ他ノ證書ノ原符又ハ控受取證及取引ノ證憑トナルヘキ書類
二　評價調書、質物内譯書及各種ノ傳票
三　往復書類、内規、各種ノ記錄、取引先ヘノ通知訴訟關係書類其ノ他

第九條　質物其ノ他現物ノ數量、價格、擔保金額等ハ各種帳簿ト各之ヲ對照シ尚各種帳簿ノ記載事項ハ傳票其ノ他記帳材料及證據書類ト對照スヘシ

第十條　監査官吏カ法令ノ規定ニ關シ監査上注意スヘキ主ナル事項左ノ如シ
一　業務規則（以下規則ト稱ス）第五條又ハ第九條ノ規定ニ違反シ一件三百圓以上又ハ五十錢以下ノ貸付ヲ行フコトナキヤ
二　一人ニ對スル多額ノ貸付ヲ爲シ規則第五條ノ規定ヲ脫スル行爲ナキヤ
三　規則第六條ノ規定ニ違反シ主事又ハ主事補ニ於テ質入又ハ流質物ノ買受ヲ爲スコトナキヤ
四　規則第十二條ノ規定ニ依リ禁止セラレタル質物ヲ受入ルルコトナキヤ
五　贓物ノ受入ハ取扱者ノ惡意ニ出テタルコトナキヤ
六　業務規則施行細則（以下細則ト稱ス）第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ質物ノ保存方法ニ缺クルコトナキヤ
七　規則第二十二條ニ依リ損害賠償ヲ爲シタルトキハ質物ノ亡失毀損ノ原因如何又辨償金ハ所定ノ期間内ニ支拂ハレタルヤ
八　流質期間ハ規則第十六條乃至第十八條ニ依リ適法ニ計算セルヤ流質物ハ規則第二十四條第二十五條及細則第十九條乃至第二十三條ニ依リ適法ニ處分セラレタルヤ
九　細則第二十四條ニ違反シ現金ヲ他ノ費用ニ流用スルコトナキヤ其ノ保管方法適當ナリヤ
十　細則第六條ノ規定ニ違反シ貸掛借掛ヲ行フコトナキヤ
十一　現金其ノ他質物亡失ノ事實アラハ其ノ原因如何之ニ對シ細則第十六條所定ノ手續ヲ了シタルヤ
十二　法定帳簿ヲ具備スルヤ又ハ之カ記入ヲ怠リ若ハ記載明瞭ヲ缺クコトナキヤ
十三　認可ヲ受ケスシテ之ヲ受クヘキ事項ヲ行フコトナキヤ
十四　報告、告示、揭示又ハ通知ヲ怠タルコトナキヤ
十五　法令内規ニ規定セル施設ヲ怠タルコトナキヤ
十六　使用人ニ犯罪行爲ナキヤ
十七　前各號ノ外質舖業務規則同施行細則其ノ他ノ關係法規ニ違反スルコトナキヤ

第十一條　監査官吏カ事業經營ノ良否ニ付監査上注意スヘキ主ナル事項左ノ如シ
一　事務所ノ位置設備適當ナリヤ又業務執行ノ組織ニ不備ナキヤ
二　質物ノ評價貸付額適當ナリヤ情實的貸付ノ有無如何
三　質入受質及流質ノ狀況如何
四　貸付ハ不良ナル用途ニ對シ行ハルルコトナキヤ
五　資金ハ事業狀況ニ徵シ適當ナリヤ
六　收益多額ニ過ヤサルヤ經費トノ關係如何
七　内規其ノ他ノ規定中改正ヲ要スル事項ナキヤ
八　使用人ノ使用監督動情信用及性行等如何
九　營業振及之ニ對スル世評如何
十　質舖所在地方ニ及ホス社會的經濟的效果如何

第十二條　監査官吏ハ監査ヲ行フニ際シ可成質舖ノ業務上支障ヲ生セシメサル樣注意スヘシ

●低利資金ニ關スル件

大正十四年六月二十九日
總内第三三〇八號總務長官代理依命通達

從來低利資金ハ借入申請者ノ信用ニ付慣重調査ノ上必要ナル條件ヲ具備スル者ニ對シ貸出方詮議相成タル次第ニ候處右資金ニ依リテ遂行シタル事業ヲ他人ニ讓渡スルト共ニ債務ノ引受ヲ爲サシメ其ノ間ニ利益ヲ得ムトスルモノ之有之哉ニテ若シ事實ナリトスレハ低利資金供給ノ趣旨ニ反スルノミナラス其ノ弊害夥カラサルコトト被認候條監督方御勵行相成度若シ已ムヲ得サル事由ニ依リ右樣ノ處分ヲ爲サムトスル時ハ其ノ事由ヲ具シ當府ノ承認ヲ得シムル樣御取扱相成度又家屋建築ヲ目的トシテ組合ヲ組織シ本資金ノ融通ヲ受ケタルモノニ在リテモ特別ノ事由ナクシテ組合員ノ持分讓渡ヲ認ムルニ於テハ右同樣ノ結果ト可相成候條監督方併テ御注意相成度
右依命通達ス

○臺北成德學院入院内規ニ關スル件

大正八年十一月十日
民内第六二七八號總務長官依命通達

明治四十二年九月二十一日附民總第三二九三號ノ二ヲ以テ臺北成德學院入院内規ニ關シ通牒致置候處自今年齡滿十八歲未滿ニシテ本府ニ於テ入院セシムルノ必要アリト認ムル者ニ對シテハ同内規第一條ノ制限ニ依ラス入院セシムルコトニ決定相成候條右御了知ノ上御取扱可相成
又依命通達ス

成德學院入院内規

明治四十二年九月
民總第三二九三號總務長官依命通達

第一條　左記各號ノ一ニ該當スルモノニシテ親權者後見人又ハ保正甲長若ハ警察官ノ注意ヲ以テ矯正スルコト能ハスト認ムル者ハ成德學院ニ入院セシムルコトヲ得
一　滿八歲以上十四歲未滿ニシテ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ行爲ヲナシタルモノ
二　滿八歲以上十八歲未滿ニシテ遊蕩、乞丐、惡交其他不良行爲アルモノ

第二條 前條ニ該當スルモノニシテ廳長ニ於テ入院ノ必要アリト認ムルトキハ第一號樣式ニヨリ入院認定書ヲ作リ戸口調査簿謄本ヲ添ヘ總督府ニ差出スヘシ

第三條 總督府ニ於テハ入院認定書ヲ調査シ入院ノ必要アリト認ムルトキハ成德學院ノ收容員數ヲ斟酌シ其ノ旨所轄廳長ニ通牒スルモノトス

第四條 廳長前條ノ通牒ヲ受ケタルトキハ親權者又ハ後見人ニ對シ第二號樣式ニ依リ入院願書ヲ差出サシムヘシ但シ親權者又ハ後見人ナキトキハ保正ヲシテ之ニ代ラシムヘシ前項ノ願書ニハ街庄、社長ヲシテ奧書セシムヘシ

第五條 前條ノ入院願書ハ所轄廳長檢閲ノ上成德學院ニ送付スヘシ

第六條 入院許可書ハ成德學院ヨリ廳長ニ送付シ廳長ハ之ヲ出願者ニ送達シテ入院ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第七條 入院ノ場合ハ出願者自ラ附添若クハ確實ナル代理人ヲシテ附添ハシメ入院者ヲ成德學院ニ送ルヘシ適當附添人ナキトキハ保正又ハ其代人ヲシテ之ニ代ラシムヘシ

第八條 前條ノ費用ハ出願者ノ自辨トス出願者自辨スルコト能ハサルトキハ保甲費用ヲ以テ支辨スルコトヲ得

第九條 入院者在院中ノ費用ハ當分ノ內成德學院ノ負擔トス

第一號樣式

入院認定書

氏名		住所
		生年月日
成育ノ有樣		
性質行狀		
教育ノ程度		
體質		
宗教		
扶養義務者トノ關係		
成育者ノ意見		
一家ノ關係	扶養義務者	氏名 年齡 身分 職業 資產
	親族其他同居者	氏名
	本人トノ續柄	特ニ參考トナルヘキモノノ性質素行
		性質素行
其ノ他參考トナルヘキ事項		

右之通ニ付感化ノ爲成德學院ヘ入院セシムルノ必要アルモノト認定候也

大正 年 月 日

廳長

第二號樣式

入院願

原籍

現住所

何某

年 月 日生

右入院相願候上ハ院則竝ニ御訓示ヲ遵守可爲致ハ勿論處遇等ニ付異議申立又ハ在院中隨意退院セシムル等ノ事致間敷尙本人ノ身上ニ係ル事柄ハ一切引受可申ニ付御許可相成度保證人連署此段相願候也

大正 年 月 日

原籍

現住所

身分職業(親權者又ハ後見人又ハ保正)

出願人 何某㊞

原籍

現住所

身分職業

保證人 何某

街庄社長 何某

臺北成德學院長殿

診査書

氏名		年齡
遺傳素因		
視器及聽器		
口舌齒牙		
皮膚		
關節運動器		
神經系及精神狀態		
呼吸器		
秘尿生殖器		
其ノ他ノ疾患		
現在疾患ノ豫後		
身長及體量		

右之通診査候也

大正 年 月 日

醫師

第四章　土木係

第一節　營繕

●營繕及土木工事施行規程ニ依ル認可及報告省略ノ件

明治四十三年六月二十三日
總土第五六三號民政長官依命通達

營繕及土木工事ニシテ寄附ノ受納又ハ特別賦課ニ關シ設計仕樣書竝圖面相添ヘ認可ヲ受ケタルモノハ更ニ認可申請ニ不及義三十九年四月民土第六十五號ヲ以テ及通達置候處右以外ニシテ設計仕樣書竝圖面相添ヘ新ニ工費ノ配賦若ハ流用方申請シ其ノ配賦又ハ認可ヲ受ケタル場合モ前同樣明治三十七年五月訓令第百七十一號營繕及土木工事施行規程第一條第一項ノ認可ヲ經タル義ト了承可有之依命此段及通達候也

追テ前文同條第二項但書ノ報告ヲモ要セサル義ト了承可有之申添候也

●建物ノ移轉、移築、改築ニ關シ認可報告ノ場合添付書類等ニ關スル件

明治四十五年五月二十三日
民地第一二九四號民政長官依命通達

從來國庫又ハ地方費區財產ノ內建物ノ移轉、移築、改築（豫備金ノ支辨ニヨルモノト雖モ事實改築ト爲ル（キモノヲ含ム）等ニ係ルモノハ明治三十七年五月訓令第百七十一號營繕及土木工事施行規程ニ依リ工事施行ノ認可ヲ要スル外尙財產ノ處分ニ關シ官有財產管理規則ニ基キ認可ヲ要シ候處自今事務簡捷ヲ圖ル爲メ之ヲ省略シ營繕及土木工事施行規程ニ依リ稟申又ハ報告ノ際（四十三年六月總土第五六三號寄附受納又ハ特別賦課ニ關シ認可ヲ受クルモノニ付テモ亦同シ）規程ニ依ル添付書類ノ外移轉、移築ノ場合ハ移轉地ヲ適當トスル理由竝其ノ敷地ノ官民有區分（若シ敷地ノ民有ニ係ル場合ニハ該地使用ノ方法又ハ官有地ニ組入ノ方法）及移築改築ノ場合ニハ舊建物ノ取毀材料中使用セサル殘餘材料ノ概數及其ノ整理方法ヲ記載シタル書類ヲ添付シ提出可相成依命此段及通達候也

●學校建築ニ關スル注意條項ニ關スル件

大正六年六月二十六日
民學第九五七號民政長官代理依命通達

公學校教育ノ普及ヲ圖ルコトハ本島統治上刻下ノ急務ナリサレハ學校ノ經理ニ關シテハ細心ノ注意ヲ拂フヲ要スルハ勿論殊ニ校舍ノ構造設備ニ關シテハ從來其ノ急不急ヲ查察シ地方ノ民力ニ鑑ミ之ニ適應スルノ設備ヲ爲シ來レリト雖モ今後ハ更ニ此ノ方針ノ徹底ニ努メ從來ニ比シ一層質實簡易ヲ旨トシ經費ノ節減ヲ圖リ以テ成ルタケ人民ノ負擔ヲ輕減スルノ必要アルヲ認メラレ今般府令第二十七號ヲ以テ現行公學校規則第八章設備ニ關スル條項ニ改正ヲ加ヘラレタル次第ナリ就テハ右改正ノ趣旨ヲ體セ

ラレ施設監督其ノ宜シキヲ得テ益々公學校教育普及ノ實績ヲ擧ケラルヘク尚之カ實施ニ當リテハ別記各項特ニ注意可相成
右依命通達ス

學校建築ニ關スル注意條項

一　學校教育ノ要ハ内容ニ存シ校舍ノ外觀ニ存セサルニ由リ建築及設備ニ關シテハ質素堅牢實用ヲ旨トスルコト

二　校舍ノ構造及設備ハ土地ノ狀況ニ適應スヘク其ノ材料ノ如キモ其ノ土地ニ於テ最モ經濟的ナルモノヲ使用スルコト但シ建築用材料トシテ土塊ノ使用ハ絕對ニ之ヲ許ササルコト

三　校舍ノ各室ハ必要ニ應シ普通教室トシテ使用シ得ヘキ樣設計スルコト

四　講堂ハ特ニ之ヲ建築スルヲ許サス但シ屋内體操場ヲ設ケル場合ニ限リ兼用スルコトヲ得

五　廊下及屋内體操場ノ床ハ質素ヲ旨トシ兒童衞生上飛塵豫防ト堅硬ニ過キサル硬度トヲ有セシムルコト

六　屋内體操場便所廊下、小使室、兒童寄宿舍等ハ天井ヲ張ルヲ要セス教室及其ノ他ニ於テモ苟モ建築上天井ヲ張ラサルコトヲ得ヘキモノニ在リテハ成ルヘク之ヲ省クコト

七　教室出入口及採光通風窓ハ必ス引戸又ハ引違障子トシ開キ戸及上下スルモノ又ハ回轉スルモノハ之ヲ避クヘキコト

八　採光窓ノ下桟ト牀面トノ間ノ通風裝置ハ土地ノ狀況ニヨリ之ヲ設ケルモ可ナルコト

●營繕災害狀況ハ直チニ報告ヲ要スヘキ件

大正八年二月二十一日
民十第一七四號民政長官代理依命通牒

災害復舊工事費ハ災害費豫算取扱ノ手續ニ依リ速ニ要求可相成ハ勿論流失倒壞等重大ノ被害アリシ場合ニ於テハ先以テ電報ニ依リ其ノ概況ヲ報告セラルルカ如キハ當然ノ措置ニ可有之然ルニ往々成規ノ期限ヲ經過シテ要求書ヲ提出シ又ハ豫メ復舊見込額ヲ報告セスシテ要求書ヲ提出セラルル向有之甚シキハ廳舍官舍ノ全潰等重大ナル被害アリシニ拘ラス何等ノ豫報ナク而モ被害ノ時ヨリ一箇月以上ヲ經過シテ突然要求書ヲ提出セラレタル向モ有之爲ニ實況調査ノ時期ヲ失ヒ隨テ災害費豫算ニ編入漏レト相成モノ又ハ豫算配賦ノ遲延トナリ施設上支障尠カラサルノミナラス實施上適當ノ時期ヲ失シ復舊工事ノ目的ニ副ハサルニ至レルヲ以テ自今災害費豫算ノ要求ハ其ノ取扱手續ニ依リ被害ノ大小ニ拘ラス迅速ニ處理可相成尚被害ノ重大ナル場合ニ於テハ先以テ電報ニ依リ其ノ概況ヲ報告可相成
右依命通達ス

●標準官舍設計施行ニ關スル件

大正八年八月十九日
土庶第一三八四號ノ一土木局長通牒

判任官以下官舍標準ニ關シ官舍構造上ニ於ケル設計低減ニ付御通達相成候處營繕及土木工事施行規程第二條第二項ニヨリ報告可相成ハ勿論ナリト雖現在標準ニヨル官舍設計及低減調書ニ示セル設計ニ對シテハ豫算内譯及配置圖ノ添付ニ止メ更ニ之ヲ變更セントスル場合ハ其ノ變更部分ニ限リ詳細ナル圖面仕樣書ヲ添付シ御提出相成度
右通牒ス

追テ官舍設計低減ニ關スル御通達ハ工費ヲ節約シ多數ノ官舍ヲ新築セントスルノ御趣旨ナルニヨリ大正八年度末施行ノ分モ之ニ準據シ可成多數ノ官舍ヲ增設相成樣御配意相成度

●廳舍官舍ノ建築ニ使用ノ「コンクリート」及「モルタル」ニ關スル件

明治四十三年九月
土督第六八〇號土木部長依命通牒

從來廳舍官舍其他ノ建築ニ要スル「モルタル」ハ石灰調合ノモノヲ使用シ來リ候處右ハ白蟻ノ蝕害ヲ被リ易ク煉瓦造ノ建築ト雖モ尚其目地ヲ傳ハリ若クハ「モルタル」ヲ蝕破シテ内部ニ侵入セル事實アルヲ發見スルニ至リ石灰調合ノ「モルタル」ハ本島建築ノ爲メ不適當ト認メ候ニ付既ニ當部ニ於テハ其主要部分ニ對シテハ一切「セメント、モルタル」ヲ使用致居候條自今貴廳ニ於テモ下水壇壁等比較的强度ノ接合力ヲ要セサルモノ及白蟻侵蝕ノ影響ヲ他ニ及ホササル部分ヲ除ク外建築物ノ耐久力ヲ支持スヘキ重要部分ニ對シテハ豫算ノ許ス限リ「セメント、モルタル」ヲ使用スルコトニ御取扱ノ事トシ尚「コンクリート」モ右同樣ノ義ト御承知相成度條
ニ煉瓦積及ホ「コンクリート」等ハ空隙ヲ生セサル樣一層御注意相成度依命此段及通牒候也

追テ當部ニ於テ使用スル「モルタル」ハ通常「セメント」一、砂三ノ調合ニ有之其殊ニ必要ノ部分ニ對シテハ一、ト二ノ調合トシ「コンクリート」ハ「セメント」一、砂三、砂利六ノ調合ニ致居候處念申添候也

●寄附及特別賦課ニ依ル派出所用建物標準改正ノ件

大正三年一月
民財第一三一號民政長官依命通達

明治四十二年民財第四二〇八號通達ノ警察官吏派出所設計書及圖面標準別紙ノ通リ改正セシニ付自今右ニ依リ取扱可相成
右依命通達ス
（圖面省略）

●警察官吏派出所營繕ニ關スル件

大正六年一月
本警第八〇號民政部警察本署長通牒

警察官吏派出所新築、增築、改築、修繕ニ關シ關係部局長ト協議ノ上左記ノ通リ決定致候條御承知相成度
右通牒ス

左記

一　新築ハ當該派出所受持區域内ノ寄附又ハ特別賦課ニ依ルコト

二　増築、改築、移築、模様替及修繕等ハ主トシテ當該派出所受持區内ノ寄附ニ依リ難キ事情アルトキハ特別賦課ニ依ルコトヲ得

三　前二項ニ依リ難キ場合ハ情ヲ具シ稟申スルコト

四　土地ノ狀況ニ依リ新築工事標準ニ依リ難キトキハ適宜ノ設計書ヲ作成シ詳細ナル事情ヲ具シ認可ヲ受クルコト

●鐵筋コンクリート材料使用ニ關スル件

大正九年六月十九日
總土第五九一號總務長官通牒

營繕工事中鐵筋コンクリート工事ニ就テハ近來鐵筋ノ腐朽ニヨリ「コンクリート」ニ龜裂ヲ生シタル實例ヲ發見シタルモノアリ右ハ其ノ原因材料中ニ鹽分ヲ含ミタルニ起因スルモノト認メラルルニ依リ危險防止ノ爲メ網今鐵筋コンクリート材料中鹽分ヲ含ミタル砂、砂利ノ如キハ洗滌ノ上之ヲ除去シ使用スルコトニ努メラレ度

右通牒ス

●判任官六級以下巡査官舍ノ坪數増加ニ關スル件

昭和二年九月二十七日
會營第三一〇號ノ一總督官房會計課長通牒

先般開催セラレタル警察會議ノ協議事項百題官舍坪數増加ノ件（臺南州提案）ニ付當課ノ意見別紙ノ通ニ付御了知相成度

（別紙）

判任六級以下及巡査官舍ノ坪數増加ニ關スル件

臺南州提案

警員日常ノ執務ニ對スル休養ノ一方法トシテ官舍標準坪數増加ノ件ニ關シテハ當課ニ於テモ官舍ノ配給方法ト共ニ年來考慮中ナリ就中提案ノ丁種官舍坪數増加ニ付テハ最モ緊切ナル問題ナリトシ目下慎重研究中ニ屬ス左ニ當課ノ意見ヲ丙種及丁種ニ分チテ述フヘシ

一　丙種

時勢ノ變遷ニ伴ヒ官舍ノ標準モ變更改サレタルカ種々ノ事情ニ依リ一時ニ多クノ坪數ヲ増加スルコトハ不可能ナリ當課ニ於テモ異議ナシ但シ提案理由ニ八疊間ノ取設ケ不能トアルモ種々考究ノ結果現在坪數ニテ是ヲ取設ケタル別圖參考相成度（圖面省略）

一　丁種

現在丁種官舍ハ十二坪ナルヲ以テ狹隘ニシテ居住上多大ノ不便ヲ感シツツアリ就中浴室ハ現在坪數ニテハ殆ト不可能ナル狀態ナルヲ以テ從來共同浴室ヲ別棟ニ建築シ居タルカ是亦經濟上不得策ナルノミナラス使用上種々ノ不便アリ故ニ姑息ノ手段トシテ假建物ヲ増築シ急ヲ凌キ居ルカ完全ナル防蟻設備ナキ爲メ白蟻ヲ本家ニ誘引スルコト全島ニ亙リ屢實見スル所ナリ依テ當課ニ於テモ本件ハ緊要ナル問題トシテ目下標準改正方考慮中ナリ尚參考迄ニ現在標準坪數ニ依リ設計セル平面圖ヲ供ス

前各項ニ依リ難キ場合ハ事由ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

●區役場平面圖送付ノ件

昭和四年二月十四日
會營第六六號總督官房會計課照會

從來廳地方費支辨ニ係ル區役場新築工事ニ關シ營繕工事施行規程ニ依リ報告相成居候モノノ中設計ニツキ遺憾ノ點有之モノ見受ラレ候條將來設計スルニ當リ參考迄ニ別紙圖面二葉及送付候也

（圖面省略）

●營繕工事進捗注意方ノ件

昭和四年六月十日
總財第三四二號總務長官依命通達

豫算ノ實行ニ當リテハ豫算本來ノ目的ヲ達成スルニ遺憾ナキヲ期スヘキハ勿論國家經濟ノ見地ヨリ其ノ效果ヲシテ一層有效ニ發揮セシムルニ努ムヘキハ言ヲ俟タス然ルニ從來營繕工事ハ概シテ年度末期ニ至リ漸ク竣成スルノ狀態ニシテ動モスレハ年度内ニ竣功セハ足ルモノトノ觀念ノ下ニ起工セルニ非スヤト認メラルル嫌アリ借家宿舍料等ノ經費ニ直接關係アルノミナラス事業ノ進捗事務ノ能率ニ影響スル所不尠ヲ以テ工事施行ニ當リテハ此ノ點ヲ顧慮シ極力速成ニ努メ遺憾ナキヲ期セラレ度

右依命通達ス

●臺灣總督府官舍建築標準

大正十一年六月二十四日
總督内訓第一三號

第一條　官舍ヲ建築セムトスルトキハ本規則ニ依ルヘシ

第二條　官舍ノ設計ハ構造ノ堅牢ト實用トヲ旨トシ土地ノ狀況、衞生及維持保存ノ關係ニ注意シ官吏ノ住宅トシテ適當ナル考案ヲ爲スヘシ

第三條　官舍ノ建築ヲ分チテ左ノ八種トス

一　高等官官舍　第一種、第二種、第三種及第四種

一　判任官官舍　甲種、乙種、丙種及丁種

第四條　官舍ノ等級ハ前條記載ノ順序ニ依ル

第五條　官舍ノ敷地面積、建物延坪數竝官舍配當ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

官舍種別		配當	建物延坪數	道路敷ヲ除キタル敷地坪數
高等官舍 第三種	第一種	勅任官、稅關長	百坪以內	建物坪數ニ對シ約六倍乃至七倍
	第二種	高等官三等、總督府所屬各官衙長及各課長、州事務官中等以上學校長	五十五坪以內	同　約五倍半
	第三種	高等官四等以下總督府所屬各官衙長及各課長、稅關支署長、專賣支局長、州及廳各課長、專賣支局長、中等以上學校長、郡守、一等郵便局長又ハコレニ準スルモノ	四十六坪以內	同　約四倍半
	第四種	高等官六等以下、稅關支署長、專賣支局長、州及廳各課長、郡守、一等郵便局長又コレニ準スルモノ	三十三坪以內	同　約四倍
判任官舍 甲種		判任二級俸以上、廳郡課長、支廳長、法院監督書記、監獄支監長、二等郵便局長、稅關支署長、專賣局支局長又ハコレニ準スルモノ	二十五坪以內	同　約四倍
判任官舍 乙種		判任官五級俸以上郡課長又ハコレニ準スルモノ	二十坪以內	同　約三倍半
判任官舍 丙種		判任官六級俸以下巡查、看守及コレト同等待遇官	十五坪以內	同　約三倍半
判任官舍 丁種			十二坪	同　約三倍

前項ノ標準建物延坪數中ニハ左記ノモノヲ算入セス

一　二階建以上ノ場合ニ於ケル階段室ノ坪數

二　石、煉瓦、コンクリート造等ニ於ケル壁厚ノ坪數

第六條　官舍ニハ其ノ等級ニ應シ別ニ二坪乃至十坪以內ノ附屬物建物（物置、車置場ノ類）ヲ附設スルコトヲ得

第七條　官舍ハ左ノ區分ニ依リ獨立又ハ連續建ヲ建築スヘシ

一　一戶建

高等官官舍第一種

高等官官舍第二種

高等官官舍第三種

高等官官舍第四種

二　二戶建

判任官官舍甲種

判任官官舍乙種

判任官官舍丙種

三　四戶建

判任官官舍丁種

敷地其他ノ都合ニヨリ前項ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ之ヲ適宜ニ分離又ハ連續シテ建築スルコトヲ得

第八條　第五條ノ規定ニ依リ難キトキハ其ノ事由ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

第九條　市街庄其ノ他公共團體ノ宿舍建築標準ハ本則ヲ準用セシムヘシ

第十條　官舍建築ニ關スル從前ノ通達ハ之ヲ廢止ス

●營繕工事施行規程

大正十四年十二月二十四日
總督訓令第一一八號

第一條　國庫又ハ廳地方費支辨ニ係ル營繕工事中左ニ揭クルモノハ申請書ニ設計書、仕樣書及圖面ヲ添付シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ但シ一廳ノ工事費一萬圓未滿ノ工事及鐵道竝港灣工事ニ直接關聯セル特殊ナル工事ハ此ノ限ニ在ラス

一　特ニ藝術的意匠ヲ要スヘキ建築物

二　階數二階以上ノ建築物

三　「コンクリート」、「鐵筋コンクリート」又ハ其ノ製品竝鐵材ヲ構造ノ主要部ニ使用スル張間五間以上若ハ高サ三十尺以上ノ建築物

第二條　前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ工事以外ノ營繕工事ノ內一廳ノ工事費五百圓以上ノ工事ハ設計確定ト同時ニ設計書ニ仕樣書及圖面ヲ添付シ臺灣總督ニ報告スヘシ但シ左ニ揭クル工事ハ此ノ限ニ在ラス

一　假設工事

二　鐵道竝港灣工事ニ直接關聯セル特殊ナル工事

第三條　國庫ニ寄附セラレタル價格五百圓以上ノ工作物ハ之カ受納ト同時ニ圖面及仕樣書ニ設計書又ハ價格調書ヲ添付シ臺灣總督ニ報告スヘシ

第四條　臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ設計書、仕樣書及圖面ヲ交付シ又ハ計畫ノ標準ヲ示スコトアルヘシ

第五條　本令ニ基キ提出スル認可申請書又ハ報告書ノ冒頭ニハ其ノ費目ヲ明記スヘシ

附　則

大正十一年訓令第三十四號中營繕工事ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第六條　設計書ニ仕樣書及圖面ヲ添付シ工費ノ配賦若ハ指定豫算ノ內譯變更又ハ工費流用ノ認可ヲ受ケタルモノハ第一條及第二條ヲ適用セス

●道路ノ改廢ニ關スル件

明治三十三年二月
裏參乙第三九號

道路ハ軍隊ノ行動上ニハ勿論國防ニ關係ヲ有スル儀ニ候間自今貴部ニ於テ主ナル住民地若ハ港灣ニ至ル道路ヲ新設若ハ改廢相成候節ハ豫テ御通報ヲ煩ハシ當僚ノ意見參酌御計畫相成樣致度將又道路ノ新設若ハ改修竣工ノ節ハ其ノ都度右道路準線ノ經過地點路幅路面ノ構造橋梁ノ結構及幅員等御通報相煩度此段及御照會候也

追テ小衙庄ノ一局部ヲ相互連絡スル小道路ノ如キハ本文ノ限ニ無之儀ト御承知相成度申添候（陸軍幕僚ヨリ民政長官ヘ照會）

●道路設備準則

明治三十三年十月
民土第五一二號

第一條　公共ノ用ニ供スル重要ノ道路ヲ分ツテ左ノ三種トス

一　一等道路
二　二等道路
三　三等道路

第二條　左ノ道路ハ一等道路トス

一　臺北ヨリ臺灣神社、各縣廳又ハ樞要ノ港ニ達スル道路
二　一等道路ヨリ分岐シ樞要ノ地又ハ他ノ一等道路ニ達スル重要道路

前各號ニ揭クル道路ト雖鐵道線路ト併行スルモノハ二等道路ト爲スコトヲ得

第三條　左ノ道路ハ二等道路トス

一　縣及廳所在地ヨリ其ノ管轄辨務署所在地ニ達スル道路
二　縣及廳所在地ヨリ樞要ノ港津樞要ノ鐵道停車場又ハ樞要ノ地ニ達スル道路
三　樞要ノ地ヨリ樞要ノ港津樞要ノ鐵道停車場一等道路二等道路又ハ他ノ樞要ノ地ニ達スル道路
四　樞要港津ヨリ樞要ノ鐵道停車場一等道路又ハ二等道路ニ達スル道路
五　樞要ノ鐵道停車場ヨリ一等道路又ハ二等道路ニ達スル道路
六　縣及廳ノ所在地ノ重要ナル道路

第四條　左ノ道路ハ三等道路トス

一　辨務署所在地ヲ連絡スル道路
二　辨務署所在地ヨリ樞要ノ港津、鐵道停車場又ハ樞要ノ地ニ達スル道路
三　樞要ノ地ヨリ樞要ノ港津、鐵道停車場、一等道路、二等道路、三等道路又ハ他ノ樞要ノ地ニ達スル道路
四　樞要ノ港津ヨリ鐵道停車場、一等道路、二等道路又ハ三等道路ニ達スル道路
五　鐵道停車場ヨリ一等道路、二等道路、三等道路ニ達スル道路

第五條　道路ノ幅員（濶抜及並木敷ヲ包含ス）ハ左ノ如シ

一等　七間以上
二等　六間以上
三等　五間以上

調査標準

道路撰定ハ左ノ標準ニ據リ調査スルモノトス但シ土地ノ情況ニヨリ此ノ標準ニ據リ難キモノハ斟酌スルコトヲ得

一　平面圖ハ管内ヲ一葉ニ製シ其ノ縮尺ハ五萬分ノ一トス道路ノ等級ハ色別ヲ以テ區分スヘシ

一　道路勾配ハ成ルヘク左ノ割合ヲ越ヘサラシムヘシ

一等道路　凡　三十分ノ一
二等道路　凡　二十五分ノ一
三等道路　凡　二十分ノ一

一　曲線ノ半徑ハ六間ヲ下ラサルモノトス
一　堀割及盛土ノ斜面勾配ハ凡一割以上トス
一　道敷中凡三間ヲ以テ濶抜並木敷ニ充ツ
一　道路ノ他管轄ニ連絡スルモノハ其ノ管轄廳ニ協議シ等級ヲ定ムヘシ

●道路新設、改築竣工ノ都度陸軍幕僚ニ通報ノ件

明治三十七年六月
民秘第六三七號

道路ハ軍隊ノ行動上及國防上ニ關係ヲ有スルニ付自今各廳ニ於テ施工スル新設改築道路中主ナル住民地若ハ港灣ニ至ル等（小街庄ノ一局部ヲ相互連絡スル道路ノ如キハ之ヲ含マス）ノモノハ竣工ノ都度經過地點路幅、路面ノ構造、橋梁ノ結構及幅員等陸軍幕僚ヘ通報可相成依命此段及通達候也

●橋梁暗渠ノ區分ニ關スル件

明治三十八年六月
民土第八二六號民政長官依命通達

橋梁ト暗渠トノ區分ハ左記ノ通リ決定候ニ付依命此段及通達候也

左記

徑間六尺未滿ニシテ其被覆土一尺五寸以上アルカ又ハ徑間三尺未滿ノモノハ總テ暗渠トシ其他ヲ橋梁トス

●道路敷地及勞力寄附認可申請又ハ報告書ニ記載事項ノ件

明治三十八年七月
民土第九四四號民政長官通牒

道路敷地及勞力寄附認可申請又ハ報告書提出ノ際ハ道路ノ起點、終點、重ナル經過地、連絡スル前後ノ道路竝一街庄社内ノミニ止ムル道路ナリヤ否等必ス記載相成度此段及通牒候也

●歩道ヲ國有道路トシテ整理ノ件

明治三十九年
民財第五六九九號民政長官依命通達

街路ノ改正ニ依ル歩道取扱方ニ關シ三十九年十一月十一日附臺南總第一一七九號稟申十一月二十二日認可相成候ニ付テハ右國有歩道ハ臺灣地租規則第一條第四號ニ依ル道路トシ土地臺帳及地圖ヲ整理可相成依命此段及通達候也

●道路橋梁其他土木工事ヲ保甲ニ施行セシムル件

明治三十八年七月
民土第九一七號民政長官通牒

各廳ニ於テ道路橋梁其他土木及營繕工事施行ニ際シ經費ノ不足スルトキ又ハ豫算ノ不足ヲ豫想シ得ヘキトキニ於テ其費額限リ請負又ハ直營ニテ施行シ殘工事ノミヲ義務的ニ地元保甲ニ工事ヲ爲サシムル向有之哉ニ相聞候處右ハ萬一事實トセハ保甲制度ノ上ニ於テ頗ル齟齬ヲ要スル義ニ付若シ右樣ノ場合有之トキハ特別ノ技能ヲ要セサル工事ナラハ相當監督ノ下ニ最初ヨリ之ヲ保甲ニ受負ハシムル等相當ノ處置ヲ取リ保甲ヲシテ甚シキ困難ヲ感セシメサル樣篤ト注意相成度此段特ニ及通牒候也

●要塞地帶内道路新設改修ノトキ陸軍幕僚ニ通報ノ件

明治四十年四月
民土第六一一號民政長官依命通達

道路ヲ新設シ若クハ改修セルトキハ陸軍幕僚ヘ通報方ノ件ニ付三十七年六月二十三日民秘第六三七號ヲ以テ及通達置候處要塞地帶内ニ在リテハ小街庄ノ一局部ヲ相聯絡スル小道路ノ新設若クハ改修ト雖自今其ノ竣功ノ都度經過地點道幅路面ノ構造橋梁ノ結構及幅員等陸軍幕僚ヘ通報相成度依命此段及通達候也

●道路並木植付竝廳界標木設置ノ件

明治四十四年八月
民内第五〇九二號民政長官照會

各廳下主要道路ノ中從來並木ヲ植付交通者ノ便ヲ謀リタル箇所モ有之候

得共未タ充分ナルニ至ラス且植付後手入不行届ノ爲折角植付ケタル樹木ヲ枯損セシメ候モノモ尠カラス本島内ノ各道路ヘ並木ヲ植付ルハ獨リ交通上ニ便利ヲ與フル施設ナルノミナラス公衆衛生上ノ裨益モ亦尠カラサル義ト思料セラレ候ニ付各主要道路ヘ並木ヲ植付且植付後保存手入ニ付適宜ノ方法ヲ設ケ候樣御配慮相成度此段得貴意候也

追テ廳併合後廳界標木未タ建設セラレサル向モ有之樣相見候ニ付是又御取計相成度申添候

●道路臺帳規則

大正五年六月
總實訓令第五八號

第一條　指定道路ノ既成部分ニ於ケル國式道路臺帳、橋梁臺帳及暗渠臺帳ハ本令ニ依リ調製スヘシ（廳長）ハ管内ニ於ケル國式道路臺帳、橋梁臺帳、橋梁一覽及暗渠臺帳正副二通ヲ調製シ其ノ正本ヲ（廳）ニ保管シ副本ヲ土木局ニ提出スヘシ

記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ正本ヲ加除シ翌月十日迄ニ土木局ニ報告スヘシ

第二條　土木局長ハ（廳長）ヨリ提出ノ國式道路臺帳、橋梁臺帳及暗渠臺帳ヲ査閲シ之カ異動其ノ他一切ノ整理ヲ爲スヘシ

第三條　國式道路臺帳ハ別册第一號樣式ニ依リ左記事項ヲ登錄スヘシ

一　道路ノ名稱
二　起點、終點
三　開鑿又ハ改修年月（起工及竣工年月）
四　工費及費途
五　道路及堡、里、街、庄境界ノ位置
六　道幅
七　砂利敷
八　並木
九　側溝
十　勾配、曲線、折線
十一　浸水
十二　地質
十三　橋梁、隧道、渡船場及徒涉場
十四　暗渠

第四條　橋梁臺帳ハ別册第二號樣式ノ二ニ依リ左記事項ヲ登錄スヘシ

一　道路ノ名稱
二　橋梁ノ名稱
三　所在地ノ名稱
四　位置
五　架設年月
六　工種
七　溪流ノ名稱
八　溪底ノ地質
九　工費及費途
十　橋體ノ構造
十一　橋臺ノ構造
十二　橋脚ノ構造
十三　溪ノ横斷面
十四　修繕

第五條　橋梁一覽ハ別册第二號樣式ノ一ニ依リ調製スヘシ

第六條　暗渠臺帳ハ別册第三號樣式ニ依リ左記事項ヲ登錄スヘシ

一　道路ノ名稱
二　暗渠ノ名稱
三　所在地ノ名稱
四　位置
五　架設年月
六　工種
七　工費及費途
八　長、幅、高及構造
九　修繕

第七條　（廳長）ハ道路ノ起點ニ起點杭、六町毎ニ町杭、一里毎ニ里杭、終點ニ終點杭、橋梁、暗渠、渡船場、徒涉場ニ其ノ名稱杭ヲ建設スヘシ但シ橋梁、暗渠ニ其ノ名稱ヲ記入セルモノハ名稱杭ヲ建設スルコトヲ要セス

町杭及橋梁、暗渠、渡船場、徒涉場ノ名稱杭ハ二寸五分角、長二尺五寸ノ杭トシ土中ニ一尺五寸打込ムヘシ

里杭、起點杭及終點杭ハ五寸角長六尺ノ杭トシ土中ニ三尺打込ムヘシ

前各項ノ杭ニシテ木杭ヲ用ヰルトキハ地上ニ露出スル部分ハ白「ペンキ」三回塗トシ文字ハ黑「ペンキ」ニテ書シ土中ニ埋沒スル部分ハ「コールタール」塗トスヘシ

分岐道路ノ起點杭ニハ幹線道路ニ於ケル分岐點ノ里程ヲ併記スヘシ

町杭、里杭、起點杭、終點杭及橋梁、暗渠、渡船場、徒涉場ノ名稱杭ハ交通ニ妨ケナク且最安全ニシテ見易キ位置ヲ選ミ起點ヨリ終點ニ向ケ左側ニ建設スヘシ、但シ地形上已ムヲ得サル場合ハ右側ニ建設スルコトヲ得

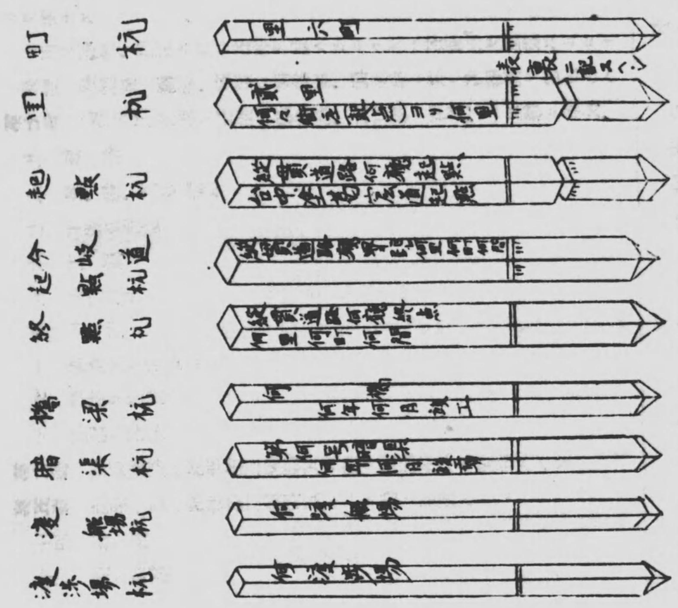
橋梁、暗渠、渡船場、徒涉場ノ名稱杭ハ線路起點ニ近キ一端ニ建設スヘシ

里杭又ハ町杭ノ位置溪流其ノ他建設上障害アル場所ニ該當スルトキハ附近安全ノ位置ニ建設シ其ノ位置ノ里程ヲ記入スヘシ但シ町杭ハ便宜省略スルコトヲ得

杭ノ文字記入方ハ別記雛形ノ例ニ依ルヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



●圖式道路臺帳異動報告

二關スル件

大正七年三月
工庶第五九四號

異動報告樣式別紙ノ通相定候ニ付本月分ヨリ實行相成度

樣式一　圖式道路臺帳異動報告

道路名	種別	位置	延長	道路幅 前改修	道路幅 後改修	工費	費途	年竣月功	全里程 前改修	全里程 後改修	摘要
						円					

右報告ス
昭和　年　月　日
花蓮港廳長
臺灣總督府交通局總長　殿

備考
異動箇所ハ圖式道路臺帳用紙ニ記載添付スヘシ
尚道路線變更ノ場合ハ圖面(二萬分ノ一)ニ位置ヲ示シ添付スヘシ
費途ハ國庫 { 事業費 / 災害費 / 其ノ他 }
營繕土木費 地方稅 災害費 / 其勞力 / 其ノ他 (特別賦課、寄附) ニ分チ豫算
科目ノ目迄記入スヘシ(橋梁暗渠共同シ)

樣式二　橋梁臺帳異動報告

道路名	位置	名稱	箇所ノ異動	種別	名稱	構造 前改修	構造 後改修	長及幅 前改修	長及幅 後改修	工費	費途	年竣月工	摘要
										円			

右報告ス
昭和　年　月　日
花蓮港廳長
臺灣總督府交通局總長　殿

樣式三　暗渠臺帳異動報告

道路名	位置	名稱	種別	名稱	切造及寸法 前改修	切造及寸法 後改修	長及内徑 前改修	長及内徑 後改修	工費	費途	年竣月工	摘要
									円			

右報告ス
昭和　年　月　日
花蓮港廳長
臺灣總督府交通局總長　殿

樣式四　圖式道路臺帳、橋梁臺帳、暗渠臺帳被害報告

道路名	種別	位置	名稱	箇所	被害	工種	狀態	被害	長	幅	年月	被害	摘要

右報告ス
大正　年　月　日
花蓮港廳長
臺灣總督府土木局長　殿

附記

國式道路臺帳、橋梁臺帳、暗渠臺帳異動整理

國式道路臺帳異動整理ハ左ノ方法ニ依ルヘシ

一　道路ハ修繕又ハ改修セル場合ハ別紙樣式ニ依リ土木局長ニ報告シ應備付ノ國式道路臺帳訂正ヲナスヘシ

一　橋梁又ハ暗渠ノ異動アリタル時ハ別紙樣式ニ依リ報告シ橋梁暗渠正本ヲ加除訂正シ國式道路臺帳モ同樣ニ訂正スヘシ

道路、橋梁、暗渠其ノ他ニ被害アリタル時ハ別紙樣式ニ依リ報告シ、同時ニ各臺帳ヲモ訂正スヘシ

●道路橋梁幅員竝同用地其ノ他ニ關スル件

大正九年八月
土庶第一七八六號土木局長照會

從來開設ノ指定道路橋梁幅員竝同用地其ノ他ニ關シテハ一定セルモノナク各廳ヨリ種々照會等モ有之候處當局ハ可成別紙ニ依リ施行致度方針ニ有之候間出來得ル限リ便宜ノ方法ニ依リ處理相成候樣致度

右照會ス

（臺北、宜蘭、阿緱、臺東、花蓮港廳長宛ハ左記ノ追書ヲ加フ）

「追テ將來縱貫道路トナス　ヘキ豫定路線モ別紙ニ依リ處理相成度豫定路線圖添付ス」

（別紙）

（臺北、桃園、新竹、臺中、嘉義、臺南、阿緱、臺東、宜蘭、花蓮港各廳長宛ノモノ）

一　道路ノ幅員及用地

一　平地ニ於ケル縱貫道路ハ第一、二國其ノ他ノ指定道路ハ第五、六國ニ依ルコトトシ市街地（人家稠集部落）ヲ通過スル場合ハ民情又ハ土地ノ狀況其ノ他ノ關係上亭仔脚又ハ歩道ヲ除キタル幅員カ市街地外ト同一ナルコト能ハサル時ハ市街地外適當ノ地點ニ連絡道路ヲ設クルコト

一　山地ニ於テ特ニ急峻ナル山地又ハ其ノ他ノ事情ニ依リ前項ニ依リ難キ箇所ハ縱貫道路ハ第三、四國其ノ他ノ指定道路ハ第七、八國ニ依ルコトヲ得但シ將來縱貫道路トス（キ豫定路線中蘇澳花蓮港間ハ當分ノ間第七、八國ニ準スルコトトス（此但書ハ宜蘭花蓮港ノ兩廳長宛ノモノノミニ限ル）

一　用地

各標準國ノ全幅トス但シ切取リ又ハ盛土ノ箇所ハ加工シタル法肩又ハ法尻ヨリ外端六尺迄ヲ用地トス

二　橋梁ノ幅員

一　縱貫道路

長三十間未滿ハ實用幅二間半以上

長三十間以上ハ實用幅三間以上

一　指定道路

長三十間未滿ハ實用幅二間以上

長三十間以上ハ實用幅二間半以上

但シ急峻ナル山地ニシテ第七、八國ニ依リ改修スヘキ箇所ニアリテハ長三十間以上ト雖モ實用幅二間トナスコトヲ得

備考

假橋ニアリテハ橋板ノ都合上實用幅僅ニ十尺五寸位ニ設計スルモノアルモ之等モ實用幅十二尺ヲ有スル樣考案スルコト

三　雜則

一　路面ノ橫斷勾配ハ二十四分ノ一トシ中央ニ於テ相當弧形ヲ保タシムルコト

二　市街內ニテモ一般交通道路ト牛車道トヲ並木ニテ區分スルコト

三　市街內ニハ可成軌道ノ敷設ヲ禁スルコト

四　鐵道又ハ軌道水平橫斷箇所ノ勾配ハ二十分ノ一以上トシ道路幅ハ標準國ニ準スルコト但シ已ムヲ得サル場合ハ最小限度ヲ中央道路幅（牛車道ヲ有スル道路ニアリテハ兩側並木間、山地ニアリテハ左右下水ノ內肩間片切道路ニアリテハ下水內肩及並木間）迄減縮スルコトヲ得

五　道路カ鐵道又ハ軌道ノ下ヲ通過スルトキハ道路面上十三尺五寸以上ノ餘裕ヲ保タシメ其幅員ハ標準國ニ準スルコト但シ已ムヲ得サル場合ニ最小限度ヲ中央道路幅（牛車道ヲ有スル道路ニアリテハ兩側並木間ノ外ニ下水敷ヲ含ミ山地ニアリテハ左右下水ノ外肩間、片切道路ニアリテハ下水ノ外肩及並木間）迄減縮スルコトヲ得

●指定道路ニ關スル件

大正十三年四月二十八日
土庶第八一〇號土木局長通牒

現在道路臺帳ニ記載ノ道路ヲ指定道路トシ頒令指定道路ニ編入ノ必要アルモノハ別紙第一號標準ニ依リ第二號ノ事項ヲ具シ稟申相成度尙標準中幅要ノ地ハ別紙第三號ニ依リ選定相成度

右經伺ノ上通牒ス

追而一部路線ノ變更ニシテ一市街庄內ニ止マルモノ又ハ道路ノ名稱變更等ハ其都度報告相成度申添候

第一號　指定道路編入標準

指定道路ノ路線ハ左ノ一ニ該當スルモノトス

一　臺北市ヨリ州廳所在地又ハ幅要ノ港津ニ達スル路線

二　主トシテ軍事又ハ警察上ノ目的ヲ有スル路線

三　州廳所在地ヨリ隣接州廳所在地ニ達スル路線

四　州廳所在地ヨリ州廳內郡市役所又ハ支廳所在地ニ達スル路線

五　郡市役所又ハ支廳所在地ヨリ隣接郡市役所又ハ支廳所在地ニ達スル路線

六　州廳所在地ヨリ州廳內幅要ノ地港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

七　州廳內幅要ノ地ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル幅要ノ地港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

八　州廳內幅要ノ港津ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル幅要ノ地又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

九　州廳內、幅要ノ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル幅要ノ地又

ハ港津ニ達スル路線

十　數市街庄ヲ連絡スル重要ナル幹線ニシテ其ノ沿線地方ト密接ノ關係ヲ有スル樞要ノ地港津又ハ鐵道停車場ニ達スル路線

十一　樞要ノ港津又ハ鐵道停車場ヨリ之ト密接ノ關係ヲ有スル指定道路ト連絡スル路線

十二　地方開發ノ爲メ必要ニシテ將來前各號ノ一ニ該當スヘキ路線

第二號　指定道路編入稟申具備事項

一　路線名
一　編入標準該當番號
一　編入路線起終點
一　重要ナル經過地
一　編入路線延長
　　內譯
　　道路延長　　橋梁延長　　渡渉場延長
　　道路開通延長　　道路未開通延長
一　道路最大最小幅員
一　路線附近市街庄ノ戶口及產業狀態
一　編入標準第七號乃至第十一號ニ該當スル路線ニ付テハ密接關係ノ說明書
一　編入標準第十二號地方開發ノ爲メ必要ナル路線ニ付テ其ノ事由
一　平面圖
　　二萬分ノ一壹圖ニ編入路線（赤色）ヲ記入シ他ノ關係路線（青色）ヲ記入セラレ度シ

●道路新設改修其他ニ付臺灣軍司令部ヘ通報方ノ件

大正十四年十一月二十日
總交第八一三號總務長官依命通達

主要都市又ハ港灣連絡ノ新設改修又ハ交通杜絶等ニ關シテハ臺灣軍司令部ヘ通報ノ要有之右ハ當府ニ於テ取纏メ提出可致ニ付左記要領ニヨリ取扱可相成

右依命通達ス

記

一　道路ノ新設若ハ改廢ノ際ハ臺灣軍司令部ノ意見ヲ聞クノ要アリ豫メ當府ニ協議ノコト

二　道路新設改修工事竣功ノ節ハ二萬分ノ一壹圖ニ路線記入シ延長幅員路面ノ構造橋梁暗渠設計概要ヲ記入通報ノコト

三　風水害ニ依ル道路及橋梁暗渠破損交通不可能ノ場合ハ其ノ位置及程度ヲ記入通報シ交通恢復ノ際亦其ノ旨通報ノコト

四　添付文書ハ總テ二通送付ノコト

●道路橋梁工事其他通報方ノ件

昭和三年二月二十五日
交通第二四二號交通局總長照會

當局主管ニ屬スル道路橋梁工事其他ニ關スル事項ハ是迄便宜總督府報告例ノ規定ニ基キ御報告ヲ得來候處今回該例中ニ規定スヘキモノニアラストシテ削除相成候ニ就テハ當局事務上必要有之候ニ付同事項ニ關シテハ是迄ノ報告ニ引續キ別紙樣式ニ依リ御通報ヲ得度此段及照會候

道路其他被害詳報（何庁）　昭和　年　月　日（被害ノ日）

臨時報	種別	被害位置及所在地	工種	箇所	破損流失崩潰	延長	面積	立方	損害見積額
	道路	何郡何街庄字何々	何々工事			間尺	坪	坪	円
	計								
	橋梁	何郡何街庄字何々	何々工事						
	計								
	港灣	何郡何街庄字何々	何々工事						
	運河	何郡何街庄字何々	何々工事						
	計								
記事									

一　道路ノ名稱アルモノハ其ノ名稱ヲ「種別」欄ニ記入シ名稱ナキモノハ單ニ「何地何地間」ト記入スルコト

二　「工種」ノ欄ニハ橋梁ニアリテハ木橋、竹橋、石橋、鐵橋又ハ鐵筋混凝土橋等港灣ニアリテハ鐵筋混凝土岸壁等記入スルコト

三　被害ノ影響ハ之ヲ「記事」欄ニ記入スルコト

年報（提出期日翌年七月末日迄）

州（廳）市街庄道路橋梁其他工事　昭和　年度

所屬	工事種別	位置概要	設計ノ着手竣功年月日	豫算額	施行額	殘額	摘要
州（廳）費	道路橋梁工事 何々工事			円	円	円	
	計						
	港灣工事 何々工事						
	計						
	運河工事 何々工事						
	計						
	合計						
何市費	何々工事 何々工事						
	計						
	合計						
何街費	何々工事 何々工事						
	計						
	合計						
何庄費	何々工事 何々工事						
	計						
總計							

一　本表ハ各州市街庄費ノ區分ニ從ヒ年度内ニ施行シタル道路橋梁工事港灣工事及運河工事ヲ各別ニ記入スルモノトス

二　「設計ノ概要」欄ニハ工作物ノ種類、構造、形狀、面積、延長、幅員、其ノ他必要ナル事項ヲ記入スルモノトス

三　繰越又ハ繼續事業ハ其ノ總豫算事業期間及年度内竣功歩合ヲ「摘要」欄ニ記入スルコト

四　補助若ハ寄附ニ依ルモノハ各其ノ金額ヲ「摘要」欄ニ記入スルコト

五　一工事中ノ現品寄附及勞力無償提供等ハ各其ノ見積評價格ヲ「摘要」欄ニ記入スルコト

六　測量ハ之ヲ工事ト看做ス

月報　（提出期日翌月十日迄）

昭和何年度國庫、廳地方費臨時費支辨道路橋梁其他工事　昭和　年　月

工事名ノ區別	直營又ハ請負ノ別	著手年月日	竣功進行歩合	豫算額	設計額	確定額	前月迄計	本月中	殘額	摘要
				円	円	円	円	円	円	

一　本表ハ國庫、廳地方費ニ分チ各別ニ調製スルモノトス

二　本表ハ國庫、廳地方費支辨ニ屬スル道路、橋梁、港灣及運河ニ關スル工事ニ關シ寄附アリタルトキハ其ノ要項ヲ「摘要」欄ニ記入スルコト

三　豫算ノ配賦ヲ受ケタルモノハ著手ニ至ラサルモ本表ニ記入シ事務進捗ノ要領及其ノ費目ヲ「摘要」欄ニ記入スルコト

四　工事ヲ請負ニ付シタルトキハ其ノ請負金額及竣功期限ヲ又直營ニ係ルモノハ竣功豫定期限ヲ「摘要」欄ニ記入スルコト

五　既ニ通報シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ次ノ月報ニ於テ訂正シ其ノ異動事由ハ詳細ニ之ヲ「摘要」欄ニ記入スルコト

第三節　河川　水道

●水位觀測量水標移轉ニ關スル件

昭和四年一月十七日
内土第四八號内務局長通牒

一月九日附花土第一四號ヲ以テ首題ノ件御通報相成候處爾今量水標移轉ヲ要スル場合ハ豫メ事由ヲ具申シ承認ヲ經タル上施行相成樣致度

右通牒ス

●河川法實施ニ關スル件

昭和四年二月二十一日
總内第一四八號總務長官代理依命通達

從來河川ニ關シテハ明治三十七年訓令第五十六號工事ニ關シ知事廳長ニ於テ許可ヲ爲ス場合認可ヲ受クヘキ件及大正二年府令第六十二號臺灣河川取締規則ヲ適用セラルル外明治三十二年律令第十五號瀕面埋立及海埔浮洲埋立開墾制ヲ準用セラレタルモ何レモ極メテ抽象的規定ニ過キス河川ノ行政、工事ノ實施ニ當リ常ニ遺憾トセシ所ナリシカ今回内地現行ノ河川法ヲ臺灣ニ施行セラルルコトトナリ二月一日ヨリ之カ實施ヲ見ルニ至レリ誠ニ臺灣河川行政ノ劃期的刷新ト謂フヘク之カ運用ノ如何ハ地方ノ福祉ニ影響スルトコロ不尠ト被認候ニ付テハ良ク法意ノ在ル所ヲ按シ管下一般ヘ法ノ禁スル所命スル所ヲ周知セシムル途ヲ講スル等最善ヲ盡シ以テ河川行政上遺憾無キヲ期セラルヘク別記指示事項ヲ具シ右依命通達ス

指示事項

一　河川法施行河川ノ左右岸ノ區域境界ハ追テ實測ノ上河川臺帳平面圖ニ表示シテ告示スルコトトナルヘキモ施行河川全部ノ平面圖調製ハ數年ヲ要スル見込ニ付施行規則附則第三項ノ規定ヲ設ケラレタル次第ニシテ調製出來次第箇々ノ河川ニ付順次告示セラルル豫定ナリ

二　前項ノ區域境界ノ告示ヲ爲ササル河川法施行河川沿岸土地（河川整理區域トシテ官林圖ニ表示サレタル土地）ニ付所有權ヲ附與スヘキ處分又ハ官租地ニ登錄セントスルトキハ豫メ内務局長ニ協議スヘシ

三　官林圖ニ表示ナキ河川ニ付テハ追テ内務局長ヨリ通知ス

河川附近ノ土地ニ關スル規定ハ其ノ土地區域ヲ告示セラルル迄ハ適用セラレサルハ勿論ニシテ河川法施行河川附近ノ土地ノ區域ハ追テ實地ヲ調査シ第一項ノ區域境界實測ノ際之ヲ定メ河川臺帳平面圖ニ表示シテ同時ニ告示スルコトトナルヘキモ準用河川ノ附近ノ土地ノ區域ニ付テハ貴官ニ於テ可及的急速ニ實地ヲ調査シテ適當ノ方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

四　河川法施行河川ノ敷地ノ占用ハ施行規則第十五條ノ場合及工作物築造ノ爲ニ要スル場合ノ外當分ノ内ナルヘク許可セサル方針ノ下ニ取扱フヘシ

五　河川ノ附屬物ノ占用ハ當分ノ内ナルヘク許可セサル方針ノ下ニ取扱フヘシ

六　堤外地ニ於ケル家屋ノ建築ハ當分ノ内ナルヘク許可セサル方針ノ下

ニ取扱フヘシ既ニ建設シタルモノニ付テモ復舊又ハ修繕工事等ノ際ナルヘタ之ヲ許可セス堤内地ニ移築セシムル方針ヲ採ルヘシ

七　總督宛ノ申請書、屆書等ハ直ニ之ヲ審査シ意見ヲ附シ進達スルコト

從來河川取締規則ニ於ケルト同樣トス

八　河川法施行河川ニ付許可其ノ他ノ處分ヲナシタルトキ又ハ協議ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ具シ總督宛報告スヘシ

九　河川法施行河川ト準用河川トヲ問ハス河川ニ關スル費用及河川ヨリ生シタル收入金額ハ每年五月末日迄ニ前年度分ヲ河川別、支出費用又ハ收入金額ノ內譯ヲ記載シテ總督宛報告スヘシ

十　施行規則第十條ノ竹木材ノ流下ニシテ二州ニ跨ルトキ又ハ他州ニ影響アル場合ハ關係州知事ト協議ノ上取扱フヘシ協議整ハサルトキハ總督ノ指揮ヲ受クヘシ

十一　河川ノ敷地、堤防等ノ使用許可、砂利等ノ拂下許可ハ從來官有財產管理規則ニ依リ取扱ハレ其ノ使用料拂下代金ハ國庫ノ歲入トナリタルモ河川法施行、準用河川ニ在リテハ河川法施行規則第二十四條ノ規定ニ依リ州費又ハ廳地方費ノ歲入トナル爲念（但シ堤防ハ附屬物ト認定後）

十二　河川法及同施行規則ニ依ル處分及總督宛報告事務ハ土木課ニ於テ取扱フコトニ州事務分掌規程ヲ改正サルヘキ筈ナルモ當分ノ內ハ從來通地方課ニ於テ取扱フコト廳ニ於テモ之ニ準シ取扱フコト

十三　當分ノ內河川法施行規則第八條ニ依リ知事ニ於テ施行スヘキ工事ハ一廉五千圓未滿、廳長ニ於テ施行スヘキ工事ハ一廉二千圓未滿ノ工事トス但シ之ニ依リ難キトキハ事由ヲ具シ臺灣總督ニ申請スヘシ

●河川法ニ關シ疑義ノ件

昭和四年八月十七日
內土第七五一號內務局長通牒

首題ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通新竹州知事ヨリ照會有之乙號ノ通回答致置候ニ付
右通牒ス

（別紙）

甲號

五月二十二日附內土第四八三號ノ一御通牒追書河川法施行河川ト準用河川トヲ問ハス河川法及同施行規則ニ依リ別段ニ規定セラレタルヲ以テ臺灣官有財產管理規則ニ據ルノ限ニ無之旨了承然ルニ河川法及同施行規則ハ管理上必要ナル事項ノ規定ニシテ行爲取締ニ關シテハ精細ナルモ處分行爲例ヘハ土石木竹等ノ竀拂ニ關シテハ何等明文ナク之等ハ施行規則第十八條第二號ニ所謂「採取」ナル行爲ヲ許可スル場合竀拂ノ意ヲモ含ムモノト解シ取扱フヘキモノナルヤ然リトセハ當分此取扱ハ行爲ノ主管課タル土木課ニ於テスヘキカ或ハ又竇

拂ニ付テハ別ニ手續ヲ要スルモノトスレハ據ルヘキ法條御指示相仰度尙從來臺灣官有財產管理規則第五條、第六條、第八條、第十二條、第十四條、第十五條等ニ依リタル事項今後ノ取扱ニ付テモ何分ノ御指示相仰度併テ及照會候也

乙號

七月一日附新州地第二〇二一號ノ六ヲ以テ御照會ニ係ル首題ノ件了承河川法施行竝ニ準用河川內ニ於ケル土石木竹等ノ竀拂ハ御意見ノ通採取許可トシテ河川法施行規則第十八條第二號ニ依リ取扱ヘキ筋合ニ有之事務分掌ニ付テハ本年二月二十二日附總內第一四八號依命通達ヲ以テ總務長官ヨリ指示ノ通取扱相成度尙河川敷地ノ占用土石類ノ採取許可其ノ他積物ノ伐採等ニ關シテハ河川法及同施行規則竝同規則第二十五條ニ依リ貴官ニ於テ制定セラルヘキ收入ニ關スル規定ニ依リ取扱ヒ相成度規定制定セラルル迄ハ官有財產管理規則ノ例ニ倣フモ差支無之候條御了知相成度經伺ノ上
右回答ス

●臺灣河川取締規則ニ依ル許可ノ場合取扱方ニ關スル件

昭和元年十二月二十八日
總內第五九五號總務長官代理依命通達

從來臺灣河川取締規則ニ依ル出願ニ對シ許可相成候節ハ其ノ都度依命通達致居候處爾今事務簡捷上之ヲ廢スルコト相成候ニ付貴官ニ於テハ從來通リ工事施行採取ノ區域作業其ノ他ニ付充分注意スルコトトシ許可ノ際命令條項ヲ附セラレタルモノニ對シテハ願人ヨリ請書ヲ徵シ貴官ニ保管スルコトモ豫メ御承知相成度
右依命通達ス

●河川法施行規則第十條取扱方ニ關スル件

昭和四年九月十一日
內土第八七一號內務局長通牒

首題ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通臺中州知事ヨリ照會有之乙號ノ通回答致置候ニ付爲念
右通牒ス

（別紙）

甲號

濁水溪竝清水溪ニ於テ竹山庄在住民ヨリ竹材流下ニ關シ許可申請有之候處左記御指示相煩度照會候也

記

一　竹木流下ノ場場卸場竹筏ノ舟付場等河川敷ニ何等ノ工作物ヲ施ササルモノニ關シテモ敷地ノ占用願ヲ徵スヘキヤ

二　流下ニ關シテハ臺南州ヘ協議ノ結果支障ナキ回答ヲ得タリ依ツテ許可セントスルニ指令書ハ兩州知事連名トスヘキヤ兩州別々ニ許可スヘキヤ敷地占用願ヲ要ストセハ占用料ハ兩州ヘ別々ニ納付スヘキモ

ノト思料セラレ一面州知事ハ管内ノ行政處分ノミ爲シ能フモノナルヨリ考察スルニ流下申請モ兩州ヨリ箇々ニ許可ヲ受クヘキニ非サルカト思料致候御指示相仰度

臺南州回答ハ臺南大圳取入口保護ニ關シ願人ヘ示達方申添アリ別ニ許可指令ヲ出サザル樣被認候

乙號

七月三十一附中内土第五五三號ノ一ヲ以テ御照會ニ係ル首題御質疑ノ件了承右ハ左記ニ依リ御取扱相成度伺經ノ上

右回答ス

記

一　一定面積ノ河川敷地ヲ揚場、卸場トシテ相當長期間ニ亙リ排他獨占的ニ繼續使用スルモノトセハ假令同一物ヲ積置カス又ハ工作物ヲ設置セサル場合ト雖モ第十條ノ許可ノ外第十四條ニ依リ占用ノ許可申請ヲ要ス（ク然ヲサル場合竹筏ノ舟付等ハ別ニ占用許可ヲ要セサルモノト認ム

二　竹木材流下ニシテ二州ニ跨ルトキハ御意見ノ通關係各州知事ニ於テ各別ニ申請書ヲ徵シ其ノ管内ニ係ル部分ニ付本年二月總内第一四八號長官通達指示事項第十項ニ依リ協議ノ上各別ニ處分相成ヘキモノト認ム

●水害調査委託施行ニ關スル件

昭和四年九月二十八日
總内第一二〇八號總務長官通達

本年二月ヨリ河川法ヲ施行シタル花蓮溪、秀姑巒溪ノ水害調査ヲ貴官ニ委託施行スルコトト相成候條別記調査要綱ニ依リ調査報告可相成

右依命通達ス

追而調査ニ要シタル旅費ハ當府ニ於テ支出可致候間出張命令通知竝旅費請求書（二通）ヲ内務局ヘ回付シ尚地圖、用紙代ハ現配賦ノ河川費、工事費、各所測量其他雜費、雜費ヨリ支出可相成申添候

水害調査要綱

一　水害調査及其目的

水害調査ハ洪水ニ因リ河川流域ノ土地及地上物件ノ被ル損害ノ狀態ヲ調査シ以テ治水事業計畫其ノ他河川行政上ノ資料ヲ得ムトスルモノトス

二　水害調査施行河川及區域

水害調査ハ左記河川法施行各河川別ニ其ノ幹川、支川、派川ノ流域一帶ニ渉リテ施行スルモノトス流域一帶トハ單ニ河川法施行又ハ準用區域ノミニ拘ラス苟モ河川ノ爲メ水害ヲ蒙リタル地域全般ヲ謂フ但シ河川ニ絕對ニ關係ナキ原因ニ依ル被害ハ調査ヲ要セス

一　宜蘭濁水溪
二　淡水河
三　頭前溪
四　後龍溪
五　大安溪
六　大甲溪
七　烏　溪
八　濁水溪
九　曾文溪
十　下淡水溪
十一　卑南大溪
十二　秀姑巒溪
十三　花蓮溪

三　調査時期及報告時期

水害調査ハ河川工作物、其ノ他ニ相當被害アリタルトキハ洪水ノ直後之ヲ施行シ六十日以内ニ別項樣式ニヨリ臺灣總督宛報告スルモノトス但シ被害程度輕微ナルトキハ毎年洪水期經過後六十日以内ニ一括調査報告スルモノトス

四　調査事項及被害見積方法

水害調査ハ洪水ニ因ル被害ノ種類、被害物件ノ位置、種類、數量、價格等ヲ調査スルモノニシテ其ノ主要調査事項及被害額見積方法左ノ如シ尚流心ノ變更ニ因ル損害、交通、運輸、衞生其ノ他民情ニ影響スル損害等計數ヲ以テ示シ難キモノハ記事欄ヲ設ケテ詳細記述シ必要ナル地圖ヲ添付スルモノトス左記以外ノ事項ニ就テハ必要ニ應シ主任官臨時之ヲ指示スルコトアルヘシ

主要調査事項及被害額見積方法

(1)　堤防、護岸、水制、其他河川工作物ノ被害

（イ）修築ノ餘地無ク新ニ築造ヲ要スル破損

流失ハ其ノ一例ニシテ被害當時ニ於ケル新築費（用地費ヲ含ム）ヲ以テ被害額トス本書ニ新築費、新設費トハ被害物件ト同一ノ規模工法ニ依ル場合ニ就キ謂フモノトス

（ロ）修築シ得ル破損

一部缺潰ハ其ノ一例ニシテ被害物件ノ修築費ヲ以テ被害額トス

(2)　橋梁（鐵道橋ヲ含ム）ノ被害

（イ）修築ノ餘地無ク新ニ架設ヲ要スル破損

流失ハ其ノ一例ニシテ被害當時ニ於ケル新設費ヲ以テ被害額トス

（ロ）修築シ得ル破損

傾斜ハ其ノ一例ニシテ被害物件ノ修築費ヲ以テ被害額トス

(3)　道路、水路、鐵道等ノ被害

（イ）修築ノ餘地無ク新ニ築設ヲ要スル破損

流失ハ其ノ一例ニシテ被害當時ニ於ケル新設費（用地費ヲ含ム）ヲ以テ被害額トス

（ロ）修築シ得ル破損

盛土流失ハ其ノ一例ニシテ被害物件ノ修築費ヲ以テ被害額トス

(4)　埤圳取入口、水門涵管其ノ他埤圳工作物ノ被害

（イ）修築ノ餘地無ク新ニ築設ヲ要スル破損

流失ハ其ノ一例ニシテ被害當時ニ於ケル新設費ヲ以テ被害額トス

（ロ）修築シ得ル破損

部分的破損ハ其ノ一例ニシテ被害物件ノ修築費ヲ以テ被害額トス

(5)　上下水道、暗渠、發電所其ノ他一切ノ工作物ノ被害

（イ）修築ノ餘地無ク新ニ築設ヲ要スル破損

流失ハ其ノ一例ニシテ被害當時ニ於ケル新設費ヲ以テ被害額トス、發電所ニアリテハ其ノ建物及機械類ノ被害當時ニ於ケル見積價格ヲ以テ被害額トス

（ロ）修築シ得ル破損

部分的破損ハ其ノ一例ニシテ被害物件ノ修築費ヲ以テ被害額トス

(6) 住家、倉庫、事務所、工場其ノ他一切ノ建物ノ被害

（イ）修築ノ餘地無キ破損

全潰ハ其ノ一例ニシテ被害當時ニ於ケル被害物件ノ見積價格ヲ以テ被害額トス

（ロ）修築シ得ル破損

半潰ハ其ノ一例ニシテ被害物件ノ修築費ヲ以テ被害額トス

(7) 家財、商品、工場用機械、機具類ノ被害

（イ）修繕又ハ修理ノ餘地無キ破損

流失ハ其ノ一例ニシテ被害當時ニ於ケル被害物件ノ見積價格ヲ以テ被害額トス汚損等ニ因リ被害物件ノ減價ヲ生シタルトキハ其ノ減價額ヲ以テ被害額トス

（ロ）修繕又ハ修理シ得ル破損

部分的破損ハ其ノ一例ニシテ修繕費又ハ修理費ヲ以テ被害額トス被害物件ノ減價ヲ生シタルトキハ減價額ヲ以テ被害額トス

(8) 田、畑、原野、建物敷地、養魚池其ノ他一切ノ土地ノ被害（末項調書掲記例及地圖上表示例參照）

（イ）土地流失

被害當時ニ於ケル地價ヲ以テ被害額トス

（ロ）表土流失

表土搬入費、整地費等土地ノ復舊費ヲ以テ被害額トス、

（ハ）土砂埋沒

埋沒土砂搬出費、整地費等土地ノ復舊費ヲ以テ被害額トス

(9) 農作物、水產物（養殖魚類）林產物等ノ被害（末項調書掲記例及地圖上表示例參照）

（イ）流失

農作物其ノ他ノ流失ハ土地流失、表土流失ニ伴フヲ常トシ農作物及水產物ノ流失ニアリテハ被害物件ノ收穫期ニ於ケル見込收穫高ヲ以テ被害額トス但シ再植付又ハ再養殖ヲナストキハ再植付費又ハ再養殖費及植付時期又ハ養殖時期ヲ失シタルニ因ル減收高ヲ以テ被害額トス林產物及成育長期ニ涉ル水產物ニアリテハ被害當時ニ於ケル被害物件ノ見積價格ヲ以テ被害額トス

（ロ）埋沒

農作物ノ埋沒ハ土砂埋沒ニ伴フヲ常トシテ埋沒セル農作物ノ收穫時ニ於ケル見込收穫高ヲ以テ被害額トス但シ再植付ヲナストキハ再植付費及植付時期ヲ失シタルニ因ル減收高ヲ以テ被害額トス

（ハ）減收

此處ニ減收トハ浸水地域內ニ於テ土地被害ナク單ニ農作物又ハ水產物ノ減收ヲ來シタルノ謂ニシテ農作物又ハ水產物ノ收穫期ニ於ケル見込減收高及水害ニ因リ追肥ノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ費用ヲ以テ被害額トシ減收步合ヲモ調査スルモノトス

成育長期ニ涉ル水產物ニアリテハ被害當時ニ於ケル被害物件ノ死滅量ト其ノ見積價格及水害ニ因リ追肥ノ必要ヲ生シタルトキハ其ノ費用ヲ以テ被害額トス

(10) 人畜ノ被害

(11) 其ノ他ノ被害

五 調査書樣式及添付地圖

水害調査書ハ左記樣式ニ依リ調製シ被害位置ヲ正確ニ表示シタル二萬分ノ一堡圖又ハ二萬五千分ノ一地圖ヲ添付スルモノトス

地圖上表示被害位置ニハ番號ヲ附シ同番號ヲ調査書ノ被害位置表示欄ヘ記入ス

調査書樣式

昭和　年　月　自日 至日

溪流域水害調査書

（土地及農作物被害ニ關スル調書掲記例）

被害位置表示番號	被害位置	被害物件	被害種類	被害數量	被害見込額 單	價	計	摘要
新竹圖 1	新竹郡新竹街 湳雅及苦苓脚	原野	土地流失	甲 三・〇	甲當 円 幾何	幾何	幾何 円	
同 2	同	田	同	甲 三・〇	同	同	同	
同 同	同	水稻	流失	甲 三・〇 幾何石	石當 同	同	同	
同 3	新竹郡新竹街 湳雅	畑	土地流失	甲 三・〇	甲當 同	同	同	
同 同	同	蕃薯	流失	甲 三・〇 幾何斤	百斤當 同	同	同	
同 4	同	建物敷地	土地流失	二個所 甲 一・〇	甲當 同	同	同	
同 5	新竹郡新竹街 湳雅及苦苓脚	田	表土流失	甲 二六・〇	同	同	同	土地ノ復舊費ヲ揭ケタリ
同 同	同	同	同	甲 二六・〇	同	同	同	
同 同	同	水稻	流失	甲 二六・〇 幾何石	石當 同	同	同	
同 6	新竹郡新竹街 湳雅	畑	表土流失	甲 二七・〇	甲當円 同	同	同	土地ノ復舊費ヲ揭ケタリ
同 同	同	蕃薯	流失	甲 二七・〇 幾何斤	百斤當 同	同	同	表土流失二七甲ノ內作物植付無キ地域二甲アリ
同 7	新竹郡新竹街 湳雅苦苓脚樹本頭	水稻	減收	甲 八一・〇 幾何石	石當 同	同	同	減收步合一割五分
同 8	新竹郡新竹街 湳雅及樹本頭	蕃薯	同	甲 八五・〇 幾何斤	百斤當 同	同	同	減收步合八分
同 9	新竹郡新竹街 溪埔子	田	土地流失	甲 二・〇	甲當 同	同	同	
同 同	同	水稻	流失	甲 二・〇 幾何石	石當 同	同	同	
同 10	同	原野	土地流失	甲 二・〇	甲當 同	同	同	
同 11	新竹郡舊港庄 新庄子	田	土砂埋沒	四個所 甲 一・〇	同 同	同	同	土地ノ復舊費ヲ揭ケタリ
同 同	同	水稻	埋沒	四個所 甲 一・〇 幾何石	石當 同	同	同	

●河川法ニ依ル處分事項其ノ他報告方ニ關スル件

昭和四年十一月二十九日
總內第一五〇三號總務長官依命通達

河川法施行河川ニ付許可其ノ他ノ處分事項並河川ニ關スル費用及河川ヨリ生シタル收入金額報告方ニ關シテハ本年二月總內第一四八號依命通達指示ノ次第モ有之候處左記事項ニ付テハ別紙ノ通報告樣式相定メラレ候ニ付爾今之ニ依リ取扱可相成

右依命通達ス

追テ準用河川ニ關スル費用及之ヨリ生シタル收入金額報告樣式ハ第二十號、第二十一號表ニ據ルモノトス

（別紙）

記

報告事項	樣式	件名
河川法施行規則第五條	第一號	許可ニ依リテ生スル權利義務移轉許可報告
同　第八條	第二號	河川ニ關スル工事ノ施行報告
同　第十條	第三號	竹(木)材流下許可報告
同　第十四條	第四號	河川敷地占用許可報告
同　同	第五號	河川附屬物占用許可報告
同　第十八條第一項第一號	第六號	堤防、堤敷、護岸、水制等通路ニ使用許可報告
同　同　第二號	第七號	河川敷地ニ於テ土石採取許可報告
同　同　同	第八號	河川敷地、堤防、堤敷ニ於テ植物伐採(栽植)許可報告
同　同　第三號	第九號	河水汚染行爲許可報告
同　同　同	第十號	河川ニ於テ衛生上有害トナルノ虞アル行爲許可報告
同　同　第四號	第十一號	河中ノ岩石破碎許可報告
河川法施行規則第十八條第五號	第十二號	河川敷地掘鑿許可報告
同　同　同	第十三號	河川敷地埋立許可報告
同　第三十七條第一項第一號	第十四號	河川附近ノ土地ニ家屋以外ノ工作物ノ新築、改築許可報告
同　同　同	第十五號	河川附近地ノ工作物除却許可報告
同　同　第二號	第十六號	河川附近ノ土地ノ形狀變更許可報告
同　同　第三號	第十七號	堤外地ニ於ケル家屋ノ新築、改築許可報告
同　同　同	第十八號	堤外地ニ於ケル家屋除却許可報告
同　同　同	第十九號	堤外地ニ於ケル竹木ノ伐採又ハ甘蔗其ノ他河川ニ害ヲ及ホス虞アル植物ノ栽植許可報告
昭和四年二月總內第一四八號依命通達指示第九項	第二十號	河川ヨリ生シタル收入金額報告
同	第二十一號	河川ニ關スル支出金額報告

一　河川法施行規則第四十五條ニ依リ行政官廳ノ施行スルモノニ付承認ヲ爲シタル場合ハ右各號樣式ニ準シ報告ヲ要ス

河川法施行規則第五條

第一號

許可ニ依リテ生スル權利義務移轉許可報告

工事又ハ行爲ノ名稱	許可年月日指令番號	權利義務移轉許可年月日指令番號	移轉ノ事由	住所氏名 讓渡人	住所氏名 讓受人
記事					

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十八條

第二號

河川ニ關スル工事ノ施行報告

位置、河川別	工事名	工事費	著手竣功ノ時期	工事ノ概要
記事				

一　河川法施行規則第四十六條ニ依リ認可ヲ受タタル工事ニ付テハ工事竣功後報告スヘシ尚工事費欄ニハ實施額ヲ揭記スルコト

二　其他ニアリテハ工事着手ト同時ニ報告シ竣功ノ時期工事費等ニ變更アリタルトキハ其ノ事由增減額等ヲ追報スルコト

三　認可ヲ受ケサル工事ニ付テハ設計書、仕樣書、豫算書及關係圖面ヲ添付スヘシ

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十條

第三號

竹(木)材流下許可報告

河川名	
卸場ノ位置	
卸場ノ面積	
場ノ位置	
場ノ面積	
流下物ノ種類寸法數量	
流下ノ時期	
流下ノ方法	
許可ノ年月日指令番號	
許可ノ期限	
被許可人ノ住所氏名	
記事	

一　流送素統ノ圖面添付ス

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十四條

第四號

河川敷地占用許可報告

位置 河川名							
面積	基本料金	料金	占用ノ目的方法	許可ノ年月日期限	許可ノ指令番號	被許可人ノ住所氏名	
記事							

一　位置圖、用地圖ヲ添付ス

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

第五號

河川附屬物占用許可報告

位置 河川名	附屬物名稱	面積	基本料金	料金	占用ノ目的方法	許可ノ年月日期限	許可ノ指令番號	被許可人ノ住所氏名
記事								

一　位置圖其ノ他詳細圖ヲ添付ス

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

第六號

堤防、堤敷、護岸、水制等通路ニ使用許可報告

位置 河川名	
工作物ノ名稱	
面積	
基本料金	
料金	
使用ノ目的	
使用ノ方法	
使用ノ時期	
許可ノ年月日指令番號	
許可ノ期限	
被許可人ノ住所氏名	
記事	

一　位置圖及詳細圖ヲ添付ス

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十八條第一項第二號

第七號

河川敷地ニ於テ土石採取許可報告

位置 河川名	種別	數量	基本料金	用途	許可ノ年月日 指令番號	許可ノ期限	被許可人ノ住所氏名

記事

一　種別欄ニハ砂利、玉石、砂、土等ノ細別ヲ記載スルコト

二　位置圖及採取區域圖ヲ添付ス

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十八條第一項第二號

第八號

河川敷地堤防堤敷ニ於テ植物伐採（栽植）許可報告

位置 河川名	種別	數量	單價	料金	目的方法	許可ノ年月日 指令番號	許可ノ期限	被許可人ノ住所氏名

記事

一　位置圖及詳細圖ヲ添付ス

二　栽植及收穫ノ時期等ハ詳細記事欄ニ掲記スルコト

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十八條第一項第三號

第九號

河水汚染行爲許可報告

位置、河川名	行爲ノ大要及汚染ノ程度	許可ノ年月日 指令番號	許可ノ期限	被許可人ノ住所氏名

記事

一　位置圖添付

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十一條第一項第三號

第十號

河川ニ於テ衞生上有害トナル處アル行爲許可報告

位置、河川名	行爲ノ大要及害ノ程度	許可ノ年月日 指令番號	許可ノ期限	被許可人ノ住所氏名

記事

一　位置圖添付

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十八條第一項第四號

第十一號

河中ノ岩石破碎許可報告

位置、河川名	數量	破碎ノ目的、方法	許可ノ年月日指令番號	許可ノ期限	被許可人ノ住所氏名	記事

一　位置圖及詳細圖ヲ添付ス

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十八條第五號

第十二號

河川敷地掘鑿許可報告

位置河川別	掘鑿面積	最深最淺及平均掘鑿深度	掘鑿立坪	目的方法	許可ノ年月日指令番號	許可ノ期限	被許可人ノ住所氏名	記事

一　位置圖、用地圖、斷面圖、側面圖ヲ添付ス

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第十八條第五號

第十三號

河川敷地埋立許可報告

位置河川名	埋立面積	最高最低及平均埋立高サ	埋立坪	目的方法	着手竣功ノ豫定時期	許可ノ年月日指令番號	許可ノ期限	被許可人ノ住所名	記事

一　位置圖、用地圖、斷面圖、側面圖（斷面、側面圖ニハ最大洪水位及平水位ヲ表示ス）ヲ添付スルコト

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第三十七條第一項第一號

第十四號

河川附近ノ土地ニ家屋以外ノ工作物ノ新築、改築許可報告

位置河川名	工作物ノ名稱	構造ノ大要	工事費	着手竣功ノ豫定時期	許可ノ年月日指令番號	許可ノ期限	被許可人ノ住所名	記事

一　位置圖、用地圖、平面圖、斷面圖及側面圖（斷面、側面圖ニハ最大洪水位ヲ表示ス）ヲ添付スルコト

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

河川法施行規則第三十七條第一項第一號

第十五號

河川附近地ノ工作物除却許可願書

位置、河川名	ノ工作物名稱	指ノ令年番號月許可日	指ノ令年番號月除却許可日	年終除了却月日	事由	氏ノ名所住人
事記				定手續		

一 位置圖、用地圖ヲ添付ス

右報告ス

昭和 年 月 日

基隆總督 殿

花蓮港廳長

河川法施行規則第三十七條第一項第二號

第十六號

河川附近ノ土地ノ形狀變更許可願書

位置、河川名	變更後ノ狀態	目的ノ更方法ノ	定功着ノ手期程竣	指令年番號月許可日	指ノ令年番號月除却許可日	年終除了却月日	事由	氏ノ名所住人
事記								

一 位置圖、用地圖及形狀變更ノ狀態ヲ見ルヘキ圖面ヲ添付ス

右報告ス

昭和 年 月 日

基隆總督 殿

花蓮港廳長

河川法施行規則第三十七條第一項第三號

第十七號

堤外地ニ於ケル家屋ノ新築改築許可願書

位置、河川名	構造ノ大要	工事費	定功着手ノ期程竣	指令年番號月許可日ノ	期限ノ	氏ノ名所住人
事記						

一 位置圖、用地圖、平面圖及側面圖（側面圖ニハ最大洪水位ヲ表示ス）ヲ添付スルコト

右報告ス

昭和 年 月 日

基隆總督 殿

花蓮港廳長

河川法施行規則第三十七條第一項第三號

第十八號

堤外地ニ於ケル家屋除却許可願書

位置、河川名	大構造ノ要	指ノ令年番號月施設許可日ノ	指ノ令年番號月除却許可日ノ	年終除了却月日	事由	氏ノ名所住人
事記				定手續		

一 位置圖、用地圖ヲ添付ス

右報告ス

昭和 年 月 日

基隆總督 殿

花蓮港廳長

河川法施行規則第三十七條第一項第三號

第十九號

堤外地ニ於ケル竹木ノ伐採又ハ甘藷其他河川ニ害ヲ及ホス虞アル植物ノ栽植許可報告

位置 河川名	種別	數量	面積	基本料金	目的 方法	許可ノ年月日ノ期限 指令番號	許可被許可人ノ住所氏名	記事

一　位置圖、用地圖ヲ添付ス
一　栽植及收穫ノ時期等ハ詳細記事欄ニ揭記スルコト

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

（昭和四年二月總內第一四八號依命通達指示第九項）

第二十號　　昭和　年度

河川ヨリ生シタル收入金額報告（廳地方費歲入）

河川別	收入區分	金額	摘要	記事
		円		

一　河川法施行河川ト準用河川トハ各別表トシ前年度分ハ翌年五月末日迄ニ報告スルコト
二　收入區分ハ河川敷地占用料金、土石採取料金、植物伐採料金等ノ如ク各收入ノ種別ヲ明カニスルコト

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

（昭和四年二月總內第一四八號依命通達指示第九項）

第二十一號

河川ニ關スル支出金額報告（廳地方費歲出）

河川別	支出區分	金額	摘要	記事
		円		

一　河川法施行河川トヲ各別表トシ前年度分ハ翌年五月末日迄ニ報告スルコト
二　支出區分ハ工事ニアリテハ工事別其ノ他ニアリテハ支出費目毎トス
三　支出金額ノ內受益者又ハ市、街、庄等ニ賦課シタル金額ハ之ヲ朱書再揭ス
四　賦役ヲ課シテ施行シタルモノハ其ノ見積金額ヲ朱書トス

右報告ス

昭和　年　月　日

花蓮港廳長

臺灣總督　殿

●河川法規則第五十六條ノ重要ナル改良工事ノ標準ニ關スル件

昭和五年二月一日
總內第一二一號總務長官依命通達

河川法施行規則第五十六條第一項第一號ノ規定ニ依リ河川法準用河川ニ關シ重要ナル改良工事トシテ總督ノ認可ヲ受ケヘキ工事ハ左記ヲ標準トシテ取扱可相成

右依命通達ス

記

一　河川ノ全部若クハ一部ニ付大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事
二　派川ノ締切其ノ他河川ノ附替工事
三　河流ノ快疏ヲ圖ル目的ヲ以テ施行スル放水路分水路等ノ新設工事
四　前各條ノ外一計畫工事費十萬圓以上ノ河川工事

●河川法ニ依ル處分臺帳及河川工事臺帳調製方ノ件

昭和四年十二月二十一日
總內第一六二〇號總務長官依命通達

河川事務上必要ト被認候ニ付河川法並ニ同法施行規則ニ依リ左記ノ事項ニ付許可ノ申請又ハ協議ニ係ル事項及河川ニ關スル工事ノ施行ニ付テハ

別紙各號樣式ヲ標準トシテ臺帳ヲ調製可相成
右依命通達ス
追テ河川法施行規則附則第四項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做サレタルモノニ付テモ調製セラルヘク

記

樣式	記載事項
第一號	河川法第十七條ニ規定ノ事項（工作物新築改築）
第二號	同 第十八條ニ規定ノ事項（流水占用）
第三號	河川法施行規則第十條ニ規定ノ事項（竹木材流下）
第四號	同 第十四條ニ規定ノ事項（河川敷地及附屬物占用）
第五號	同 第十八條第一項第一號同（堤防、堤敷、護岸水制等道路ニ使用）
第六號	同 第十八條第一項第二號同（土石類採取）
第七號	同 第十八條第一項第二號同（植物栽植、伐採）
第八號	同 第十八條第一項第三號同（河水汚染並ニ衛生上有害トナルノ虞アル行爲）
第九號	同 第十八條第一項第四、五號（河中ノ岩石破碎、河川敷地ノ掘鑿埋立）
第十號	河川法施行規則第八條、第五十二條ノ規定ニ依リ施行シタル工事
十一號	行政諸法臺灣施行令第二十二條第一項ノ規定ニ依ル直營工事、委託工事及災害復舊工事

一 河川法施行規則第三十七條ニ規定ノ事項ニ付テハ前記第一號、第七號、第九號ノ各樣式ニ準シ調製スヘシ
二 不許可ニ係ルモノハ別紙各號ノ「許可ノ年月日」ヲ「不許可ノ年月日」トシテ年月日指令番號ヲ朱書シ尚摘要欄ニ不許可ノ理由ヲ朱書スヘシ
三 河川法施行河川ニ關スル分ト準用河川ニ關スル分竝別紙各號ノ事項ハ適宜分册又ハ口座別トシテ索引ヲ附スヘシ

第一號樣式（河川法第十七條工作物新築改築）

位置河川名	申請人ノ住所氏名	
工作物ノ名稱	許可年月日指令番號	
着手竣功ノ年月日	許可ノ期限	
		命令條項
摘要		

一 構造ノ概要其ノ他必要事項ハ記事欄ニ記載スヘシ

第二號樣式（河川法第十八條流下占用）

位置河川名	申請人ノ住所氏名	
占用ノ目的	許可年月日指令番號	
占用流量	占用ノ時期	
占用料金	許可ノ期限	
		命令條項
摘要		

第三號樣式（施第十條竹木材流下）

流下ノ區間及河川名	申請人ノ住所氏名	
卸場ノ位置面積	許可年月日指令番號	
揚場ノ位置面積	流下ノ時期	
流下物ノ種類數量	許可ノ期限	
		命令條項
摘要		

第四號樣式（施第十四條河川敷地及附屬物占用）

位置、河川名	地目 附屬物名稱	占用ノ目的	面積	申請人ノ住所氏名
許可年月日指令番號	昭和 年 月 日 第 號	昭和 年 月 日 第 號	昭和 年 月 日 第 號
許可ノ期限	自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日	自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日	自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日
料金	円	円	円
基本料金			
命令條項			
摘要			

第五號樣式（施第十八條第一項第一號堤防堤敷護岸水制等道路ニ使用）

位置河川名	申請人ノ住所氏名	
工作物（敷地）ノ名稱	許可年月日指令番號	
使用面積	許可ノ期限	
使用料金		
		命令條項
摘要		

第六號樣式

（施第十八條第一項第二號土石類採取）

位置河川名	種別數量	採取料金	摘要

申請人ノ住所氏名	許可年月日指令番號	許可ノ期限	命令條項

第七號樣式

（施第十八條第一項第二號植物栽植伐採）

位置河川名	種別數量面積	栽植（伐採）料金	摘要

申請人ノ住所氏名	許可年月日指令番號	許可ノ期限	命令條項

第八號樣式

（施第十八條第一項第三號河水汚染並衛生上有害トナル虞アル行爲）

位置河川名	汚染（有害）行爲ノ種別	使用料金	摘要

申請人ノ住所氏名	許可年月日指令番號	許可ノ期限	命令條項

第九號樣式

（施第十八條第一項第四、五號河中ノ岩石破碎河川敷地ノ掘鑿埋立）

位置河川名	掘鑿（埋立）（破碎）ノ目的	掘鑿（埋立）（破碎）（面積）（數量）	摘要

申請人ノ住所氏名	許可年月日指令番號	許可ノ期限	命令條項

第十號樣式

（施第十八條第五十二條ノ規程ニ依リ施行シタル工事）

位置河川名	工事ノ名稱	着手ノ時期	竣功ノ時期	摘要

工事施行官廳名	工事費 豫算額	工事費 實施額	負擔區分 州費（廳地方費）	負擔區分 受益者負擔	負擔區分 國庫補助	工事ノ概要

一　鐵線其ノ他ノ工事材料ヲ國庫ヨリ補助ヲ受ケタル場合及勞力寄附等アリタル場合ハ種別、數量、見積金額、延人員等ヲ摘要欄ニ記載スヘシ

二　負擔區分欄ニハ實施額ヲ掲上スヘシ

第十一號樣式

（行政諸法臺灣施行令第二十二條第一項ニ依ル直營工事委託工事及災害復舊工事）

位置河川名	工事ノ名稱	着手ノ時期	竣功ノ時期	摘要

工事施行官廳名	工事費 豫算額	工事費 實施額	負擔區分 國庫（廳地方費）	負擔區分 州（廳地方）費負擔	負擔區分 受益者負擔	工事ノ概要

一　地方民ニ賦役ヲ課シタル場合ハ延人員、見積金額等ヲ要要欄ニ記載スヘシ

二　負擔區分欄ニハ實施額ヲ掲上スヘシ

三　總督府直轄工事ニ付テハ內務局長ノ通知ニ依リ記載スヘシ

●河川法施行規則附則第四項竝第五項ニ關スル件

昭和六年十二月十九日
總內第九六八號總務長官依命通達

河川法ニ依リ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ河川法施行以前ノ事實ニ關シテハ昭和三年勅令第六十三號（行政諸法令臺灣施行令改正ノ件）附則第二項及河川法施行規則附則第四項若ハ第五項ニ依リ處理スヘキモノニ有之候處未タ解釋上疑義ノ向アリ取扱又區々ニ亙リ遺憾ノ點不尠被認候ニ就テハ左記ニ依リ取扱相成度

右依命通達ス

記

一　河川法ニ依リ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ同法施行前他ノ法令ニ依リ許可ヲ受ケテ河川敷地內又ハ河川ニ沿ヒ各種ノ工作物ヲ施設シ又ハ河川ヲ使用セルモノ（鐵道、軌道、橋梁、電柱、堤防、水制護岸流水ノ取入口導水路、堰堤等ノ施設及流水占用等）ニ對シテハ河川法施行規則附則第四項ニヨリ同第十三條第十六條ノ事項ヲ具備シタル書類ヲ提出セシムルコト但シ

（イ）占用流量ニ關シテハ「常時ハ灌漑ニ必要ナル限度ニ止メ旱魃時ニハ官ノ指定ニ從フ」旨ヲ附記セシムルコト

（ロ）工作物ニシテ時々缺潰流失シ其ノ都度改築ヲ要スルモノハ河川法第十七條ニ依リ改築許可申請ヲ爲サシムルコト

（ハ）（ロ）ノ場合緊急ニシテ改築許可ノ指令ヲ待ツ能ハスト認ムルモノ（例ヘハ飲料用灌漑用發電用水等ノ取入ノ爲ニ設ケタル堰堤、導水路等）ノ許可申請書ニハ二年又ハ三年ノ期限ヲ附シ其ノ期間內ニ改築スル場合ノ許可ヲモ兼メ併セテ受ケシムコト改築ノ工法ハ必スシモ同一ナラサルヘキヲ以テ數種ノ工法標準圖面ヲ添付シ施行位置亦必スシモ同一場所ナラサルヘキニヨリ可及的狹キ施行地域ヲ圖示シ同期間內ニ於テ修繕復舊ヲ要スル場合ハ直チニ右地域內ニ右工法ノ一二ヲ選ヒ施行スル旨ヲ明記セシメ置ク事

二　前號ノ護岸工作物ニシテ河岸ノ崩壞ヲ防止スル爲メ天然河岸ニ直接石積、石垣又ハ蛇籠、煉瓦ヲ覆ヒ或ハ土留構工等ヲ施シタルモノニシテ其ノ保護セントスル河岸地盤ト同高位以下ナルモノニ限リ前號ニ拘ラス具備書類ノ提出ヲ要セス

三　水利組合ニシテ河川法施行以前其ノ設置ノ認可ヲ得タルモノハ附則第四項ニ該當スルモノト解シ第一號ニ準シ取扱フコト

四　河川法施行以前公共埤圳ト認定セラレタルモノ竝私設埤圳ニシテ公共埤圳規則第三條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノニ對シテハ解釋上多少疑義ノ向アルモ便宜上附則第四項ニ該當スルモノト認メ第一號ニ準シ取扱フコト

五　河川法施行以前官ニ於テ施設シタル取入口水門其他ノ工作物ニシテ市街庄水利團體、電力會社等ニ使用セシメ又ハ移管シタルモノニ關シテハ取扱上必要ト認ムルモノニ對シテノミ第一號ニ準シ取扱フコト但シ流水占用ニ關シテハ水量制限ノ必要アルヲ以テ洩レナク第一號但書（イ）ノ事項ヲ記載シタル屆書ヲ徵スルコト

六　河川法ニ依リ許可ヲ要スヘキ事項ニシテ同法施行以前ヨリ何等ノ法

令ニ據ラス施設シ現存スルモノニ對シテハ洩レナク調査ノ上附則第五項ニ準シ至急申請手續ヲ爲サシムルコト（此ノ場合ハ施設ノ件トセス存置ノ件トスルコト）

●花蓮港水道給水規則

昭和五年七月三十一日
花蓮港廳令第三號

第一章　總則

第一條　花蓮港水道ハ花蓮港廳長之ヲ管理ス

第二條　水道ノ給水區域ハ管理者之ヲ定ム

第三條　水道給水ハ左ノ各號ヲ除クノ外計量法ヲ以テシ其ノ計量器ハ公設量水器ニ依ル

一　公共栓
二　消火栓
三　其ノ他管理者ニ於テ計量器ノ必要ナシト認メタルモノ

第四條　給水栓ヲ分チテ左ノ五種トス

一　專用栓　一戶又ハ一箇所ノ專用ニ供スルモノ
二　共用栓　二戶以上ノ共用ニ供スルモノ
三　特別栓　船舶、噴水、廁、泉池及一時ノ用ニ供スルモノ
四　公共栓　公設給水栓ニ依リ無料ニテ供給スルモノ
五　消火栓　防火ノ爲ニ無料ニテ供給スルモノ

第五條　給水栓ノ種別ハ管理者之ヲ決定ス但シ時宜ニ依リ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　給水栓ハ一戶內又ハ一箇所內ニ於テ二種以上ヲ併用スルコトヲ得ス但シ第四條第三號第五號ノ給水ハ此限ニ在ラス

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ公共栓ニ依リ給水スルコトヲ得

一　管理者ニ於テ給水裝置ヲ爲スコト能ハスト認ムル者ニシテ給水區域內ニ居住シ飲用、爨炊、洗濯、沐浴等日常生活用ニ供スルモノ
二　公衆用ニ供スルモノ
三　前各號ノ外管理者ニ於テ公共栓ニ依リ給水スルコトヲ必要ト認ムルモノ

第八條　管理者ハ防火其ノ他臨時公益ノ爲ニ給水スル場合ハ本令ニ依ラサルコトヲ得

第九條　引用者トハ所定ノ手續ヲ經テ給水ヲ受クル者ヲ謂フ
給水裝置トハ給水管及之ニ附屬スル給水用具ヲ以テ構成セル設備ヲ謂フ
給水管トハ引用者ニ給水ノ目的ヲ以テ配水管ヨリ分岐セル水管ヲ謂ヒ其ノ幹線ヲ給水本管ト稱シ之ヨリ分岐セルモノヲ給水支管ト稱ス

第十條　給水ヲ受ケムトスル者ハ管理者ニ請求スヘシ他人ノ所有ニ屬スル給水裝置ニ依ラムトスルトキハ變方ノ連署ヲ要ス

第十一條　引用者ニシテ給水區域內ニ居住セサルトキハ給水ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲給水區域內ノ居住者ヨリ代理人ヲ定メ管理者ニ屆出ツヘシ
管理者ニ於テ代理人ヲ不適當ト認ムル時ハ其ノ變更ヲ命スルコトアル

ヘシ

第十二條　防火用ノ爲ニ私設消火栓ヲ設クルニトヲ得

私設消火栓ハ管理者ニ於テ常ニ封緘ヲ附ス

私設消火栓ハ防火又ハ試用ノ外之ヲ開披スルコトヲ得ス但シ試用ヲ爲サムトスル時ハ豫メ管理者ノ承認ヲ受ケ料金ヲ納付スヘシ

第十三條　管理者ノ許可ヲ受クルニ非ラサレハ給水栓ヨリ直ニ導水器具ヲ以テ他ニ引用スルコトヲ得ス

第十四條　引用者ハ給水ヲ受クル門戸ニ管理者ヨリ交付スル標札ヲ掲クヘシ

第十五條　引用者ハ左ノ場合ニ於テハ直ニ管理者ニ屆出ッヘシ但シ第五號ハ當事者雙方ノ連署ヲ要ス

一　引用ヲ中止、廢止、又ハ再引用セムトスルトキ

二　防火ノ爲私設消火栓ヲ使用シタルトキ

三　給水栓ノ種別ヲ變更スヘキ事由ノ生シタルトキ

四　請求書又ハ屆書ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキ

五　給水裝置ノ所有權ヲ移轉シタルトキ

六　給水裝置ノ破損又ハ漏水其ノ他給水上ニ異狀ヲ生シタルトキ

七　量水器ニ故障アリト認ムルトキ

第十六條　管理者ハ係員ヲシテ係員證ヲ携帶セシメ日出後日沒前ニ給水狀態ヲ臨檢セシム若シ異狀アリト認ムルトキハ引用者ニ對シ必要ナル手續ヲ爲スヘキ旨ヲ通告スヘシ

第十七條　管理者ハ係員ヲシテ量水器ヲ點檢セシムヘシ

係員量水器ヲ點檢シタルトキハ其ノ都度點檢表ニ消費水量ヲ記載シ之ヲ使用者ニ呈示スヘシ

第十八條　量水器ノ故障其ノ他ノ事故ニ依リ使用量ノ指示明確ナラスト認メタルトキハ其ノ事由ヲ併記スヘシ

前項ノ場合ニ於テ前月分ノ消費水量ヲ以テ當月中ノ使用料ト看做ス若シ前月分ナキトキハ管理者ニ於テ其ノ使用量ヲ認定ス

第十八條　量水器ノ點檢ハ每月例日ニ之ヲ行フ但シ已ムヲ得サル事故アルトキハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第十九條　本令ニ於テ一月ト稱スルハ量水器ニ依リ使用水量ヲ算定スルモノニ在リテハ量水器點檢ノ時ヨリ次ノ點檢ノ時ニ至ル期間ヲ謂ヒ其ノ他ニ在リテハ曆ニ從フ

第二十條　量水器ハ給水裝置ノ所有者又ハ代理人若ハ給水引用者ニ於テ之ヲ保管スヘシ

前項ノ保管者ハ別ニ定ムル樣式ニ依リ保管責ヲ提出スヘシ

第二十一條　量水器ハ清潔ニ之ヲ保管シ且裝置ノ場所ニハ點檢又ハ修理ニ支障ヲ生スヘキ物件ヲ堆積シ若ハ工作物等ヲ設クルコトヲ得ス

第二十二條　量水器ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ其ノ保管者ヲシテ管理者ノ認定ニ依ル損害額ヲ辨償セシム

第二十三條　共用栓ノ鍵ハ給水裝置所有者又ハ其ノ代理人ヨリ請求スヘシ但シ鍵ハ給水引用者ノ戶數ニ應シ管理者之ヲ貸與ス其ノ使用ヲ廢止シタルトキハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第二十四條　管理者ニ於テ給水裝置ノ使用廢止ノ狀態ニ在リト認ムルモノハ撤去ノ手續ヲ爲スヘキ旨ヲ所有者ニ催告シ其ノ催告ヲ發シタル日ヨリ三十日ヲ過クルトキハ其ノ給水管ヲ切斷スルコトヲ得

第二十五條　天災事變又ハ工事其ノ他公益上必要アルトキハ給水ノ制限若ハ停止ヲ爲スコトアルヘシ

給水ノ制限又ハ停止ヲ爲ス場合ハ豫メ之ヲ公示ス但シ急迫ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　給水ノ制限、停止、漏水、又ハ斷水ニ因リ生シタル損害ニ對シテハ管理者其ノ責ニ任セス

第二十七條　本令施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　工事及工費

第二十八條　給水裝置ノ設備、變更、改造、增設、修繕又ハ撤去ヲ爲サムトスルトキハ管理者ニ請求スヘシ但シ工事ノ設計ヲ要スル場合ニ於テハ手數料ヲ前納シ撤去ヲ請求スル場合ニ於テハ未納ニ係ル工費ヲ完納スヘシ

前項設備ノ場合ニ於テ借地、借家ニ係ルトキ又ハ他人ノ給水管ヨリ支分設備ヲ爲サムトスルトキハ所有者ノ承諾書ヲ添付スヘシ

給水管ヲ支分設備セル給水本管ノ所有者ハ其ノ給水裝置ヲ撤去セムトスルトキハ豫メ給水支管ノ所有者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ支管ノ所有者ニシテ本管取得ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ使用ヲ廢止シタルモノト看做ス

第二十九條　前條ノ請求ニ依リ工事ヲ必要ト認ムルトキハ管理者ハ直ニ工費ヲ調査シ之ヲ請求者ニ通知スヘシ

第三十條　工事ハ管理者ニ於テ之ヲ施行シ工費ハ請求者ノ負擔トス請求者ヨリ工事材料ヲ提供シタルトキハ檢査ノ上之ヲ採用スルコトアルヘシ

第三十一條　給水裝置ノ設備費ニ限リ二十月內ノ期間ニ月賦トシテ之ヲ納付セシムルコトヲ得但シ未納額ニ對シテハ每月百分ノ一割ノ增金ヲ第二回以後ノ分納額ニ合算徵收ス

前項ノ分納ヲ請求スル者ハ管理者ノ承認スル保證人ト連署シテ分納證書ヲ提出スヘシ

保證人ノ保證能力充分ナラスト認ムル場合ニ於テハ管理者ハ何時ニテモ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條　給水ニ關スル工事ノ着手ハ工費納付後トス但シ前條ノ場合ニ於テハ第一回ノ分納金納付後トス

管理者ニ於テ前項ノ工費豫納ノ必要ヲ認メサルトキ又ハ急施ヲ要スト認ムルトキハ工事完成ノ上其ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得

第三十三條　工事ノ着手ヲ爲シタル後ニ於テ請求ヲ取消シタルトキハ既納工費ノ全部又ハ一部ヲ還付スル事ヲ得

前項ノ場合ニ於テ未納工費ニ對シテハ其ノ全部又ハ一部ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第三十四條　給水裝置ノ設備費ヲ完納スルマテ管理者ハ給水裝置ノ所有權ヲ保留シ保管ハ請求者ノ責ニ任ス其ノ保管中天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ依リ給水裝置ノ亡失、破損シタルトキ雖未納ニ係ル工費ハ之ヲ徵收ス

第三十五條　前條ノ給水裝置所在ノ土地又ハ家屋ノ所有權ヲ移轉セムトスル場合ニ於テ讓受人カ其ノ給水裝置ニ關スル權利義務ヲ繼承セムトスルトキハ管理者ニ屆出スヘシ

第三十六條　配水鐵管ノ移轉ニ依リ給水裝置ノ加工又ハ變更ヲ要スルト

キハ管理者ノ費用ヲ以テ之ヲ施行ス

第三十七條　給水裝置ノ設備ヲ爲シタル後一月內ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ無償ニテ管理者之ヲ修補ス

第三十八條　給水裝置ノ位置ハ工事請求者ノ指定ニ依ル但シ給水工事上不適當ト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

給水裝置ノ位置又ハ工事ニ關シ第三者ヨリ異議ヲ申出ツルコトアルモ管理者ハ其ノ責ニ任セス但シ前項但書ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　道路工事其ノ他ノ事由ニ因リ給水裝置ノ改造又ハ修繕ノ必要アリト認メタルトキハ所有者ノ請求ヲ俟タス管理者ニ於テ之ヲ施行スルコトアルヘシ

前項ノ費用ハ其ノ改造又ハ修繕ノ必要ヲ生セシメタル者ノ負擔トス

第四十條　取締上其ノ他必要アリト認メタルトキハ請求ヲ俟タス給水裝置ノ檢査又ハ加工ヲ爲スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ經費ヲ要シタルトキハ給水裝置所有者ノ負擔トス但シ事情ニ依リ之ヲ免除スルコトアルヘシ

第四十一條　工費ヲ分納スル場合ニ於テ指定ノ期日迄ニ納付セサルトキハ給水裝置ヲ撤廢スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ撤廢シタル給水裝置又ハ其ノ材料ヲ處分シテ未納工費及撤廢費ニ充當シ過不足ヲ生シタルトキハ還付又ハ追徵ス

第四十二條　引用者ニシテ量水器ニ故障アリト認メ其ノ試驗ヲ受ケムトスルトキハ手數料ヲ納付シ管理者ニ請求スルコトヲ得

試驗ノ結果量水器ノ誤差百分ノ五以上ナルトキハ其ノ月分ノ消費量ヲ訂正シ手數料ヲ還付ス

第四十三條　給水工事施行上家屋、庭園、其ノ他ノ工作物ニ加工ヲ爲シタル場合ニ於テハ管理者ハ必要ナル補修ヲ施スト雖之ヲ原形ニ復シ難キ場合ハ其ノ實ニ任セス

第三章　料金

第四十四條　專用栓特別栓ノ給水料及消火栓試驗使用料ハ引用者又ハ給水裝置所有者若ハ其ノ代理人ヨリ之ヲ徵收ス

共用栓ノ給水料ハ給水裝置所有者又ハ其ノ代理人ヨリ之ヲ徵收ス

第四十五條　給水料ハ左ノ區分ニ依ル

一　專用給水栓

一月使用量十五立方メートルマテハ量水器ノ口徑ニ應シ基本料金ヲ左ノ通トシ一立方メートルヲ增ス每ニ湯屋營業用ハ四錢其ノ他ハ五錢ヲ加フ

量水器口徑	基本料金
一三粍	一圓
二〇粍	一圓二十錢
二五粍	一圓四十錢
四〇粍	一圓八十錢
五〇粍	二圓二十錢

二　共用栓

一箇所一月ノ使用量十立方メートルマテハ量水器ノ口徑ニ應シ基本料金ヲ左ノ通トシ一立方メートルヲ增ス每ニ四錢ヲ加フ

量水器口徑	基本料金
一三粍	五十錢
二〇粍	七十錢
二五粍	九十錢

三　特別栓

一月使用量五立方メートルマテハ量水器ノ口徑ニ應シタル第一號ノ基本料金ヲ準用シ一立方メートルヲ增ス每ニ十五錢ヲ加ヘ一時ノ使用ニ在リテハ一立方メートルヲ增ス每ニ二十錢ヲ加フ

第四十六條　量水器ノ試驗手數料左ノ如シ

量水器口徑	一回ニ付手數料
一三粍	二圓
二〇粍	二圓五十錢
二五粍	三圓
四〇粍	三圓五十錢
五〇粍	五圓

第四十七條　私設消火栓ノ試驗使用料ハ一栓一回ニ付使用時間三十分又ハ其ノ端數每ニ使用料一圓ヲ徵收ス

第四十八條　新ニ給水裝置ヲ請求スル者ハ設計手數料ヲ一件ニ付一圓ヲ納付スヘシ但シ既納ノ料金ハ申込ヲ取消スモ之ヲ還付セス

第四十九條　共用栓ノ鍵ヲ毀損又ハ亡失シタル爲再交付ヲ受ケムトスルトキハ一箇ニ付手數料五十錢ヲ納付スヘシ

第五十條　量水器ヲ一戶又ハ一箇所ニ二箇以上ノ裝置ヲ爲シタルトキハ一箇每ニ基本料金ヲ徵ス

第五十一條　水道ノ使用ヲ月ノ十六日以後ニ開始シ又ハ十五日以前ニ廢止若ハ中止シタル場合ニ於テ其ノ使用水量カ基本量ノ二分ノ一ニ達セサルトキハ基本料金ハ半額トス

第五十二條　管理者ハ公益事業其ノ他必要ト認ムル者ニ對シ料金ヲ減免スルコトヲ得

第五十三條　第二十六條ニ依ル給水ノ制限又ハ停止ヲ爲シタルトキト雖給水料ハ減免セス但シ管理者ニ於テ必要ト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十四條　給水料其ノ他料金ノ納期ハ左ノ區分ニ依ル但シ新ニ給水ヲ開始シタル月ノ給水料其ノ他ノ料金徵收ニ關シ本令ニ其ノ納期ヲ規定セサルモノハ管理者之ヲ定メ隨時徵收ス

一　給水基本料金ハ前月末日限

二　超過水量料金ハ翌月末日限

三　分納工費ハ其ノ月末日限

第五十五條　官公署ニ對スル給水料ニ關シテハ前條ノ規定ニ依ラス翌月二十五日限之ヲ徵收スルコトヲ得

第五十六條　給水裝置ノ修繕費一回ニ付五十錢未滿ナルトキハ之ヲ徵收セス

第五十七條　給水ノ中止又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ過誤納トナリタル料金ハ同一年度以內ニ限リ翌月以後ノ料金ニ於テ之ヲ控除スルコトヲ得

第五十八條　料金其ノ他ノ徵收ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外臺灣廳地方費稅徵收ノ例ニ依ル

第四章　罰則

第五十九條　管理者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シ給水ヲ停止又ハ拒絶スルコトヲ得

一　工費又ハ料金ヲ期限内ニ納付セサル者

二　第十五條ノ屆出ヲ怠リ若ハ虚偽ノ屆出ヲ爲シ又ハ第十六條ニ依リ通告セラレタル必要ナル手續ヲ怠リタル者

三　第十三條及第十四條ニ違反シタル者

四　濫リニ第十二條ノ封緘ヲ破棄シタル者

五　給水ヲ濫用シ又ハ他人ニ分與シタル者

六　故ナク當該係員ノ職務執行ヲ妨ケタル者

七　濫リニ給水裝置ノ全部又ハ一部ヲ移動、加工、變更又ハ毀損シタル者

八　量水器ヲ毀損シ又ハ其ノ作用ヲ妨ケタル者

九　給水料ノ通脫ヲ圖リタル者

第六十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　前條第六號乃至第九號ニ該當スル者

二　不正ノ方法ニ依リ給水ヲ使用シ又ハ使用セシメタル者

附則

本令ハ昭和五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年花蓮港廳令第一號花蓮港水道給水規則ハ之ヲ廢止ス

●水道ニ關スル件

大正十年三月
總土第二一三號總務長官依命通達

水道ノ普及ハ住民保健上最モ緊要ノ事ニ屬シ水道ニ關スル規程ハ近ク發布ノ見込ナルモ尚相當時日ヲ要シ候ニ付水道ノ移管、給水規則ノ制定竝水道ノ新設擴張ノ場合ニ於テハ別紙ニヨリ認可稟申可相成

右依命通達ス

追テ市街庄其他ニ於テモ亦州同樣總督ノ認可ヲ要スル義ニ付管下ノ市街庄ヘモ其旨傳達相成度尚來年度ヨリ實施スヘキ水道ノ移管竝給水規則等ニ關シテハ至急認可稟申方手配相成度爲念申添候

記

一　既設水道ヲ市又ハ街庄ニ移管セムトスルトキ

二　州又ハ市街庄ニ於テ給水ニ關スル規程ヲ設ケムトスルトキ

三　水道ヲ新設セムトスルトキハ左記事項ヲ具備スルコト但シ設計變更又ハ豫算額增減ノ場合モ之ニ準ス

一　水源ノ狀態（河川、池溏又ハ堀井ノ別及其周圍ノ概況）及最大最小平均水量ノ概算

二　源水ノ水質試驗表及分析表

三　給水區域及給水豫定人口現在戶口及將來人口增加ノ見込竝增加率

四　一日一人當最大及平均消費水量最大給水量

五　取入口、沈澱地、濾過池、揚水場ノ位置及水道線路ノ經過地ヲ圖面ニ表示スヘシ

六　工事設計書及圖面

七　起工及竣功期限

八　工事費豫算其收入支出ノ方法

九　將來ノ維持方法

四　既設水道ニシテ市街給水鐵管工事ヲ除ク工作物ノ擴張設備ノ變更等ハ前項ニ準ス

●水道ニ關スル認可事項委任ノ件

昭和二年三月三十一日
内土第三四六號内務局長通牒

大正十三年五月十三日土庶第六一四號土木局長ヨリ通牒相成候水道ノ敷設其ノ他ノ貴官委任事項左記ノ通改正致候條御了右ニ依リ認可ノ上大正十年三月二十三日總土第二一三號通達ノ事項ヲ具シ直ニ報告相成度

右經伺ノ上通牒ス

記

市又ハ街庄ノ經營ニ屬シ一般人民ノ需要ニ應シ公給スル水道ニ關シ左ニ該當スルモノノ認可ハ之ヲ委任ス

一　基本計畫ニ於ケル給水人口三千人ヲ超エサル水道ノ敷設、改築又ハ增築ニシテ工費二萬圓ヲ超エサルモノ但シ改築又ハ增築ニ在リテハ基本計畫ニ於ケル給水人口ヲ三千人以上ニ變更セサルモノニ限ル

二　前號以外ノ水道ノ工費二萬圓ヲ超エサル改築又ハ增築但シ基本計畫ニ變更ナキモノニ限ル

●水道ニ關スル件

昭和三年十二月十一日
總内第一七八三號總務長官代理依命通達

市街庄ニ於テ水道給水規則制定ニ當リテハ大正十年三月總土第二一三號總務長官依命通達ニ基キ總督ノ認可ヲ要スヘキ儀ニ有之候處大正十一年四月訓令第五十一號發布ノ結果總土第二一三號中ノ給水規則制定ノ場合モ包含セラレタルモノト誤解シ認可稟申ヲ爲ササルモノアルハ遺憾ノ儀ニ付爾今斯ルコトナキ樣御留意相成度

右依命通達ス

第四節　其ノ他

●土木工事及費途區分ノ件

明治三十五年五月
藏甲第三一號內務省總務局會計課長通達
臺灣總督宛

今般工作物ノ新築、增築、改築其他ノ工事及費途ノ區分ニ關シ別紙ノ通リ決定相成候條明治三十六年度ヨリ右標準ニ依リ處理可相成依命此段及通牒候也

（別紙）

（一）新築トハ新ニ工作物ヲ築造スルモノヲ謂フ

（二）增築トハ工作物ノ面積容積若クハ延長ヲ增加スルノ目的ヲ以テ之ニ工作ヲ加フルモノヲ謂フ

（三）改築トハ工作物ノ全部若クハ一部ヲ取毀チ主トシテ其材料ヲ使用シ更ニ現在ノ位置ニ工作物ヲ築造スルヲ謂フ

（四）移築トハ工作物ノ位置ヲ變更スルノ目的ヲ以テ之ヲ取毀チ異リタル位置ニ於テ改築ヲ施スヲ謂フ

（五）移轉トハ工作物ノ大體ノ現形ヲ維持シテ其位置ヲ變更スルヲ謂フ

（六）模樣替トハ工作物ノ面積容積若クハ延長ヲ增加セスシテ其一部ニ變更ヲ加フルヲ謂フ

（七）修繕トハ工作物ノ位置及現形ヲ變セス若クハ些少ノ變更ヲ加フルモノニシテ其一部若クハ全部ニ修理ヲ加フルヲ謂フ

右第一、第二、第三、第四ノ工事ニ要スル費途ハ新營費ヲ以テ支辨シ第五、第六及第七ハ修繕費ヲ以テ支辨スルモノトス

但シ前記各項ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テ其ノ一カ他ニ對シテ避クヘカラサル附屬工事ト認ムヘキモノナルトキハ其主ナルモノニ依リ區分スルコトヲ得

●工事ノ年度繰越ニ關スル件

明治四十五年一月十六日
民財第二六五號民政長官依命通達

從來ノ實歷ニ依レハ年度內ニ竣工スヘキ工事ニシテ翌年度ニ繰越スモノ不尠候處元來會計法第二十一條ノ規定ハ重大ナル事故アリタル場合ニ限リ適用スヘキ義ニテ之ヲ濫用スルニ於テハ豫算ノ經理ヲ亂ルノミナラス主務省ニ於テモ嚴格ナル監督ヲ加ヘテ容易ニ承認ヲ與ヘラレサル義ト存候ニ付目下施工中ノ工事ハ此際督勵ヲ加ヘ年度內必ス竣工候樣留意可相成又將來ノ起工ニ屬スルモノニ在テハ精査ヲ遂ケ違算ナキヲ期セラルヘク依命此段及通達候也

●風水害復舊報告竝工事月報提出ニ關スル件

大正二年二月十四日
土營第二〇六號土木局長通牒

一　風水害復舊施行ノ營繕工事ハ認可ヲ要セサルノ外ハ三十九年五月訓

令第一七一號營繕及土木工事施行規程ニ據リ起工前報告スヘキ筋ナルニ不拘往々報告洩ノ向アリ整理上支障不尠ニ付テハ此旨御留意相成度但シ千圓以下ノ修繕工事ハ報告ニ及ハス

二　同費目ニ關スル工事モ月報ニヨリ同報記載例ニ準シ豫算指定ノ箇所毎ニ工事進捗歩合ヲ記入スヘキ筋ナルモ單ニ總括的豫算ヲ揭ケ之ニ對スル歩合ノミヲ記入シ報告スル向不尠斯クテハ各工事ノ進捗歩合ヲ窺知スルニ足ラサル儀ニ付指定各箇所毎ニ揭記相成度

三　風水害復舊費ニ屬スル工事ハ經常修繕費トハ其ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ千圓以下ノ修繕工事（營繕及土木工事施行規程ニ依ル報告ハ要セサルモノ）ト雖モ工事月報ニ揭記相成候樣致度

右依命通達ス

●災害費豫算要求書ニ添付ノ設計書及圖面ニ關スル件

大正十一年四月一日
總參第五一號總務長官依命通牒

從來災害費豫算要求書提出ニ際シ設計仕樣書圖面添付ヲ要シ候處自今豫メ概略ノ設計仕樣書圖面ヲ添ヘ提出ノ上ハ當府ニ於テ豫算査定シ必要ナル部分ニ對シ詳細ナル設計仕樣書圖面ヲ徵スルコトニ決定候條御了知相成度

右依命通達ス

●下水施設方ノ件

明治三十七年三月
本警第一七二號本署長通達

近頃公共費又ハ衞生組合等ヲ以テ市街地ニ下水溝ノ新設改造ヲ加ヘ或ハ計畫中ニ係ルモノ多々有之右ハ衞生上最モ必要ノ事業ナルヲ以テ未設地ニハ可成速ニ計畫相成樣致度然ルニ下水溝ナルモノハ元來衞生工學上ニ基キ施設ヲ要スヘキモノニ付網來右等ニ屬スル計畫ノ場合ハ左記各項ヲ參考トシ設計セラレ度此段豫メ及通達候也

左記

一　下水ヲ設ケントスル時ハ土地ノ高低ヲ實測シ汚水流下ノ方向、勾配位置及排水口ノ地點ヲ定メルコト

一　下水ノ廣、狹、深、淺ハ其ノ地方ニ於ケル雨量、人口及其他ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ムルコト

一　下水ノ系統上必要ナル幹線ヲ先ニシテ次ニ支線ヲ設クルコト

一　下水線ノ交叉若クハ連合スル場合ニ於テハ成ルヘク曲線トナスコト

一　閉渠若クハ暗渠ノ其勾レヲ取ルヘキカハ土地ノ狀況ニ鑑ミ其宜シキニ從ヒ之ヲ定ムルコト

一　下水橫斷面ノ底部ハ成ルベク圓形又ハ卵圓形トシ構造スルコト

一　下水構造材料ハ成ルヘク堅牢ニシテ且ツ不滲透性ナルヲ要ス

一　下水ハ流行ヲシテ容易ナラシムル爲メ成ル可ク「セメント」等適當ノ材料ヲ以テ其內面殊ニ其底部ヲ塗布スルコト

一　釉藥ヲ施シタル陶器ヲ用フル時ハ其布置及接合ニ注意スルコト

一　各家庭厨等ヨリスル汚水ハ幹線又ハ支線ト必ス聯絡セシムルコト

●市街地ニ於ケル下水保存上電柱建設距離ノ件

明治四十四年六月
土工第四六八號土木部長通牒

市街地ニ於ケル下水保全ノ必要有之候條街路線ニ電柱ノ建設ヲ爲ス場合ハ官民業ヲ問ハス溝後特別ノ事情アルモノヲ除クノ外下水線石內面角ヨリ柱中心迄三尺ノ距離ヲ保タシムルコトニ內定相成候條爲御心得依命此段及通牒候也

●土木工事施行規程

大正十一年四月一日
總督訓令第三四號

第一條　國庫又ハ應地方費支辨ニ係ル土木工事ヲ施行セムトスルトキハ申請書ニ設計書、仕樣書及圖面ヲ添付シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ但シ左ニ揭クル工事ハ此ノ限ニ在ラス

一　一廉ノ工事一萬圓未滿ノモノ

二　災害費豫算取扱手續ニヨリ豫算ノ配賦ヲ受ケタルモノ

三　寄附ノ受納其ノ他ニ關シ設計書、仕樣書及圖面ヲ添付シ認可ヲ受ケタルモノ

四　第二號及第三號以外ノモノニシテ設計書、仕樣書及圖面ヲ添付シ工費ノ配賦又ハ流用ノ認可ヲ受ケタルモノ

第二輯　庶務課　第四章　土木係　第四節　其ノ他

前項第一號及第二號ノ工事ニシテ新築、新設、增築、改築、改修、移築、移轉變更及樣樣替ヲ目的トスル場合ニ於テハ起工ト同時ニ設計書、仕樣書及圖面ヲ添付シ臺灣總督ニ報告スヘシ

第二條　臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ設計書仕樣書及圖面ヲ交付シ又ハ計畫ノ標準ヲ示スコトアルヘシ

前項ノ標準ヲ示サレタルトキハ設計書、仕樣書及圖面ヲ添付シ起工二週間前ニ到達スヘキ豫定ヲ以テ臺灣總督ニ報告スヘシ

第三條　土木ニ關スル測量調査ハ本令ニ於ケル工事ト看做ス

第四條　本令ハ金錢以外ノ寄附ヲ以テ施行スル土木工事ニ之ヲ準用ス

第五條　本令ニ基キ提出スル認可申請及報告書ノ冒頭ニハ其ノ費目ヲ明記スヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●工事月報記載方ノ件

明治三十七年六月
土發甲第一六四號土木局長通牒

營繕及土木工事月報ニ往々不備ノ揭記有之向不尠候條左記注意事項參考ノ爲及通牒候也

一　工事名欄ニ豫算科目記入ノ向往々有之還ハ豫算配賦ノ際指定ノ工事名ヲ記入スルコト

測量及雨量調査竝ニ渡船等モ同樣其名稱記入ノコト

二　着手月日欄ニ往々豫定月日記入ノ向アリ這ハ實際事業ニ着手シタル月日ヲ記入スヘキモノニシテ着手前ノ豫定月日等ハ摘要欄ニ記入スルコト

三　竣工月日欄ニ往々豫定月日或ハ請負工事ノ契約期限記入ノ向アルモ這ハ摘要欄ニ記入スヘキモノニシテ同欄ニハ實際竣功シタル月日ヲ記入スルコト

四　確定額欄ニ往々工事竣功前ニ係ル請負金額記入ノ向有之這ハ摘要欄ニ記入スヘキモノニシテ同欄ニハ工事竣功後確定シタルモノヲ記入スルコト尚殘額欄ヘ確定額定確前ニ揭記ノ向アルモ這ハ豫算額ト確定額ノ差引額ヲ記載スヘキ欄ナキヲ以テ確定額ノ記入ニ伴ヒ記入スルコト

五　摘要欄ニハ着手及竣工豫定月日請負金額等ノ外尚ホ參考トナルヘキ事項ヲ記入スルコト

●工事月報ヲ營繕ト土木ヲ各別ニ調製ノ件

明治三十八年二月
民土第一一八號民政長官依命通達

明治三十七年五月訓令第百七十一號ノ工事月報ハ整理上ノ都合有之候ニ付自今營繕工事及土木工事ヲ各別葉ニ（地方稅支辨及國庫支辨ノ別ヲ爲スハ從前ノ通リ）調製ノ上提出可相成依命此段及通達候也

●土木費豫算配賦稟申書ニ添付スヘキ設計書ニ距離記入ノ件

明治三十八年十月
土發甲第三八七號土木局長通牒

土木費豫算配賦稟申書ニ添付スル設計其他ノ調書中工事施行箇所ノ養圖式道路臺帳調製ニ係ル線路ニ在リテモ簡單ニ街庄名ノミヲ記入シ提出相成候向往々有之候處右ハ調査上不便勝カラス候條臺帳調製ノ線路ニ在リテハ街、庄名ノ外必ス該線路起點ヨリノ距離ヲ記入セラレ度此段及通牒候也

●災害費見込額報告書其他ニ災害月日記入ノ件

明治三十八年九月
財發第二三五二號財務局長照會

災害復舊費見込額報告書及同豫算要求書ニハ災害月日ヲ異ニスルモノヲ混同取調相成候向キ有之調査上差支候條今後御提出ノ分ニハ摘要欄内ニ其災害月日ヲ無洩記入御提出相成候樣致度此段及照會候也

●營繕及土木事業ノ施行ニ關シ特殊ノ取扱方ノ件

明治三十九年四月
民土第六一四號民政長官依命通牒

土木及營繕事業ノ施行ニ關シテハ「明治三十四年六月訓令第二百十七號」

官廳ノ家屋ハ臺灣家屋建築規則ニ準據シ施設ノ件及「三十七年二月訓令第五十六號土木工事ニ付廳長ニ於テ認可ヲ受クヘキ件竝ニ三十七年五月訓令第百七十一號（第百七十一號ハ大正二年七月訓令第百七十一號改正大正十一年四月訓令第三十四號改正）營繕及土木工事施行規程」モ有之候處臨勇線ノ設置ニ屬スル開路及築堡工事ハ該訓令ノ範圍外トス又交通運繪ノ關係上等「明治三十四年六月訓令第二百十七號」ニ依リ難キ特殊ノ狀況ヲ有スル地域ニ在テハ豫メ總督ノ認可ヲ經テ該訓令ニ依ラサルコトヲ得ヘシ右決定相成候ニ付依命此段及通牒候也

●災害復舊費豫算取扱手續ニ關スル件

明治三十九年十一月
民財第五四七一號民政長官依命通達

災害復舊費豫算取扱手續ハ過般制定相成候通ニ有之候處同手續制定後各官衙ヨリ要求ノ有樣ニ依レハ些少ノ被害ニシテ經常修繕費ヲ以テ支辨シ能フルモノト雖モ新ニ豫算要求相成候傾向有之候然ルニ災害費ハ其ノ被害ノ程度劇甚ニシテ到底經常費ヲ以テ支辨シ能ハサル場合ニ限リ要求可相成義ニシテ既ニ取扱手續第一條但書ニ於テ規定ノ通ニ有之候條今後右等ノ如キ要求アルモ詮議不相成候將又本年度ハ震災事件其他第一囘災害ノ爲メ第二豫備金ハ勿論豫算外支出ハ非常ニ多額ニ上リ財源上困難ノ折柄ニ付右樣御承知相成度依命此段及通達候也

●工事施行稟申又ハ報告書ニ費途記載方ノ件

大正元年十月
民土第四二一號民政長官依命通達

工事施行稟申又ハ報告書ニ豫算費途明記ナキ向往々有之取扱上不便不勝爲ニ照會往復ヲ重ヌルハ相互徒ラニ事務ノ繁雜ヲ來タスヲ以テ爾來必ス豫算費目ヲ適宜ノ箇所ヘ明記セラルヘク
右依命通達ス

●營繕土木工事ニ要スル豫算要求書ニ關スル件

大正六年十二月
官文第一二八號民政長官通達

營繕土木工事ニ要スル豫算關係書類ハ總テ直接民政長官宛送付相成度
右通牒ス
追テ本件ハ他ノ書類ト同封セサル樣御取扱相成度此段申添候

●災害報告ニ關スル件

大正十二年八月十一日
總土第五一七號總務長官依命通達

河川道路建物其他一般土木營繕ノ災害報告ハ報告例即報第二ニ依リ報告

可相成管ノ處近來鬼角緩漫ニ流レ甚シキハ報告ナキ向モ有之哉ニテハ地方ノ被害情況ヲ知悉スルニ由ナク事務上支障勝カラス候ニ付爾今暴風雨其他ノ場合ハ被害ノ有無ニ不拘其ノ顚末等ニ就キ概要即報相成度右依命通達ス

追而河川ノ如キハ獨リ工作物ノ被害ニ止マラス河岸ノ流失倒壞及氾濫ニ依ル損害等モ報告シ尚土木營繕被害詳報ハ可及的至急調査ノ上臨時報第四第五表ニ依リ報告スヘキモノトス

●事業繰越ニ關スル件

明治四十四年二月
民財第一一〇四號民政長官依命通達

歲出繰越額多大ナルハ徒ラニ歲計剩餘金ノ膨脹ヲ來シ其筋トノ折衝上支障勝ナカラス率テ後年度ノ事業ニモ影響スル儀ニ付事業ノ進行ニ就テ常ニ注意相成候事ト存候ヘ共本年度ニ於テハ尚一層部下御督勵ノ上豫定ノ事業進行ヲ期シ繰越ヲ生セサル樣留意可相成依命此段及通達候也

●軌條敷設ノ爲道路使用許可ニ付命令條項標準ニ關スル件

明治三十九年九月
民土第一三三五號民政長官依命通達

三十六年十二月府令第八十二號ニヨリ軌條敷設ノ爲道路使用ヲ許可セントスルトキハ道路ノ保護及交通ノ安全ヲ計ルノ必要有之候ニ付別紙標準ノ條項命令可相成依命此段及通達候也

追テ一般運輸交通ノ便ニ供スル目的ヲ以テ輕便軌條ヲ敷設セントスルハ其ノ年間面積ニ不拘府令第八十二號ノ範圍外ニ有之候爲念此段申添候也

（別紙）

一　軌條ハ兩側人家連檐ノ場所ハ道路ノ中央ニ敷設シ其ノ他ノ場所ハ道路ノ一方ニ偏シ路端ヨリ二尺ヲ隔テテ敷設スヘシ

二　軌條ノ左右各一尺通ハ木、石又ハ砂利ヲ敷キ道路面ト鐵軌面ト高低ナカラシムヘシ

軌條ヲ市街道路ニ敷設スルトキハ軌條間ノ全部及其ノ左右各一尺通ハ木、石又ハ砂利ヲ敷キ鐵軌面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

三　道路ノ一方ヨリ他ノ一方ヘ軌條ヲ移ス箇所又ハ軌道カ他ノ道路ト交叉スル箇所ニハ其ノ全幅ニ亙リ木又ハ石ヲ用ヒテ安全ナル踏切ヲ設クヘシ

四　軌條敷設ノ勾配ハ十五分ノ一ヲ超過スヘカラス

五　軌條敷設ノ屈曲ハ半徑二十四尺ヲ以テ最小限トスヘシ

六　軌道ニハ雨水排除ノ方法ヲ設クヘシ

七　軌道內ノ全部及其ノ左右各一尺通ノ修繕及掃除ハ使用人ノ負擔トス

八　工事ノ全部又ハ一部竣功シタルトキハ直ニ其ノ旨届出テ廳長ノ檢査ヲ受ケ支障ナシト認メラレタルニアラサレハ臺車ノ運行ヲ爲スコトヲ得ス

九　臺車ニハ相當ノ制動器ヲ裝置シ廳長ノ檢查ヲ經テ合格シタルモノニアラサレハ使用スルコトヲ得ス

十　速力ハ兩側人家連檐ノ場所ニ於テハ一時間ニ六哩ヲ超過スヘカラス

十一　道路、橋梁、水道其ノ他ノ公益事業ノ爲必要アルトキハ廳長ハ軌道其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ一時撤去セシメ又ハ一時車輛ノ運行ヲ停止セシムルコトアルヘシ

十二　使用滿期トナリタルトキ又ハ使用期限內ニ於テ使用ノ解除ヲ爲シタルトキハ道路ヲ使用當時ノ原狀ニ復シテ返還シ使用人ニ於テ之ニ附隨セシメタル工作物其ノ他ノ物件ハ運搬ナク收去スヘシ但シ特ニ廳長ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニアラス

使用人原狀ニ復ササルカ又ハ收去セサルトキ若ハ特ニ命シタル期限內ニ之ヲ爲スノ見込ナシト認メタルトキハ官ニ於テ直ニ之ヲ履行シ又ハ第三者ヲシテ代テ之ヲ履行セシメ其ノ費用ヲ使用人ヨリ徵收スルコトアルヘシ

●私設軌道敷設出願ノ件

大正二年七月
鐵監第五八〇號ノ二鐵道部長通牒

自今公共道路數以外ノ民有地ニ軌道敷設ノ場合ハ私設鐵道ト同樣該申請書ニ關係業主ノ土地使用若ハ賣買承諾書ヲ添付セシメラレ度候也

●私設軌道カ官設鐵道ヲ橫斷ノ場合ニ於ケル設備ノ件

大正十二年八月二十一日
鐵監第一七三號鐵道部長通牒

大正四年一月達第一號私設軌道カ官設鐵道ヲ橫斷ノ場合ニ於ケル設備ノ件ハ本年八月三十一日限リ廢止候處右ハ從來私設軌道カ官設鐵道ヲ平面橫斷ノ場合ハ可成之ヲ許容シ來リシモ近時官設鐵道ニ於ケル列車運轉回數增加ト機關車重量增大ニ伴ヒ危險勝カラサルヲ以テ萬已ムヲ得サルモノノ外之ヲ許容セサル方針ヲ採ルニ至リシ結果該達ヲ廢止シタルモノニ付御了知相成度此段及通知候也

●私設軌道敷設許可ノ場合命令ヲ附スルノ件

大正十二年十一月二十一日
鐵監第二三〇號鐵道部長通牒

私設軌道ニ於テ軍需品及郵便物輸送ニ付テハ何等ノ規定無之爲以前ハ敷設許可ノ際之ニ對スル命令條件ヲ付シ居ラレ候處大正十一年四月軌道規程改正ニ伴ヒ軌道ノ敷設ハ貴官ニ於テ總督ノ認可ヲ受ケ許可シ得ラルルニ至リタルニ付之カ輸送ノ統一ヲ期スル必要有之候條御許可ノ場合ハ左記命令條件ヲ附シ許可相成候樣致度依命此段及通牒候也

記

一　軍需品及郵便物ハ常ニ他ノ貨物ニ先チテ輸送スヘシ又同輸送ハ後押

人夫賃ノミヲ仕拂ヒ之ヲ爲サシムルコトアルヘシ

二　郵便物輸送ノ爲郵便局ニ於テ所屬ノ驛事ヲ運轉シ軌道ヲ無償ニテ使用スルコトアルモ之ヲ拒ムコトヲ得ス

●軌道敷設許可申請書ニ關スル件

大正十三年十一月二十一日
監雜第六七號鐵道部監督部長申通

從來軌道敷設許可申請書ノ起終點ノ地名ヲ單ニ街又ハ庄名ノミ記入ノ向有之候處右ハ處理上支障有之候條爾後州應郡市街庄區字ヲ記入候樣御取計相成度此段申進候也

●線路一覽圖ニ線路記入方ノ件

大正十四年二月二日
運監第三五號鐵道部運輸課長照會

自今營業軌道敷設出願有之候場合ハ線路一覽圖ニ其ノ附近一帶所在ノ營業鐵道及軌道ヲ記入候樣御取計相成度此段得貴意候也

●私設鐵道軌道電氣事業施設ニ關シ書類進達副申事項ニ關スル件

昭和二年四月六日
內地第二三四號內務局長申牒

私設鐵道軌道其ノ他ノ軌條敷設埠頭路開鑿及電氣事業施設ニ關スル書類進達ニ際シテハ大正九年二月四日附總內第一二八號ヲ以テ官有地及廳地方費所屬地等使用箇所ノ有無及使用上支障ノ有無ニ付テハ副申書中ニ一項ヲ設ケ明記スヘキ旨通達ノ次第モ有之候處之カ實行ナキ爲徒ラニ照復ヲ重ネ事件ノ進行ヲ妨クルモノ尠カラス右ハ甚タ遺憾ノ次第ニ付爾今必ス右通達ヲ實行相成樣致度

右申牒ス

●要塞地帶內於ケル鐵道及軌道ニ關スル件

昭和七年二月二十六日
總交第三九〇號總務長官依命通達

先般基隆要塞當局ヨリ要塞地帶法第十六條ニ所謂鐵道ノ字義ニ關シ陸軍省宛伺出ニ對シ右ハ鐵道ハ勿論軌道ヲモ包含スル旨同省ヨリ指令有之候趣ニ付テハ要塞地帶內ニ於テ鐵道又ハ軌道(何レモ專用線ヲモ含ム)ヲ新設若ハ變更セムトスル者ハ總テ要塞地帶法第十六條ニ依リ陸軍大臣ノ許可ヲ要スル義ニ付萬遺漏ナキヲ期セラレ度依命此段及通達候也

●軌道營業期間伸長ニ關スル件

昭和四年五月三十日
交鐵庶第八二四號交通局總長通牒

軌道ノ營業期間ヲ伸長セシムルトキハ該期間滿了二月前ニ之ヲ出願ス、キコトハ軌道規定第二十一條ノ五ニ規定有之候處往々ニシテ該出願期限經過後出願スル者有之處理上支障不尠候條軌道經營者一般ニ該規程ヲ周知セシメ出願期日ニ遲滯セサル樣御取計相成度候也

●書類取扱方變更ノ件

昭和四年五月二日
交通電第一九號交通局總長通牒

從來電氣事業、官廳電氣事業又ハ自家用電氣工作物ニ關シ總督又ハ交通局總長ニ宛テタル申請書又ハ屆書ハ明治三十二年府令第十九號ニ依リ凡テ管轄地方廳ヲ經由セシメタル處爾今電氣關係各法令ノ規定ニ依リ直接當局ニ提出セシメ管轄地方廳ニ對シテハ其ノ副本ヲ提出セシムルコトト相成候條其ノ旨貴管下關係者ニ御示達相成度

●水利工事附帶自家用電氣工作物施設ニ關スル件

昭和六年八月十九日
交選電甲第六六號交通局總長通牒

近時地方ニ於テ水利工事ノ施行ニ附帶シ水力發電計畫ヲ爲ス向有之候處往々ニシテ自家用電氣工作物施設規則ニ依ル成規ノ手續ヲ履マス無斷其ノ施設工事ニ着手スルモノ有之如斯ハ監督上統制上極メテ遺憾ノ次第ナルノミナラス右ニ對シテハ同規則ニ依リ相當ノ處罰ヲ免レサル義ニ付將來貴管下ニ於テモ此種ノ非違無キ樣御留意相煩度

●閣議申合ノ件

昭和六年七月四日
總財第三八八號總務長官通牒

首記ニ關シ別紙寫ノ通リ拓務次官ヨリ通知有之候條勵行相成度

右依命通牒ス

昭和六年六月十二日
官會第一〇三一號

本月五日閣議ニ於テ左記事項申合有之候條御了知相成度此段及通知候也

記

一　工事建物等ノ起工落成等ニ際シ起工式落成式等ヲ催スコトハ廢止シ單ニ關係者ニ觀覽セシムルニ止ムルコト

地鎭祭修祓式ノ始キ工事ニ伴フ式典ニ屬スルモノモ成ルヘク質素ニ之ヲ執リ行フコト

一　工事建物等ノ起工落成記念創立何週年記念トシテ記念品ヲ調製配布スルコトハ全然之ヲ廢スルコト

右ハ政府部內ニ於テ實行スルハ勿論道府縣市町村等ノ公共團體其ノ他政府ノ監督スル組合特殊銀行會社等ニ於テモ其ノ勵行ヲ期スコト

第五章　勸業係

第一節　農業

●水稻豐凶考照試驗ニ關スル件

大正十三年八月十四日
殖農第一一六七號殖産局長通牒

貴廳農會農場ニ於テ大正十四年第一期作ヨリ水稻豐凶考照試驗左記ノ方法ニヨリ實施相成候也

記

一　試驗方法
大正十三年五月農事試驗ニ關スル協議會ニ於テ決定シタル「農事試驗及調査方法」中「豐凶考照試驗ニ關スルコト」ニ依ルコト

二　報告樣式
別册豐凶考照試驗ニヨル稻作況報告記載例ニ依ルコト

三　報告節季
各試驗場又ハ農場ニ於テ夫々適當ノ節季ヲ選ヒテ報告期日トナスコト

報告節季決定ノ上ハ豫メ當局ヘモ報告相成度

第二輯　庶務課　第五章　勸業係　第一節　農業

●水稻豐凶考照試驗ニ關スル件

大正十三年九月二十九日
殖産局長宛通報

大正十三年八月十四日附殖農第一一六七號ヲ以テ御照會相成候首題ノ件中報告節季左記ノ通決定致候

右通報ス

記

報告節季調

期作	節季	調査報告時期 月日	摘要
第一期作	播種期	三月二十五日	第一回報告自播種至插秧期
	穀雨		第二回報告自插秧至穀雨
	立夏		第三回報告自穀雨至立夏
	小滿		第四回報告自立夏至小滿
	夏至		第五回報告自小滿至夏至
	收穫期		第六回報告
第二期作	插秧期	七月二十五日	第一回報告自播種至插秧期
	立秋		第二回報告自插秧期至立秋
	處暑		第三回報告自立秋至處暑
	白露		第四回報告自處暑至白露
	寒露		第五回報告自白露至寒露
	收穫期		第六回報告

●萬國農事協會報告ニ關スル件

大正十三年十二月九日
殖農第一六九九號殖産局長照會

大正十一年三月十一日附殖農第三〇〇號ヲ以テ照會致候首題ノ件ニ關シ米及甘蔗作況報告

隔來每月米及甘蔗ノ作況報告ヲ相煩居候處大正十四年一月ヨリ別紙ノ通報告事項改正ノ上從來通報告相成度此段及照會候也

報告期日	報告事項	
	米	甘蔗
一月分報告	一月八日迄 一、本年第一期作苗代狀況	電略
二月分報告	二月五日迄 一、本年第一期作苗代狀況	電略
三月分報告	三月五日迄 一、本年第一期作々況（水稻陸稻）	電略
四月分報告	四月五日迄 一、本年第一期作挿秧時概況（ニ） 二、本年第一期作々況（水稻陸稻）（ホ）	電略
五月分報告	五月五日迄 一、本年第一期作々況水稻陸稻（ヘ）	電略
六月分報告	六月五日迄 一、本年第一期作々況（水稻陸稻）（ト） 二、本年第一期作補付面積及第一回牧穫豫想高（水稻陸稻）（チ）	電略
七月分報告	七月五日迄 一、本年第二期作苗代狀況（水稻陸稻）（リ） 二、本年第一期作苗代狀況（ヌ）	電略
八月分報告	八月五日迄 一、本年第二期作挿秧時概況（ル） 二、本年第二期作々況（水稻陸稻）（ヲ）	電略
九月分報告	九月五日迄 一、本年第二期作々況（水稻陸稻）（ワ） 二、本年第二期作々況（水稻陸稻）（カ） 本年第二期作補付面積及第一回牧穫豫想高（水稻陸稻）（ヨ）	電略
十月分報告	十月五日迄 一、本年第二期作々況（水稻陸稻） 二、本年第二期作補付面積及第一回牧穫豫想高（水稻陸稻）（タ）	電略
十一月分報告	十一月五日迄 一、本年第二期作々況（水稻陸稻）（レ） 二、本年第二期作第二回牧穫豫想高（水稻陸稻）	電略
十二月分報告	十二月五日迄 一、本年秋ヨリ來春ニ亘リ牧穫セントスル蔗園其月初ノ作況（エ）（テ） 二、本年秋ヨリ來春ニ亘リテ牧穫セントスル蔗園其月初ノ作況（ア）（サ）	電略

備考

一　記載事項

イ　作柄ノ良否　最良、良、普通、惡、最惡ノ語ヲ以テ記シ平年作ノ場合ハ普通平年作ニ比シ二割以內ノ增或ハ減ノ見込アル場合ハ良又ハ惡ニ割以上ノ增又ハ減アル見込ノ場合ハ最良又ハ最惡ト記スヘシ

ロ　病蟲害ノ有無發生セル場合ハ其種類及被害程度ヲ併セテ記スヘシ

ハ　作柄ニ直接影響ヲ及ホシタル原因

二　報告遲延ノ場合ハ電報又ハ電話ヲ以テ報告スヘシ

●水稻豐凶考照試驗報告ニ關スル件

大正十四年四月十七日
殖農第三七六號殖産局長照會

貴廳農會農場ニ於テ本年第一期作ヨリ實施セル水稻豐凶考照試驗ニ關スル報告書爾今中央研究所農業部へモ一通送付相成度右同部ノ希望ニ依リ及照會候也

●米穀ノ名柄ニ關スル件

大正十五年五月五日
殖商第一二七二號殖産局長照會

農ニ開催セラレタル米穀大會ニ於テ總督閣下ヨリ內地種米ニ對シ蓬萊米ト命名相成候ニ付自今統計其他ニ右名稱ヲ御使用相成度右照會ス

●級價格調查ニ關スル件

大正十五年十二月六日
殖農第一九四七號殖産局長照會

貴廳下花蓮港ニ於ケル籾ノ價格左記樣式ニ依リ明年一月ヨリ御調查ノ上御回示相成度
右及照會候也

記

籾價格表　（月）調查地

	蓬萊種	在來種 丸糯	長糯	備考
上旬	円			
中旬	円			
下旬	円			

籾一斤ノ價格記入スルコト
上旬ニ於ケル價格ハ一日ヨリ十日迄ノ平均價格ヲトルコト
中旬ハ之ニ準ス
一　毎月十日迄ニ前月分ノ報告ヲ提出スルコト

●外米及籾ノ輸入許可ニ關スル件

昭和三年三月九日
總殖第二〇四號總務長官依命通達

昭和三年勅令第二十二號ニ依ル外米及籾ノ輸入許可ニ關シテハ當分ノ內左記標準ニ依リ取扱フヘキ方針ニ有之候條
右依命通達ス

記

外米及籾輸入許可ノ標準ニ同シ

昭和三年三月
官房文書課

三月九日附總殖第二〇四號分左記相違致居候ニ付別紙ノ通訂正相成度候也

外米輸入許可ノ標準

外米ノ輸入許可ハ大體左ノ標準ニ依ル

(一)　政府所要米及罹災救助等ノ爲地方公共團體ノ所要米ハ之ヲ許可スルコト

(二)　島內消費ノ場合ハ當分ノ內之ヲ許可スルコト

(三)　特別ノ事由ニ依リ止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外基隆高雄ノ兩港ヨリ輸入スル外米ニ付許可スルコト

(四)　移出スル目的ニ供スルモノハ之ヲ許可セサルコト

●外米輸入ニ關スル件

昭和三年三月十五日
殖商第八一八號殖產局長通知

昭和三年勅令第二十二號第二項ノ規定ニ依リ除外セラルヘキ國ノ內直接關係アリト思料セラルル國ハ左ノ通ニ有之候條御參考迄及通知候也

記

暹羅、米國、ソヴイエット聯邦、加奈太海峽殖民地、錫蘭、香港、關領東印度

●米種改良限定品種ニ關スル件

昭和三年十一月二日
花勸第二四八八號庶務課長依命通達
各支廳長宛

第一次米種改良限定品種ハ左記ノ通ナルモ米農者ノ異動其他ニ依ル違犯行爲ヲ防止スルタメ凡テ管內共通ノコトニ決定相成候條米農者ニシテ栽培品種ヲ變更セントスルモノアル時ハ該限定品種ノ範圍內ニ於テ其旨屆出ヲナシタル後栽培セシムルコトニ御取計相成度
右依命通達ス

記

支廳別限定品種

支廳別	第一期作 品種名	第二期作 品種名
花蓮	高腳柳州	鳥尖竹絲朮	幼稿白穀	蓬萊
鳳林	同	下腳柳州 同	同	同	下縣格仔	同上
玉里	同	同	紅穀朮	同	同	同上

●殖產局事務分掌ニ關スル件

大正十四年一月十四日
殖特第五七號殖產局長照會

大正十三年訓令第百二號臺灣總督府官房竝各局事務分掌規程第二十條第六號ニ依リ特ニ指定スル產物ニ關シ本月十四日附府議決定ヲ以テ左記ノ通指定セラレ當局特產課ニ於テ取扱フコト相成候條將來是カ生產加工輸送及販路ノ開拓其他ニ關シ可然御援助相成度
右通知旁及御依賴候也

記

芎蕉、鳳梨、柑橘類

●芭蕉實ノ移出ニ關スル件

大正十四年七月一日
殖特第八〇八號ノ一殖產局長通知

近時臺中州下ニ於テ一派ノ者相謀リ芭蕉實ノ自由移出ヲ企ツル者有之候處臺灣靑果物同業組合定款第四條管外搬出業者ニ關スル疑義ニ付臺中州知事ヨリ照會有之候ニ付六月二十九日附ヲ以テ左記ノ通府議決定相成候條御了承相成度

記

臺灣靑果物同業組合區域內ニ於テ平地一甲步以下又ハ山地三甲步以下ノ芭蕉栽培者ト雖モ營利ノ目的ヲ以テ之ヲ管外ニ搬出スルヲ業トスル者ハ同業組合定款第四條ニ依リ當然搬出スル營業者ナリトス

●支廳駐在技術員出張發令例文

昭和二年九月二十七日
決議

電話受者　　取扱者

年　月　日　　庶務課長

支廳長宛

職員出張ニ關スル件

昭和　年　月　日附　支警第　號ヲ以テ稟申相成候首題ノ件「左記通發令相成候條」（發令詮議不相成ニ付）御了知相成度

●害蟲巡視員規程

明治四十三年五月
花巡港訓令第一四號

第一條　害蟲驅除豫防ノ爲メ巡視員ヲ置ク

第二條　害蟲巡視員ハ左ノ區域ニ依リ巡視スヘシ

第一區　一箇月二回以上
（支廳直轄）

第二區　一箇月二回以上
（支廳直轄）

第三條　害蟲巡視員ハ巡視ノ際害蟲ノ發生ヲ認メタルトキハ左記事項ヲ認メ速ニ最寄警察官吏派出所、駐在所ニ通知スヘシ

一　發生ノ年月日
二　發生ノ位置
三　害蟲ノ種類（別記第一號樣式第二條第二項及第七條ノ場合ヲ含ム）

第四條　害蟲巡視員ハ都度別記第一號樣式ノ巡視簿ニ巡視事項ヲ記載シ總長ノ檢閱ヲ受クヘシ

第五條　害蟲驅除豫防ノ爲メ必要アルトキハ別記第二號樣式ニ依リ報告スヘシ

第六條　病害蟲驅除豫防ノ施行ニ就テハ警察官吏ト協力シテ其實行ヲ監督スヘシ

第七條　害蟲巡視員ハ勿論巡視ノ際ハ各區ノ豫察燈ヲ視察シ犯人ニ必要ナル注意事項ヲ與フルヘシ

第二號樣式

害蟲驅除豫防ノ爲メ置ク

巡視月日	巡視地名	視察又ハ施行シタル事項

右通知ス

記

一　用務、出張地名、日數、旅費支給費目

職
氏
名

右照會ス

上衞通報相成度

拔萃ニ據ヘキ首題ノ件別樣式ニ依リ九月末日迄ニ御取調ノ

樣式

昭和　年

一　桑園段別　甲

二　桑園戶數及蠶種掃立枚數

桑園		戶數	蠶種掃立枚數
桑園	夏蠶		
	秋蠶多蠶		
	計		
桑園	夏蠶		
	秋蠶多蠶		
	計		

●蠶絲業狀況ニ關スル件

昭和四年九月二十六日
農務部一三七號
蠶糸課長照會

一　用務、出張地名、日數、旅費支給費目

職
氏
名

拔萃ニ據ヘキ首題ノ件別樣式ニ依リ九月末日迄ニ御取調ノ

三　蠶產額

春蠶				
夏蠶				
秋蠶多蠶				
計				

四　製絲戶數同釜數及生絲產額

製絲戶數	同釜數	生絲產額
器械座繰	器械座繰	器械座繰

五　蠶種產額

春蠶				
夏蠶				
秋蠶				
多蠶				
計				

六　桑苗及蠶繭移入額

桑蠶種			
移入	輸入	計	

七　桑及生絲繭移出額

生絲		繭	
移出	輸出	計	

●柑橘果實小實蠅ニ關スル件

大正五年十二月
民蠶五三九號
民政長官代理依命通達

今般農商務省ヨリ別紙寫ノ通リ通牒有之候ニ付テハ農商務省ト協議ノ上相當方法ヲ講シ可然筈取扱

相成度

右依命通達ス

追テ別紙寫ノ通リ農商務大臣ヨリ通牒有之候ニ付テハ農商務省ト協議ノ上相當方法ヲ講スヘキモ差當リ關係當業者ニ對シ周知ノ方法ヲ講シ可然筈取扱

相成度

右依命通達ス

農第九一四九號
大正五年十二月十四日

農商務大臣
山縣伊三郎

蠶絲業同業組合聯合會
府縣廳
郡役所
警察官吏
農會
各地主務官衙

臺灣ヨリ移入スル柑橘果實ニハ蜜柑小實蠅ノ寄生頗ル多ク從テ之カ移入ハ內地ニ於ケル柑橘栽培業ニ對シ危險尠カラサルヲ以テ大正四年十月十二日附農第八三五〇號ヲ以テ御照會置候次第ニ有之其後植物檢查所ニ於テ施行セル移入檢查ノ實績ヲ調查スルニ貴島ヨリ移入スル柑橘果實ニハ依然該蟲ノ寄生多ク更ニ減少ノ傾向ヲ認メサルノ狀況ニ有之候ニ付今後移入柑橘果實ニ對シテハ益々嚴重ナル取締ヲ爲スノ必要ヲ認メ目下其方法ニ付攻究中ニ有之候處差當リ從來被害程度ノ輕キ柑橘果實ニ對シ其被害部ヲ削除シ移入ヲ許可シタル取扱方法ハ非常ナル手數ヲ要シ實行困難ナルノミナラス且危險ヲ伴フ處レ尠カラサルヲ以テ御今其方法ヲ改メ大正六年一月十日以降ニ於テ貴島ヲ出帆スル船舶ニ搭載セル柑橘果實ニシテ蜜柑小實蠅ノ寄生（產卵狀態ヲ含ム）セルモノト認メタルモノハ輸出入植物取締法第五條ニ依リ植物檢查所ニ於テ凡テ之カ燒棄又ハ之ニ準スヘキ適當ナル處分ヲ爲スコトニ可致候條右了知ノ上關係官廳及當業者ニ對シ周知方御取計相成度尙右被害果實ハ肉眼ニテ鑑識シ得ルモノ多キヲ以テ貴府專門家ヲシテ生產者販賣者其他ノ取扱者ニ對シ鑑定方ヲ指示セシメ關係當事者自ラ被害果ヲ包裝前ニ除去スル樣御取計相成候ニ於テハ不慮ノ損害ヲ著シク減少シ得ル見込ニ付此段可然御含置相成度

右依命通牒候也

●柑橘果實小實蠅ニ關スル件

大正五年十二月
殖農第一九九五號殖產局長照會

蜜柑小實蠅ニ關シテハ農商務次官ヨリ通牒ノ次第モ有之之カ周知方ニ就キ今回民政長官ヨリ通達相成候處小實蠅ノ寄生狀態識別法別紙ノ通送付候條一般當業者ヘ周知方御取計相成度

右照會ス

（別紙）

蜜柑小實蠅被害果ノ狀徵及識別法

果實ニ附着セル煤塵汚等ヲ刷毛又ハ乾布ヲ以テ拭ヒ取リ果皮ヲ淸潔ニスレハ被害果ノ斑點部及腐敗部ハ明ニ識別シ得ヘシ今被害果ノ狀徵ヲ記スレハ左ノ如シ

一　柑橘、桶柑類

初期　產卵後三日間ハ識別甚タ困難ナレトモ注意スレハ針頭大ノ小孔ヲ認ムヘシ

第二期　產卵痕ハ汚灰褐色ノ斑點ニ變シ之ヲ指頭ニテ押壓スレハ液汁出ツ

第三期　產卵部即チ第二期ニ於ケル汚灰褐色ノ斑點部ハ腐敗シ又ハ徵ヲ生ス

二　ネーブル、オレンヂ、雪柑類

初期　柑柑、桶柑ニ同シ

第二期　產卵痕ハ速ニ汚灰褐色ノ斑點トナリ直ニ腐敗シテ第三期ヲ區別スルコト能ハス卽チ柑柑、桶柑ノ第二第三兩期ノ特徵殆ト同時ニ現ハル

三　柚仔類

初期　針頭大ノ小孔ヨリ樹脂樣ノ液汁ヲ分泌ス

第二期　針頭大ノ小孔ハ僅カニ濃色ヲ呈ス

第三期

（イ）產卵痕即チ第二期ニ於ケル濃色部ハ固結シ他ノ部分ヨリ固ク且ツ僅カニ隆起ス

（ロ）產卵痕ノ周圍黃褐色ニ變シ產卵痕ハ小乳頭狀ニ突起ス

（ハ）柑柑第三期ニ於ケルカ如ク汚灰褐色ノ斑點ヲ生シ腐敗ス

（イ）及（ロ）ハ卵子孵化セスシテ死セルモノナレトモ內地ニ於テ檢查ヲ受クル場合ニハ（ハ）ト同樣ニ見做サル

凡テ柑橘類ニシテ其外皮ハ夫々前記ノ如キ狀徵アルモノハ悉ク被害果ト認メラル

●芎蕉萎縮病驅除豫防ノ件

大正六年十一月
民殖第九七一五號民政長官依命通達

芎蕉萎縮病輕視スヘカラサルコトハ往年彼ノ小笠原島芎蕉栽培業ノ本病ニ侵サレ殆ト全滅セル悲運ニ會シタル例ニ徵シテ明カナリトス近時本島各地ノ蕉園ニ於テモ亦此ノ發病ヲ見ルニ至リ目下其ノ傳播及被害ノ程度大ナラサルカ爲メ栽培者ニ於テ深ク介意シ居ラスト雖モ若シ本病ヲ此ノ儘ニ看過セハ數年ヲ出テスシテ全島ニ蔓延シ終ニ救フヘカラサル慘害ヲ招致スルノ處ナシトセス而シテ本病ハ主トシテ加里ノ缺乏及線蟲ノ寄生ニ因リ發生スルモノナルヲ以テ此ノ際一般栽培者ノ注意警戒ヲ促スト共ニ別紙要項ニ依リ驅除豫防ニ努メラルヘク

右依命通達ス

第二輯　庶務課　第五章　勸業係　第一節　農業

（別紙）

芎蕉萎縮病驅除豫防要項

一　芎蕉ハ密植ヲ避ケ每年十分ニ肥料ヲ施シ殊ニ加里多量ノ施用ニ注意スルコト

二　三、四年每ニ線蟲ノ寄生セサル作物（葱、豌豆類、水田ナレハ稻作）ト輪作スルコト

三　被害株ハ之ヲ掘起シテ根部ヲ燒却シ且ツ其跡地ハ之ヲ燒クカ又ハ石灰等ヲ用ヒテ十分ニ消毒スルコト

四　苗ハ健全無病株ヨリ採擇スルコト

五　線蟲ノ寄生セシ前作物アリタル土地ニ栽培セサルコト

六　線蟲ノ寄生シ易キ黃麻、茄子、胡瓜等ヲ栽培セサルコト

●植物移入禁止ノ件

大正九年十月二十五日
總殖第三九一六號ノ一總務長官通牒

大正九年八月農商務省令第二十一號ヲ以テ本島ヨリ左記植物又ハ其容器包裝ニ使用シタル物ノ移入等禁止ノ處此禁止ニ關シテハ既ニ周知方夫々御手配濟トハ被存候ヘ共右省令ハ本月十五日ヨリ施行セラレタル義ニ付此際更ニ御部內一般ニ漏ナク周知方可然御取計相成度爲念

右通牒ス

記

一　胡瓜、西瓜、甜瓜、南瓜其ノ他葫蘆科植物及蕃茄ノ果實、莢附菜豆、莢附紅豆

●植物移入禁止令中改正ノ件

大正九年十一月十二日
總殖第四四五九號總務長官通牒

大正九年十月二十一日農商務省令第三十六號ヲ以テ同年八月同省令第二十一號ニ依ル移入禁止植物中本島關係ノモノ左記ノ通リ改正即日施行ニ付右周知方可然取計相成度爲念

右通牒ス

記

「蕃茄ノ果實、莢附菜豆、莢附紅豆」ヲ「蕃茄ノ生果實、莢附生菜豆、莢附生紅豆」ニ改ム

●外國種バナナ栽培抑止ニ關スル件

大正十一年十二月二十日
殖農第一二一二號ノ六殖產局長照會

貴廳下ニ現ニ栽培シツツアル外國種バナナハ病蟲害ノ被害多キヲ以テ可成之カ栽培ヲ抑止セシムル樣御取計相成度

右照會ス

●植物檢查ニ關スル件

大正十二年九月八日
殖農第一一八五號殖產局長照會

大正十二年一月一日府令第十七號輸出入植物取締法施行規則第十二條ニ依リ內地、朝鮮、樺太及南洋其他ヨリ輸移入スル植物ノ苗木及種子類ニシテ小包郵便ニ依ル場合ハ「植物檢查品」ナル文字ヲ明瞭ニ表示スルヲ要スルニモ拘ハラス之ヲナサスシテ移入配達セラルル場合尠ナカラス尙此ノ配達ヲ受ケタル當事者ニ於テモ此旨植物檢查所ニ屆出サルカ爲メ往々ニシテ檢查洩トナル場合有之候條自今貴部內ニ於テ公私ニ拘ハラス右物件ヲ輸入又ハ移入セラルル場合ハ必ス「植物檢查品」ナル文字ヲ明瞭ニ表示セシムル樣注文ノ際豫メ供給者ヘ御注意煩ハシ度若シ植物檢查所ノ檢查濟證票ナクシテ配達セラレタル場合ニハ必ス其旨至急植物檢查所ヘ屆出テ檢查ヲ受ケラルル樣部內各員ヘ周知方御配意相煩ハシ度

●蘭領東印度ニ於ケル輸入植物檢查取締ノ件

大正十三年九月十一日
殖農第五三〇號ノ二殖產局長通牒

曩ニ發布相成候蘭領東印度ニ於ケル輸入植物檢查取締ニ關スル規程寫一部及送付候條貴部管內一般ニ周知方御取計相成度

蘭領東印度ニ於ケル輸入植物檢查取締

蘭領東印度ニ於テハ左記要領ノ輸入植物檢查規則ヲ發布シ各國ヨリ輸入スル生植物及其部分種子竝ニ果實ノ檢查取締ヲ施行スルニ依リ輸出者ハ農商務省植物檢查所ノ檢查ヲ受ケタル後其ノ證明書ヲ添付シ輸出スルヲ要ス（農商務省）

蘭領東印度輸入植物檢查規則要領

第一 種子生植物及其部分ノ輸入ニ關スル規則

一 種子生植物及其部分ハ單ニタンヂオンプリオク（Tandyong Priok）港ニ限リ輸入スルコトヲ得

二 種子生植物及其部分竝ニ其包裝ハ發送ノ際農產物ノ病菌害蟲附着ノ虞ナキコト竝ニ植物ノ種類及其生產地ヲ記載スル原產國專門家ノ證明書ヲ添付スルモノニ限リ檢查ヲ施行シテ輸入ヲ許可ス

三 輸入許可ハ農商工務局植物病害課ノ檢查ヲ受ケタル後ニアラサレハ與フルコトヲ得ス右植物病害課ハ必要ト認メタル場合ニハ消毒シ又ハ直接危害ヲ及ホス虞アル場合ニハ燒棄ス

四 タンヂオンプリオク港稅關ハ荷受人カ關稅其他ノ公課運送費用竝ニ檢查及ヒ消毒ノ費用ヲ支拂ヒタル後貨物ヲ荷受人ニ送付スヘシ

上記各規定ハ左記貨物ニ適用セス

イ 輸入ヲ絕對禁止セラルル南米產 Hekea ノ生植物及其部分又ハ種子

ロ 左ノ野菜種子

萊菔 Radisk 苦苣萵 Endive 苣萵 Salad 蕃茄 Tomata s 和蘭ゼリ Bar-ley 和蘭ミツバ Cllery 甜菜 Beet 胡蘿蔔 Carr rts 馬齒莧 Bur-lane 甘藍 Cabbage skeeies 菲葱 Leek 蕪菁 Tunnips 蔞苔 Rapes 黃花バラモンジン Seargonera アスパラガス Asparagas

ハ 左ノ觀賞用植物ノ種子

莧 Amaramtkas 金魚草 Anti rklnam 紫菀 Astas 矢車菊 Centaur a コリウス Coleus 石竹 In lian pink 鳳仙花 Impatiens 天人菊 Gaillardia 向日葵 H lianthus レンリサウ Lathyrus イハムラサキ Mya ltis 罌粟 Papaver ツクバネアサガホ Petunea アキノタムラサウ Salvla 菫菜 Viola 百日草 Zinnea

ニ 明カニ消費ヲ目的トスル種子

ホ 農商工務局ノ指定シタル又ハ指定セラルヘキ種子果實生植物及其部分

ヘ 其輸入ニ付特別ノ規定カ施行セラレ又ハ施行セラルヘキ種子果實生植物及其部分

第二 新鮮ナル果實ノ輸入ニ關スル規則

一 新鮮ナル果實ハ上記第一ノ（ニ）ニ規定スル證明書ヲ附シ檢查ヲ受ケタル後タンヂオンプリオク、スマラング、スラバヤ、マサカルニ輸入スルヲ得ヘシ

二 佛蘭西、西班牙、伊太利、希臘、マルタ、阿弗利加諸邦、パレスチナ、亞細亞領、土耳古、支那、臺灣、西部及北部濠洲、クヰースランド、ニユーサウスウエールス、布哇、南米諸國、英領ベルダム諸島、西印度大小アンチル島ノ諸地方產新鮮果實ニ關シテハ前記證明書ト別種ノモノヲ要シ此證明書ハ貨物發送ノ際果物蠅其他ノ害蟲及病菌ノ附着セサリシコトヲ記載シタルモノナルコトヲ要ス

（大正十二年二月二十八日官報）

●植物檢查ニ關スル件

昭和二年六月二十五日
殖特第七三九號殖產局長通報

昭和二年五月二十八日勅令第百五十二號ヲ以テ內地ニ於ケル植物檢查施行海港名竝ニ檢查ニ關スル制限改正及六月三日農林省令第十四號ヲ以テ輸出入植物取締法施行規則改正セラレ共ニ七月一日ヨリ施行ノ事ニ相成候條別紙寫添付爲念及通報候也

記

勅令改正要點　檢查ニ關スル制限中當府移出檢查ト直接關係アルモノハ從來本島ニ於ケル移出西瓜ハ橫濱、名古屋、神戸、門司、下關ノ五港ニノミ陸揚シ得タルニ過ギサリシカ今回右ノ外尙四日市、敎賀、大阪、長崎、那覇等ニ於テモ七月一日以後陸揚ケ出來得ル事ニ改正セラレタルモノナリ

農林省令改正ノ要項　鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ輸移入セラルル植物類ニ對シテハ從來內地檢查省略區域トシテ取扱ハレ來リタルモ七月一日以後ハ檢查ヲ施行セラルル事ニ改正セラレタルモノナリ

【寫】

勅令第百五十二號（昭和二年五月三十日官報第三百二十三號）

昭和二年五月二十八日

大正三年勅令第二百二十號中左ノ通改正ス

別表ニ左ノ如ク改ム

附則

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

海港ノ種別	海港名	檢查ニ關スル制限
輸入移入及輸出ノ檢查ヲ行フ海港	神奈川縣橫濱 愛知縣名古屋 三重縣四日市 福井縣敎賀 大阪府大阪 兵庫縣神戸 山口縣下關 福岡縣門司 長崎縣長崎 沖繩縣那覇	制限ナシ
	東京府東京	輸入及移入ノ檢查ハ郵便物（病菌及害蟲ヲ除ク）ノ外之ヲ行ハス
	鹿兒島縣鹿兒島	輸入及移入ノ檢查ハ旅客携帶品（病菌害蟲及臺灣產西瓜ヲ除ク）ノ外之ヲ行ハス
輸入及移入ノ檢查ヲ行フ海港	北海道函館 靜岡縣小淸水 愛知縣武豐 廣島縣宇品 福岡縣博多 佐賀縣唐津	旅客携帶品（病菌害蟲及臺灣產西瓜ヲ除ク）及郵便物（病菌及害蟲ヲ除ク）ノ外輸入及移入ノ檢查ヲ行ハス
	北海道長崎縣厳原	旅客携帶品（病菌害蟲及臺灣產西瓜ヲ除ク）ノ外輸入及移入ノ檢查ヲ行ハス

【寫】

農林省令第十四號（昭和二年六月三日官報第三百二十七號）

昭和二年六月三日

農林大臣

輸出入植物取締法施行規則中左ノ通改正ス

附則第二項中「鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ輸入又ハ移入スル植物竝」ヲ削ル

附則

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

大正三年一月十三日農商務省令第二十七號輸出入植物取締法施行規則抄錄

第十一條　輸出入植物取締法ニ依リ檢查ヲ受クヘキ物ハ植物檢查品ナル文字ヲ明瞭ニ表示シタルモノニアラサレハ小包郵便ニ依リ之ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ヨリ移入スルコトヲ得ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ規定ニ違反シタル小包郵便物ノ配達ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス

附則第二項

鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ輸入又ハ移入スル植物竝樺太ヨリ移入スル植物ニ付テハ當分ノ內檢查ハ之ヲ省略シ第一條ノ規定ハ之ヲ適用セス

●甘藷病蟲害發生及天災ニ依ル被害狀況報告ノ件

大正十二年十一月八日
殖務第七一三號殖產局長通牒

右ハ總督府報告例ニ依リ事實發生ト同時ニ概況ヲ卽報シ（電信又ハ電話ニテ）次テ詳細ヲ報告スヘキナルニ往々之ヲ略スル向有之事務上支障有之候ニ付自今事ノ大小ニ不拘實行相成度爲念申進候也

●農會費用其他ノ徵收時期ニ關スル件

明治四十三年民財第六二四六號民政長官依命通達

農會費用又ハ公共埤圳管理ニ關スル水租及其費用ノ徵收ニ先チ又ハ之ト其時期ヲ同フシ爲ニ地租官租ノ徵收上支障アリト認ムルモノニ付テハ自今地租官租ノ納期限ヨリ一箇月以降ニ於テ徵收セシムルコトニ取計ヒ可相成依命此段及通達候也

●農會ハ公署ナリヤ否ヤニ關スル件

明治四十四年二月
民殖第二八二八號ノ二民政長官依命通達

今般嘉義廳農會ヨリ臺灣農會規則ニ依リ設置セラレタル農會ハ民法施行第五條ノ公署ナリヤ否ヤニ付伺出相成候處右農會ハ同條ノ公署ト看做スヘカラサル旨該廳長ヘ及通達候條了知相成依命此段通達候也

●農會肥料購買ニ關スル件

大正四年一月
民殖第五七二五號民政長官通達

改正　大正七年五月民殖第三六一二號民政長官係會議達一部

農ニ貴廳農會肥料購買ニ關シ及通達置候處農會カ肥料商ト契約ヲ締結シタルトキハ自今左記事項ヲ具シ遲滯ナク臺灣總督ニ報告セシメラルヘク右依命通達ス

一　肥料ノ種類及仕樣書
二　肥料ノ種類別、數量及契約ノ要件
三　肥料ノ類別、價格
四　肥料購買者ノ實數及各種類別ノ員數
五　肥料商ノ住所、氏名
六　肥料購買費ノ財源及支拂方法
七　肥料購買契約締結及現品受授ノ時期
八　施肥ノ季節
九　施肥スヘキ作物ノ種類

●農會肥料購買事業收支決算報告ニ關スル件

大正六年九月
民殖第七七九八號民政長官依命通達

農ニ農會肥料購買事業ノ收支決算報告ノ件ニ關シ及通達置候處大正六年度ヨリ別記樣式ニ準シ臺灣農會規則施行規則第十五條及第十八條ニ依リ之カ決算報告ヲ爲スヘキ旨貴廳農會ニ示達相成ヘク右依命通達ス

（追書省略）

（別記）

何々廳農會何年度肥料購買事業收支決算書

收入ノ部

科目	決算額	說明
基金繰出	圓	
肥料代金		肥料ノ種類、數量及金額ヲ年度別ニ區分シ記載スヘシ
借入金		
雜收入		
前年度繰越金		
何々		
合計		

支出ノ部

科目	決算額	說明
俸給諸給	圓	

旅費		
物品及印刷費		
通信運搬費		
雜給雜費		
肥料代金		肥料ノ種類、數量及金額ヲ年度別ニ區分シ記載スヘシ
肥料取扱費		
借入金返濟		年度別ニ金額記載スヘシ
借入金利子		同上
基金戻入		
基金繰入		
何々		
合計		

●農會及畜牛保健組合財產目錄物件價格算定ニ關スル件

大正六年十一月
民殖第九七一四號民政長官依命通達

農會及畜牛保健組合ノ財產目錄ニ計上スヘキ物件價格ノ算定ニ付テハ爾後別紙ノ方法ニ依ルヘキ旨貴廳農會ニ示達可相成右依命通達ス

（別紙）

農會及畜牛保健組合財產目錄物件價格算定

證券　國債證券ハ額面價格ニ依ル但シ拂込未濟ノモノハ其拂込ミタル金額ニ依ル其ノ他有價證券ハ時價ニ依ル但シ時價ノ不明ナルモノハ其拂込金額ニ依ル

什器　購入價格ニ依ル購入時價ノ不明ナルモノハ物品ノ輕重ニ依リ二人以上ノ適當ナル評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

建物　建築費又ハ購入價格ニ依リ總テ保存年限ヲ定メ其期間ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ修繕ヲ爲シタル時ハ其修繕費ヲ以テ現年度ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年度ニ應シテ價格ヲ遞減スヘシ前項ノ保存年限ハ修繕ヲ加ヘタル時ハ之ヲ改定スルコトヲ得

動物　畜產ニ經驗アル三人以上ノ適當ナル評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

造林　造林ニ依ル樹木ニシテ伐採期ニ達シタルモノハ時價ヲ算定シ未タ伐採期ニ達セサルモノハ其伐採期ノ豫定價格ヲ基礎トシ年利五分ヲ以テ其價格ヲ算定スヘシ

植物　果樹其他ノ植物ニハ二人以上ノ適當ナル評價人ヲ定メ果樹ニアリテハ特ニ結果樹、未結果樹ニ區分シ各其評定價格ノ平均ニ依ル

備考　評價人ハ各評價書ヲ調製スルモノトス

●農會役員ノ異動報告ニ關スル件

大正七年二月
民殖第一一五五號民政長官依命通達

近來農會役員ノ異動報告ヲ等閑ニ附セラルル向往々有之整理上支障尠カラス候條臺灣農會規則施行規則第十一條ニ依リ自後遲滯ナク臺灣總督ニ届出ヘキ旨農會ニ示達可相成
右依命通達ス

●農會職員人名報告ノ件

大正七年二月
殖農第三二三號殖産局長照會

毎年四月一日及十月一日現在ニ依リ報告相成居候農會職員報告中往々警察關係ノ職員ヲ脫セラルル向有之甚支候條巡査ヲ除ク警部補以上ノ職員等漏ナク報告相成候樣致度
右照會ス

●農會事務及會計事項經理ニ關スル件

大正七年七月
民殖第五二〇八號民政長官代理依命通達

農會ノ事務及會計事項經理ニ關シ大正三年十一月民殖第五二五四號ヲ以テ及通達置候處各種帳簿中財産臺帳畜産及物品ニ對スル帳簿ハ未タ完備スルニ至ラス整理不十分ニシテ單ニ形式上ノ記帳ニ止マリ實際ト符合セサル向モアリ又支出經費中往々不穩當ノ變應費ヲ支出シ殊ニ品評會、競作會等ニ際シ多額ノ變應費ヲ支出スル向モ勘カラス右ハ逐年事業ノ發展ニ伴ヒ經費益々膨脹シ近クハ會費ノ增徵ヲ爲サントスルニ當リ庶務會計ノ整理經營ハ極メテ周到ノ注意ヲ要スヘキノミナラス其適否如何ハ直ニ農會事業ノ實績ニ多大ノ影響ヲ及ホス次第ナルヲ以テ爾後經費ノ支出ニ就テハ特ニ留意ノ上節約ヲ加ヘ變應費支出ニ關シテハ嚴重監督ヲ爲シ且ツ右帳簿ノ改善モ同時ニ遂行スヘキ樣農會ヘ嚴達可相成
右依命通達ス

●農會經費豫算決算及財産目錄樣式ニ關スル件

大正六年二月
民殖第七五二號民政長官代理依命通達

大正四年一月民殖第五七二五號ヲ以テ通達置候農會經費豫算決算及財産目錄ノ樣式竝ニ費目ノ分類ハ今般別紙ノ通改正相成候條爾後右樣式ニ準シ調製セシメラルヘク
右依命通達ス

（別紙）

樣式

農會何年度經費收入（支出）豫算書

科目 / 款	項	本年度豫算額	前年度豫算額	比較增減	說明
第何款何々					
	第何項何々				
	一何々				
	二何々				
第何款何々					
	第何項何々				
合計					

備考

一　收入支出ハ經常部、臨時部ノ區分ヲ要ス

二　說明ノ欄ニハ本年度豫算出ノ基礎ヲ示シ比較增減ノ理由ヲ說明シ事ノ複雜ニ涉ルモノハ內譯明細書ヲ添付スヘシ其樣式別紙ノ如シ

三　決算書ハ豫算樣式ニ準シ本年度決算額本年度豫算額ヲ揭ケ流用增減金額ニ付理由ヲ明細說明スヘシ但シ右ノ外從來說明欄ヘ記載セル物品數量等ハ省略スルモ妨ケナシ

四　豫算ノ變更ヲ要スルトキハ變更豫算額ト既定豫算額トヲ揭ケ說明欄ニハ變更豫算額ノ計算ノ基ク處ヲ示シ事ノ複雜ニ涉ルモノハ內譯明細書ヲ添付スヘシ

五　豫算ノ變更認可ヲ申請スル場合ニ於テハ其變更ヲナスヘキ款項ノ金額及合計金額ヲ揭記スルニ止メ他ノ影響ヲ受ケサル款項ハ揭記ヲ省略スルモ妨ケナシ

六　經費收支費目分類表ニ揭ケタル以外ノ事業ヲ有スル農會ニ在リテハ適當ニ費目ヲ設クヘシ

農會豫算內譯明細書樣式竝ニ記載例

科目	內譯說明
農產改良費	
米作改良費	共同米作委託苗代費 試驗費 何々 計
種苗	
肥料	
何々	
計	
園藝改良費	柑橘鳳梨試作費 何々 計
種苗	
肥料	
何々	

計							
特用作物改良費	煙草奬勵費	繭試作費	何々	何々	計		
何々							
計							

備考

本樣式ハ豫算決算書ノ說明欄狹隘ヲ告クル場合ニ於テ調製ヲ要スルモノニシテ記載例トシテ特ニ農產改良費ヲ揭ケタルハ同費カ他項ニ比シ說明事項多キカ爲メナルノミ故ニ收入ニ於テハ勿論支出ノ俸給諸給、旅費、事務費等モ複雜ニ涉ルモノハ之ヲ調製シ算出ノ基礎ヲ明瞭ナラシムルヲ要ス

農會經費收支費目分類表

收入之部

款	項	解	疏
會費			
	會員納金	前年度未納金モ本項ニ含ム	
	牛豚割當金	同上	
財產收入			
	基本金利子	預金利子其他	
雜收入			
	生產物拂下代	農產物、畜產物、繭其他	
	雜入	不用品拂下、經費預金利子、轉貸物件ノ貸付料其他	
補助金			
	補助金	米種改良、蠶業奬勵等ノ補助金	
寄附金			
	寄附金		
借入金			
	借入金	借入金ハ經費資金トシテ基本金ヨリ借入タルモノト起債ニ依リタルモノトヲ區別シ記載スヘシ但シ一時ノ借入及起債ハ除クヘシ	
繰越金			
	繰越金		

支出ノ部

款	項	解	疏
俸給諸給			
	事務員給	役員嘱勞金ヲ含ム	
	一、俸給		
	二、嘱勞金		
技術員給			
	一、一般技術係員		
	二、蠶業係員		
	三、米改良係種		
	四、養豚改良係員		
	五、嘱勞金		
旅費			
	役員旅費		
	事務員旅費		
	技術員旅費		
	一、一般技術係員		
	二、蠶業係員		
	三、米改良係種		
	四、養豚改良係員		
	五、品評會展覽會		
事務費			
	六、農事講習講話		
物品費			
	一、備品費	卓子、椅子、其他ノ備品（修繕共）	
	二、消耗品	筆、紙、墨、文具、薪炭油、新聞雜誌等	
	三、圖書及印刷費		
	通信運搬費	郵便爲替料、電信電話料、運搬賃、運搬材料等	
	會議費	總會ニ要スル經費	
	雜給雜費	傭人給料同上年末賞與、臨時人夫費、被服費、廣告料、諸謝金手數料、宿舍料等	
事業費			
	農場費		
	一、器具費		
	二、種苗費		
	三、肥料費		
	四、雜給雜費	常傭農夫給料、同年末賞與、臨時人夫賃、土地建物其他借料、宿舍料運搬賃等	
	農產改良費	本費ハ米作改良、園藝改良、甘藷改良普通特用作物改良等ニ要スル經費	
	一、器具費		

土地建物其他貸付料

農會所有ノ土地建物其他貸付料

二、種苗費
三、肥料費
四、農產委託手當
五、補助費
六、雜給雜費　農場費ノ項四號ニ同シ
米種改良費
一、器具費
二、種苗費
三、雜給雜費　農場費ノ項四號ニ同シ
林業費
一、器具費
二、種苗費
三、肥料費
四、雜給雜費　農場費ノ項四號ニ準ス
畜產改良費
一、種畜費
二、飼料費

三、藥品費
四、補助費
五、雜給雜費　農場費ノ項四號ニ準ス
養豚改良費　特別事業
一、器具費
二、種豚費
三、飼料費
四、藥品費
五、補助費
六、雜給雜費　農場費ノ項四號ニ準ス
蠶業奬勵費
一、器具費
二、種苗費
三、肥料費
四、奬勵費
五、講習講話費
六、雜給雜費　農場費ノ項四號ニ準ス

品評會、競作會、共進會費
一、設備費
二、審査及賞品費
三、儀式費
四、雜給雜費　農場費ノ項四號ニ準ス
農事講習講話費
農事視察員費
標本費

營繕費
新營費
一、何々新營
修繕費
一、事務所修繕
二、宿舍修繕
三、畜舍修繕
四、農舍修繕
五、蠶室修繕

六、米種改良用建物修繕
七、養豚改良用建物修繕

諸支出金
八、何々
諸支出金
一、租稅
二、農友會負擔金
三、雜出金

借入金償還
借入金償還元利共

積立金
積立金

豫備費
豫備費

農會何年度財産目錄樣式（年度末現在）

資產ノ部

名稱	員數	金額價格	說明
未納會費			
地租			
牛豚割當金			
有價證券			
何々債券			
何々			
肥料購買未納金			
何期作			
何々			
什器			
備品類			
器具器械			
動植物			
牛			
豚			
鷄			
苗木			
何々			
土地	坐落　地番	坪數　價格	
田			
畑			
敷地			
何々			
建物	所在地　構造	棟數　坪數　價格	
事務所			
宿舍			
倉庫			
何々			
建物附屬物	所在地　構造	種類　坪數　價格	
墻圍			
井戸			

何々			
現金	保管方法	金額	
基本金			
肥料購買基金			
剩餘金			
何々			
合計			

負債之部

負債	債主	金額	說明
何々負債			
肥料代金未拂金			
合計			

備考

一　說明欄各項ニハ前年度財産目錄ニ比シ員數金額等增減事由ヲ說明スヘシ

二　未納金ハ年度內譯ヲ說明欄ニ記スヘシ

三　有價證券其他ノ物件ハ時價ニヨリ金額ヲ示スヘシ

四　動植物ノ項苗木ハ何苗木外何本トスヘシ

●農會經費豫算編成經理ニ關スル件

大正六年十二月
民殖第一〇五二號民政長官依命通達

今般農會經費ノ豫算決算及財產目錄ノ樣式改正ノ趣旨ハ近來農會事業ノ發達ニ伴ヒ會計事務益々複雜ヲ加ヘタルニ依リ之カ經理ヲ簡易確實ナラシメントスルニ在リ故ニ改正收支費目ノ分類ハ款項整理ノ結果從來ニ比シ經理上多少ノ便宜ヲ與ヘタルモノアリト雖經費豫算編成ニ就テハ特ニ節約ヲ旨トシ力メテ冗費ヲ省キ豫算ノ正確ヲ計ルハ勿論各種帳簿ノ整理及經費ノ支出ニハ大ニ留意シ以テ農會事業ノ實績ヲ擧クル上ニ於テ遲算ナキヲ期セシメラルヘク

右依命通達ス

●農會及畜牛保健組合ノ豫算編成ニ關スル件

大正七年一月
殖農第七六號殖產局長通牒

從來農會及畜牛保健組合ノ役員報酬ハ全員ノ平均額ニヨリ積算スル向有之候處大正七年度ヨリハ役員中比較的高額ノ支出ヲ要スヘキ會長、組合長、副會長、副組合長及幹事等ノ報酬ハ他ノ役員ト區別シテ平均額ヲ示シ其實行ニ當リ可成他ヨリ流用ノ要ナキ樣積算セシメラレ度

右通牒ス

●財産臺帳其他ニ關スル件

大正七年三月
殖農第三一七號殖産局長通牒

貴廳農會及畜牛保健組合規約ニ依リ設定セラレアル財産臺帳ニハ其本財産ト其他ノ財産トハ之ヲ區分登記シ又毎年度經費決算書ニ添付スヘキ財産目錄モ同樣區分揭載セラルヘク

右經伺ノ上通牒ス

●公金預金ノ利子ニ關スル件

大正十年三月
總財第七五七號總務長官依命通達

地方制度改正ニ伴ヒ地方廳ニ於テ管理スル州費其他ノ公共團體又ハ公共的性質ヲ有スル各種團體ノ財産ハ其ノ種類ニ於テ又其ノ量ニ於テ漸次增加スヘキ趨勢ニアルヲ以テ一層管理利殖ニ付最善ノ注意ヲ拂ハルヘキハ團體ノ利益ヲ保全スル等ノ上ヨリシテ固ヨリ然ル可キ義ナルモ一般普通ノ金利ヨリモ著シキ開キヲ以テ高利率ノ預金ヲ爲スハ結局島內金利ノ低下ヲ妨ケ從來當府ノ方針ノ下ニ金利ノ低下ニ關シ御配慮相煩シ居ル趣旨ニモ悖リ結局官府自ラ金利ノ引上ヲ誘致スル結果トナルノ嫌アリ甚タ遺憾ナル次第ニ有之候條公金若クハ公金類似ノ性質ヲ有スル預金ノ利子ニ付テハ高低何レ共相當ノ御注意相成樣致度尙本島金利低下ノ重要ナル事ニ付テハ申迄モナキ事項ニ付尙一層ノ御配意相成樣致度

右依命通達ス

●農會役員慰勞金支給ニ關スル件

大正十二年十二月八日
總殖第三八一七號總務長官代理依命通達

從來農會ハ其役員ニ對シ年末慰勞金ヲ支給相成居候處農會ハ地方農政上ノ助長機關ナルヲ以テ農政ニ携ハレル官吏ハ何等ノ報酬ヲ受ケサルモ該機關ノ爲ニ盡瘁スルコトハ當然ト被存候且近時農會經費モ益々膨脹ヲ來シ經理困難ノ向モ有之ヘク故ニ大正十二年ヨリ地方委員及職員以外ノ官吏タル役員ニ對シテハ特別ノ事情ノ存セサル限リ該慰勞金ノ支給ヲ廢止スヘキ樣農會ニ示達相成ヘク

右依命通達ス

●農事小團體設立報告ノ件

大正十三年十月七日
殖農第一四二六號殖産局長照會

貴廳下ニ於テ今後農事改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トスル任意團體設立セラレタル場合ハ其都度左記樣式ニ依リ各組合別ニ御報告相成樣致度

右照會ス

記

一　團體ノ名稱（例ヘハ農業組合養鷄組合蕃代組合養蠶組合等）
二　設立年月日
三　團體員數
四　區域
五　區域內農家總戶數
六　設立ノ動機
七　經費各費目別
八　會費醵出ノ方法
九　主要實行事業
十　州廳又ハ州廳農會其他街庄等ノ補助金ノ有無及額
十一　團體規約

●農會肥料購買資金起債ニ關スル件

大正十三年十一月一日
總殖第三九二四號總務長官依命通達

農會肥料共同購買事業經營ニ付テハ財源確定ノ上供給者ト購買契約締結スヘキモノナルニ近時往々購買契約後起債ノ認可申請ヲセラルル向モ有之候處右ハ不穩當ニ付自後必ス購買契約前起債ノ認可申請ヲナサシメラレ度尙該申請書ニハ農會規則第六條ノ二ノ規定ニ依ル要項ノ外左記事項ヲ揭記セシメラルヘク

右依命通達ス

記

一　肥料ノ種類別購入豫定數量及其單價
二　購買申込者ノ概數

●花蓮港廳農會鳳林支會設置ニ關スル件

昭和三年三月十四日
花勸第八三二號廳長通達

鳳林支廳長宛

這般鳳林支廳ノ設置ニ伴ヒ當廳農會ニ於テハ其支廳區域ヲ以テ鳳林支會ヲ設置シ事務所ヲ支廳構內ニ置キ技術員ヲ配置シ專ラ管內農事ノ改良奬勵ヲナスコトニ相成候ニ就テハ自今諸事便宜ノ御取計ヲ以テ其目的ヲ達成セシムル樣致サレ度

右通達ス

●花蓮港廳農會研海支會設置ニ關スル件

昭和三年三月十四日
花勸第八三二號廳長通達

研海支廳長宛

最近研海支廳管內ノ土地開發ニ伴ヒ當廳農會ニ於テハ其支廳區域ヲ以テ研海支會ヲ設置シ事務所ヲ支廳構內ニ置キ近ク技術員ヲ配置シテ管內農事ノ改良奬勵ヲナスコトニ相成候就テハ自今諸事便宜ノ御取計ヲ以テ其目的ヲ達成セシムル樣致サレ度

右通達ス

●舊式糖廊作業調ノ件

大正八年十月二十九日
殖糖第一一九七號殖産局長照會

貴廳管内舊式糖廊作業實績別紙樣式ニ依リ自今製糖終了後取纏メ報告相成度及照會候也

備考

右ハ舊式糖廊新式改良ノ採集區域内ニ於テ原料處分ノ爲メ設置スルモノヲ除ク

舊式糖廊作業調

一　位置
二　起業者名
三　製糖機械及何頭曳（石車、鐵車）
四　製糖原料高
五　製糖高（種類別）
六　作業開始年月日
七　作業終了年月日
八　作業日數
九　作業費内譯（別表）
十　一日作業時間（平均）

第二輯　庶務課　第五章　勸業係　第二節　糖業

作業費内譯

費目	員數	單價	金額	摘要
原料刈取及運搬費				
牛委及火夫				
煮沸及打糖				
砂糖運搬費				製造場ヨリ市場ニ至ルモノ
燃料				
係員				
雜役				
其他				
計				

●製糖作業中ノ事故報告ニ關スル件

大正十一年四月十七日
殖糖第三四六號殖産局長通牒

各製糖場（新式製糖場改良糖廊）中機械其他ノ故障ニ因リ製糖期間中臨時休業ヲナスモノ有之候處右ハ監督上必要ニ付爾今二十四時以上ニ亘リ休業ヲ要スル故障ノ發生シタルトキハ其原因及處置方法ノ詳細竝ニ見込休業日數等ヲ具シタル届書ヲ提出セシムルコトニ致度候條其旨貴管下當業

者ニ御示達ノ上無遲滯屆出候樣御取計相成度尙五日以上ニ亘リ休業ノ事由發生シタルトキハ右事項ノ外ニ刈取原料ノ數量竝ニ措置方法ヲ併セ報告セシメラレタシ

追テ大正八年三月十二日殖糖第三〇八號ノ照會ハ自今之ヲ廢止致候

●製糖場設立許可命令條項改正ノ件

大正十一年十一月十七日
殖糖第一〇三三號殖產局長通牒

新式製糖場及改良糖廊設立許可命令條項第二條ニ規定セル製糖場原料採取區域內原料處分竝該處分遲延ニ由リテ生スル損害賠償ニ關スル處理方ニ就テハ製糖場取締規則第三條ノ改正ニ因リ左記ノ通變更ノ上夫々示達相成候條

右御了知相成度

爾今本改正條項ニ基キ貴廳ニ於テ處理シタル事件ハ其都度臺灣總督ニ報告相成度

追テ相關聯セル事件ニシテ當府及州廳ニ於テ各々處理スヘキモノ例ヘハ區域內舊式糖廊ノ設立及之ニ對スル原料處分ノ如キハ豫メ當府ノ許否ヲ俟チテ處理相成樣致度

記

第二條限定區域內ノ甘蔗ハ每年製糖期間ニ於テ相當代償ヲ以テ其ノ全部ヲ引取ルヘシ若シ天候又ハ機械ノ故障其他ノ事故ニ因リ全部ヲ引取ルコト能ハサル事由ノ發生シタルトキハ遲滯ナク之カ處分方法ヲ具シ知事又ハ廳長ニ申告シ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ過剩又ハ採取時期ヲ失シタル原料ニ對シ知事又ハ廳長ニ於テ必要ト認メタルトキハ其指定ニ基キ之カ賠償ノ責ニ任スヘシ

●製糖場取締規則第三條第三項甘蔗ノ解釋ニ關スル件

大正十二年一月十九日
殖糖第一一九二號殖產局長通知

首題ノ件ニ關シ往々疑義相生スル向有之候處右甘蔗中ニハ原料及生食用甘蔗ヲ含ミ蔗苗ハ之ヲ含マサル義ニ付御了知相成度爲念及通知候也

●砂糖記號種類及重量ニ關スル件

大正十二年十一月九日
殖糖第七二四號殖產局長通牒

各製糖場(新式製糖場及改良糖廊共)ニ於テ每年期生產セントスル砂糖ノ記號種類及擔當重量ヲ左記樣式ニ據リ報告セシムルコトニ致候條其旨管下當業者ニ御示達ノ上每年十一月末日迄ニ提出候樣御取計相成度

工場名	製品記號	種別	種類	引取區分	擔當重量			包裝種類
					取引斤量	正味斤量	風袋込斤量	

備考

取引斤量トハ市場ニテ取引セラルル斤量、正味斤量トハ取引斤量ニ增目斤量ヲ加ヘタル砂糖斤量

●製糖開始及終了屆ニ關スル件

大正十二年十一月十二日
殖糖第七一六號殖產局長通牒

各製糖場(新式製糖場改良糖廊共)ヨリ提出スヘキ製糖開始及終了屆ハ自今別紙樣式ニ依リ報告セシムルコトニ致候條其旨管下各工場ヘ御示達相成度

尙製糖開始ノ際ハ其ノ日時ヲ終了ノ際ハ其ノ日時及製品擔數ヲ夫々即報シ(電信電話等)別ニ別紙樣式ノ屆書ヲ提出セシムル事ニ致度

追テ樣式ハ工場每ニ一部宛御配布相成度

(別紙樣式)

製糖開始屆

一 製糖場名稱
二 作業開始年月日時
三 本期產糖見込高　擔步留

右及報告候也

年　月　日

何々會社又ハ何々製糖場
代表者又ハ場主　氏　名印

殖產局長宛

備考

原料糖併用ノ場合ニハ原料糖ニ對スル製糖高ハ(三)ニ外書ヲ以テ示スコト

製糖終了屆

一 製糖場名稱
二 壓搾開始年月日時
三 壓搾終了年月日時
四 製糖終了年月日時
本製糖期間日數
五 壓搾日數
壓搾停止時間(引續キ一日以上搾壓ヲ停止シタル場合ハ(七)ニヨル)
六 製糖日數(壓搾終了後ノ製糖作業ヲ含ム)
七 休業日數(持ニ洗罐日ヲ含ム、其他事故ノタメ作業休止及正月休ミ等)
八 休業ノ事由(何日間ハ洗罐日、何日間ハ正月休、何日間、何、破罐修理ノタメ等)
九 原料總壓搾斤量
十 製糖高(記號、種別、種類用途別)　擔(內前期持越半製品ヨリ製造高　擔)
十一 半製品
十二 步留
十三 廢蜜斤量

右及報告候

年　月　日

何々會社又ハ何々製糖場
代表者又ハ場主　氏　名印

殖產局長宛

備考

一 原料糖ヲ使用シタル場合ハ原料壓搾斤量、製糖高、步留、廢蜜斤

量ノ各欄ニ各々當該數量ヲ併記スルコト

二　本期製糖期間＝製糖日數＋休業日數

製糖日數＝壓搾日數＋壓搾終了後ノ製糖日數

三　本報告ハ製糖終了後五日以内ニ提出スルモノトス

●再製糖作業開始及終了屆ニ關スル件

大正十二年十二月十二日
殖糖第七二五號殖産局長通牒

原料糖ヲ使用シテ白糖其他ノ再製糖ヲ製造スル工場ニ對シ別紙樣式ノ作業開始及終了屆提出セシムルコトニ致候條其旨管下當業者ニ御示達ノ上開始屆ハ開始ノ都度終了屆ハ終了後五日迄ニ提出候樣御取計相成度

（別紙樣式）

再製糖作業開始屆

一　製糖場名稱

二　製糖開始年月日

三　使用原料糖見込高（内國原糖 外國原糖 計）　擔

四　産糖見込高

右及報告候也

年　月　日

殖産局長宛

會社代表者印

備考

本報告ハ獨立再製糖ニ對スルモノニシテ原糖、蔗汁混用ノ場合ハ除外トス

再製糖作業終了屆

一　製糖場名稱

二　製糖開始年月日

三　製糖終了年月日

四　作業日數

五　原料糖使用高（内國糖何擔、爪哇糖何擔、玖瓜糖何擔等）

六　製造高（記號、種別、種類引取別）　擔

七　半製品　擔

八　廢蜜斤量

右及報告候也

年　月　日

殖産局長宛

會社代表者印

備考

本報告ハ獨立再製糖ニ對スルモノニシテ原糖蔗汁混用ノ場合ハ除外トス

●製糖場取締規則第一條第一項但書ノ解釋ニ關スル件

大正十三年四月一日
殖糖第二四四號殖産局長通牒

製糖場事業變更ニ係ル首題ノ件ニ關シ曩ニ大正十一年九月二十日附殖糖第六八七號ヲ以テ照會致置候處尚ホ右解釋上ノ疑義ヲ闡明ニスルト同時ニ製糖場取締ノ主旨ヨリ出來得ル限リ廣義ニ解スルノ意味ニ於テ左記ノ通取扱致度候條此旨貴管下當業者ヘ御示達ノ上自今嚴重監督相煩度候

追而許可出願ノ要ナキ事業變更ニ就テハ其ノ都度報告ヲナスヘキモノニ候處往々等閑視セラルル向有之候ニ付右御含ミノ上監督相成度申添候

記

一　小機械

壓搾機竝ニ原動機、汽罐、蒸發罐、結晶罐ノ各主體ヲ構成セサル諸機械

一　能力ニ變更ヲ及ホササル機械器具

壓搾機竝ニ同原動機、汽罐、糖汁加熱機、清淨裝置、濾過機、蒸發罐、結晶罐、結晶機、分蜜機ノ各主體ヲ構成スル機械、器具ノ能率向上ノ爲ニスル附屬設備

右ニ關シ大要例示セハ左ノ如シ

（一）壓搾機ノ重數「ロール」徑若ハ長及同原動機ノ汽笛徑、衝程ノ變更竝ニ壓搾機ニ付キ之ト最モ密接ナル關係ヲ有スル「クラッシャー」「ケーンカッター」「シユレッター」等ノ附屬設備ニ付テハ許可ヲ要ス但シ右附屬設備主要仕樣ノ範圍内ニ於テ其能率ヲ充分發揮セシムヘキ方法ヲ講スル場合ハ報告ニ依ル

（二）汽罐ニ付テハ汽罐自體ノ增減ニアラサル場合ハ許可ヲ要セス即チ「ストーカー」微粉炭裝置火爐給水啣筒給水タンクノ如シ

（三）糖汁加熱機ノ傳熱面積、清淨裝置中沈澱「タンク」ノ箇數、容積（「マットタンク」ヲ含ミ「ライミンクタンク」ヲ含マス）濾過裝置中濾過面積、臺數、此等ノ變更ニ付テハ許可ヲ要シ其ノ他附屬設備ニ付テハ報告ニヨル

（四）蒸發罐ノ傳熱面積、重數、臺數等ノ變更及同附屬ノ「プレヒーター」ノ變更ニ付テハ許可ヲ要ス

（五）結晶罐ノ容積、傳熱面積ノ變更ニ付テハ許可ヲ要ス但シ四、五ニ附屬スル眞空裝置ニ付テハ報告ニヨル

（六）分蜜機附屬ノ「ミキサー」ノ變更ハ報告ニヨル

（七）溶解裝置、發電裝置ノ變更ハ報告ニヨル

一　製品ニ變更ヲ及ホササル機械、器具

赤糖裝置ヲ分蜜糖裝置ニ分蜜糖裝置ヲ白糖裝置ニ變更スルカ如キ設備ニアラサルモノ

分蜜糖裝置ヨリ白糖裝置ニ變更ノ場合ニ於テ能力ニ關係アル前號機械、器具ノ外石灰窯裝置其ノ他特殊裝置ニ付テハ許可ヲ要ス

一　建物ニ付テハ包裝スル機械器具カ前記出願ヲ要スルモノナルトキハ許可ヲ要ス

●前貸金支出竝回收狀況調査ニ關スル件

大正十三年七月二十八日
殖糖第六〇六號殖産局長通牒

自今貴管内所在各新式製糖會社（工場別）區域内ニ於ケル前貸金支出竝ニ回收狀況ハ別紙樣式ニ依リ取調ノ上毎年八月末迄ニ御報告相成度

前貸資金支出竝ニ回收狀況調

何製糖會社　何工場

種別＼年期	大正　年期					
	前年期末ニ於ケル回收未濟額	同上人員	本期末貸付額	同上人員	本期回收額	同上人員	摘要
耕作資金							
肥料代							
蔗苗代							
計							

備考

一　本期貸付額トハ大正　年期甘蔗（自大正　年　月　日植付）ニ對スル貸付額ニシテ前期末ニ於ケル未濟額トハ前年期迄ノ甘蔗ニ對シ出シタルモノノ内未回收ノモノヲ指シ本期回收額トハ本期原料代ヨリ回收セル額トス

●甘蔗月別植付狀況調ノ件

大正十三年八月四日
殖糖第六三二號殖産局長通牒

爾今貴管内新式製糖工場改良糖廊及舊式糖廊各區域内ニ於ケル甘蔗月別植付狀況ハ毎月末現在ヲ別紙樣式ニ據リ取調ノ上翌月十五日迄ニ到着スル樣御報告相煩度

追テ本調ハ大正十四年期（自十三年八月至十四年六月植付ノモノ）分ヨリ調査報告相成度

（別紙）

大正　年期新式製糖工場甘蔗月別植付狀況調（何月末現在）

會社工場名＼蔗園豫定面積	何月分新植株出面積			累計面積		
	新植株出	計	新植株出	計	新植株出	計
計						

備考

一　植付期間中ニ廢耕、枯死、洗失等ノモノアラハ累計面積ニ於テ整理ノ上其旨備考ニ記入スルコト

二　植付終了ノ際ハ必ス備考ニ其旨記載スルコト

大正　年期改良及舊式糖廊甘蔗月別植付狀況調

（何月末現在）

糖廊別＼蔗園豫定面積	何月分新植株出面積			累計面積		
	新植株出	計	新植株出	計	新植株出	計
改良何箇所						
舊式何箇所						
計						

備考

一　植付期間中ニ廢耕、枯死、洗失等ノモノアラハ累計面積ニ於テ整理ノ上其旨備考ニ記入スルコト

二　植付終了ノ際ハ必ス備考ニ其旨記載スルコト

●蔗作奬勵方法ニ依ル補助額調ノ件

大正十三年八月十四日
殖糖第六六三號殖産局長通牒

爾今貴管内所在ノ新式製糖工場及改良糖廊ニ於ケル蔗作奬勵方法ニ依ル補助額別紙樣式ニ據リ毎年八月末日迄ニ報告相成度

追テ大正十二年期分（自大正十二年八月至大正十三年五月植付ノモノ）ニシテ調査又ハ報告濟ノモノハ更ニ改良糖廊ノ分調査報告相成度

但シ報告期ハ本年ニ限リ九月末日迄トス

（別紙）

大正　年期甘蔗奬勵方法ニ依ル補助額調

（自大正　年八月至同　年五月迄ニ植付セシモノ）

何會社　何工場

奬勵法別＼事項	補助甲數	補助金額	平均甲當補助額	摘要
	甲	円	円	
計				

備考

補助ノ單位ヲ甲數ニ據ラスシテ收穫斤量其他ニ據リシモノハ單位及其ノ金額ヲ摘要欄ニ明記スルコト

但シ甲數ヲ算出シ得ルモノハ甲數及平均甲當補助額ヲ示スコト

●甘蔗甲當收量別面積調ノ件

大正十三年八月十四日
殖糖第六六四號殖産局長通牒

爾今貴管内所在ノ新式製糖工場及改良糖廊區域内ニ於ケル甘蔗甲當收量別面積別紙樣式ニ據リ取調ノ上毎年七月末日迄ニ報告相成度

追テ大正十二年期分（自大正十二年八月至大正十三年五月植付ノモノ）ニシテ調査又ハ報告濟ノモノハ更ニ改良糖廊ノ分調査報告相成度但シ報告期ハ本年ニ限リ九月末日迄トス

大正　年期甘蔗收量別面積調

（自大正　年八月　至同　年五月ニ植付タルモノ）

會社工場名 ＼ 收量別面積	十萬斤以上	九萬斤以上	八萬斤以上	七萬斤以上	六萬斤以上	五萬斤以上	四萬斤以上	三萬斤以上	二萬斤以上	一萬斤以上	計

備考

甲當收量十一萬斤以上ニ達スルモノ相當面積ニ上ル時ハ之ヲ適當ニ區分シ其收量面積ヲ表示スルコト

●甘蔗品種別植付面積調ノ件

大正十三年八月十五日
殖産第六八五號殖産局長通牒

自今貴管内ニ於ケル甘蔗品種別植付面積調別紙樣式ニ據リ取調ノ上新式製糖工場及改良糖廓ノ分ハ各工場別ニ舊式糖廓ノ分ハ一括シ毎年九月末日迄ニ報告相成度

（別紙）

大正　年期甘蔗品種別植付面積調

（自大正　年九月　至同　年五月ニ植付タルモノ）

何會社　何工場（又舊式糖廓何々所合計）

品種名	植付面積 新植	株出	計	總面積ニ對スル割合	摘要
計					

備考

一　本報告ハ第一回蔗園調査（六月末）ノ成績ニ據ルコト
二　品種別ハローズバンブーチエリボン讃谷山爪哇何號等詳細ニ記入スルコト
三　二品種以上混植シ品種別ニ其面積判然セサル場合ハ混植ト記入シ摘要欄ニ其品種名ヲ記載スルコト
四　舊式糖廓又ハ改良糖廓ニシテ品種名判然セサル場合ハ爪哇實生種在來種、改良種等ト記入シ可成詳細ニ區別スルコト
五　品種名全タ不明ノ場合ハ其他ト記入シ其面積ハ集計記入スルコト
六　品種植付面積ノ内全堆採苗用（又ハ苗圃專用）ノ蔗園ハ摘要欄ニ内書トシテ記載ノコト
七　面積一甲未滿ハ四捨五入シテ計上スルコト
八　其他參考トナルヘキ事項ハ摘要欄又ハ備考ニ記載スルコト

●蔗園施肥狀況ニ關スル件

大正十三年八月十九日
殖糖第六九七號殖産局長通牒

自今貴管内ニ於ケル蔗園施肥狀況別紙樣式ニ據リ毎年追肥終了次第取調ノ上新式製糖工場ノ分ハ工場別ニ改良及舊式糖廓ノ分ハ各別ニ一括シ報告相成度

追テ本調査ハ大正十三年期（自大正十二年八月　至大正十三年五月植付ノモノ）分ヨリ調査報告相成度

（別紙）

新式製糖工場蔗園施肥狀況調（自大正　年　月　至同　年　月植付ノモノ）

蔗園別		單用混用別	肥料種類	施用量	肥料價格	施用甲數	平均一甲當施用量	價格
會社自作蔗園	混用	單用		貫	円		貫	円
		計						
	計							
一般蔗園	混用	單用						
		計						
合計								

備考

一　施用甲數ハ延甲數ニ非ス正味ノ甲數ヲ記入スルコト
二　全タ施用セサル蔗園アラハ其面積ヲ備考ニ記載スルコト
三　混用トハ一蔗作期間ヲ通シ二種以上ノ肥料ヲ施シタルモノ單用トハ同シク唯一種ノ肥料ノミヲ施シタルモノトス
四　混用ノ場合ハ施用量肥料價格平均甲當施用量及價格ハ何レモ肥料種類別ニ區分シ更ニ甲當價格ハ合算ノ上混用計ノ欄ニ記入スルコト
五　調合肥料ハ其成分百分率ヲ備考ニ記入スルコト
六　實際賣買ナキ肥料ノ價格ハ適宜評價記入スルコト
七　綠肥ヲ施用シタル場合ハ右表ニハ單ニ綠肥ト記載シ別表（綠肥明細）ニ其内譯ヲ明記スルコト

綠肥施用調

蔗園別	前作又ハ間作別	綠肥種類	栽培甲數	收量總量	施用甲當	施用量總量	價格甲當	價格總價	摘要
會社自作蔗園				貫		貫		円	
計									

一般蔗園																				
合計		計																		

備考

一　栽培甲數トハ前作又ハ間作トシテ栽培シタル總面積ニシテ施用甲數トハ其栽培甲數ノ內實際施用ノ目的ニテ鋤込ミタル面積トス

二　前作又ハ間作トシテ栽培シタルモノノ內肥料トシテ鋤込マサルモノハ摘要欄ニ其處理法ヲ記載スルコト

三　前作又ハ間作セスシテ他ノ土地ニ栽培セルモノヲ青刈トシテ施用シタルモノハ別ニ欄ヲ設ケテ其種類施用甲數施用量及價格ヲ記入スルコト

四　收量及施用量ハ何レモ生草量ヲ貫匁ニテ示スコト

五　其他參考トナルヘキ事項ハ備考欄ニ記載スルコト

舊式糖廊　蔗園施肥狀況調（大正　年　月　日現在）　年　月植付ノモノ

糖廊別 ／ 項目	肥料種類	施用量	肥料價格	施用甲數	摘要
改良糖廊		貫	圓		
何箇所					
計					

●甘蔗收穫實績ノ件

大正十三年八月二十六日
殖糖第七二九號殖產局長通牒

頃今貴管內新式製糖工場改良糖廊及舊式糖廊ニ於ケル甘蔗收穫實績ハ別紙樣式ニ據リ每年八月末日迄ニ報告相成度

追テ本報告ハ大正十四年期製糖ノ分ヨリ提出シ爾後「原料採取計畫書ニ據ル實績報告（大正五年九月八日殖糖第一一〇四號）」ハ之ヲ廢止ス

（別紙）

大正　年期新式製糖場及改良糖廊甘蔗收穫實績

會社工場名

一　自作蔗園

都市大字街庄計別	一作田				一作田				畑				計			
	新植株出	甲數	甲當量	斤量	甲數	甲當量	斤量		甲數	甲當量	斤量		甲數	甲當量	斤量	
	新植															
	株出															
同																
同																
同																
街庄計																
同																
同																
同																
合計																
同																

二　小作蔗園

前表ニ同シ

三　請負耕作又ハ分作蔗園

前表ニ同シ

四　一般買收原料蔗園

前表ニ同シ

原料蔗園總甲數　何甲何分何厘

外ニ全莖採苗甲數　同　（其斤量約　斤）

壓搾斤量　斤

外ニ梢頭部採苗斤量　斤　（其甲數　甲）

備考

第二回蔗園調査ニ比シ面積及斤量ノ著シク增減セルモノハ其事由ノ主要ナルモノヲ記述スルコト

舊式糖廊（何箇所）　何州廳管內

一　植付總甲數（新植　甲　株出　甲　計　甲）

二　壓搾斤量　斤

外ニ

採苗斤量（梢頭部　斤　全莖採苗　斤（其甲數　何甲））

備考

第二回蔗園調査ニ比シ面積及斤量ノ著シク增減セルモノハ其事由ノ主要ナルモノヲ記述スルコト

●原料處理計畫書ニ關スル件

新式製糖場及改良糖廍ヨリ提出スヘキ原料採取計畫書目今別紙書式ニ據リ十月末日迄ニ提出セシムル樣御取計相成度.

（別紙）

追テ別紙樣式ハ各工場毎ニ御配布相煩度

大正　年期原料處理計畫書

製糖場名稱

區域內原料生產見込數量（蔗苗ヲ除ク）

壓搾見込數量

一日平均壓搾見高

作業日數

休業日數

壓搾始業豫定年月日

壓搾終了豫定年月日

備考

右及報告候也

年　月　日

會社代表者又ハ糖廍主　氏　名印

殖產局長宛

●原料引取高報告ニ關スル件

新式製糖場及改良糖廍ヨリ提出スル原料引取高報告ハ自今別紙樣式ニ據リ原料引取終了後一箇月以內ニ提出セシムル樣御取計相成度

（別紙）

追而大正九年十一月二日農商第一一五五號原料引取高報告ハ之ヲ廢止

尙別紙樣式ハ各工場毎ニ一部宛御配布相成度

原料引取高報告

製糖場名稱

一　原料引取高

內譯　自作原料（同蔗作農業者別）

買收原料（同蔗作農業者別）

一買收原料價格

注意

一　區域外ヨリ採取又ハ他區域ヨリ搬出セル原料ヲ生ジタル場合ハ其ノ數量及處分方法ヲ記載スヘシ

一　過剩原料ノ旨表示スヘシ

●製糖原料引取高ノ件

殖產局長通牒

大正九年八月二十三日

總務長官

各廳長

大正十一年一月二十一日總第一二九九號

新式製糖廍ノ分ハ爾今廢止シ製糖廍ノミ別紙樣式ニ依リ其年六月迄ニ殖產局長宛通報相成度

右ニ關スル新式改良各工場ノ分ハ爾今廢止シ製糖廍ノミ別紙樣式ニ依リ其年六月迄ニ殖產局長宛通報相成度

（別紙）

製糖原料引取高及砂糖製造高（自大正　年十月至同　年十二月）

州廳別	作業日數	原料引取高	第一種砂糖	第二種糖蜜	第三種無價檢查糖	計	備考

備考

一　引取原料中新式改良製糖場區域內及他州廳管內ヨリ引取リタルモノアルトキハ其引取先數量ヲ區分スルコト

甘蔗種別ニ左ノ樣式ニ據リ原料代ヲ算出シ第二回庶務課第五章勤業係第二節糖業

一　甘蔗種別ニ包含セル刈取費運搬費ノ見込金額ヲ明記スルコト

一　原料代中刈取費運搬費等ヲ含ムモノハ其ノ旨備考ニ表示シ且原料

一　ハ各項目別ニ前表ニ記載スルコト

一　買收原料ニ對シ補助奬勵見舞其ノ他ノ意味ヲ以テ支出シタル金額

一　先等ヲ記入スルコト

一　キハ引取數量及價格中ニヲ算入シ備考ニ各々其ノ數量價格受入

一　他區域ヨリ受入レタルモノ又ハ區域外ヨリ採取シタルモノアル時ハ其ノ數

備考

一　區域內生產原料中他ニ搬出シタルモノアルトキハ之ヲ算入セス備考ニ其ノ數量價格竝搬出先ヲ記スコト

殖產局長宛

年　月　日

右及報告候也

會社代表者又ハ糖廍主　氏　名印

種別／區分	計		在來種		改良種		實生種		
	千斤	當額	千斤	當額	千斤	當額	千斤	當額	
數量									
原料代									
製糖奬勵金									
補助金									
何々									
計									
備考									

イ　實生種（蔗苗ヲ除ク）

ロ　改良種（蔗苗ヲ除ク）

ニ　アチエリボン、ストライプトチエリボン、バデイラ

ハ　在來種（蔗苗ヲ除ク）竹蔗、紅蔗、蚋蔗、薄谷山等

ハ　在來種等

ニ　アチエリボン、ストライプトチエリボン、バデイラ

ロ　改良種（蔗苗ヲ除ク）

イ　實生種（蔗苗ヲ除ク）爪哇實生、蘇實生、デメララ實生

●甘蔗月別植付狀況調ニ關スル件

大正十三年十二月九日
殖糖第六三二號ノ九殖産局長照會

大正十三年八月四日殖糖第六三二號ヲ以テ照會致置候首題ノ件中舊式糖廍ノ分ニシテ調査遅滯ノ爲報告遅延スル場合ハ不取新式工場及改良糖廍ノ分ノミ期日迄ニ報告シ舊式糖廍ノ分ハ調査終了次第追報スル樣取計相成度
右照會ス

●甘蔗品種ノ名稱及記載方法一定ノ件

大正十三年十二月十六日
殖糖第一一五四號殖産局長通牒

從來甘蔗品種ノ名稱及其記載方法區々ニシテ調査又ハ統計作製上等ニ不便不尠ヲ以テ爾今左記ニ據リ一定スル事ト致度右御了知相成度追テ貴管内各關係者ヘ右周知方取計相成度申添候

記

一　本島在來種支那輸入種及移入品種ハ縱書横書共漢字ヲ用ヒ漢字ナキモノハ平假名ヲ用ユ

二　輸入品種ヲ縱書スル場合ハ實生種以外ノモノハ片假名ヲ用ヒ（一品種ニシテ二語以上ヨリ成ルモノモ各語ノ間ニ點ヲ附セス）實生種ハ原産地ニテ一般ニ使用セラルル記載方ニ從ヒ頭文字ハ羅馬字ヲ番號ハ日本數字ヲ用ヒ號ノ字ヲ附セス

三　輸入品種ヲ横書ニスル場合ハ實生種以外ノモノハ片假名ヲ用ヒ實生種ハ原産地ニテ一般ニ使用セラルル記載方ニヨル

四　中央研究所糖業科ニテ育成ノ實生種ハ Formosa ノ頭文字ヲ採リF ヲ冠スルコト

五　最初新品種ヲ育成又ハ選出シタルモノニヨリ附セラレタル名稱ハ其後此ノ品種ヨリ更ニ新品種ヲ育成又ハ選出シタル場合ノ外濫リニ他ノ名稱ヲ附セサルコト

六　品種名記載方ノ一例左ノ如シ

繊維書	横書	育成
F 一九	F 19	糖業科
FM 三	FM 3	父本
九〇 F	90 F	爪哇デランゲー工場
二四七 B	247 B	アブリー氏
三六POJ	36 POJ	爪哇ポーリシアス氏
三六ミンカ	36 Mh	東爪哇試驗場
二七一四POJ	2714 POJ	爪哇ヘルステツヘ氏カ三六POJヨリ選擇セル斑條芽條變異
EK二八	EK 28	東爪哇試驗場
PI五二	PI 52	爪哇エドワードカルトハウス商會
SW三	SW 3	爪哇デマークイジヨ工場
P一一七	P 117	爪哇セントバルワダツク工場
B二〇八	B 208	ヂメララ農務局
H一〇九	H 109	布哇糖業試驗場
PR三	PR 3	ポートリコ試驗場
L五一一	L 511	ルイジアナ試驗場
CO二一三	CO 213	印度コインバトア育種場
MP三三	MP 33	モーリシアスペルロマット
ローズバンブー	ローズバンブー	
チエリボン	チエリボン	
讀谷山	讀谷山	
竹蔗	竹蔗	
廣東白蔗	廣東白蔗	
いわのみるく	いわのみるく	

七　從來呼做セル爪哇三六ミリンハ三六ミンカト改メ爪哇一六一Aハ九二POJト改ム

●製糖場原料買收價格竝發表期日ニ關スル件

大正十四年一月二十九日
殖特第一三七號殖産局長通牒

爾今貴管内新式製糖工場及改良糖廍ノ原料買收價格ハ每年其發表ノ都度取調ノ上即時其發表ノ期日ト共ニ御報告相成度
追而本期末報告ノ分至急報告相煩度尙既ニ報告濟ノモノニシテ其發表ノ期日記入ナキモノハ更ニ追報セラレ度

●製糖終了報告ニ關スル件

大正十四年四月十日
殖特第四七號殖産局長通牒

製糖場作業終了ニ關スル電報報告方ニ付テハ大正十二年十一月十二日殖糖第七一六號ヲ以テ照會致置候モ本報告中往々ニシテ製糖高ヲ省略スルモノ有之候處右ハ製産高ノ未タ判明セサル前ニ報告スルニ基因スルモノト思料セラレ候條自今本報告ハ製品數量ノ判明ト同時ニ實行セシムル樣御取計相成度

●蔗園調査成績報告ノ件

大正十四年十二月二十二日
（總殖第三五三八號殖産局長照會

爾今蔗園調査成績（第一回及第二回共）ハ別紙樣式ニ據リ第一回ハ七月末日迄ニ第二回ハ十一月末日迄ニ御報告相成度
追而新式製糖工場ノ分ハ兩回トモ調査終了ト同時ニ植付總甲數及壓搾見込斤量ヲ各工場ヨリ直接當局宛電報ヲ以テ報告セシムル樣取計相成度改良糖廍及舊式糖廍ノ分ハ調査終了次第各別ニ之ヲ一括シ書類提出前電報ヲ以テ報告相成度

（別紙省略）

●蔗作ニ關スル例規トナルヘキ調査報告ニ關スル件

大正十四年十二月二十三日
殖特第一四七八號殖產局長通牒

大正十三年八月五日殖糖第六三八號蔗園調査成績及大正十三年八月二十七日殖糖第七二九號甘蔗收穫實績竝大正十三年八月十八日殖糖第六九七號蔗園施肥狀況調ノ內新式製糖場ノ分ハ自今別紙樣式ニ據リ報告方取計相成度

但シ報告期限其他ハ從前通リトス

猶大正十三年七月二十六日殖糖第六〇〇號戶別甘蔗耕作面積調及大正十三年八月十四日殖糖第六六二號蔗園用購買肥料調ハ大正十五年期分ヨリ調査報告ノ必要無之候ニ付御了知相成度

追テ蔗園調査成績及蔗園施肥狀況調ハ大正十五年期（自大正十四年七月至大正十五年五月植付ノモノ）分ヨリ改正樣式ニヨリ報告相成度

（別紙）

大正　年期新式製糖場第一回蔗園調査成績

會社工場名

一　植付總甲數

新株別＼地目別	二作田	一作田	畑	計
新植				
株出				
計				

內全莖採苗豫定甲數　甲
原料蔗園甲數　甲
二　壓搾見込斤量　斤（甲當　斤）
外ニ全莖採苗見込斤量　斤
梢頭部採苗見込斤量　斤

備考
植付甲數及甲當斤量ノ前年ニ比シ增減アルモノハ其事由ノ主要ナルモノヲ記述スルコト

改良及舊式糖廊第一回蔗園調査成績

何州（廳）管內

改良糖廊又ハ舊式糖廊（何箇所）

一　植付總甲數　新植　甲
　　株出　甲
　　計　甲
二　壓搾見込斤量　斤
外ニ
採苗見込斤量　梢頭部　斤
　　全莖採苗　斤（其甲數約　甲）

備考
植付甲數及甲當斤量ノ前年ニ比シ增減アルモノハ其事由ノ主ナルモヲ記述スルコト

大正　年期新式製糖場及改良糖廊第二回蔗園調査成績

何會社何工場名

一　自作蔗園

郡市街庄別	大字別	新植株出別	二作田 甲數	二作田 斤量	二作田 甲當斤量	一作田 甲數	一作田 斤量	一作田 甲當斤量	畑 甲數	畑 斤量	畑 甲當斤量	計 甲數	計 斤量	計 甲當斤量
		新植												
		株出												
		同												
		同												
		同												
		同												
		同												
何庄	計	同												
		同												
		同												
		同												
		同												
		同												
		同												
		同												
合計		同												
		同												

二　小作蔗園
前表ニ同シ
三　請負耕作又ハ分作蔗園
前表ニ同シ
四　一般買收原料蔗園
前表ニ同シ

原料蔗園總甲數　何甲何分何厘
外ニ全莖採苗甲數　同　（其斤量約　斤）
壓搾見込斤量　斤
外ニ梢頭部採苗見込斤量　斤（其甲數約　甲）

備考
一　小作蔗園トハ會社ノ所有地ヲ小作セシムルモノ及會社ノ小作地ヲ又小作セシムルモノトス
二　前揭地目別表中甲數及斤量ニハ採苗用ノモノヲ含マシメサルコト
三　全莖採苗甲數及斤量ハ已ニ採苗濟ノモノ及今後採苗スヘキ豫定ノモノヲ含ムモノトス
四　第一蔗園調査ニ比シ面積及斤量ノ增減セルモノハ其事由ヲ記述スルコト

舊式糖廊第二回蔗園調査成績

何州（廳）管內

舊式糖廊（何箇所）

一　植付總甲數　新植　甲
　　株出　甲
　　計　甲
二　壓搾見込斤量　斤
外ニ
採苗見込斤量　梢頭部　斤
　　全莖採苗　斤（其甲數約何甲）